

**東大阪市**  
**高齢者実態調査等**  
**結果報告書**

**令和5年 11 月**  
**東大阪市**



# 目 次

<b>I . 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査目的.....	1
2 実施要領.....	1
3 報告書の見方.....	2
<b>II . 調査結果</b> .....	<b>3</b>
<b>II-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査</b> .....	<b>3</b>
1 回答者の属性.....	3
2 家族や生活状況について.....	5
3 からだを動かすことについて.....	8
4 食べることについて.....	14
5 毎日の生活について.....	18
6 地域での活動について.....	26
7 たすけあいについて.....	30
8 健康・仕事について.....	34
9 認知症対策について.....	42
10 必要となる支援や介護保険サービスについて .....	45
11 情報・相談について.....	54
12 加齢性難聴について.....	57
13 お住まいについて.....	59
14 新型コロナウイルス感染症について.....	62
15 高齢者が暮らしやすいまちづくりについて .....	64
<b>II-2-① 在宅介護実態調査・A票（要介護者アンケート）</b> .	<b>67</b>
1 回答者の属性.....	67
2 必要となる支援や介護保険サービスについて .....	78
3 からだを動かすことについて.....	87
4 食べることについて.....	91
5 毎日の生活について.....	95
6 あなたとまわりの人の「たすけあい」について .....	100
7 健康について.....	104

<b>II-2-②</b>	<b>在宅介護実態調査・B票（介護者アンケート）</b>	<b>109</b>
1	介護者の属性	109
2	行っている介護等について	111
3	介護者の就業状況について	112
4	サービス利用について	114
5	介護者への支援について	117
<b>II-3</b>	<b>生活機能評価等に関する分析</b>	<b>119</b>
1	生活機能評価	119
2	日常生活評価	123
3	社会参加評価	124
<b>II-4</b>	<b>経年比較</b>	<b>126</b>
1	一般高齢者	126
2	居宅サービス利用者	152
<b>II-5</b>	<b>居宅介護支援事業所アンケート</b>	<b>156</b>
1	事業所の概要	156
2	事業所立地地域の特色や介護・介護予防サービスについて	164
3	地域の関係機関等との連携について	170
4	介護保険外サービス（インフォーマルサービス等）について	173
5	認知症、高齢者虐待・権利擁護等の対応ケースについて	176
6	家族介護者への支援	181
7	自由意見	182
<b>II-6</b>	<b>地域包括支援センターアンケート</b>	<b>184</b>
1	地域包括支援センターの概要	184
2	担当地域の特色や、介護・介護予防サービスについて	186
3	地域の関係機関等との連携、地域包括ケアシステム構築について	192
4	認知症、高齢者虐待・権利擁護等の対応ケースについて	200
5	介護保険外サービス（インフォーマルサービス等）について	208
6	自由意見	210
<b>II-7</b>	<b>圏域分析</b>	<b>212</b>
	<b>資料編（調査票）</b>	<b>264</b>

# I. 調査の概要




## 1 調査目的

本調査は、東大阪市第9次高齢者保健福祉計画・東大阪市第8期介護保険事業計画の見直しにあたり、高齢者や介護保険の要介護認定者の現状、サービス等に対する意向、高齢者施策に対する意見・要望などを把握し、東大阪市高齢者保健福祉計画・東大阪市第9期介護保険事業計画・東大阪市認知症施策推進計画策定のための基礎資料として活用するものです。

## 2 実施要領

調査種別	調査対象	配布数	回収数	回収率	調査期間	調査方法
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	要介護認定を受けていない又は要支援の65歳以上の市内居住者	5,000人 (層化無作為抽出)	2,514件	50.3%	令和5年 3月30日～ 4月21日	郵送配布・ 郵送回収
在宅介護実態調査 A票	要介護認定を受けている65歳以上の市内居住者	3,000人 (層化無作為抽出)	1,017件	33.9%	令和5年 3月30日～ 4月21日	郵送配布・ 郵送回収
在宅介護実態調査 B票	上記調査対象者の介護者	3,000人 (層化無作為抽出) 上記調査に同梱にて配布	680件	22.7%	令和5年 3月30日～ 4月21日	郵送配布・ 郵送回収
居宅介護支援事業所調査	市内にあるすべての居宅介護支援事業所	232か所	168件	72.4%	令和5年 3月30日～ 4月21日	メールでの送信・メールまたはウェブサイト上の回答フォームによる回収
地域包括支援センター調査	市内にあるすべての地域包括支援センター	22か所	22件	100.0%	令和5年 3月30日～ 4月21日	メールでの送信・回収

### 3 報告書の見方

- (1) 図表中の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- (4) 図表中に次のような表示などがある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。
- ・ MA % ( Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
  - ・ 3 LA % ( 3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
  - ・ 2 LA % ( 2 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを2つ以内で選択する場合
- これ以外の場合は、特に断りがない限り、単一回答（回答選択肢の中からあてはまるものを1つだけ選択する）形式の設問です。
- (5) 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- (6) 表中の  は一番目に多い割合の項目、 は二番目に多い割合の項目、 は三番目に多い割合の項目を示しています。

## Ⅱ. 調査結果

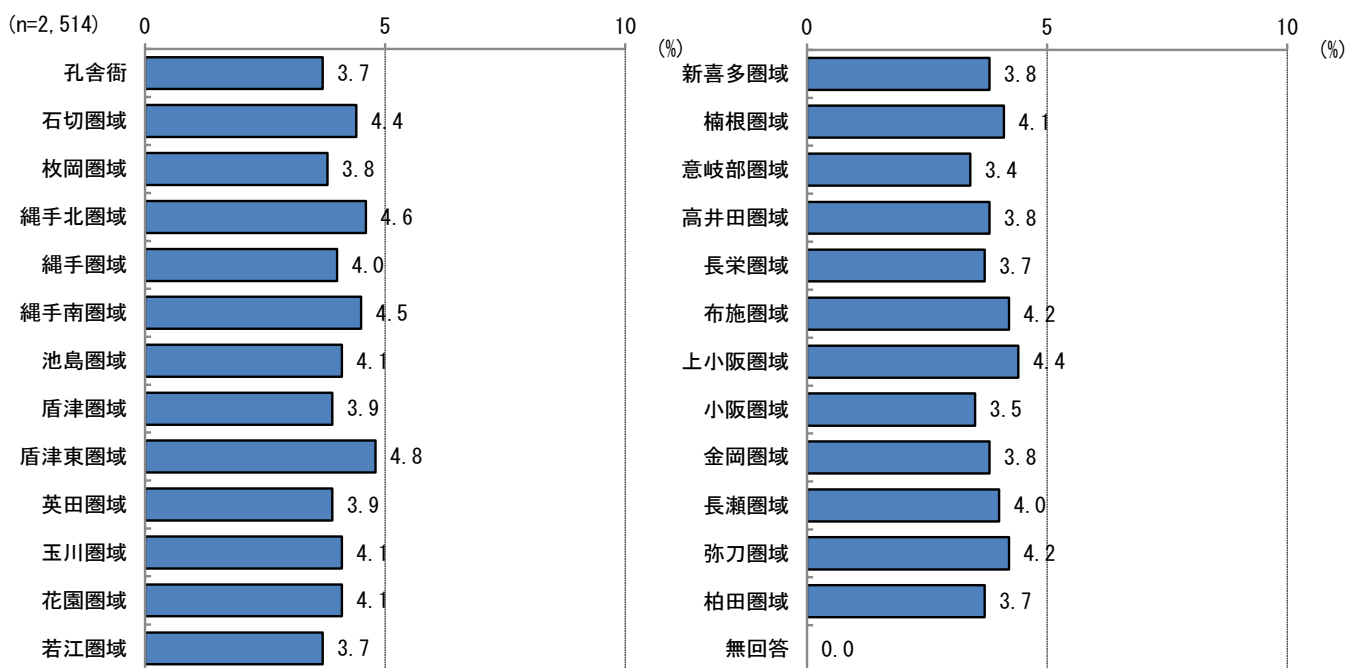
### Ⅱ-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

#### 1 回答者の属性

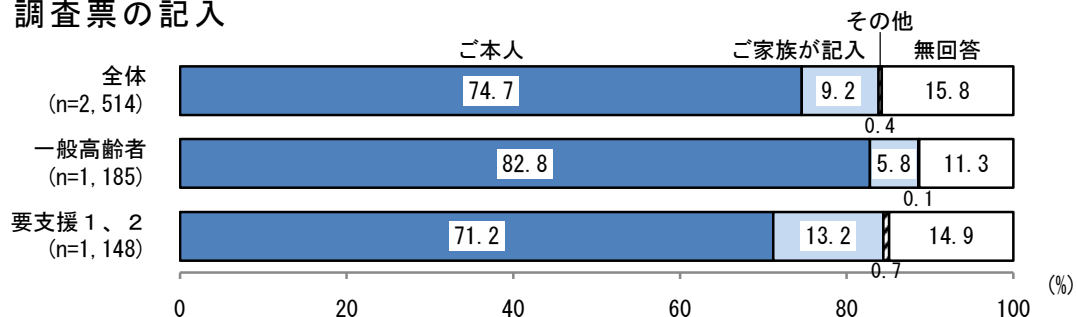
※介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、全体と一般高齢者、要支援認定者の比較をしています。認定状況については無回答者がいるため、「一般高齢者」と「要支援1、2」の合計は全体の数値とは一致していません。

##### 〔1〕居住圏域

回答者の居住圏域は、以下のようになっています。



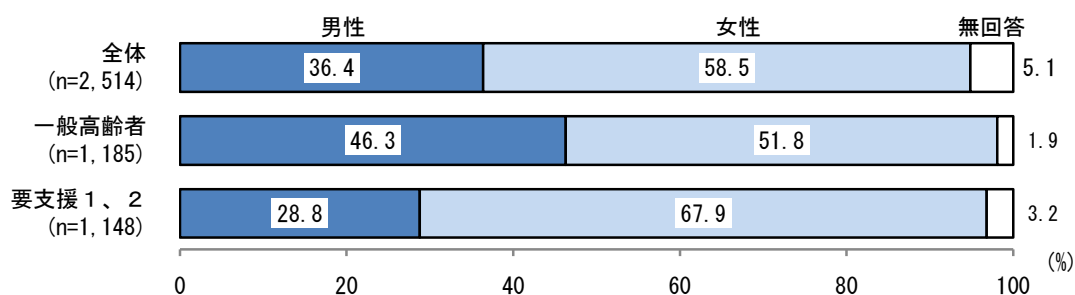
##### 〔2〕調査票の記入



調査票の記入は、「ご本人」が74.7%、「ご家族が記入」が9.2%となっています。

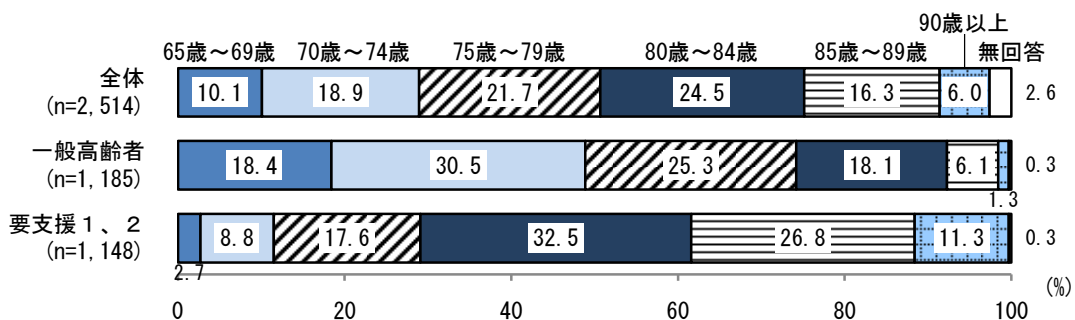
II-1 一般高齢者アンケート

〔3〕性別



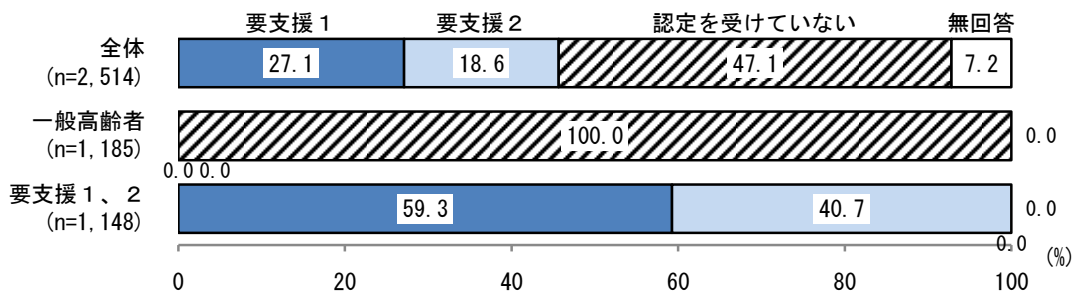
回答者の性別は、「男性」が36.4%、「女性」が58.5%となっています。

〔4〕年齢



回答者の年齢は、「80歳～84歳」が24.5%と最も多く、次いで、「75歳～79歳」が21.7%、「70歳～74歳」が18.9%となっています。一般高齢者では74歳以下が48.9%とおおよそ半数を占め、要支援1、2では75歳以上が70.6%となっています。

〔5〕要介護認定の有無



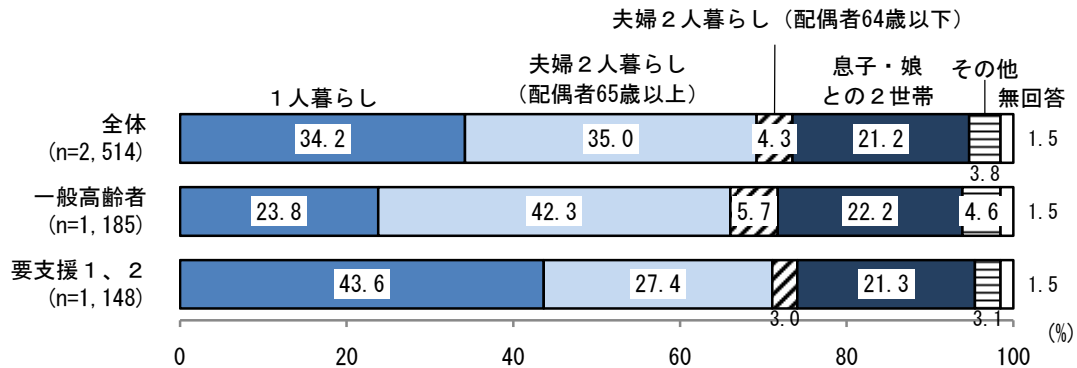
要介護認定の有無については、「要支援1」が27.1%、「要支援2」が18.6%、「認定を受けていない」が47.1%となっています。



## 2 家族や生活状況について

### 〔1〕 家族構成

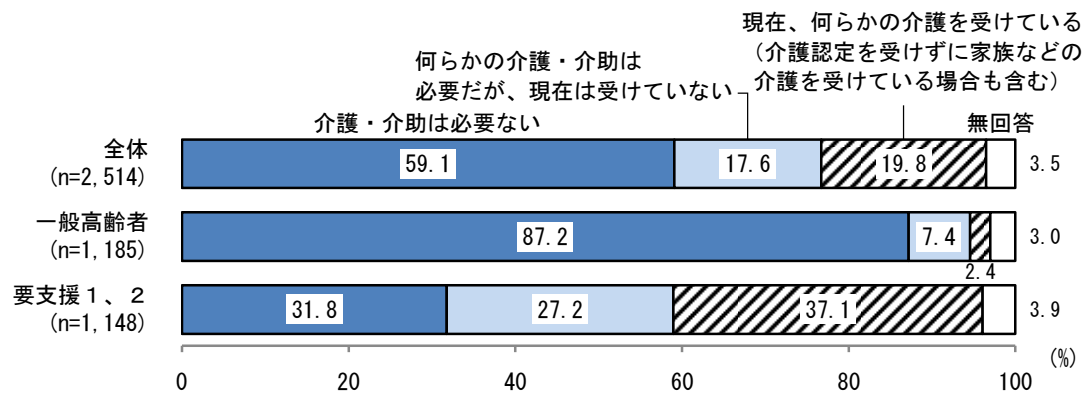
問1-(1) 家族構成をお教えてください(1つに○)



家族構成は、一般高齢者では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が42.3%と多く、要支援1、2では「1人暮らし」が43.6%と多くなっています。

### 〔2〕 介護・介助の必要性

問1-(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか(1つに○)

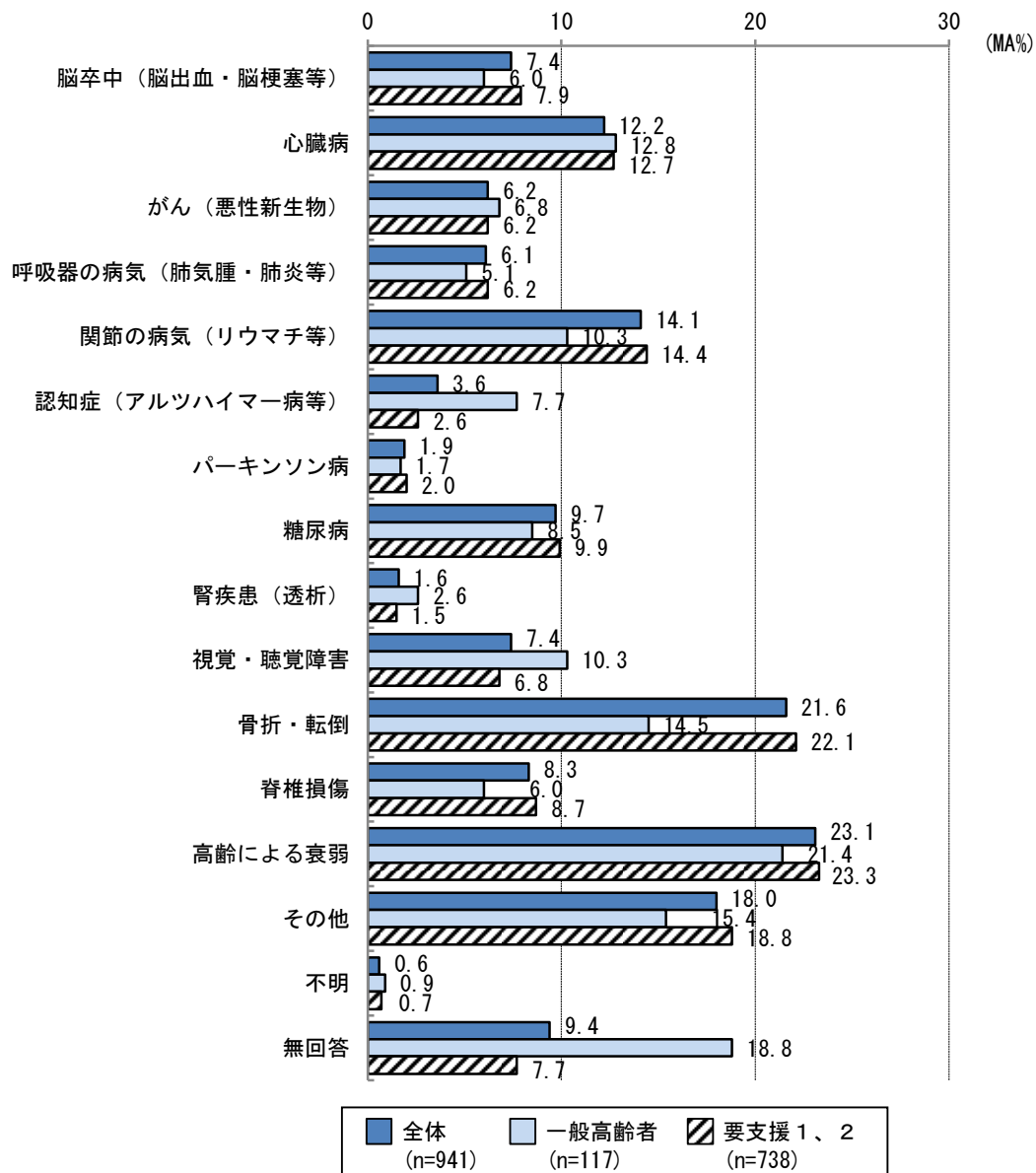


普段の生活で誰かの介護・介助が必要かについては、一般高齢者では「介護・介助は必要ない」が87.2%と多く、要支援1、2では「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が27.2%、「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」が37.1%で、介護が必要な人は合計64.3%となっています。

〔3〕介護・介助が必要になった主な原因

【問1-(2)において「2.」または「3.」(介護・介助が必要)と回答された方のみ】

問1-(2)-1 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(〇はいくつでも)

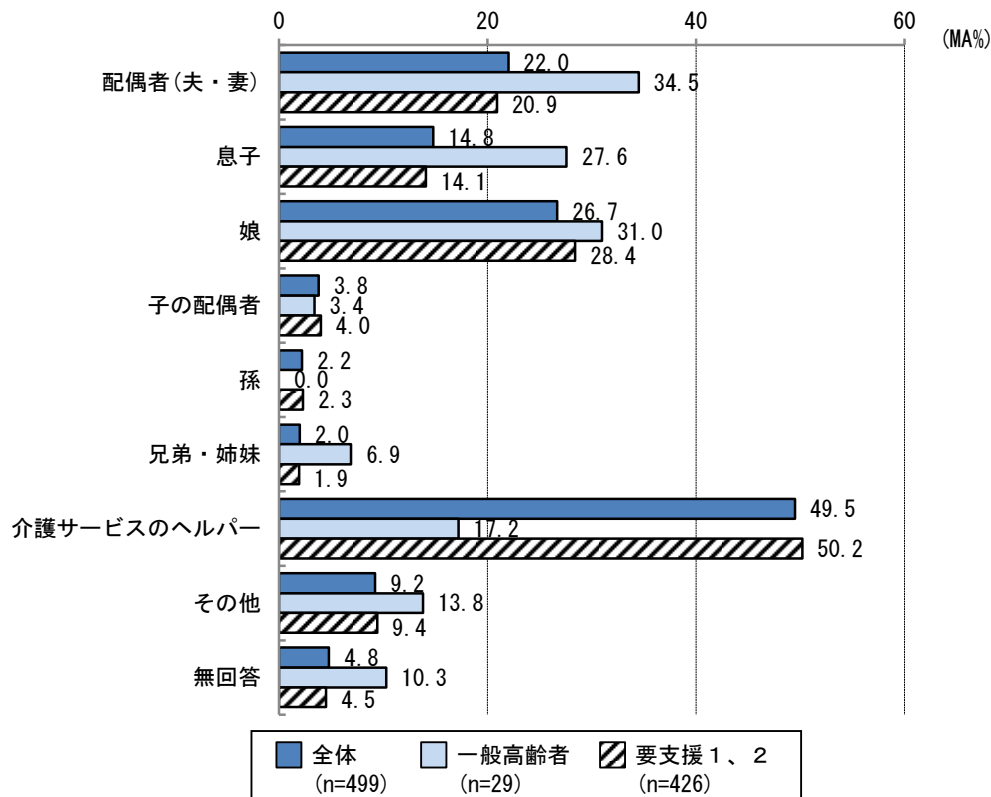


介護・介助が必要と回答された人に、介護・介助が必要になった主な原因についてたずねたところ、一般高齢者では「心臓病」、「関節の病気(リウマチ等)」、「視覚・聴覚障害」、「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」がそれぞれ1割～2割となっています。要支援1、2では「高齢による衰弱」が23.3%と最も多く、次いで、「骨折・転倒」が22.1%となっています。

〔4〕主な介護・介助者

【問1-(2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答された方のみ】

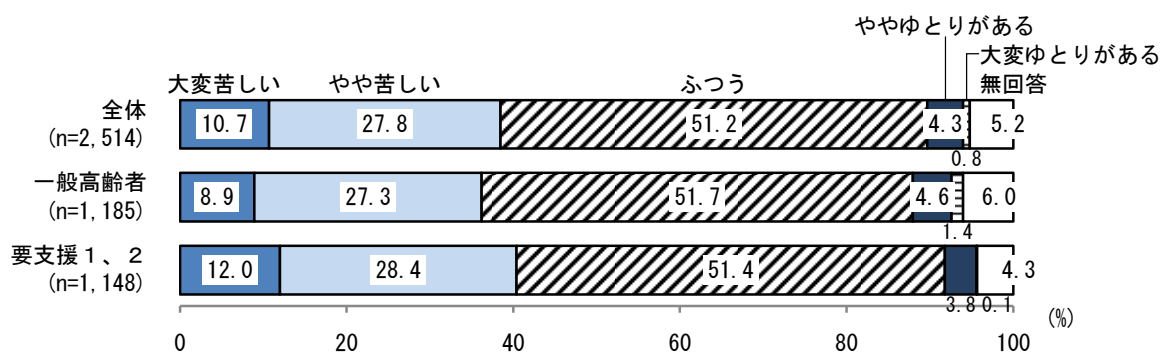
問1-(2)-2 主にどなたの介護・介助を受けていますか(○はいくつでも)



現在、何らかの介護を受けている人に、主な介護・介助者についてたずねたところ、一般高齢者では「配偶者(夫・妻)」が34.5%と最も多く、要支援1、2では「介護サービスのヘルパー」が50.2%と最も多くなっています。

〔5〕現在の暮らしの状況

問1-(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか(1つに○)

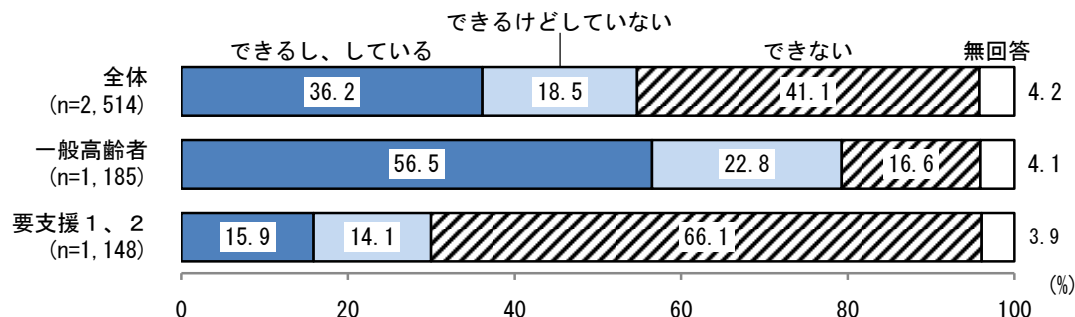


現在の暮らしの状況については、一般高齢者、要支援1、2ともに「ふつう」が5割強と半数を占め、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は一般高齢者で36.2%、要支援1、2で40.4%となっています。

### 3 からだを動かすことについて

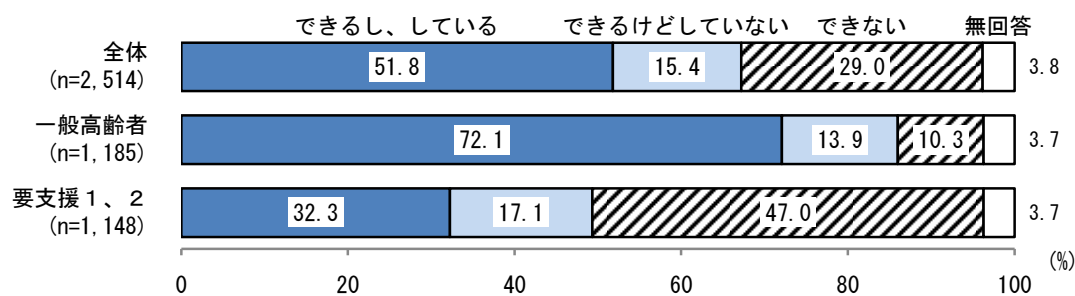
#### 〔1〕運動の状況

問2-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(1つに○)



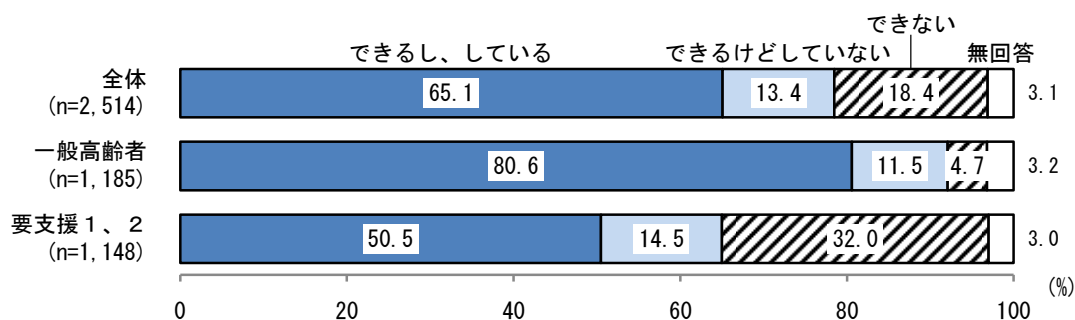
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますかについては、一般高齢者では「できるし、している」が56.5%と多く、要支援1、2では「できない」が66.1%と多くなっています。

問2-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか(1つに○)



椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますかについては、一般高齢者では「できるし、している」が72.1%と多く、要支援1、2では「できない」が47.0%と多くなっています。

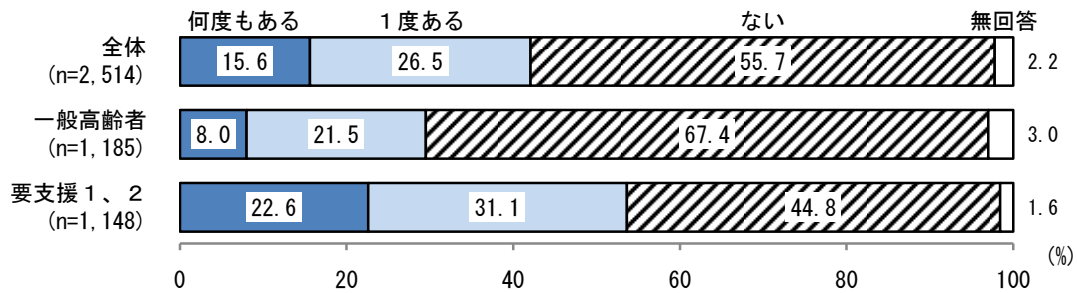
問2-(3) 15分位続けて歩いていますか(1つに○)



15分位続けて歩いていますかについては、一般高齢者、要支援1、2ともに「できるし、している」が多く、一般高齢者で80.6%、要支援1、2で50.5%となっています。

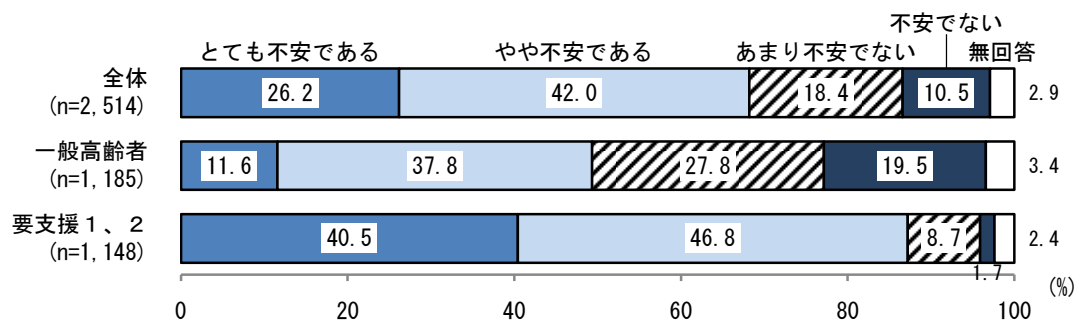
〔2〕 転倒について

問2-(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか(1つに○)



過去1年間の転んだ経験については、「何度もある」と「1度ある」を合わせた『ある』が、一般高齢者では29.5%、要支援1、2では53.7%となっています。

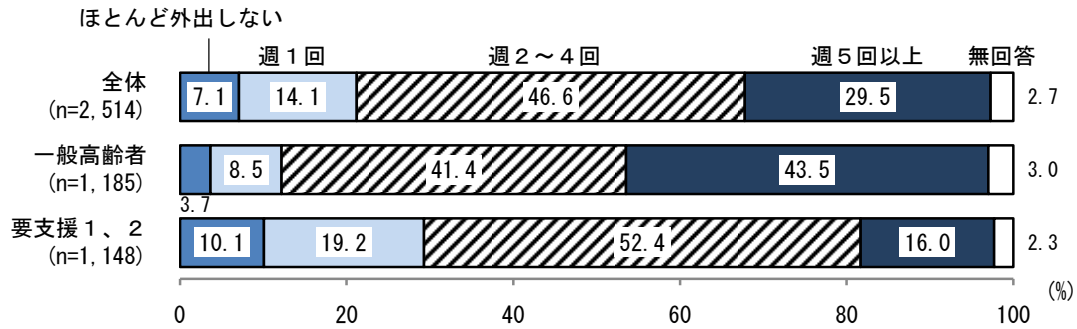
問2-(5) 転倒に対する不安は大きいですか(1つに○)



転倒に対する不安については、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』が、一般高齢者では49.4%、要支援1、2では87.3%となっています。

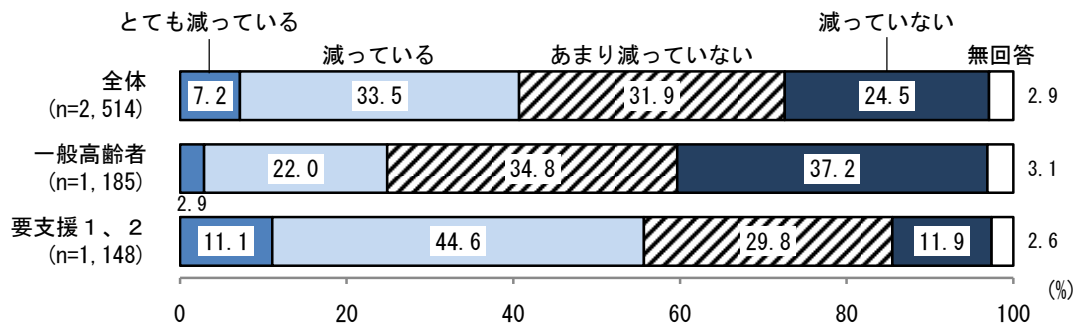
〔3〕外出の状況

問2-(6) 週に1回以上は外出していますか(1つに○)



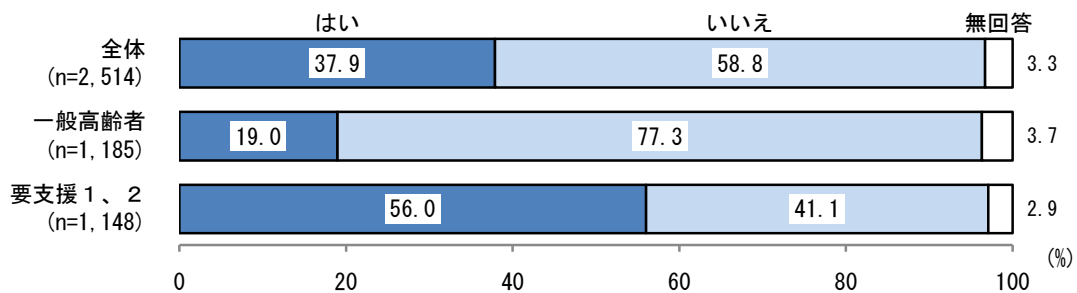
外出の頻度については、一般高齢者では「週5回以上」が43.5%と多く、要支援1、2では「週2~4回」が52.4%と多くなっています。要支援1、2では「ほとんど外出しない」が1割(10.1%)みられます。

問2-(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか(1つに○)



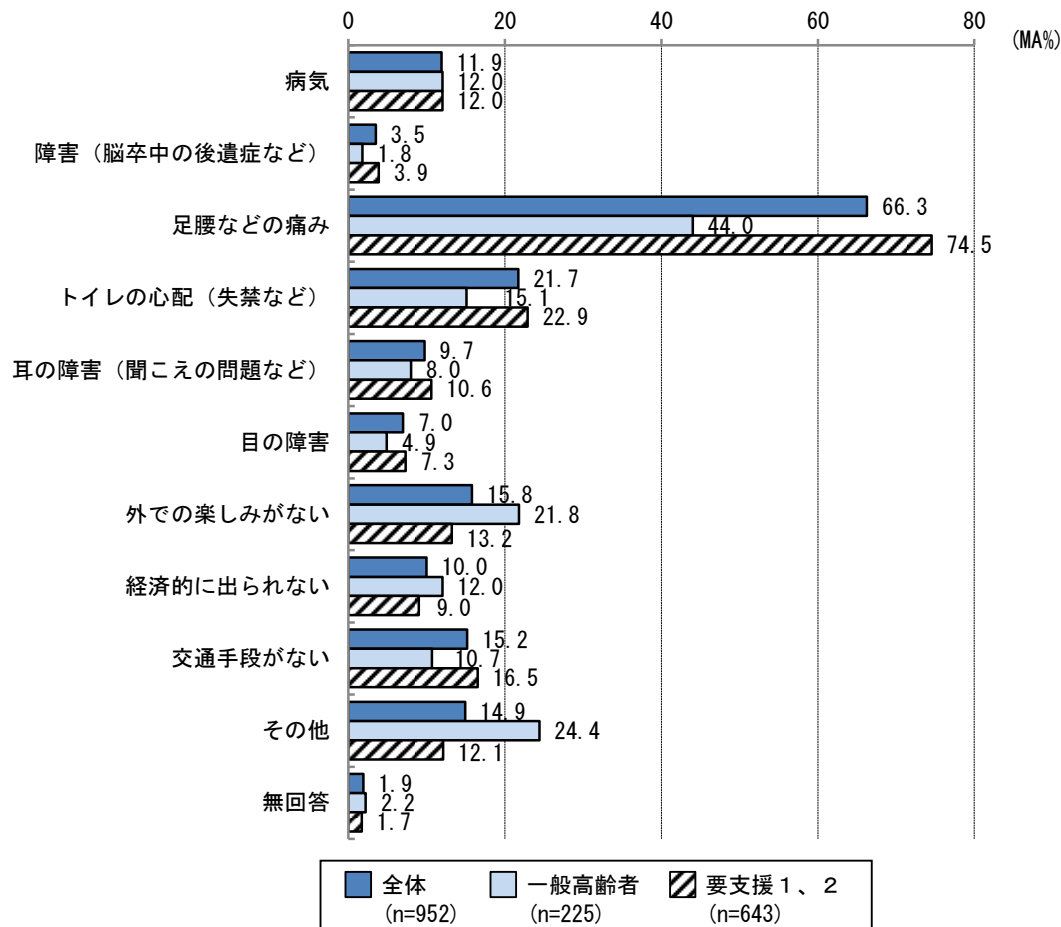
昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、一般高齢者では「減っていない」と「あまり減っていない」を合わせた『減っていない』が72.0%、要支援1、2では「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』が55.7%となっています。

問2-(8) 外出を控えていますか(1つに○)



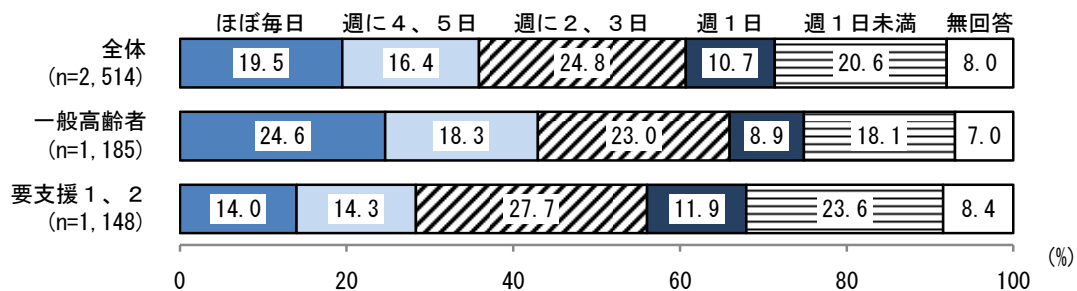
外出を控えているかについては、一般高齢者では「いいえ」が77.3%、要支援1、2では「はい」が56.0%となっています。

【問2-(8)で「1. はい」(外出を控えている)と回答された方のみ】  
 問2-(8)-1 外出を控えている理由は、次のどれですか(〇はいくつでも)



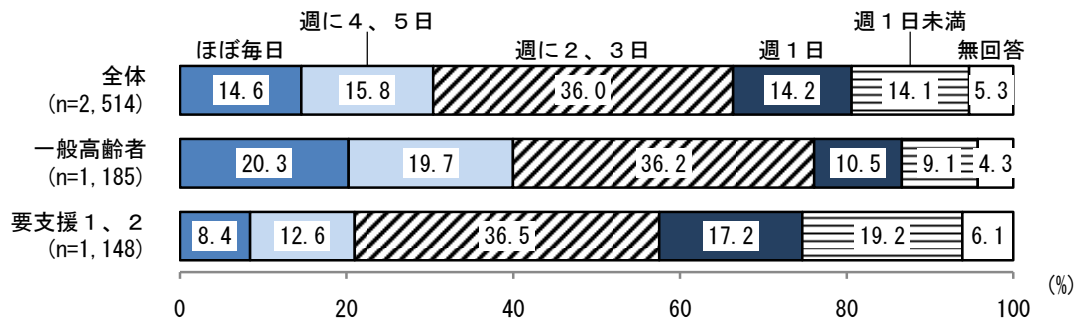
外出を控えている人に、その理由をたずねたところ、一般高齢者、要支援1、2ともに「足腰などの痛み」が最も多くなっています。

問2-(9) 散歩で外出する頻度はどのくらいですか(1つに〇)



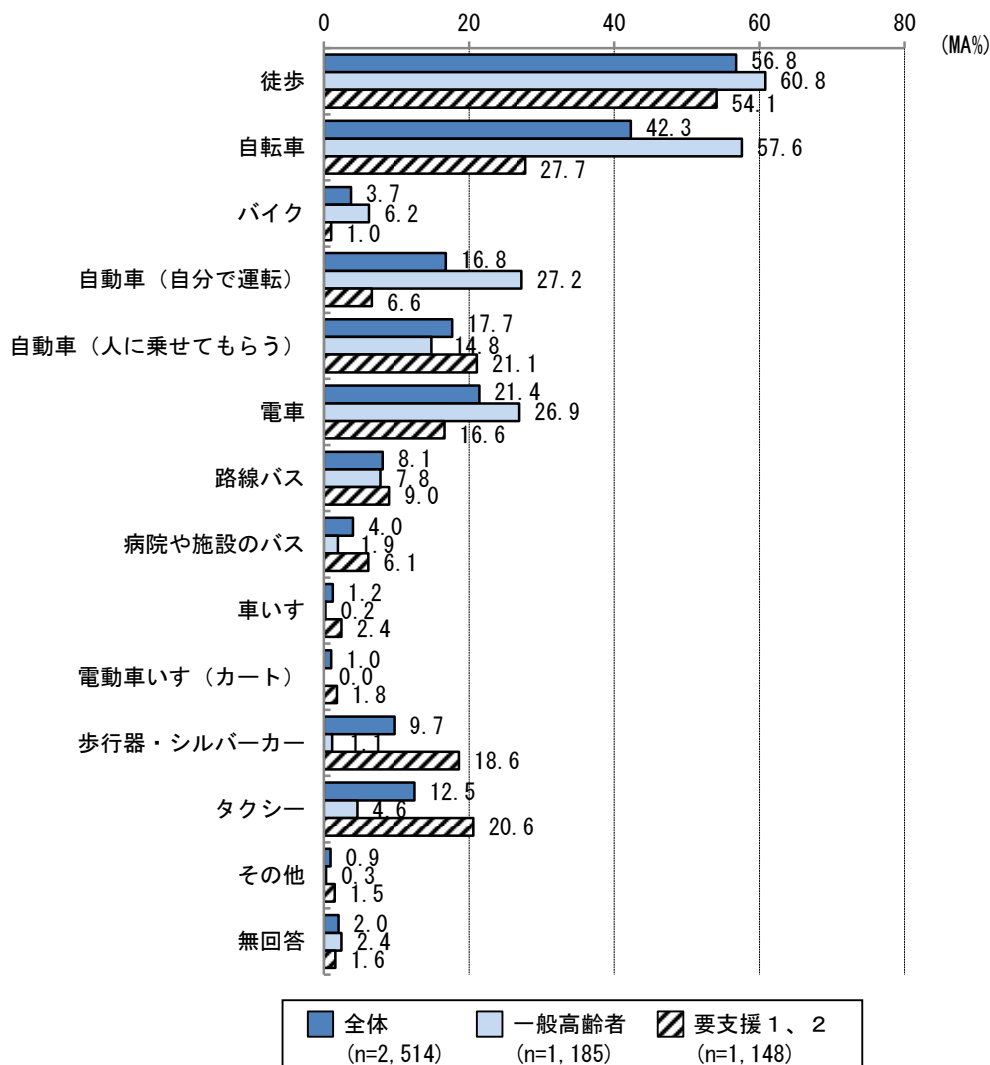
散歩で外出する頻度については、一般高齢者では「ほぼ毎日」が24.6%と多く、要支援1、2では「週に2、3日」が27.7%、「週1日未満」が23.6%となっています。

問 2 - (10) 買い物で外出する頻度はどのくらいですか (1つに○)



買い物で外出する頻度については、一般高齢者、要支援1、2ともに「週に2、3日」が最も多く、一般高齢者で36.2%、要支援1、2で36.5%となっています。

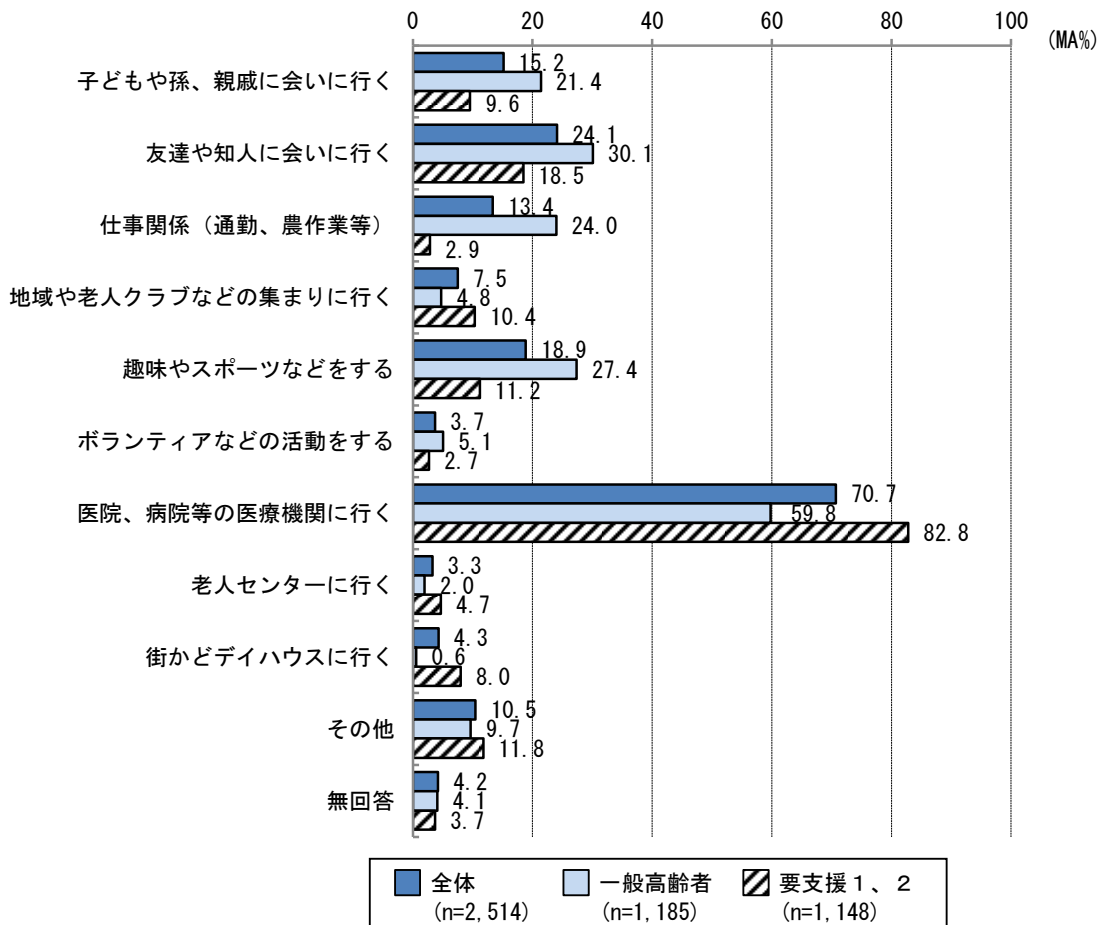
問 2 - (11) 外出する際の移動手段は何ですか (○はいくつでも)



外出する際の移動手段は、一般高齢者、要支援1、2ともに「徒歩」が最も多く、一般高齢者では60.8%、要支援1、2では54.1%となっています。



問 2-(12) 買物や散歩以外でどのようなことでよく外出されますか(○はいくつでも)

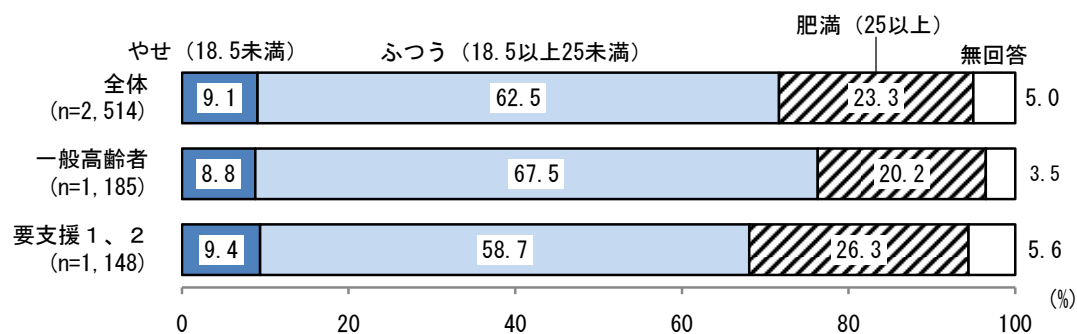


買物や散歩以外の外出の状況についてみると、一般高齢者、要支援1、2ともに「医院、病院等の医療機関に行く」が最も多くなっています。次いで、一般高齢者では「友達や知人に会いに行く」、「趣味やスポーツなどをする」、「仕事関係(通勤、農作業等)」、「子どもや孫、親戚に会いに行く」などが2～3割台となっています。

## 4 食べることについて

### 〔1〕身長・体重

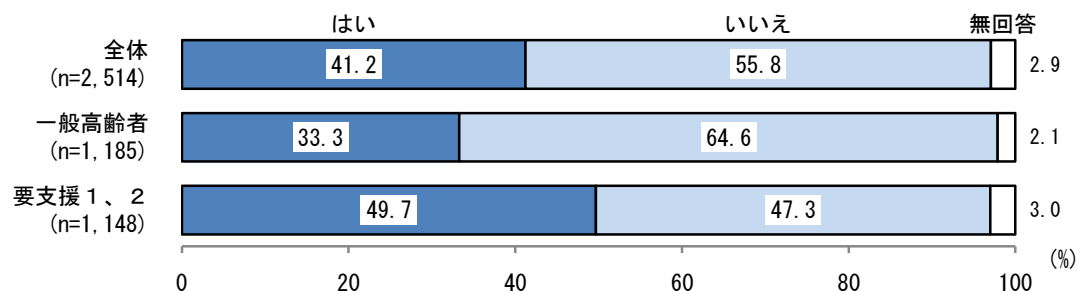
問3-(1) 身長・体重について、ご記入ください ※小数点以下は四捨五入



身長・体重から算出したBMI値の分類について、「やせ (18.5未満)」は一般高齢者では8.8%、要支援1、2では9.4%、「肥満 (25以上)」は一般高齢者では20.2%、要支援1、2では26.3%となっています。

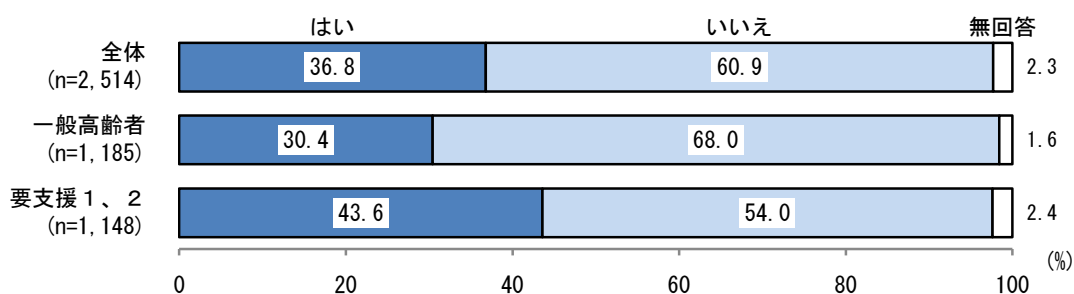
### 〔2〕口腔内の状態

問3-(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (1つに○)



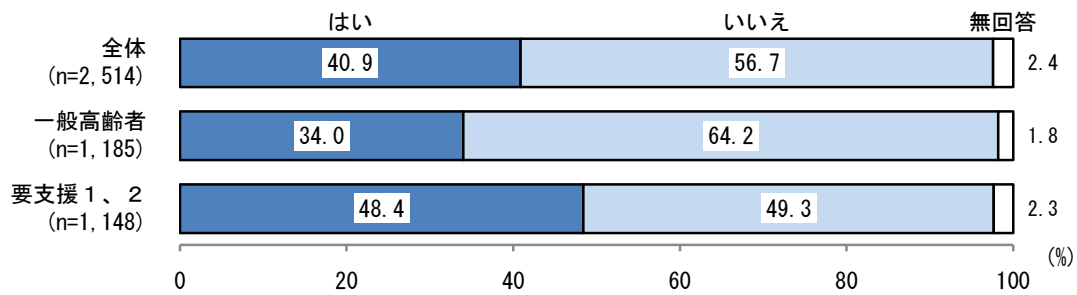
半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で33.3%、要支援1、2で49.7%となっています。

問3-(3) お茶や汁物等でむせることがありますか (1つに○)



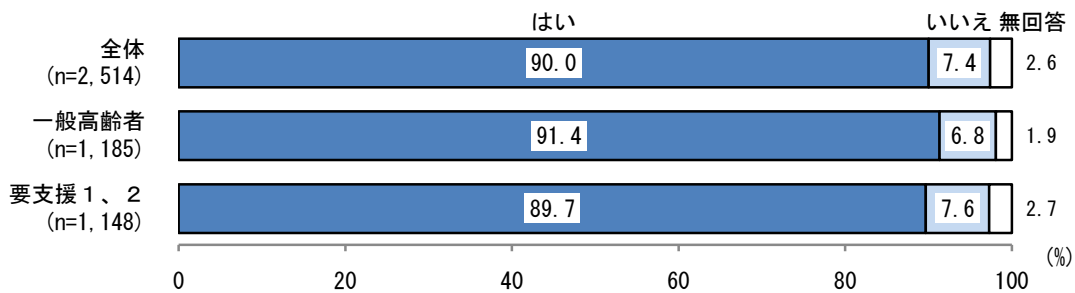
お茶や汁物等でむせることがあるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で30.4%、要支援1、2で43.6%となっています。

問3-(4) 口の渇きが気になりますか(1つに○)



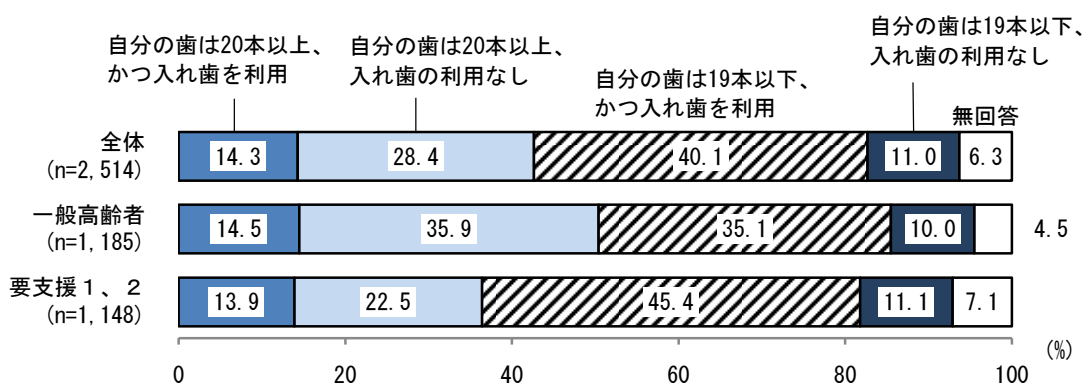
口の渇きが気になるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で34.0%、要支援1、2で48.4%となっています。

問3-(5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか(1つに○)



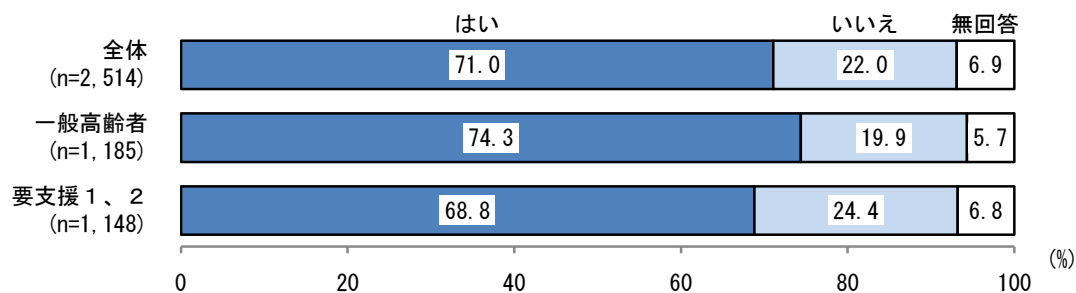
歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日しているかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で91.4%、要支援1、2で89.7%となっています。

問3-(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(1つに○)  
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)



歯の数と入れ歯の利用状況については、一般高齢者では「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が35.9%と最も多く、要支援1、2では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も多くなっています。自分の歯が20本以上残っている人は、一般高齢者では合計50.4%、要支援1、2では合計36.4%となっています。

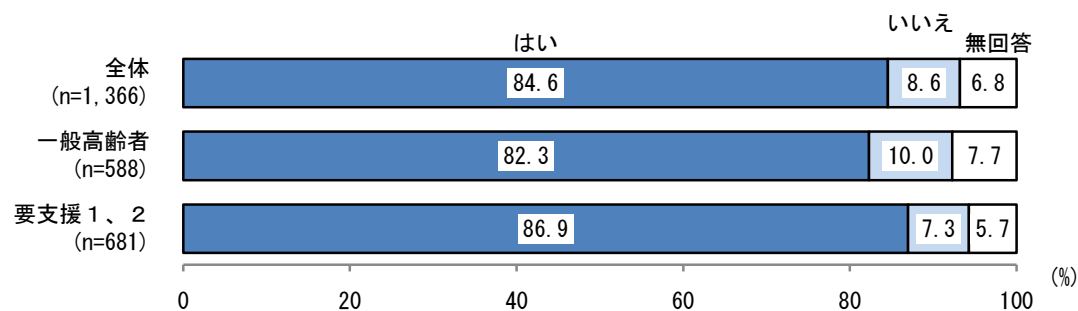
問3-(6)-1 噛み合わせは良いですか(1つに○)



噛み合わせは良いですかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で74.3%、要支援1、2で68.8%となっています。

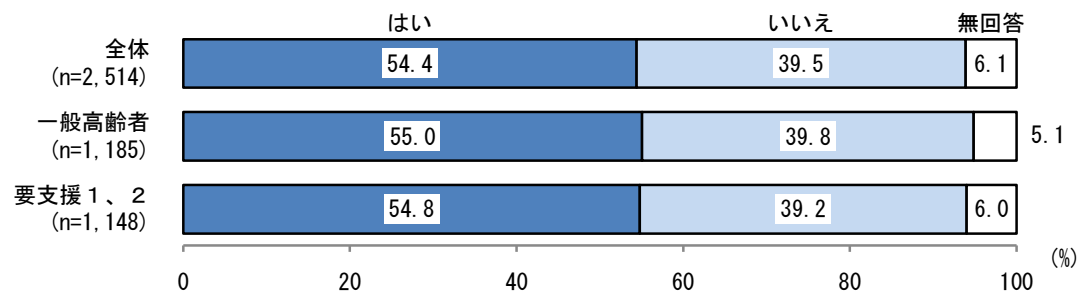
【問3-(6)で「1.」「3.」(入れ歯を利用)と回答された方のみ】

問3-(6)-2 毎日入れ歯の手入れをしていますか(1つに○)



毎日入れ歯の手入れをしていますかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で82.3%、要支援1、2で86.9%となっています。

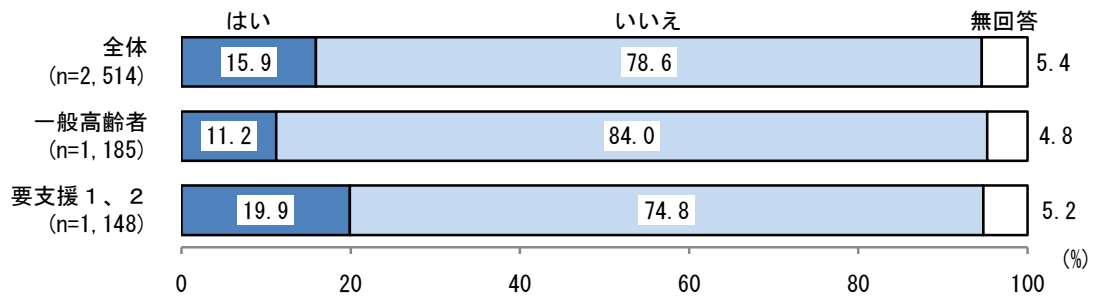
問3-(7) 定期的に歯科受診(健診を含む)をしていますか(1つに○)



定期的に歯科受診をしていますかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で55.0%、要支援1、2で54.8%となっています。

〔3〕 体重減少について

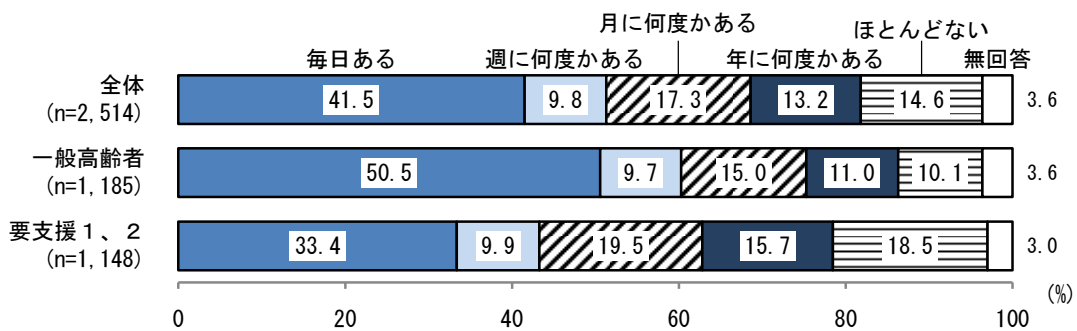
問3-(8) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか(1つに○)



6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で11.2%、要支援1、2で19.9%となっています。

〔4〕 共食の頻度

問3-(9) どなたかと食事をとる機会がありますか(1つに○)

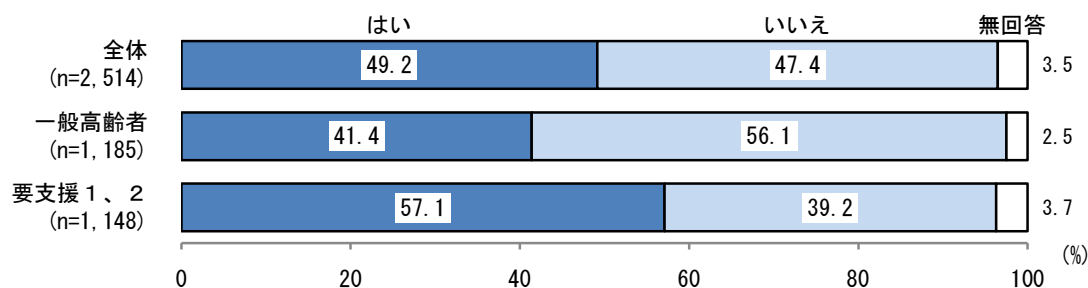


誰かと食事をとる機会については、一般高齢者では「毎日ある」が50.5%と半数を占めています。要支援1、2では「毎日ある」が33.4%、「月に何度かある」が19.5%で、「ほとんどない」も18.5%みられます。

## 5 毎日の生活について

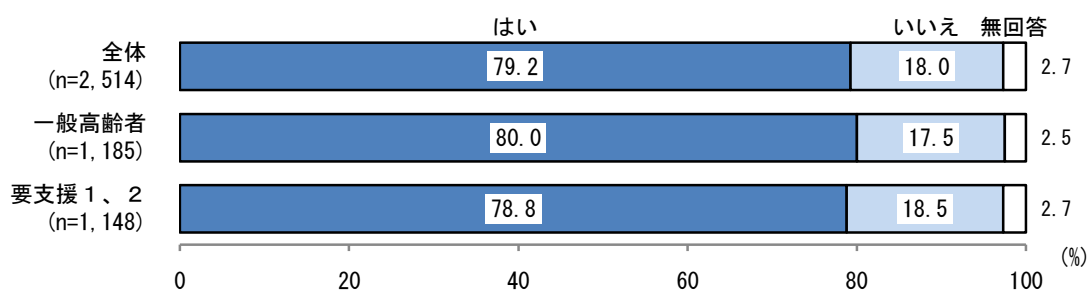
### 〔1〕物忘れの状況

問4-(1) 物忘れが多いと感じますか(1つに○)



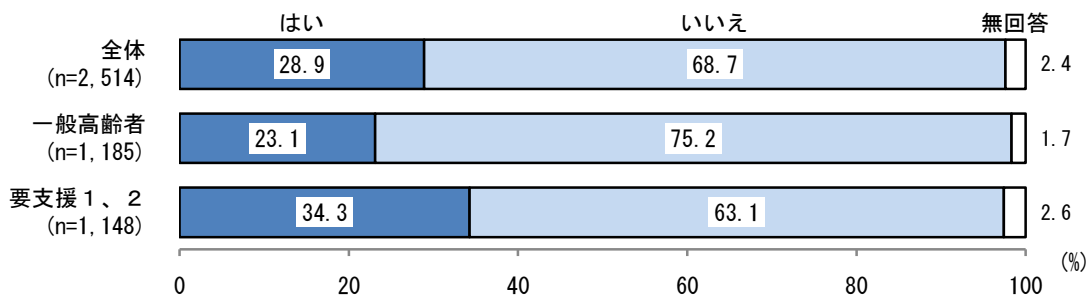
物忘れが多いと感じるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で41.4%、要支援1、2で57.1%となっています。

問4-(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか(1つに○)



自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で80.0%、要支援1、2で78.8%となっています。

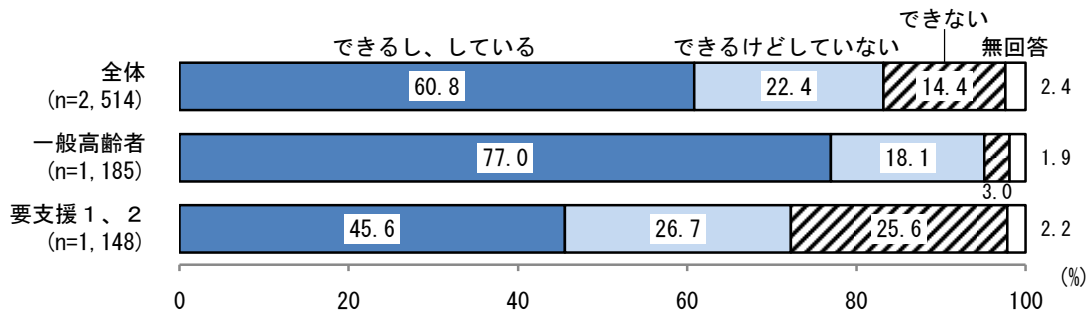
問4-(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか(1つに○)



今日が何月何日かわからない時があるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で23.1%、要支援1、2で34.3%となっています。

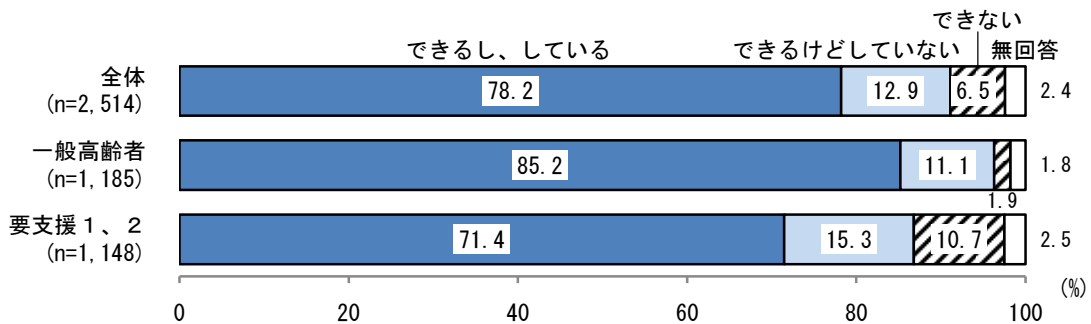
〔2〕日常生活の状況

問4-(4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)  
(1つに○)



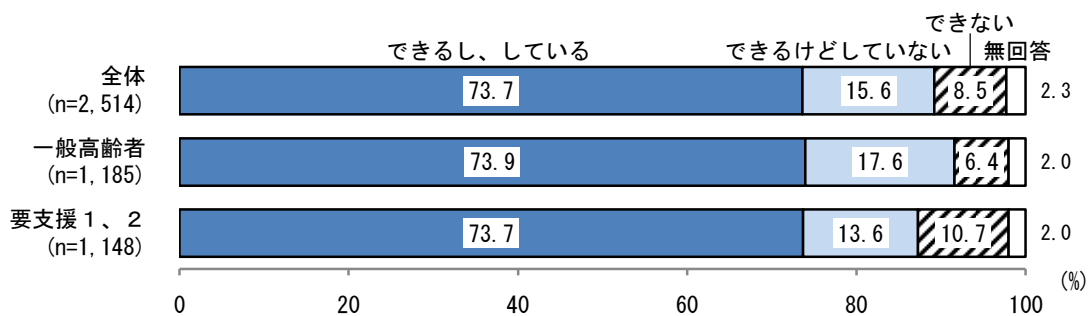
バスや電車を使って1人で外出しているか(自家用車でも可)について、「できるし、している」と回答した人は一般高齢者で77.0%、要支援1、2で45.6%となっています。

問4-(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか(1つに○)



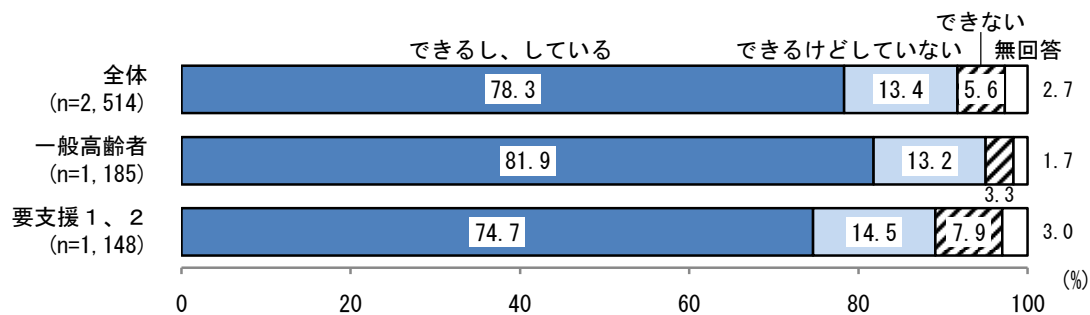
自分で食品・日用品の買物をしているかについて、「できるし、している」と回答した人は一般高齢者で85.2%、要支援1、2で71.4%となっています。

問4-(6) 自分で食事の用意をしていますか(1つに○)



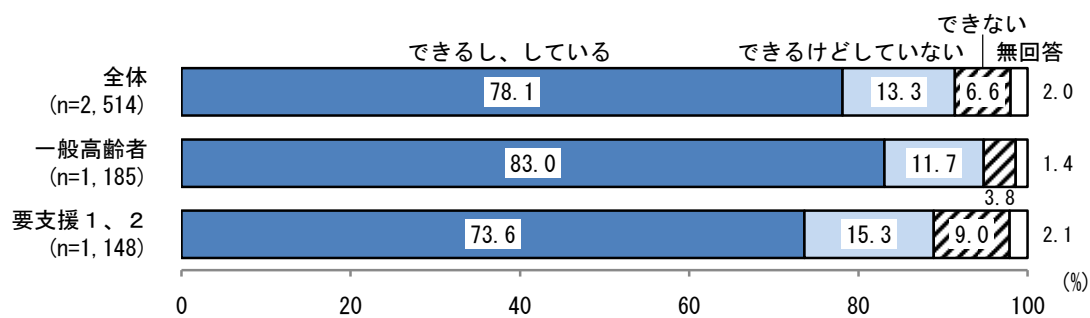
自分で食事の用意をしているかについて、「できるし、している」と回答した人は一般高齢者で73.9%、要支援1、2で73.7%となっています。

問 4 - ( 7 ) 自分で請求書の支払いをしていますか ( 1 つに ○ )



自分で請求書の支払いをしているかについて、「できるし、している」と回答した人は一般高齢者で 81.9%、要支援 1、2 で 74.7%となっています。

問 4 - ( 8 ) 自分で預貯金の出し入れをしていますか ( 1 つに ○ )

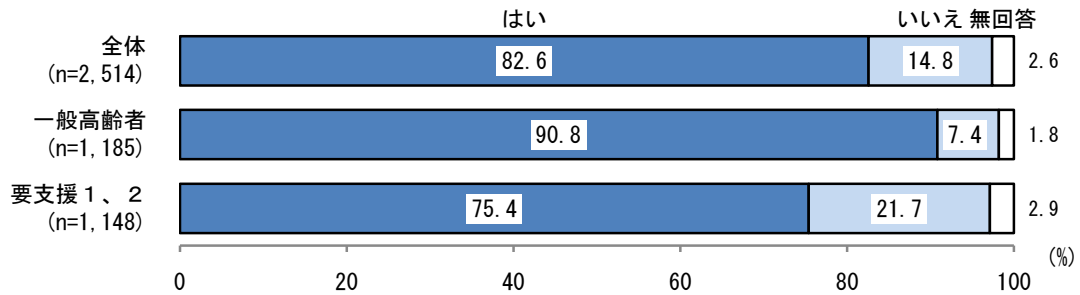


自分で預貯金の出し入れをしているかについて、「できるし、している」と回答した人は一般高齢者で 83.0%、要支援 1、2 で 73.6%となっています。



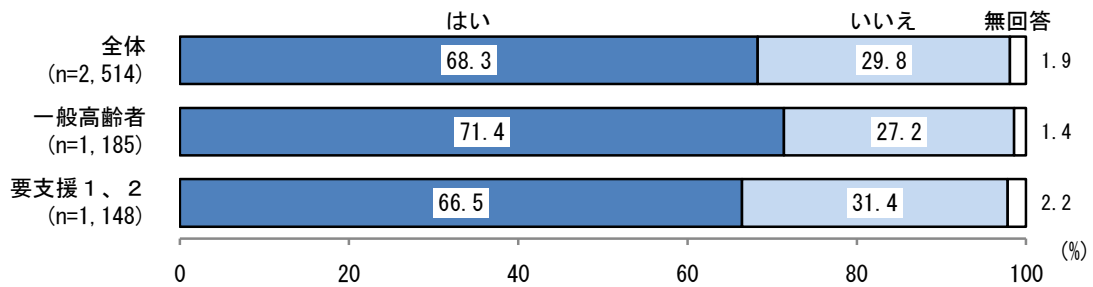
〔3〕社会参加の状況

問4-(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（1つに○）



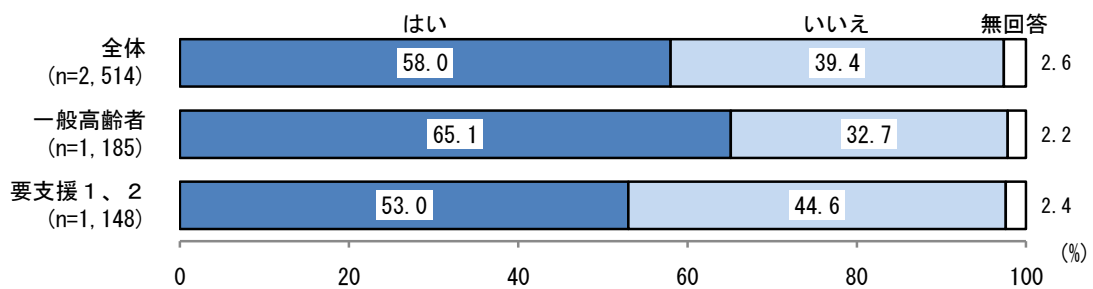
年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で90.8%、要支援1、2で75.4%となっています。

問4-(10) 新聞を読んでいますか（1つに○）



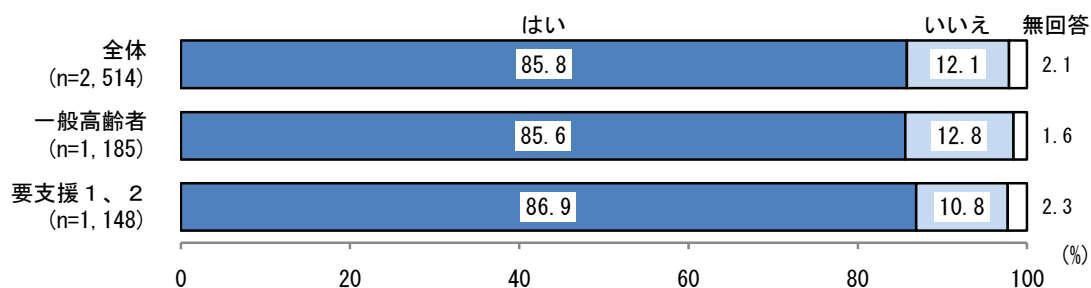
新聞を読んでいるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で71.4%、要支援1、2で66.5%となっています。

問4-(11) 本や雑誌を読んでいますか（1つに○）



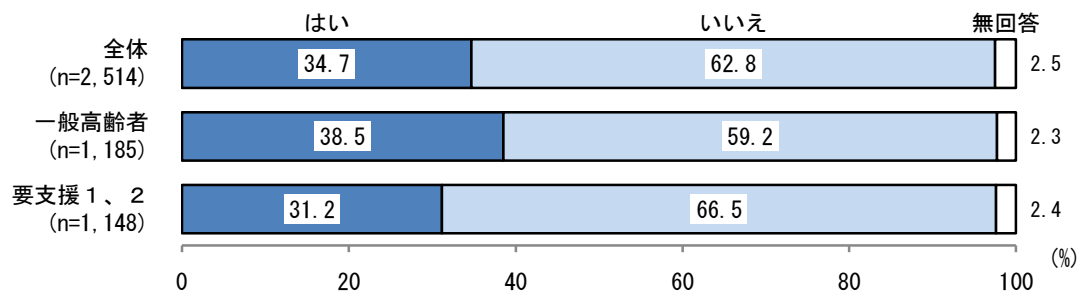
本や雑誌を読んでいるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で65.1%、要支援1、2で53.0%となっています。

問 4 - (12) 健康についての記事や番組に関心がありますか (1つに○)



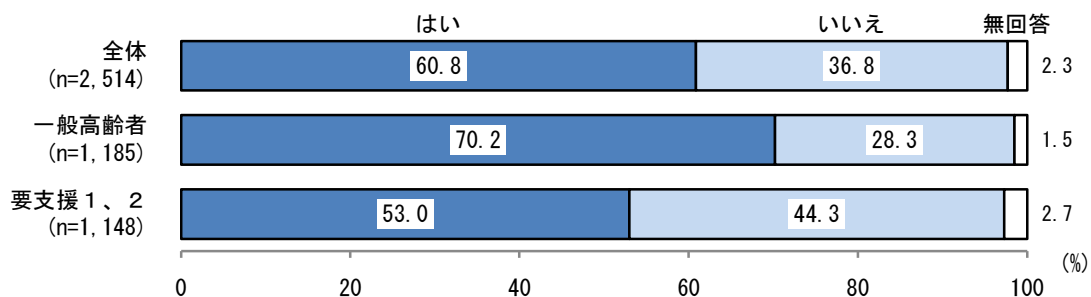
健康についての記事や番組に関心があるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で85.6%、要支援1、2で86.9%となっています。

問 4 - (13) 友人の家を訪ねていますか (1つに○)



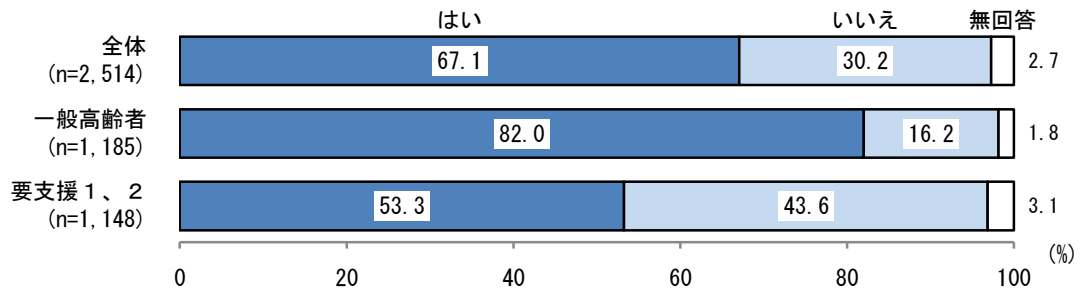
友人の家を訪ねているかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で38.5%、要支援1、2で31.2%となっています。

問 4 - (14) 家族や友人の相談にのっていますか (1つに○)



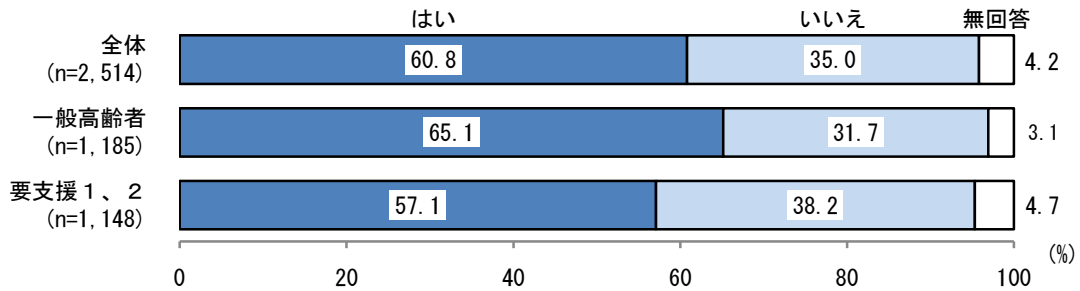
家族や友人の相談にのっているかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で70.2%、要支援1、2で53.0%となっています。

問 4 - (15) 病人を見舞うことができますか (1つに○)



病人を見舞うことができるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で 82.0%、要支援 1、2 で 53.3%となっています。

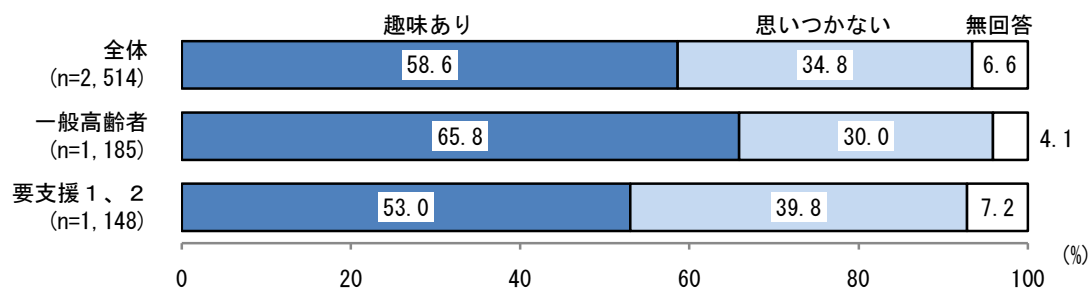
問 4 - (16) 若い人に自分から話しかけることがありますか (1つに○)



若い人に自分から話しかけることがあるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で 65.1%、要支援 1、2 で 57.1%となっています。

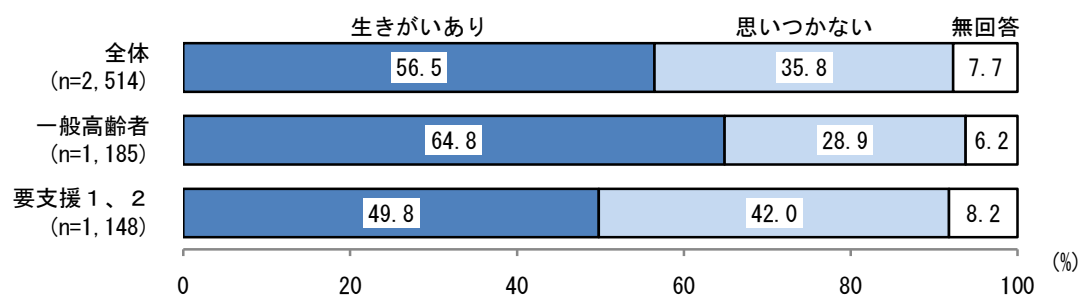
〔4〕 趣味や生きがいについて

問 4 - (17) 趣味はありますか (1つに○)



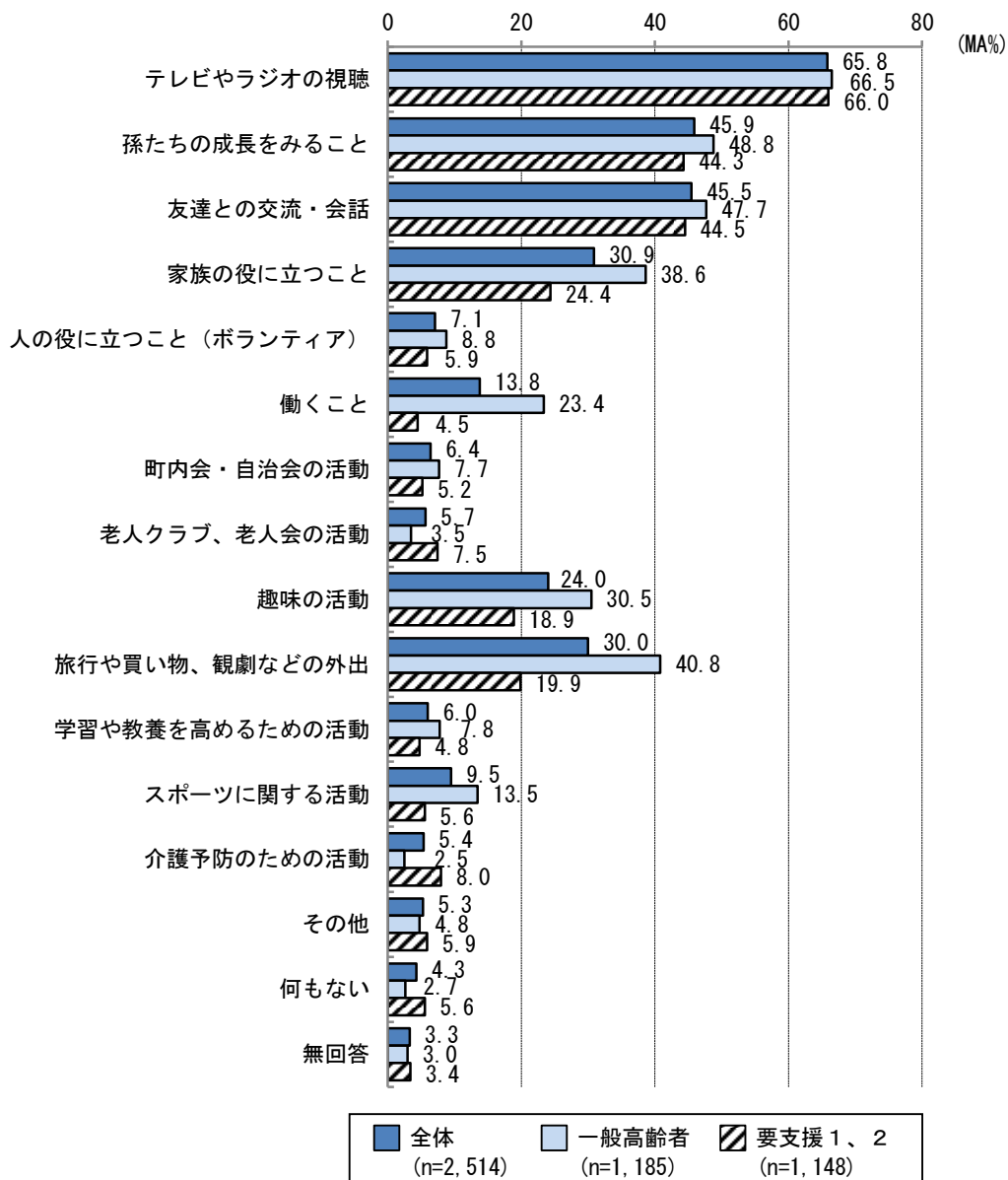
趣味はあるかについては、「趣味あり」が一般高齢者で 65.8%、要支援 1、2 で 53.0% となっています。

問 4 - (18) 生きがいはありますか (1つに○)



生きがいはあるかについては、「生きがいあり」が一般高齢者で 64.8%、要支援 1、2 で 49.8% となっています。

問4-(19) あなたが現在やっていることで、生きがいや楽しみを感じるの  
 ほどなことですか(〇はいくつでも)

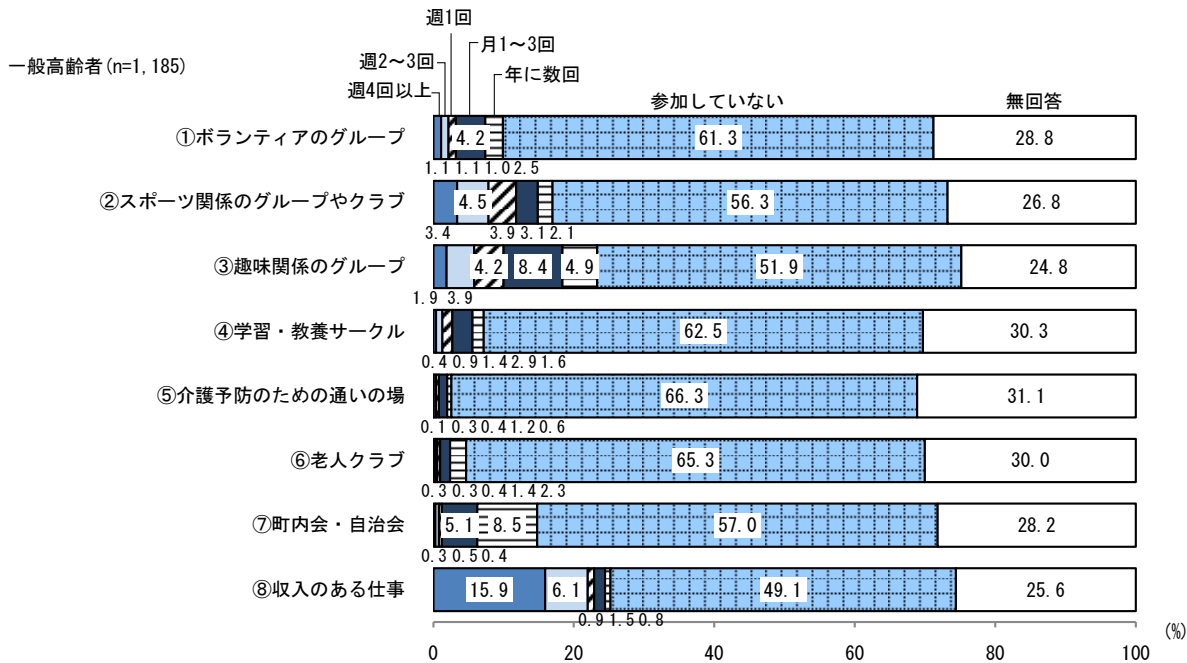


生きがいや楽しみを感じるのほどなことかについては、一般高齢者、要支援1、2ともに「テレビやラジオの視聴」が最も多く、一般高齢者で66.5%、要支援1、2で66.0%となっています。

## 6 地域での活動について

### 〔1〕地域の会・グループ等への参加状況

問5-(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか  
 ※①-⑧それぞれに回答してください（それぞれ1つに〇）



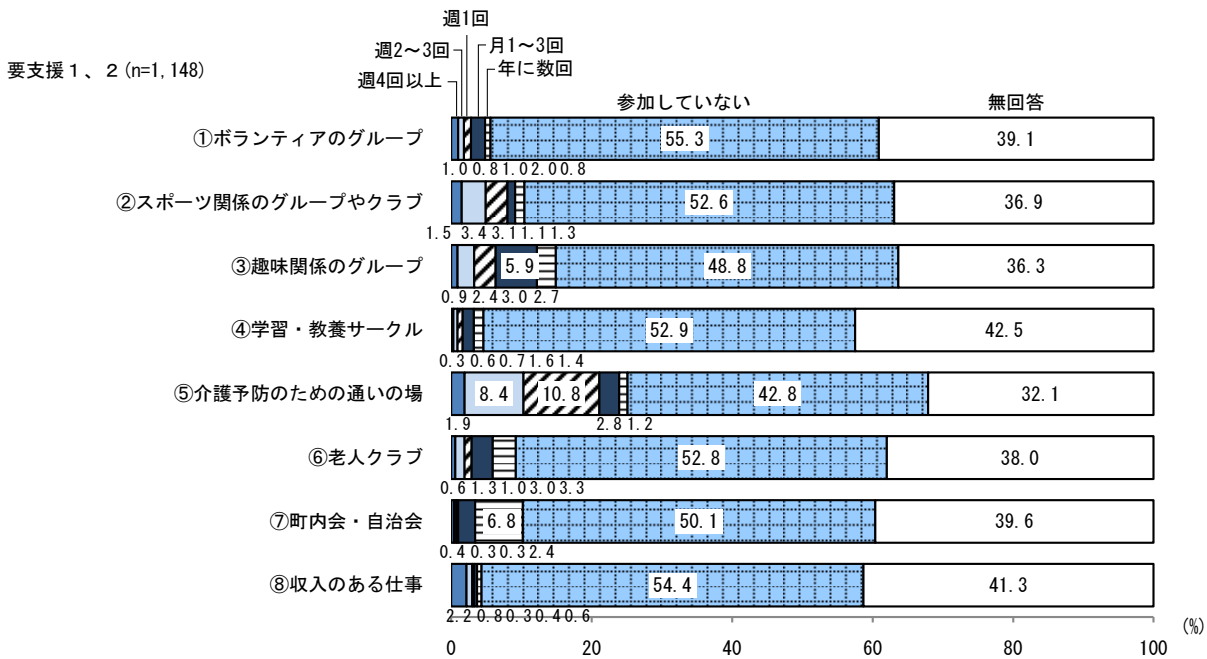
一般高齢者 (n=1,185)

(%)

	参加している						参加していない	無回答
	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回			
①ボランティアのグループ	9.9	1.1	1.1	1.0	4.2	2.5	61.3	28.8
②スポーツ関係のグループやクラブ	17.0	3.4	4.5	3.9	3.1	2.1	56.3	26.8
③趣味関係のグループ	23.3	1.9	3.9	4.2	8.4	4.9	51.9	24.8
④学習・教養サークル	7.2	0.4	0.9	1.4	2.9	1.6	62.5	30.3
⑤介護予防のための通いの場	2.6	0.1	0.3	0.4	1.2	0.6	66.3	31.1
⑥老人クラブ	4.7	0.3	0.3	0.4	1.4	2.3	65.3	30.0
⑦町内会・自治会	14.8	0.3	0.5	0.4	5.1	8.5	57.0	28.2
⑧収入のある仕事	25.2	15.9	6.1	0.9	1.5	0.8	49.1	25.6

地域の会・グループ等への参加状況について、一般高齢者では、⑧収入のある仕事への参加が25.2%で最も多く、次いで、③趣味関係のグループが23.3%、②スポーツ関係のグループやクラブが17.0%、⑦町内会・自治会が14.8%となっています。

参加の頻度については、⑧収入のある仕事では「週4回以上」、③趣味関係のグループでは「月1~3回」、②スポーツ関係のグループやクラブでは「週2~3回」、⑦町内会・自治会では「年に数回」が多くなっています。



要支援 1、2 (n=1,148)

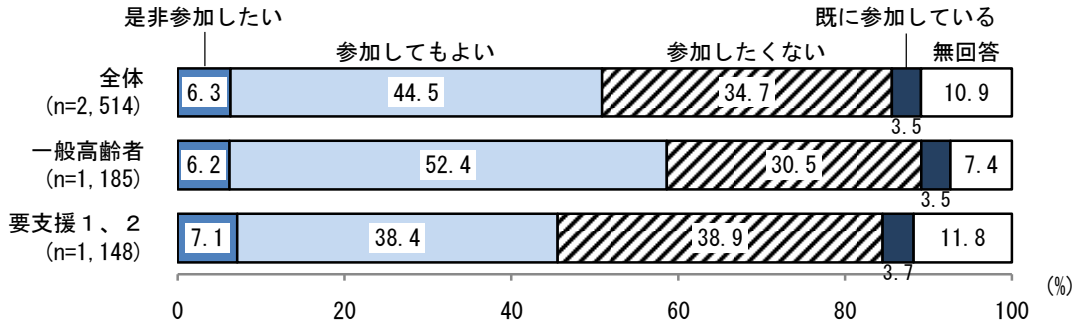
	参加している	参加頻度					参加していない (%)	無回答 (%)
		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回		
① ボランティアのグループ	5.6	1.0	0.8	1.0	2.0	0.8	55.3	39.1
② スポーツ関係のグループやクラブ	10.4	1.5	3.4	3.1	1.1	1.3	52.6	36.9
③ 趣味関係のグループ	14.9	0.9	2.4	3.0	5.9	2.7	48.8	36.3
④ 学習・教養サークル	4.6	0.3	0.6	0.7	1.6	1.4	52.9	42.5
⑤ 介護予防のための通いの場	25.1	1.9	8.4	10.8	2.8	1.2	42.8	32.1
⑥ 老人クラブ	9.2	0.6	1.3	1.0	3.0	3.3	52.8	38.0
⑦ 町内会・自治会	10.2	0.4	0.3	0.3	2.4	6.8	50.1	39.6
⑧ 収入のある仕事	4.3	2.2	0.8	0.3	0.4	0.6	54.4	41.3

要支援 1、2 では、⑤介護のための通いの場への参加が 25.1%で最も多く、次いで、③趣味関係のグループが 14.9%、②スポーツ関係のグループやクラブが 10.4%、⑦町内会・自治会が 10.2%となっています。

参加の頻度については、⑤介護のための通いの場では「週1回」、「週2~3回」、③趣味関係のグループでは「月1~3回」、②スポーツ関係のグループやクラブでは「週2~3回」、「週1回」、⑦町内会・自治会では「年に数回」が多くなっています。

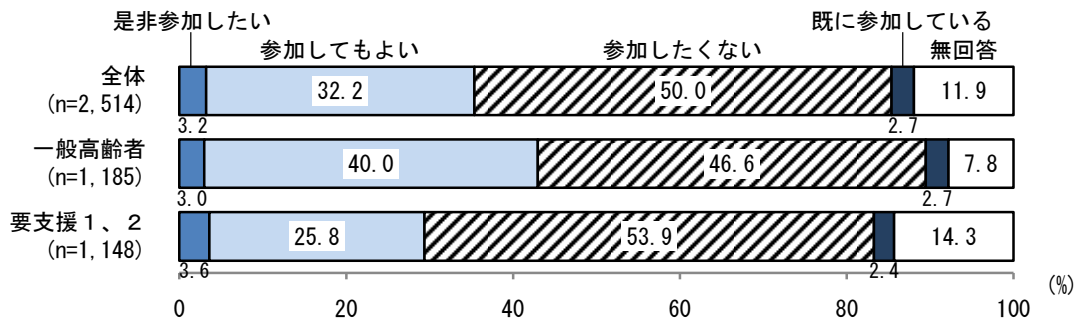
〔2〕地域の会・グループ等への参加意向

問5-(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか(1つに○)



健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加者としての参加意向については、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加意向あり』が、一般高齢者で58.6%、要支援1、2で45.5%となっています。

問5-(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか(1つに○)

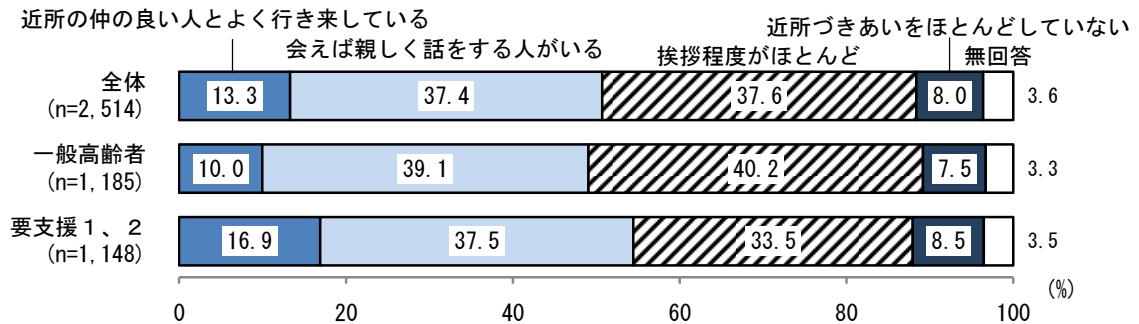


企画・運営(お世話役)としての参加意向については、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加意向あり』が、一般高齢者で43.0%、要支援1、2で29.4%となっています。



〔3〕近所づきあいについて

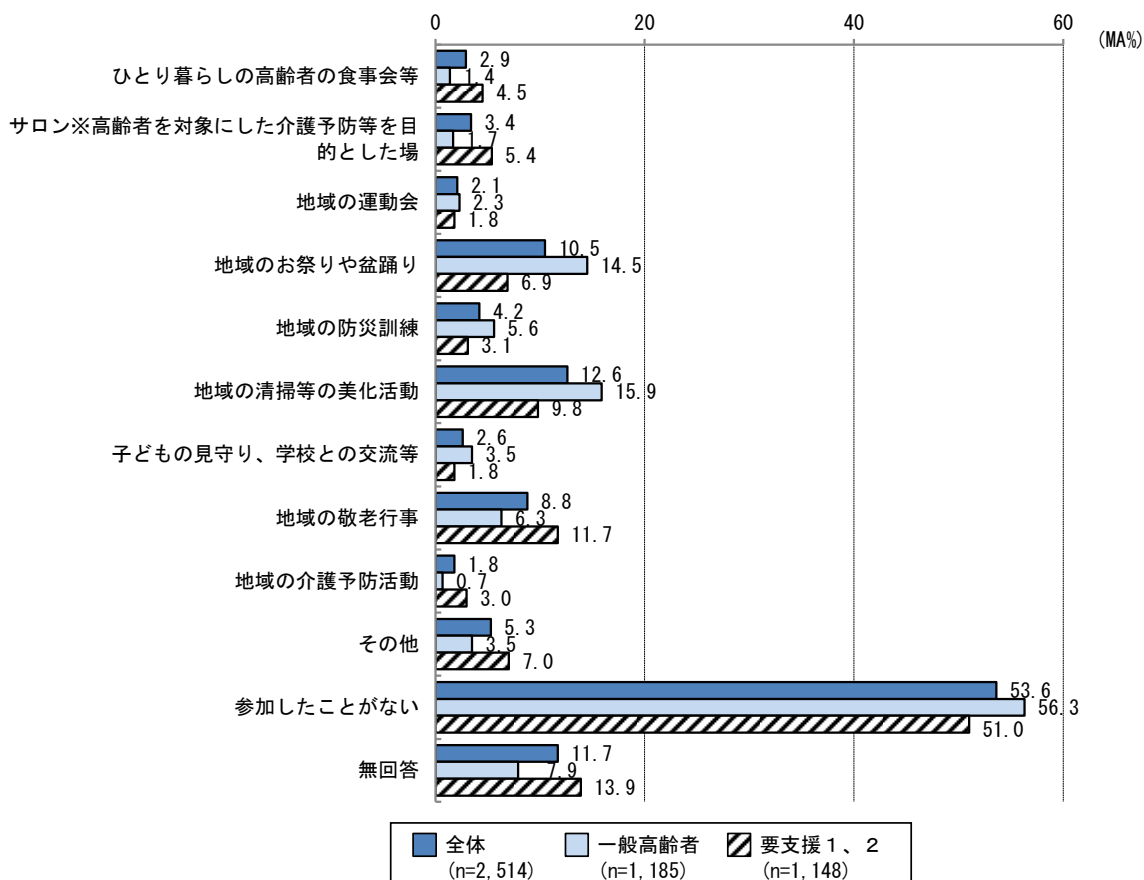
問5-(4) あなたは、近所づきあいをどの程度されていますか(1つに○)



近所づきあいの程度については、一般高齢者では「挨拶程度がほとんど」が40.2%、「会えば親しく話をする人がいる」が39.1%となっています。要支援1、2では「会えば親しく話をする人がいる」が37.5%と最も多くなっています。

〔4〕地域の行事等への参加状況

問5-(5) あなたは、地域の行事等に参加されていますか(○はいくつでも)

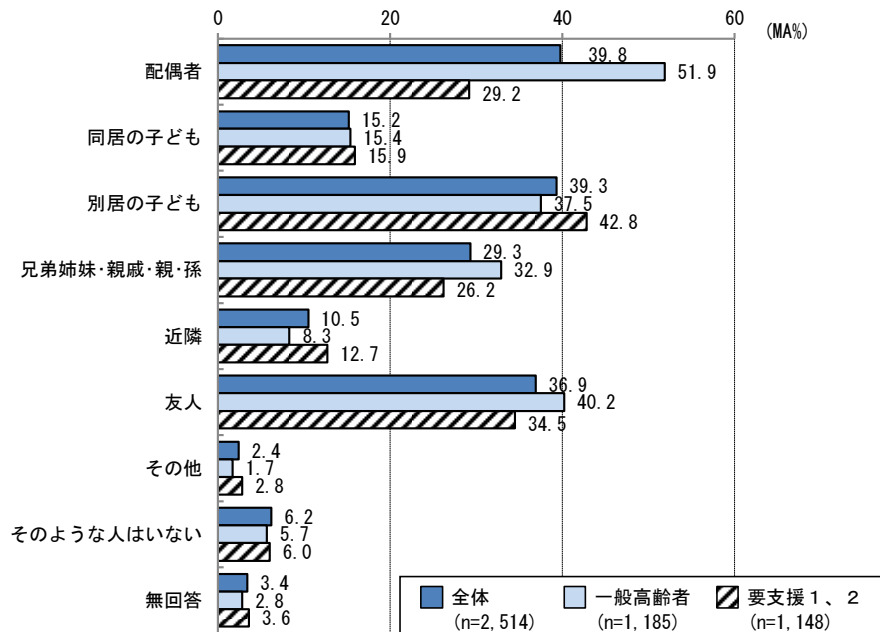


地域の行事等への参加状況については、「参加したことがない」が約半数となっていますが、一般高齢者では「地域のお祭りや盆踊り」、「地域の清掃等の美化活動」、要支援1、2では「地域の敬老行事」に1割ほどの参加がみられます。

## 7 たすけあいについて

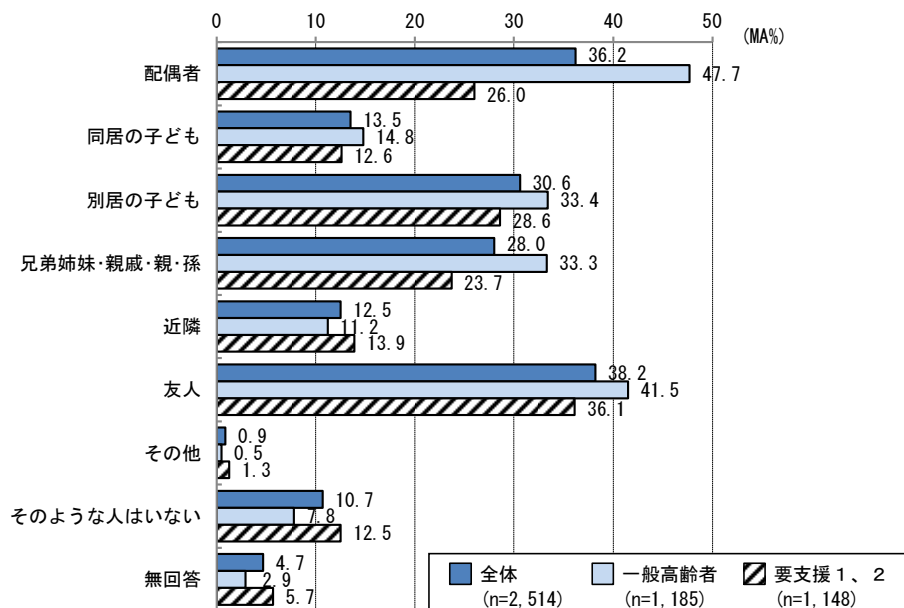
### 〔1〕まわりの人とのたすけあいの状況

問6-(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(〇はいくつでも)



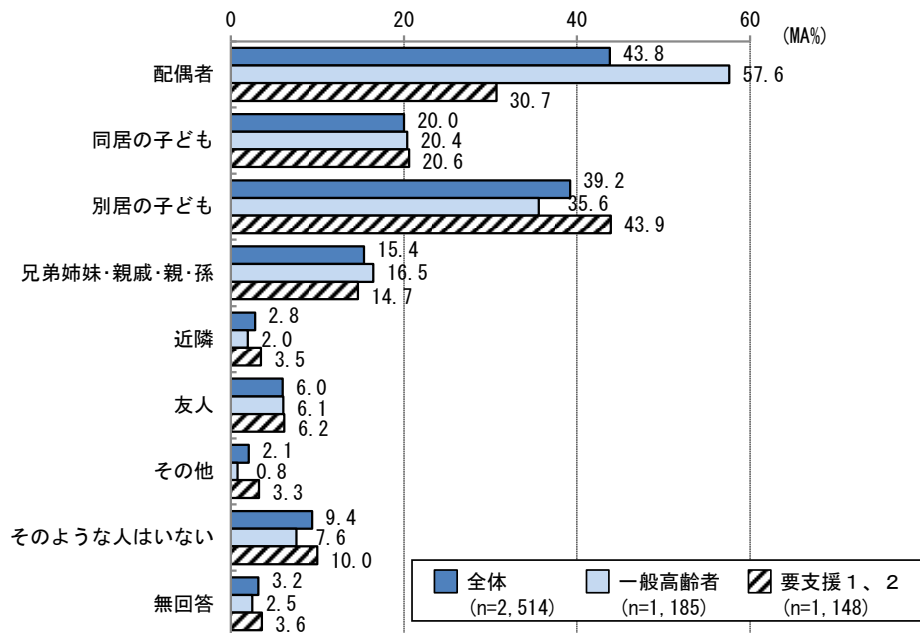
心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人は、一般高齢者では「配偶者」が51.9%と最も多く、要支援1、2では「別居の子ども」が42.8%と最も多くなっています。

問6-(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(〇はいくつでも)



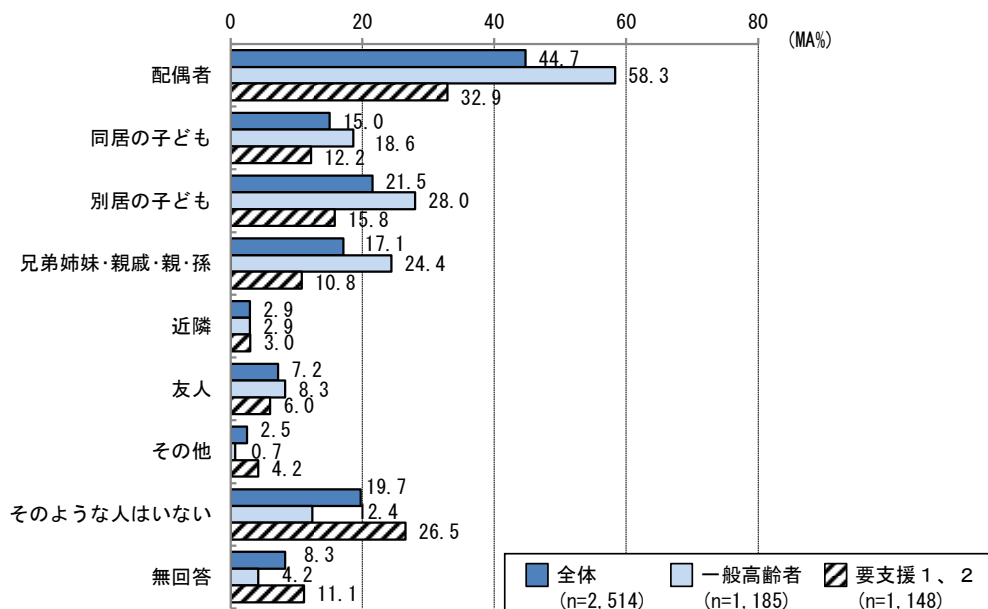
心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人は、一般高齢者では「配偶者」が47.7%と最も多く、要支援1、2では「友人」が36.1%と最も多くなっています。要支援1、2では「そのような人はいない」も1割(12.5%)ほどみられます。

問6-(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (〇はいくつでも)



看病や世話をしてくれる人は、一般高齢者では「配偶者」が57.6%と最も多く、要支援1、2では「別居の子ども」が43.9%と最も多くなっています。

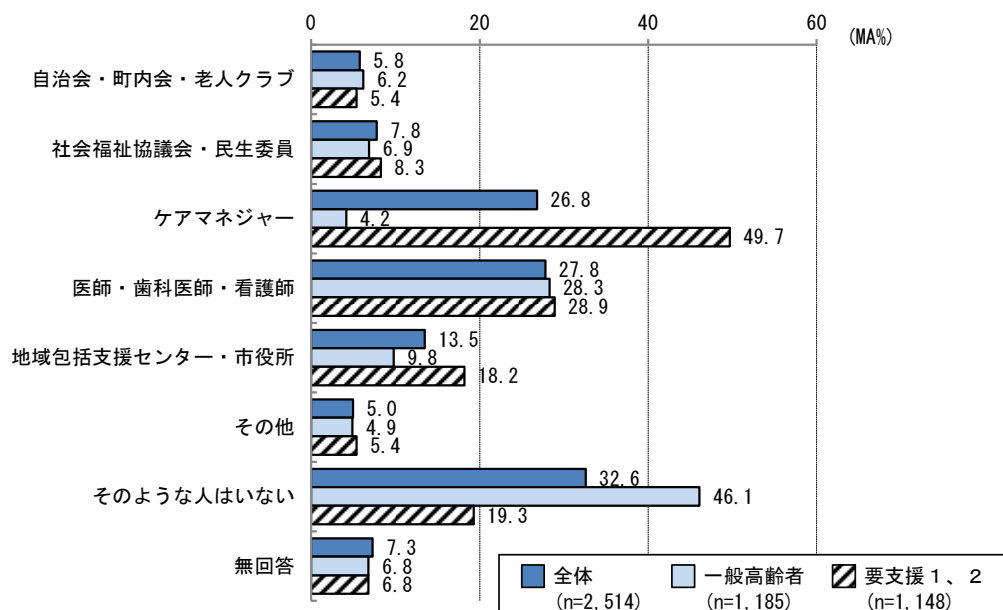
問6-(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人 (〇はいくつでも)



看病や世話をしてあげる人は、一般高齢者、要支援1、2ともに「配偶者」が最も多く、一般高齢者で58.3%、要支援1、2で32.9%となっています。また、要支援1、2では「そのような人はいない」が26.5%と多くなっています。

〔2〕 家族や友人・知人以外の相談先

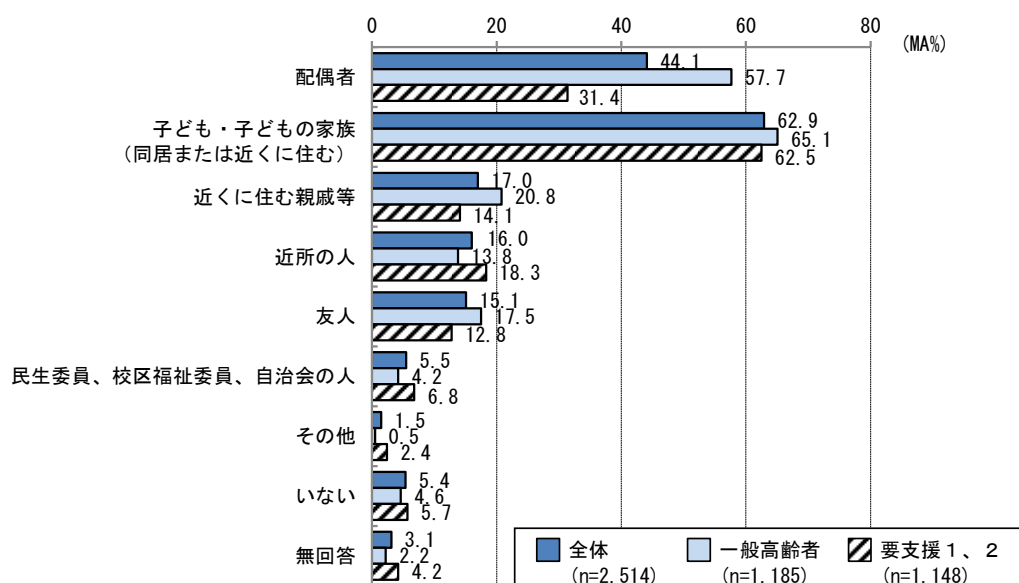
問6-(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（〇はいくつでも）



家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、一般高齢者では「そのような人はいない」が46.1%と多く、次いで、「医師・歯科医師・看護師」が28.3%となっています。要支援1、2では「ケアマネジャー」が49.7%と最も多く、次いで、「医師・歯科医師・看護師」が28.9%となっています。

〔3〕 緊急時に身近に頼ることのできる人がいるか

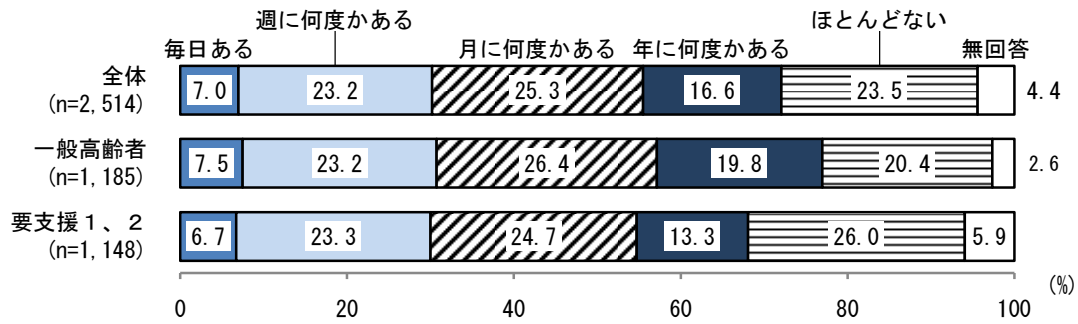
問6-(6) あなたは、緊急時等何かあったときに、身近に頼ることのできる人がいますか（〇はいくつでも）



緊急時等何かあったときに、身近に頼ることのできる人がいるかについては、一般高齢者、要支援1、2ともに「子ども・子どもの家族（同居または近くに住む）」が6割台で最も多くなっています。

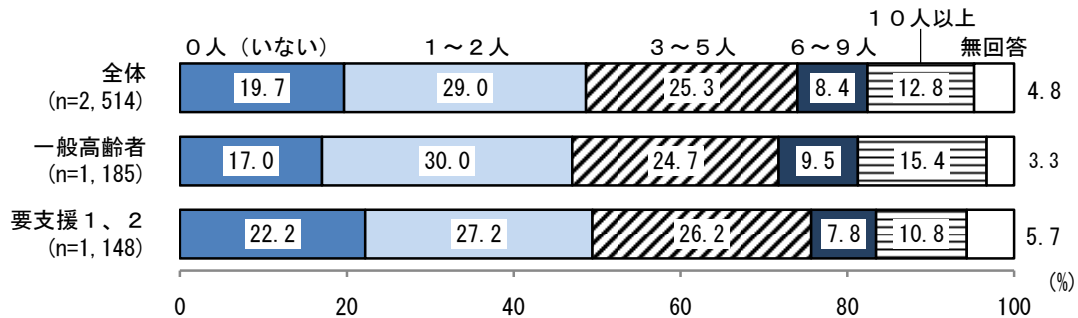
〔4〕交友関係

問6-(7) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか(1つに○)



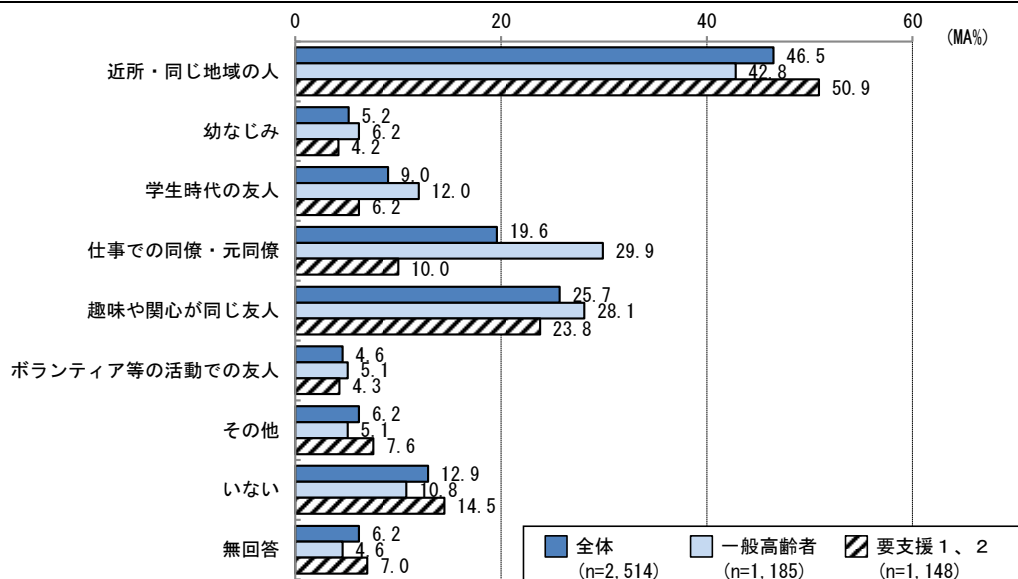
友人・知人と会う頻度については、一般高齢者では「月に何度かある」が26.4%、「週に何度かある」が23.2%と多くなっています。要支援1、2では「ほとんどない」が26.0%と多くなっています。

問6-(8) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか(1つに○)  
(同じ人には何度会っても1人と数えることとします)



この1か月間に会った友人・知人の数については、一般高齢者では「1~2人」が30.0%、「3~5人」が24.7%と多く、要支援1、2では「1~2人」が27.2%と多くなっています。

問6-(9) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか(○はいくつでも)

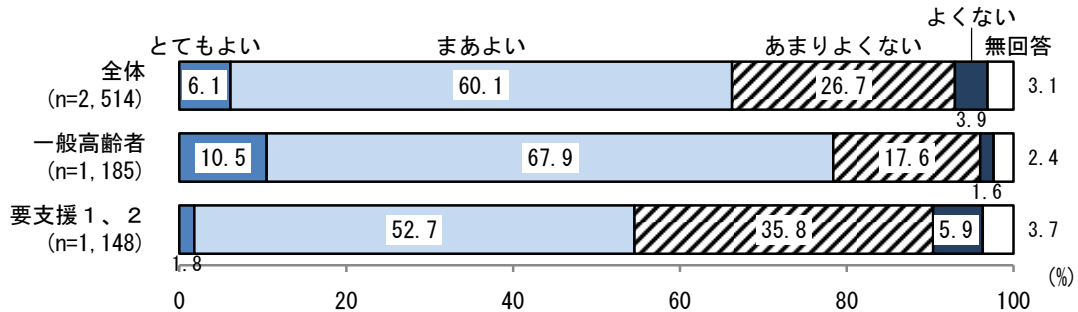


よく会う友人・知人との関係については、一般高齢者、要支援1、2ともに「近所・同じ地域の人」が4~5割と最も多くなっています。

## 8 健康・仕事について

### 〔1〕現在の健康状態

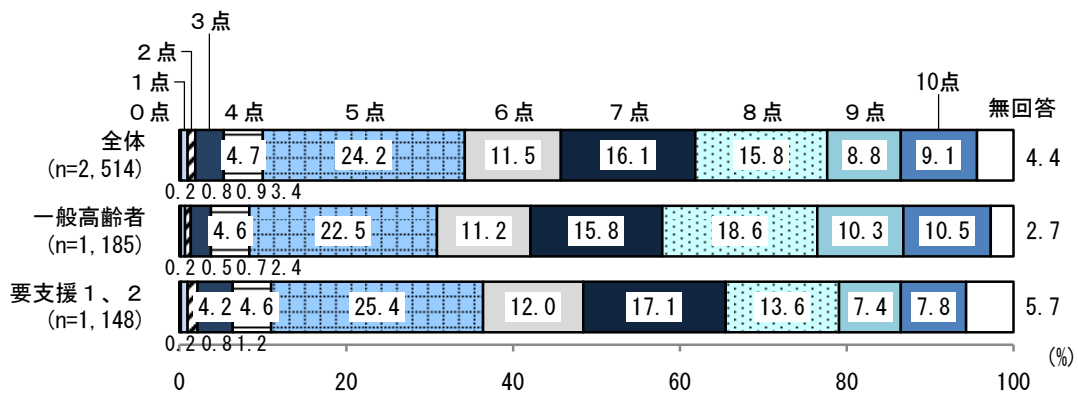
問7-(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)



現在の健康状態についてたずねたところ、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』は、一般高齢者で78.4%、要支援1、2で54.5%となっています。

### 〔2〕現在の幸せ度

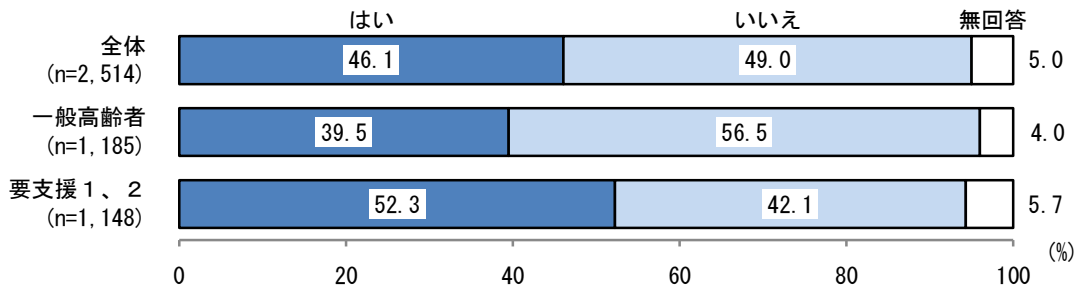
問7-(2) あなたは、現在どの程度幸せですか  
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、あてはまる点数を○で囲んでください)



現在の幸せ度を10点満点で評価してもらったところ、一般高齢者では「5点」が22.5%、「8点」が18.6%と多く、平均6.8点、要支援1、2では「5点」が25.4%と多く、平均6.4点となっています。

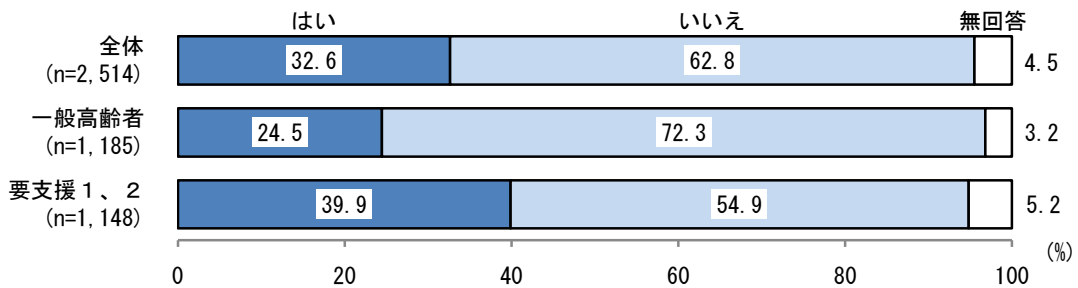
〔3〕この1か月の心の状況

問7-(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか(1つに○)



この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりしたかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で39.5%、要支援1、2で52.3%となっています。

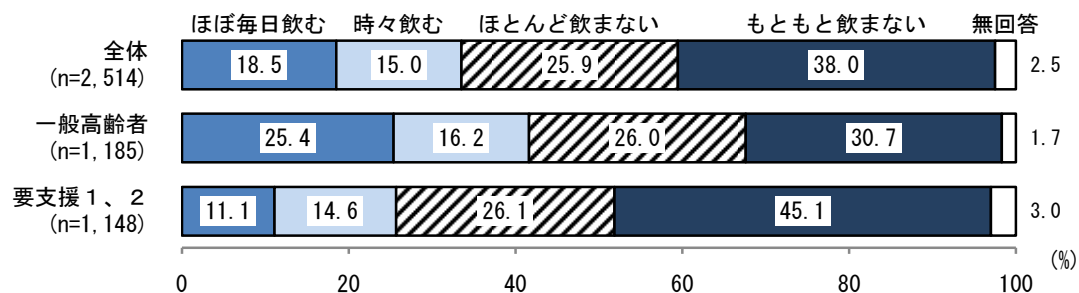
問7-(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか(1つに○)



この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で24.5%、要支援1、2で39.9%となっています。

〔4〕 飲酒状況

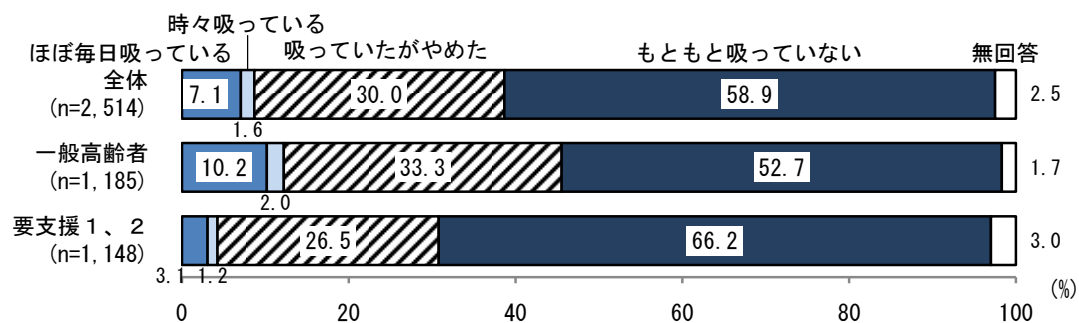
問7-(5) お酒は飲みますか(1つに○)



飲酒については、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲む』は一般高齢者で41.6%、要支援1、2で25.7%となっています。

〔5〕 喫煙状況

問7-(6) タバコは吸っていますか(1つに○)

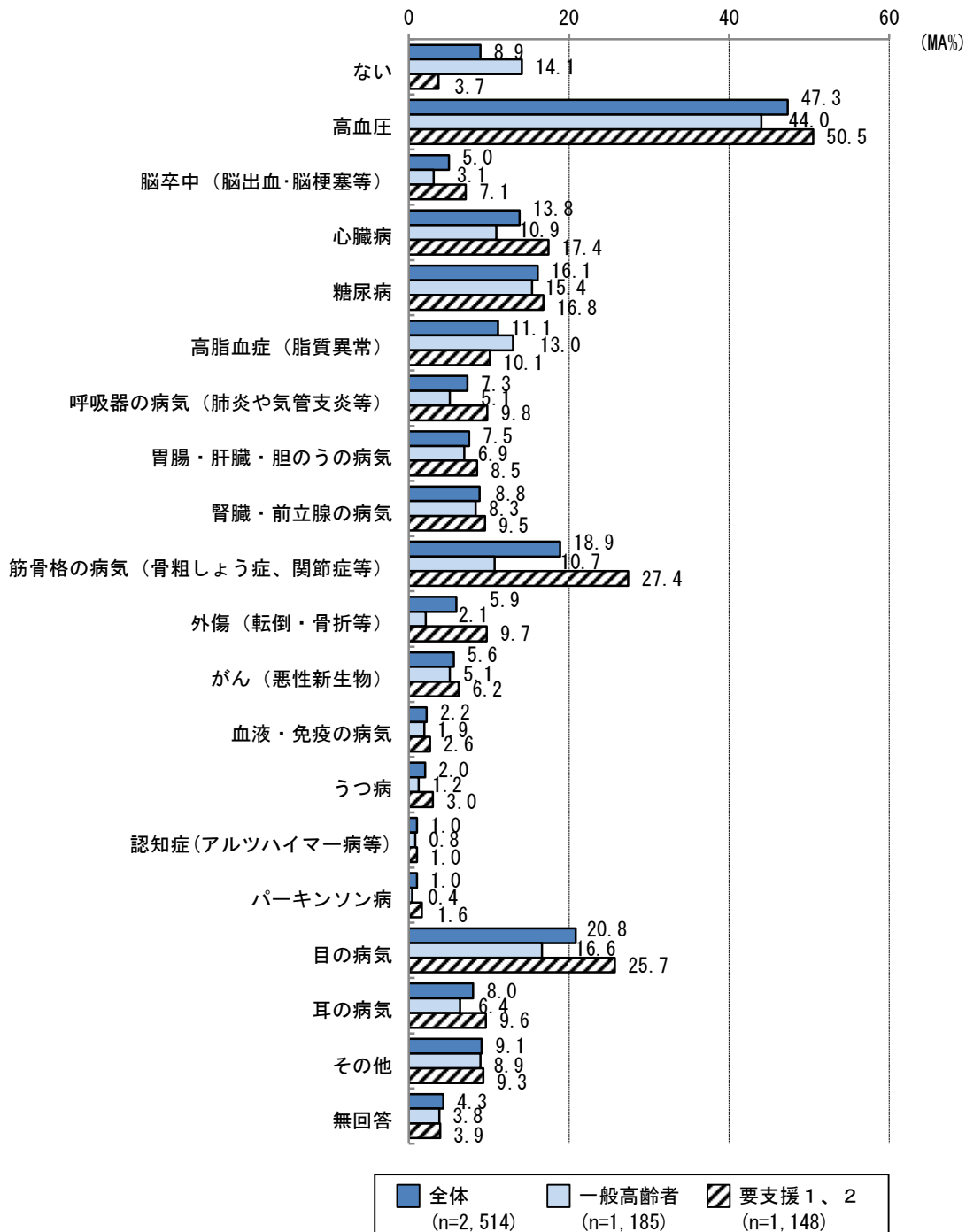


喫煙については、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』は一般高齢者で12.2%、要支援1、2で4.3%となっています。



〔6〕 現在治療中の病気等

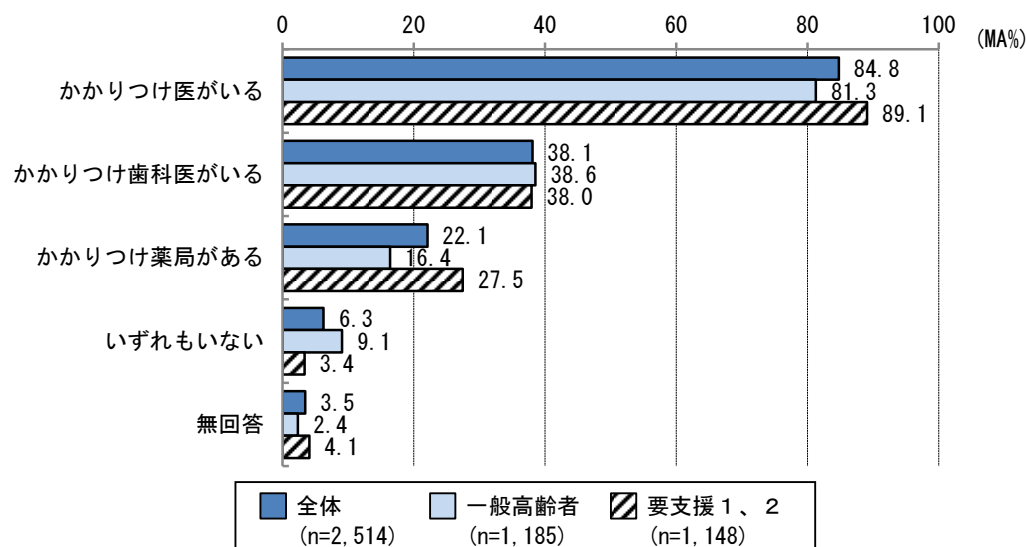
問7-(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(〇はいくつでも)



現在治療中、または後遺症のある病気については、一般高齢者、要支援1、2ともに「高血圧」が4～5割台で最も多く、次いで、一般高齢者では「目の病気」、要支援1、2では「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」となっています。

〔7〕 かかりつけ医の有無

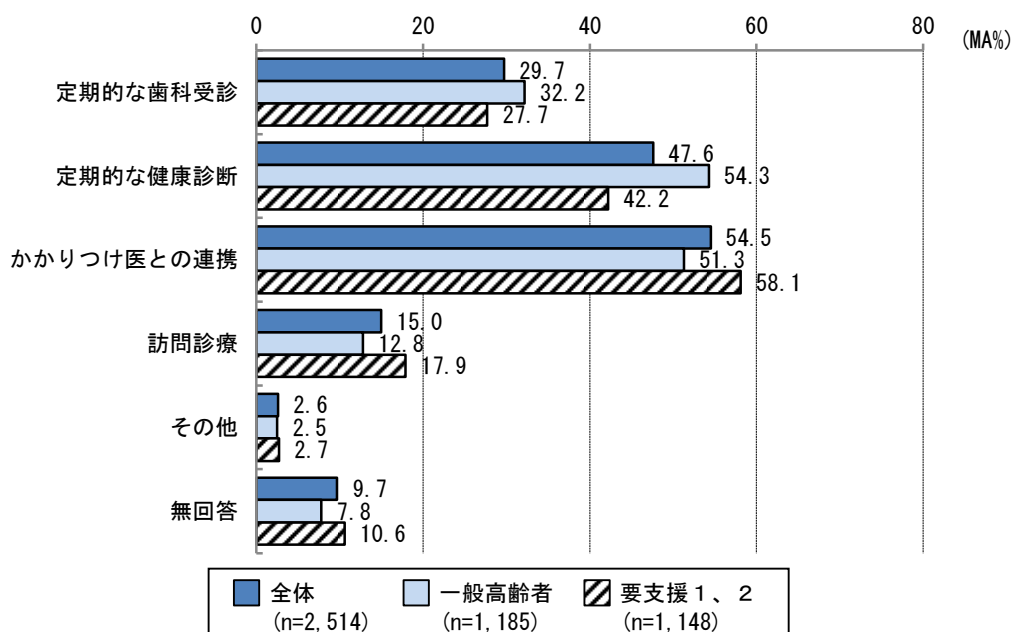
問7-(8) 健康や病気のことについて気軽に相談できる「かかりつけ医」等がありますか（〇はいくつでも）



「かかりつけ医」等の有無については、一般高齢者、要支援1、2ともに「かかりつけ医がいる」が8割台と多く、「かかりつけ歯科医がいる」は4割弱、「かかりつけ薬局がある」は一般高齢者で1割台、要支援1、2で2割台となっています。

〔8〕 在宅生活を続けるために必要な医療支援

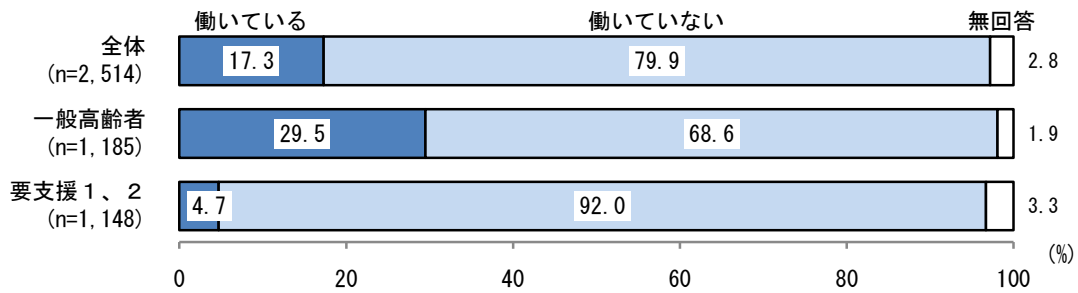
問7-(9) 自宅で暮らし続けるためには、医療においてどのような支援が必要ですか（〇はいくつでも）



自宅で暮らし続けるために必要な医療における支援については、一般高齢者では「定期的な健康診断」が54.3%と最も多く、要支援1、2では「かかりつけ医との連携」が58.1%と最も多くなっています。

〔9〕現在の就労状況

問7-(10) あなたは現在、働いていますか(1つに○)

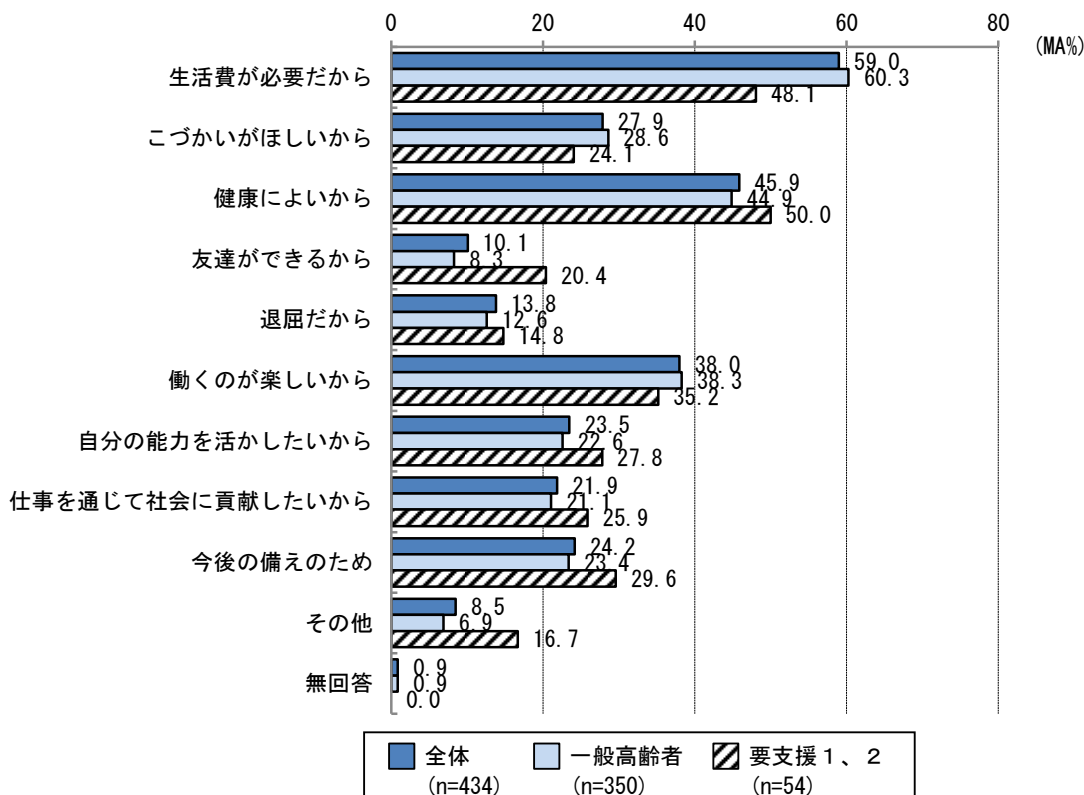


現在「働いている」と回答した人は一般高齢者で29.5%、要支援1、2では4.7%となっています。

〔10〕働いている理由

【問7-(10)で「1. 働いている」と回答された方のみ】

問7-(10)-1 働いている理由は何ですか(○はいくつでも)

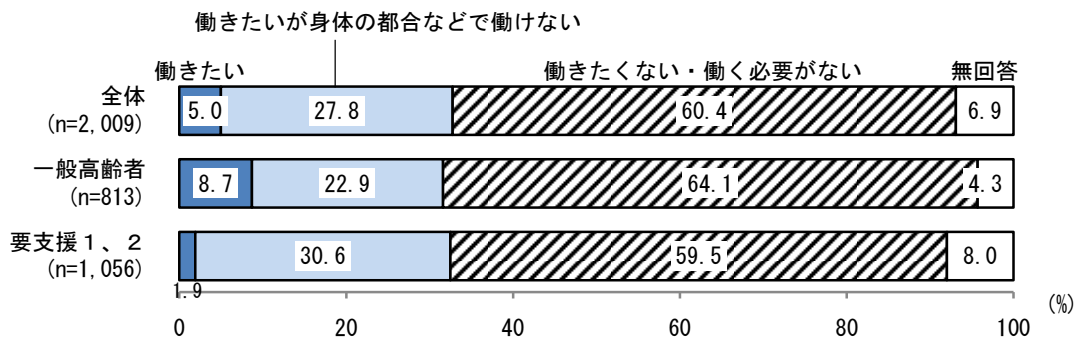


現在働いている人にその理由をたずねたところ、一般高齢者では「生活費が必要だから」が60.3%と最も多く、要支援1、2では「健康によいから」が50.0%と最も多くなっています。

〔11〕 就労に対する希望

【問 7-(10) で「2. 働いていない」と回答された方のみ】

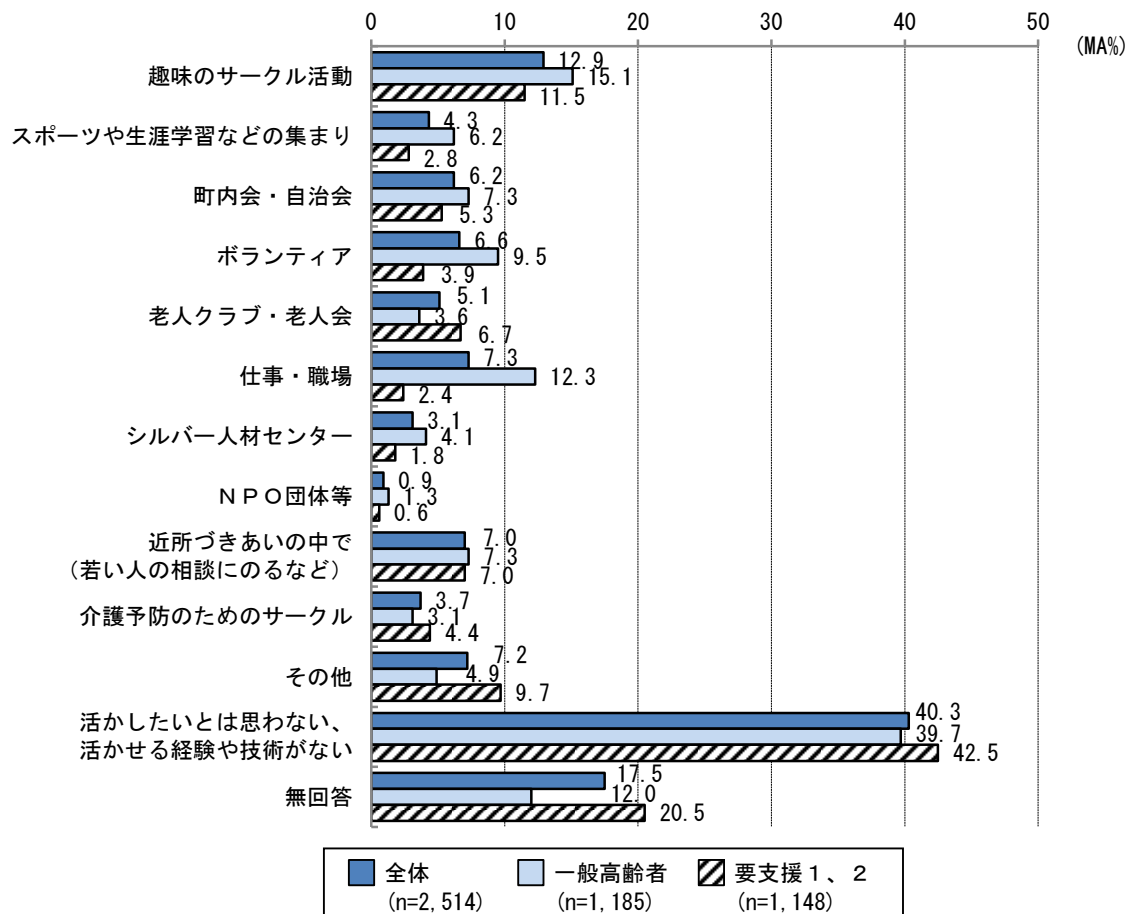
問 7-(10) - 2 今後、働きたいと思えますか（1つに○）



現在働いていない人に就労に対する希望をたずねたところ、一般高齢者、要支援1、2ともに「働きたくない・働く必要がない」が5～6割台で最も多く、「働きたい」は一般高齢者で8.7%となっています。

〔12〕 経験や技術を活かせる場

問7-(11) あなたは、これまでの生活（仕事、地域活動、家事・育児等）の中で身につけた経験や技術を、これから活かしていきたいと思いませんか。どのような場で活かすことができると思いませんか（〇はいくつでも）

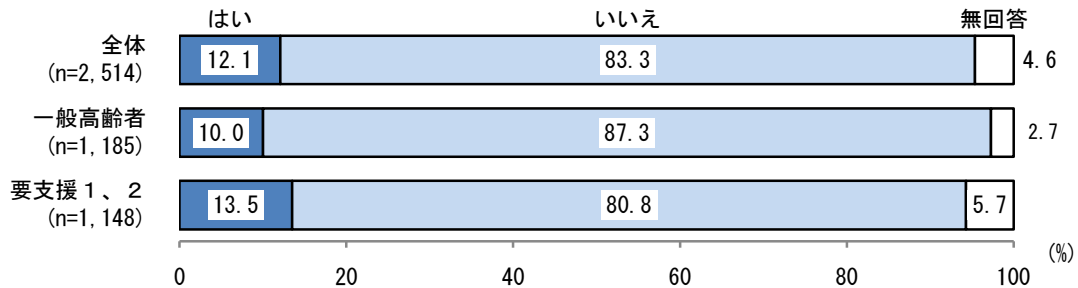


これまでの生活の中で身につけた経験や技術をどのような場で活かすことができるかについては、一般高齢者では「趣味のサークル活動」が15.1%と最も多く、次いで、「仕事・職場」が12.3%となっています。要支援1、2では「趣味のサークル活動」が11.5%で最も多く、他は1割未満となっています。一方で、「活かしたいとは思わない、活かせる経験や技術がない」は一般高齢者、要支援1、2ともに4割前後となっています。

## 9 認知症対策について

### 〔1〕自身や家族の認知症の症状の有無

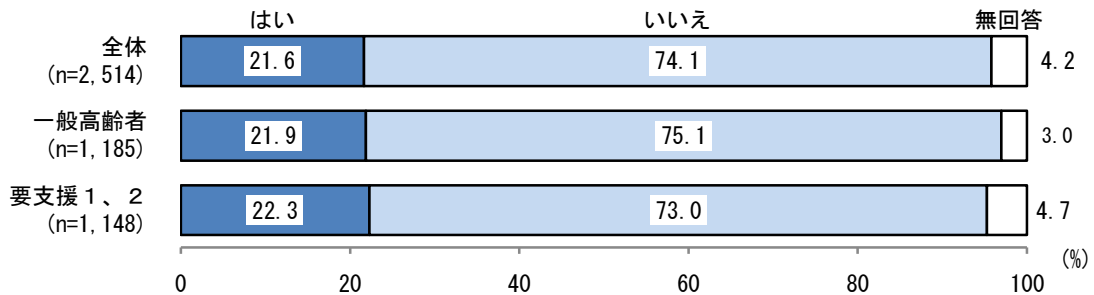
問 8 - ( 1 ) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか ( 1 つに〇 )



自身や家族に認知症の症状があるかについて、「はい」と回答した人は一般高齢者で 10.0%、要支援 1、2 で 13.5%となっています。

### 〔2〕認知症に関する相談窓口の認知度

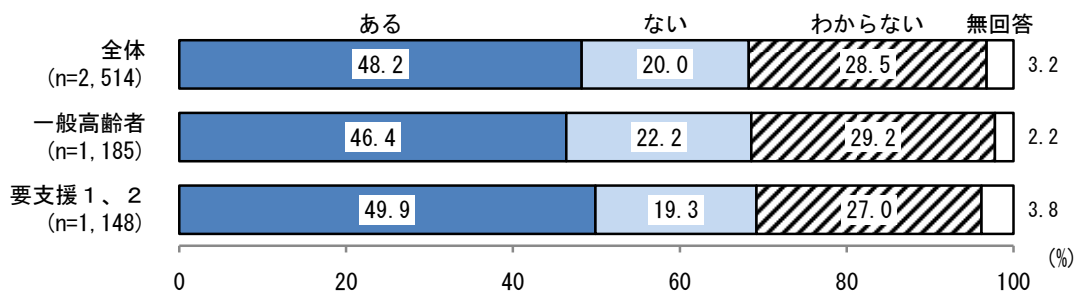
問 8 - ( 2 ) 認知症に関する相談窓口を知っていますか ( 1 つに〇 )



認知症に関する相談窓口の認知について、「はい」(知っている)と回答した人は一般高齢者で 21.9%、要支援 1、2 で 22.3%となっています。

### 〔3〕認知症に対する不安

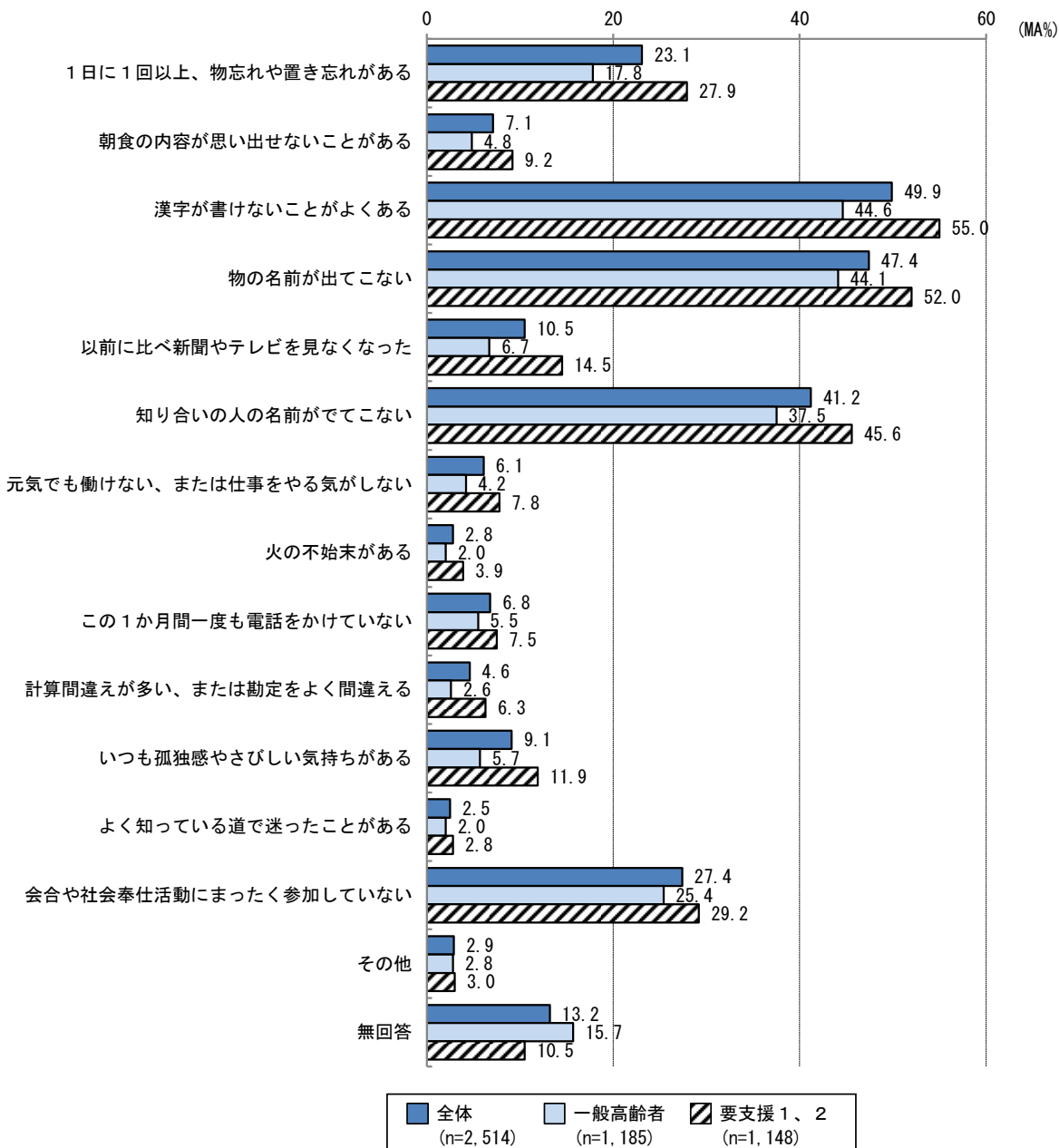
問 8 - ( 3 ) あなたは認知症に対する不安がありますか ( 1 つに〇 )



認知症に対する不安があるかについて、「ある」と回答した人は一般高齢者で 46.4%、要支援 1、2 で 49.9%となっています。

〔4〕 認知機能の低下についての自覚症状

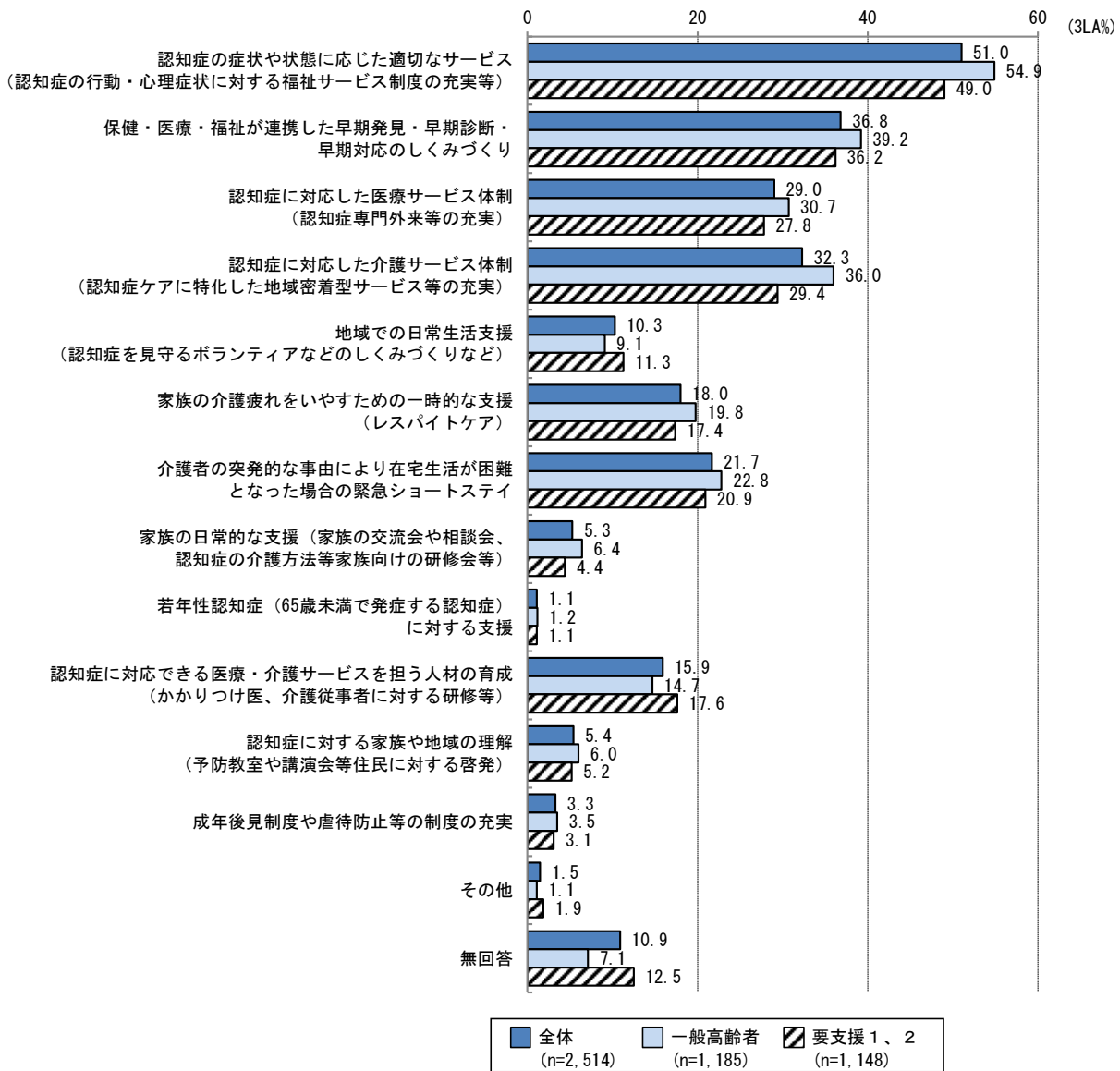
問8-(4) 最近、以下のような症状や状態を感じることがありますか  
(〇はいくつでも)



認知機能の低下について最近感じる症状は、一般高齢者、要支援1、2ともに「漢字が書けないことがよくある」が4～5割台と最も多く、次いで、「物の名前が出てこない」、「知り合いの人の名前がでてこない」となっており、いずれも要支援1、2で多くなっています。

〔5〕 認知症になった場合、安心して生活するために重点をおくべきこと

問8-(5) あなたご自身や家族が認知症になった場合、安心して生活していくためにはどのようなことに重点をおくべきだと思いますか (3つまでに○)



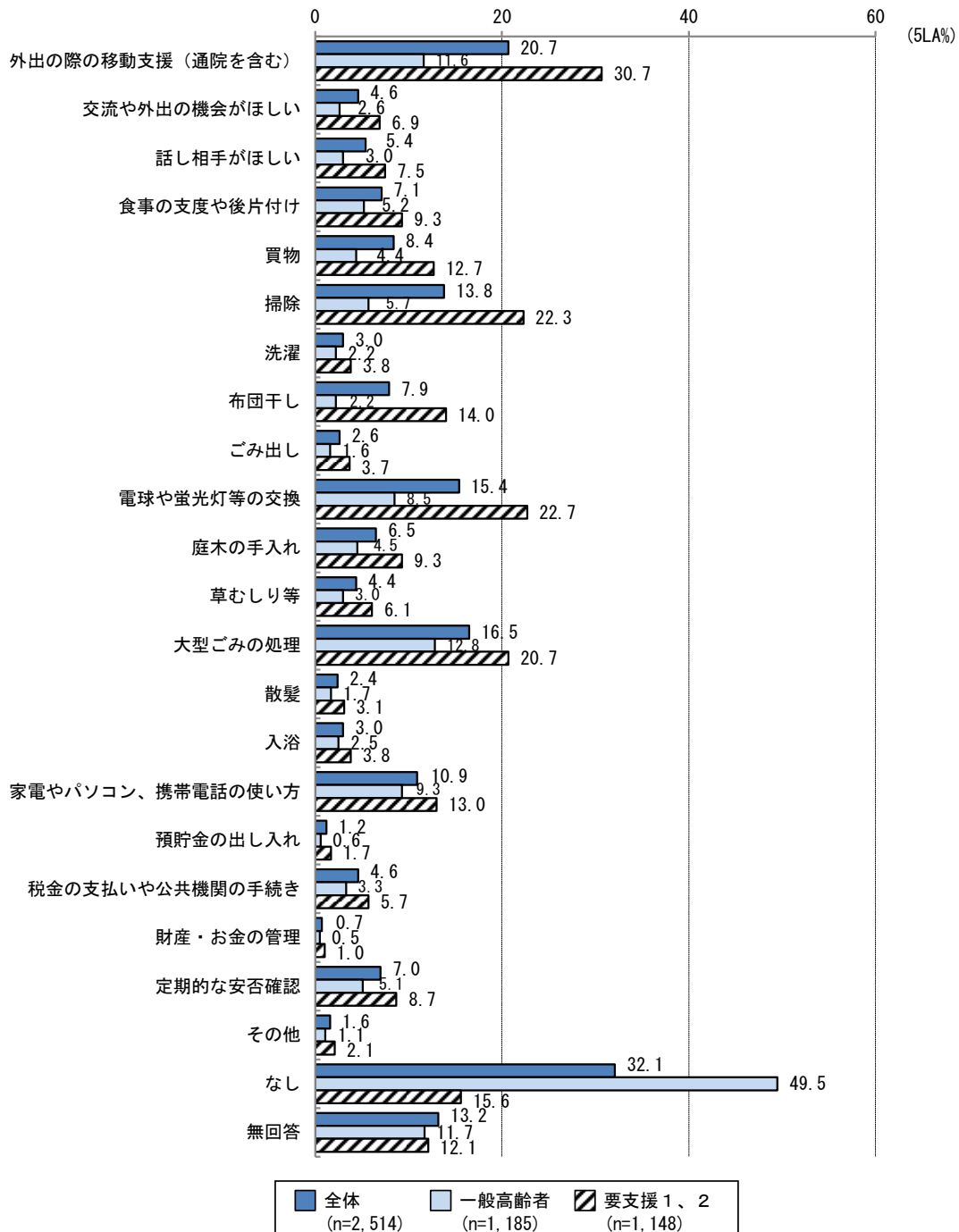
認知症になった場合、安心して生活していくために重点をおくべきことについては、一般高齢者、要支援1、2ともに「認知症の症状や状態に応じた適切なサービス（認知症の行動・心理症状(外出中道に迷う等)に対する福祉サービス制度の充実等)」が4～5割で最も多く、次いで、「保健・医療・福祉が連携した早期発見・早期診断・早期対応のしくみづくり」となっています。



## 10 必要となる支援や介護保険サービスについて

### 〔1〕 日常生活の中で、手助けしてほしいこと

問9-(1) 現在、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか  
(5つまでに○)

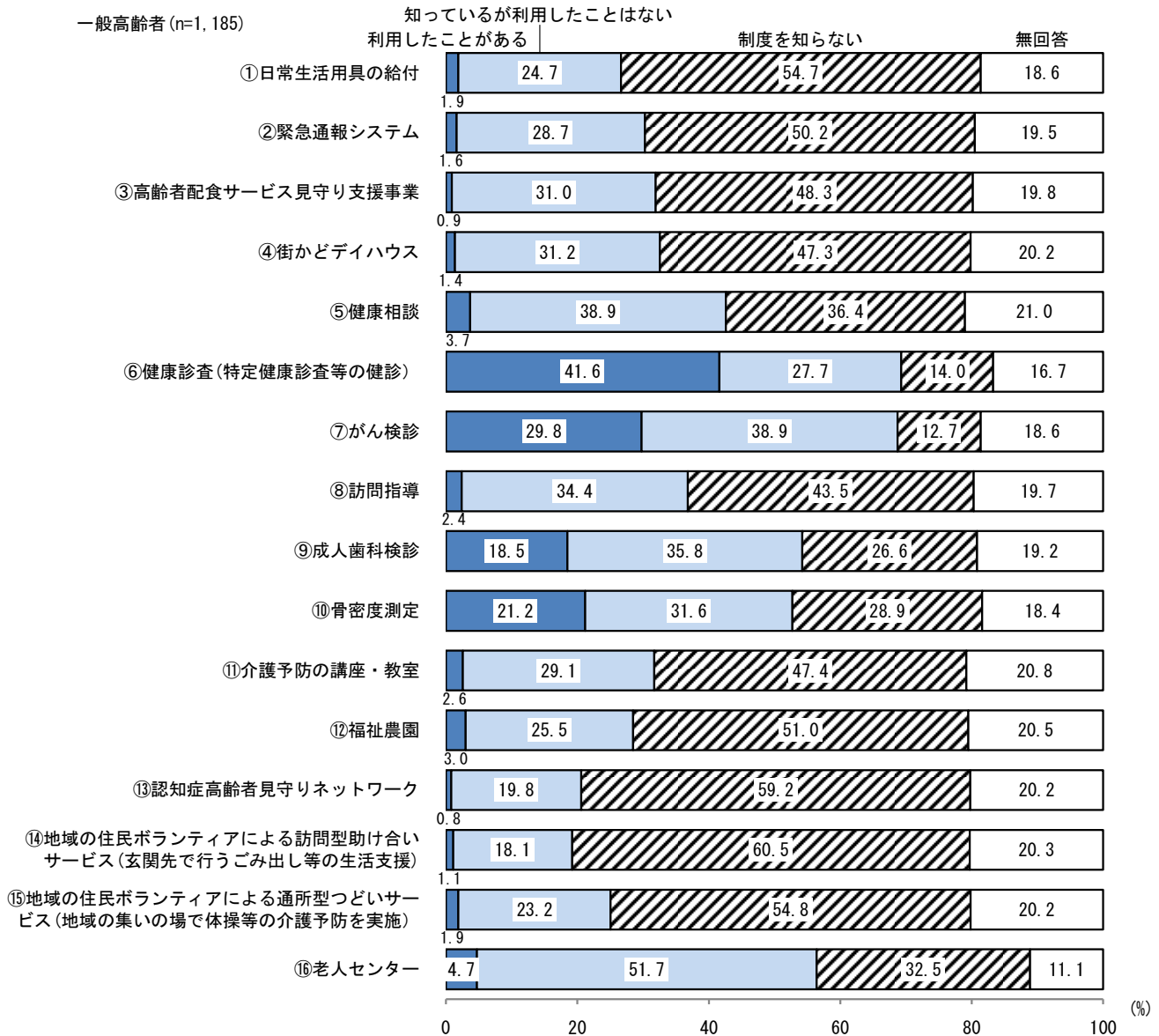


日常生活の中で手助けしてほしいことは、一般高齢者では「大型ごみの処理」(12.8%)、「外出の際の移動支援 (通院を含む)」(11.6%) などが多く、要支援1、2では「外出の際の移動支援 (通院を含む)」(30.7%)、「電球や蛍光灯の交換」(22.7%)、「掃除」(22.3%)、「大型ごみの処理」(20.7%) などが多くなっています。

〔2〕サービスの利用状況と今後の利用意向

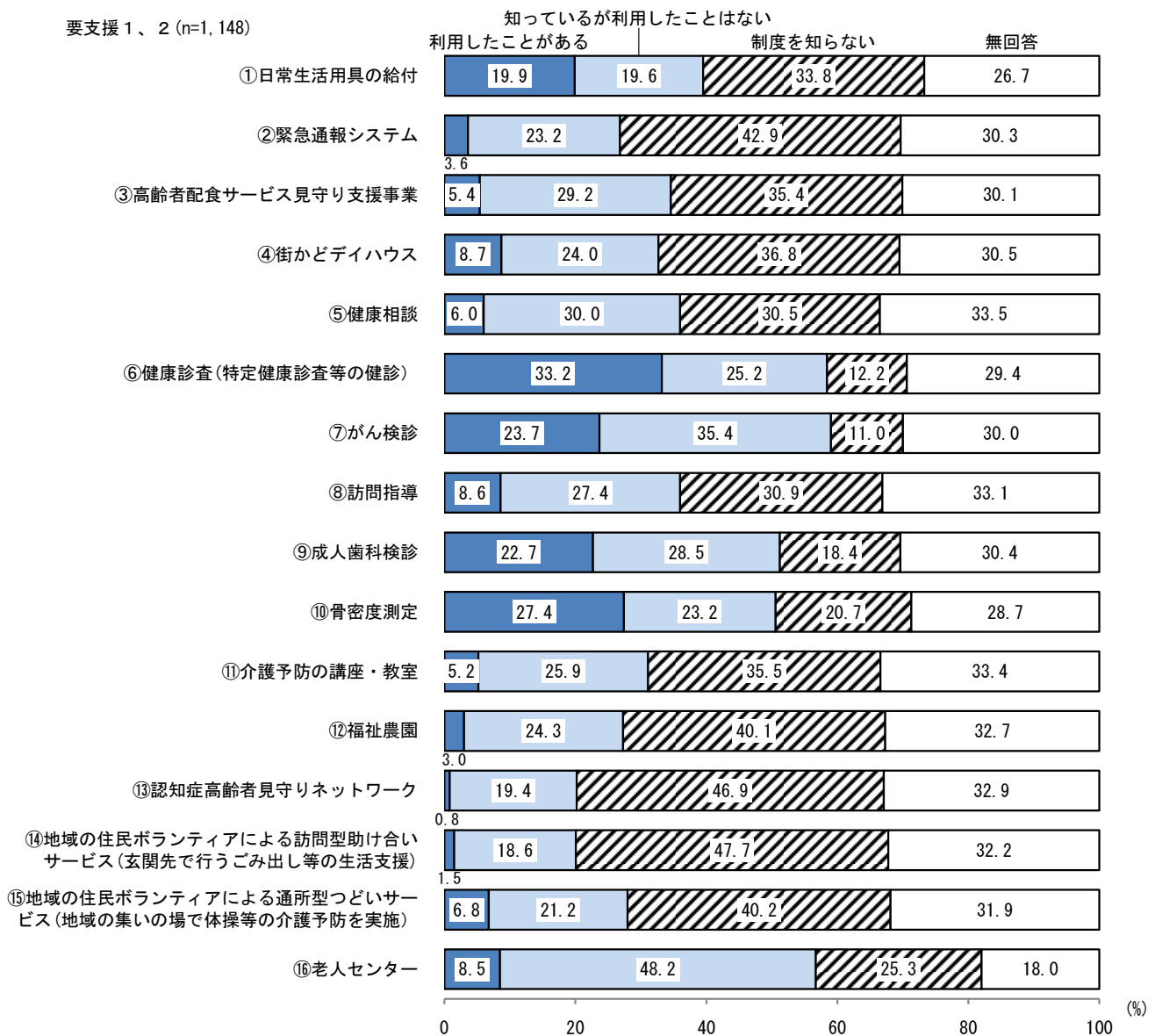
問9-(2) 以下のサービスのそれぞれについて、現在の状況や今後の利用意向をおたずねします。各項目について、1. 2. 3. 及びA. B. C. のそれぞれ1つに○をつけてください

【サービス利用状況 一般高齢者】



サービスの利用状況についてみると、一般高齢者で「利用したことがある」は、「⑥健康診査（特定健康診査等の健診）」が41.6%と最も多く、次いで、「⑦がん検診」が29.8%となっています。一方で、「⑭地域の住民ボランティアによる訪問型助け合いサービス(玄関先で行うごみ出し等の生活支援)」では「制度を知らない」が6割と多くなっています。

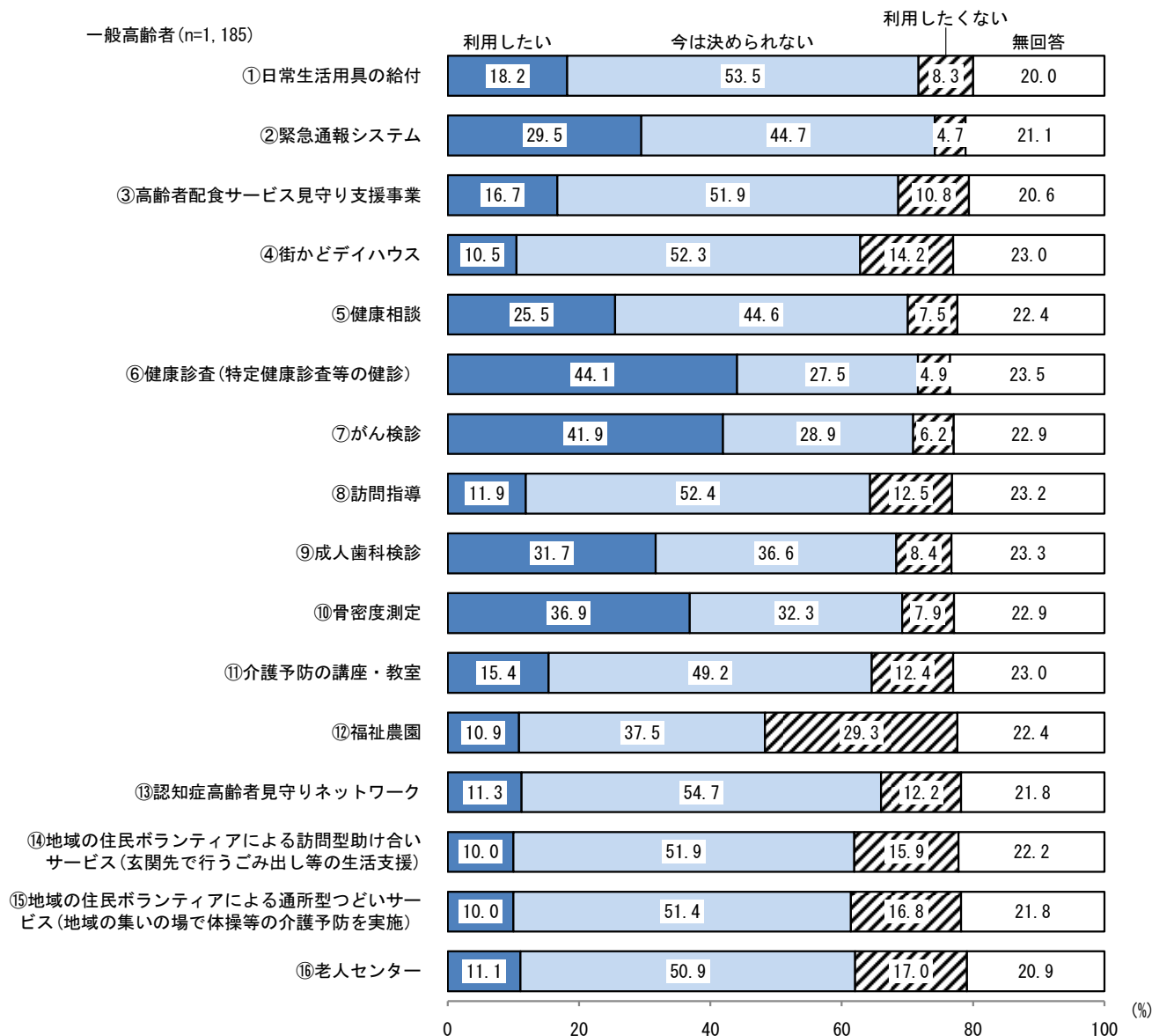
【サービス利用状況 要支援1、2】



要支援1、2で「利用したことがある」は、「⑥健康診査(特定健康診査等の健診)」が33.2%と最も多く、次いで、「⑩骨密度測定」が27.4%、「⑦がん検診」が23.7%となっています。一方で、「②緊急通報システム」、「⑫福祉農園」、「⑬認知症高齢者見守りネットワーク」、「⑭地域の住民ボランティアによる訪問型助け合いサービス(玄関先で行うごみ出し等の生活支援)」、「⑮地域の住民ボランティアによる通所型つどいサービス(地域の集いの場で体操等の介護予防を実施)」では「制度を知らない」が4割台と多くなっています。

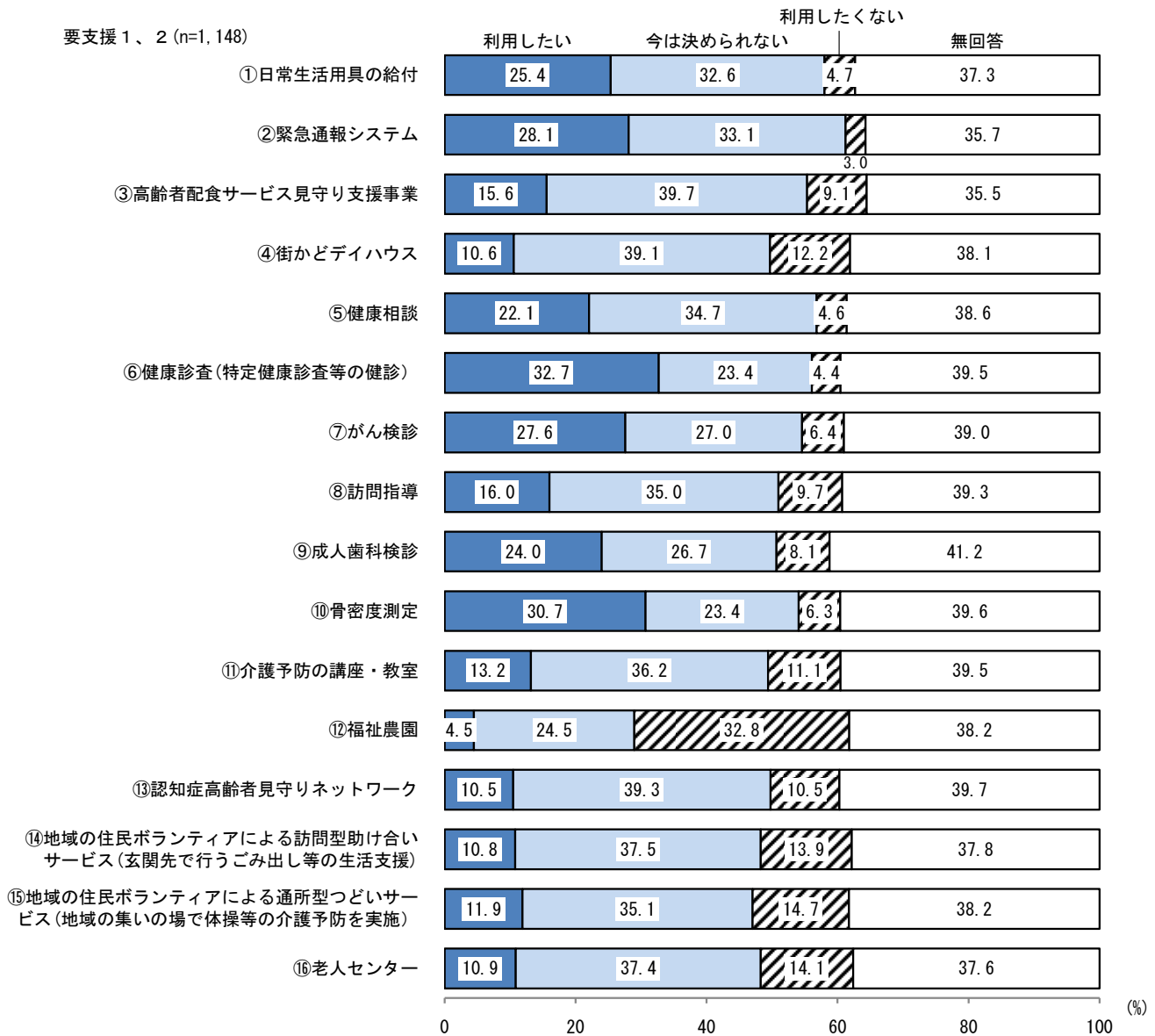
## II-1 一般高齢者アンケート

【今後の利用意向 一般高齢者】



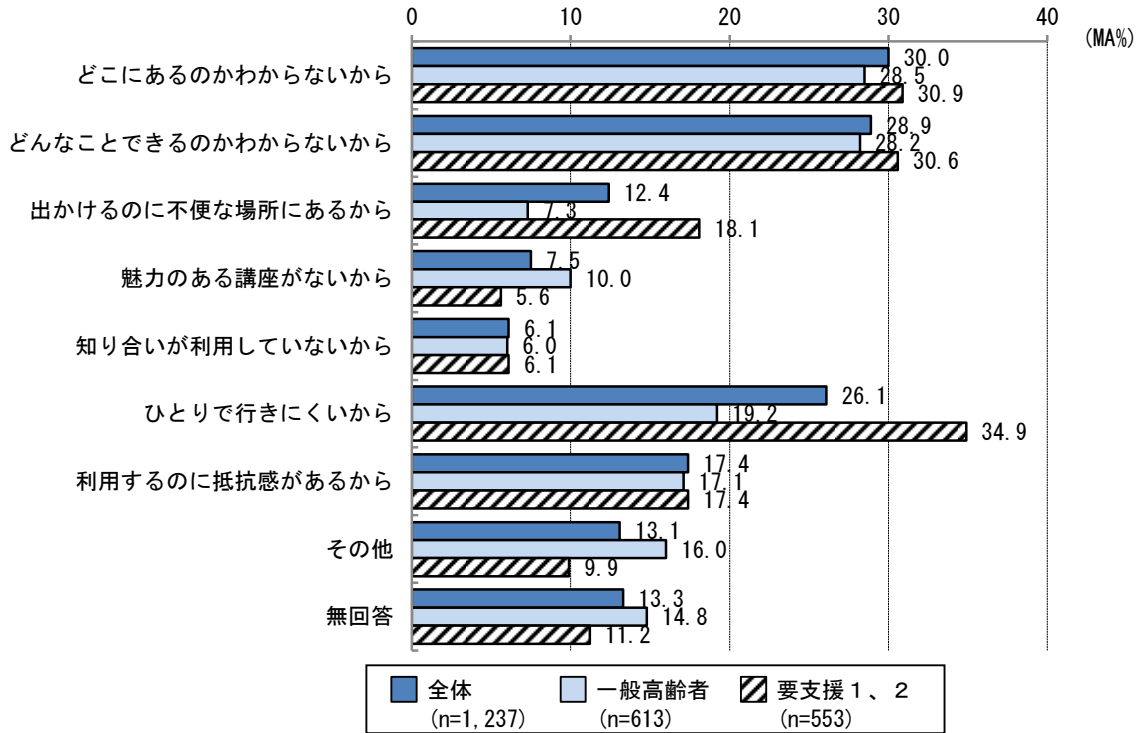
今後の利用意向についてみると、一般高齢者で「利用したい」は、「⑥健康診査（特定健康診査等の健診）」が 44.1%と最も多く、次いで、「⑦がん検診」が 41.9%、「⑩骨密度測定」が 36.9%となっています。一方で、「⑫福祉農園」では「利用したくない」が 29.3%と、他のサービスに比べ多くなっています。

【今後の利用意向 要支援1、2】



要支援1、2で「利用したい」は、「⑥健康診査(特定健康診査等の健診)」が32.7%と最も多く、次いで、「⑩骨密度測定」が30.7%となっています。一方で、「⑫福祉農園」では「利用したくない」が32.8%と、他のサービスに比べ多くなっています。

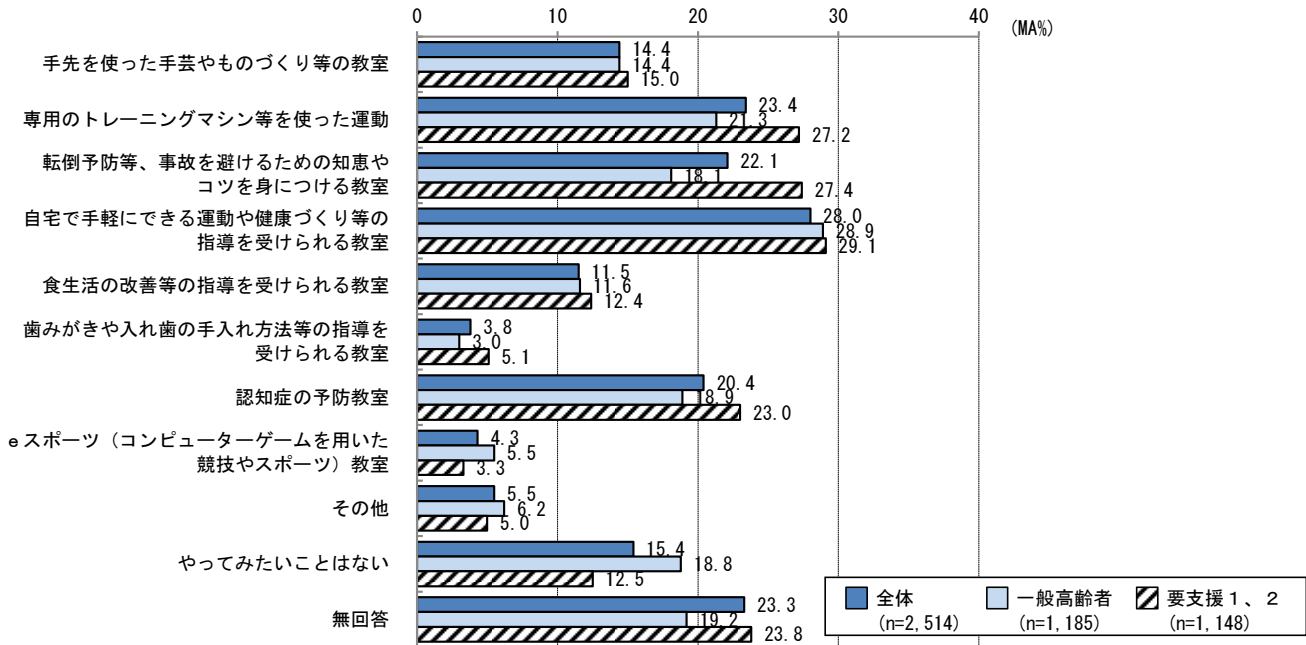
『⑩老人センター』のこれまでの利用状況で「2.知っているが利用したことはない」と回答された方のみ  
 問9-(2)-1 老人センターを利用したことがない理由は何ですか  
 (〇はいくつでも)



『⑩老人センター』を「知っているが利用したことはない」人に、その理由をたずねたところ、一般高齢者では「どこにあるのかわからないから」が28.5%と最も多く、次いで、「どんなことできるのかわからないから」が28.2%となっています。要支援1、2では「ひとりで行きにくいから」が34.9%と最も多く、次いで、「どこにあるのかわからないから」が30.9%となっています。

〔3〕 介護予防の取り組みへの参加意向

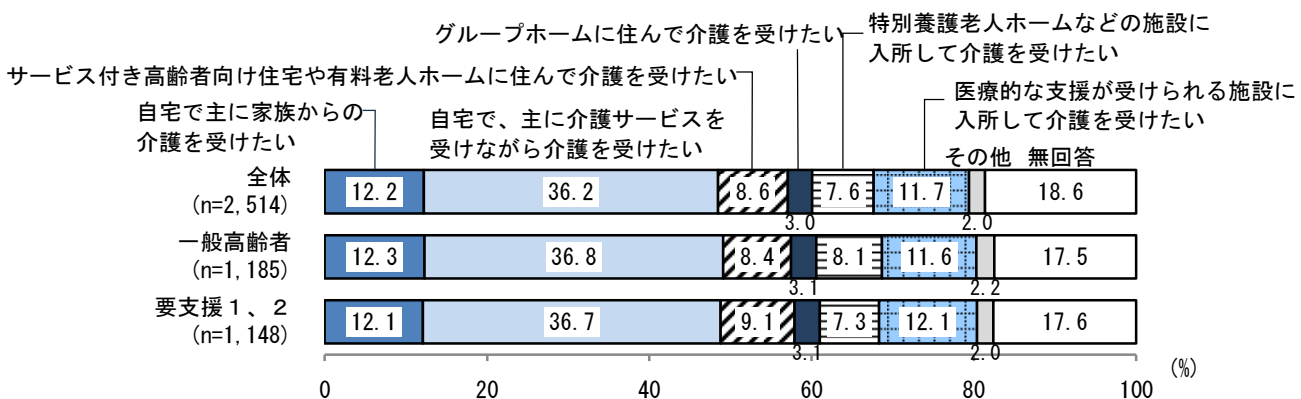
問9-(3) あなたは、要介護にならないための運動や健康づくりの取り組みを、やってみたいと思いますか（現在やっており、続けるつもりのもも含めてお答えください）（〇はいくつでも）



要介護にならないための運動や健康づくりの取り組みへの参加意向は、一般高齢者、要支援1、2ともに「自宅で手軽にできる運動や健康づくり等の指導を受けられる教室」が3割弱で最も多く、次いで、要支援1、2では「転倒予防等、事故を避けるための知恵やコツを身につける教室」、「専用のトレーニングマシン等を使った運動」も多くなっています。

〔4〕 介護が必要になった場合の対処

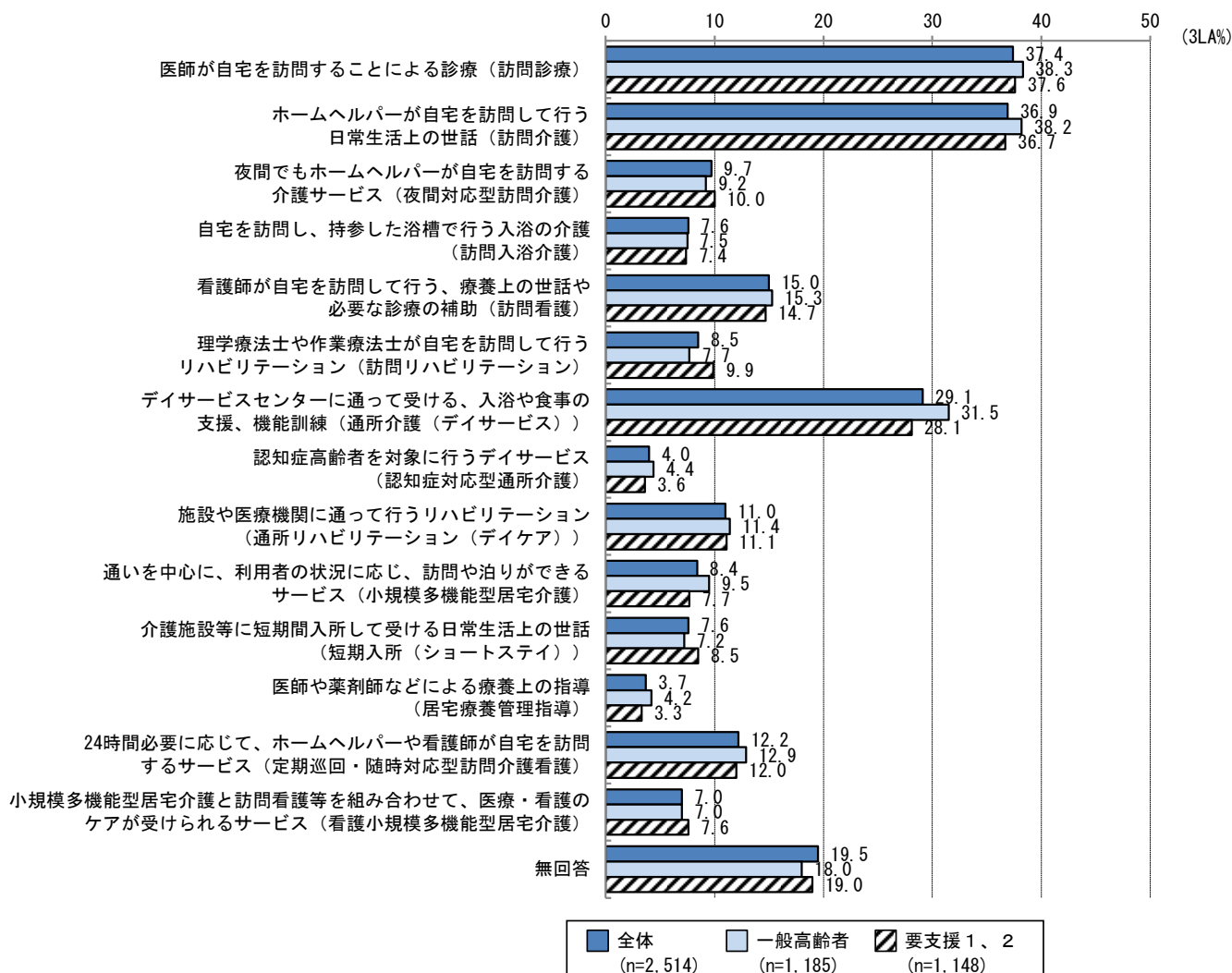
問9-(4) あなたご自身に介護が必要になった場合、どのようにしたいと思いますか（1つに〇）



介護が必要になった場合、どのようにしたいかについては、一般高齢者、要支援1、2ともに「自宅で、主に介護サービスを受けながら介護を受けたい」が3割台で最も多くなっています。

〔5〕 要介護状態になった場合に利用したい在宅サービス

問9-(5) 要介護状態になった場合に利用したい在宅サービスは何ですか (3つまでに○)

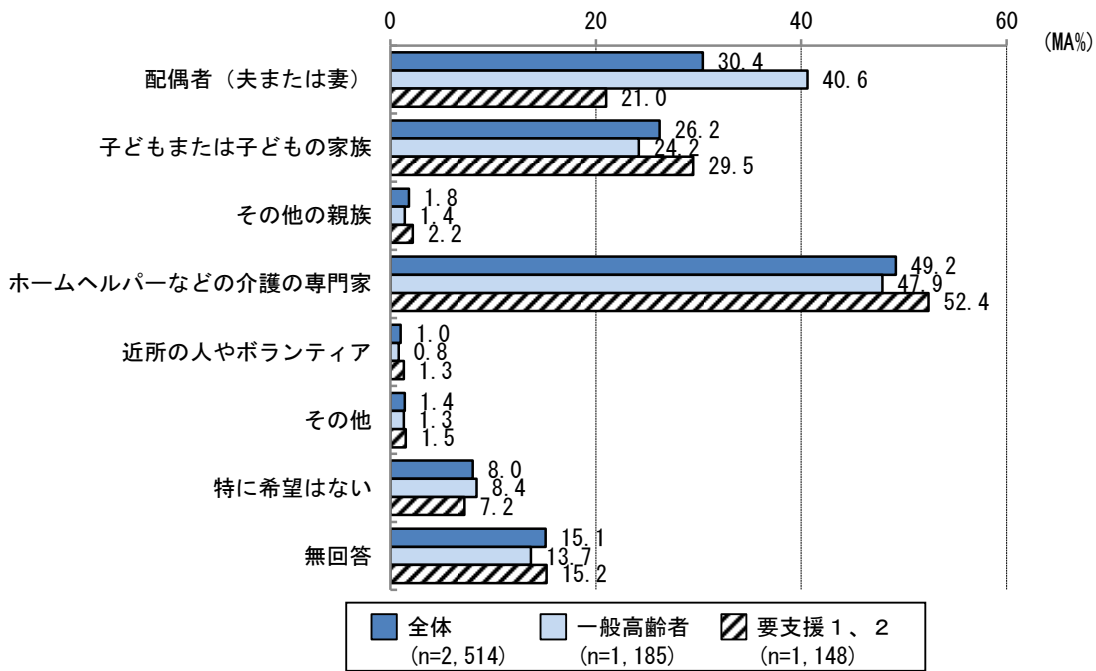


要介護状態になった場合に利用したい在宅サービスについては、一般高齢者、要支援1、2ともに「医師が自宅を訪問することによる診療 (訪問診療)」が3割台で最も多く、次いで、「ホームヘルパーが自宅を訪問して行う日常生活上の世話 (訪問介護)」、「デイサービスセンターに通って受ける、入浴や食事の支援、機能訓練 (通所介護 (デイサービス))」となっています。



〔6〕 誰の介護を受けたいか

問9-(6) 自宅で介護を受けられる場合、誰に介護されることを希望しますか  
(○はいくつでも)

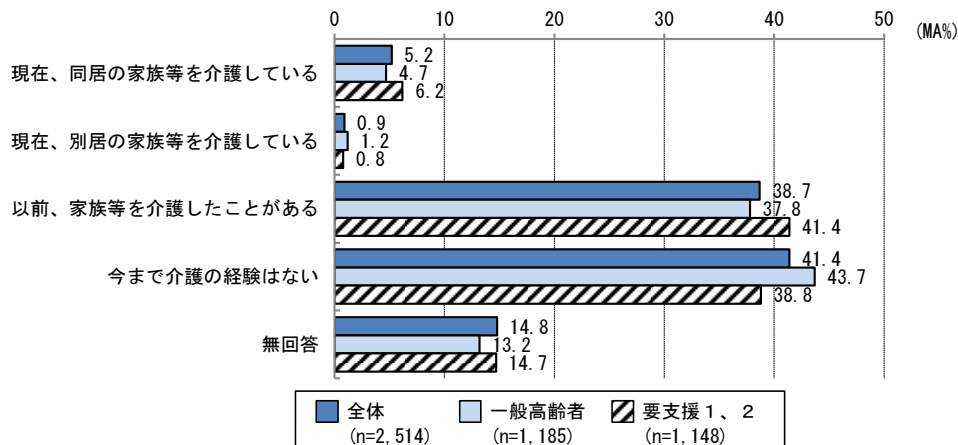


自宅で介護を受ける場合、誰に介護されることを希望するかについては、一般高齢者では「ホームヘルパーなどの介護の専門家」と「配偶者（夫または妻）」がともに4割台で多く、要支援1、2では「ホームヘルパーなどの介護の専門家」が52.4%と最も多く、次いで、「子どもまたは子どもの家族」が29.5%となっています。

# 11 情報・相談について

## 〔1〕介護をした経験

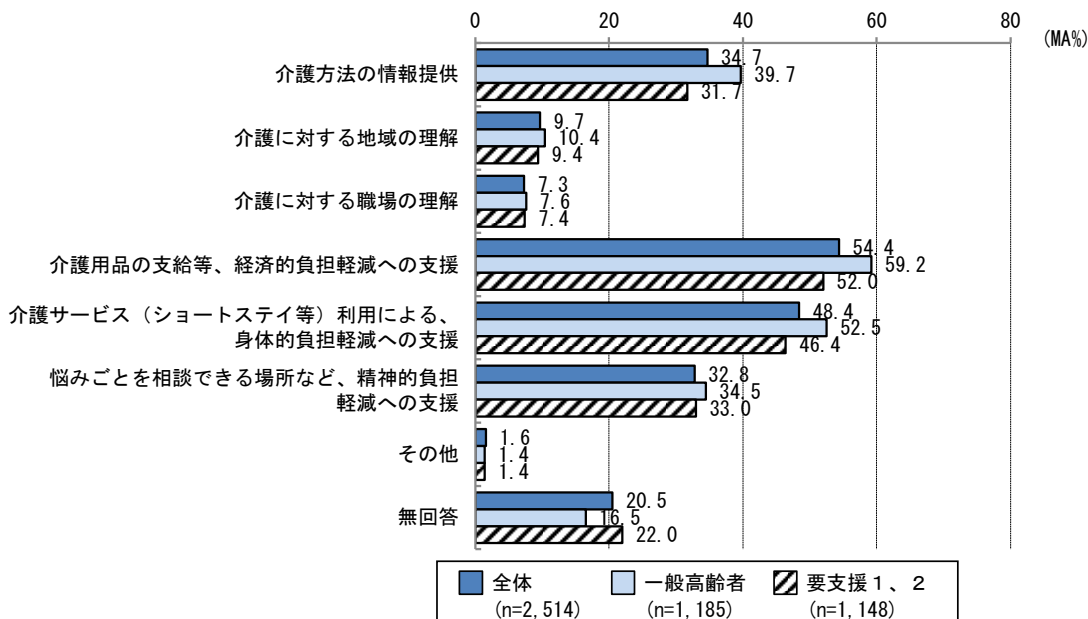
問10-（1） あなたは、家族等の介護をした経験がありますか（〇はいくつでも）



家族等の介護をした経験については、一般高齢者では「今まで介護の経験はない」が43.7%と最も多く、要支援1、2では「以前、家族等を介護したことがある」が41.4%と最も多くなっています。

## 〔2〕在宅で介護をする家族に必要な支援や理解

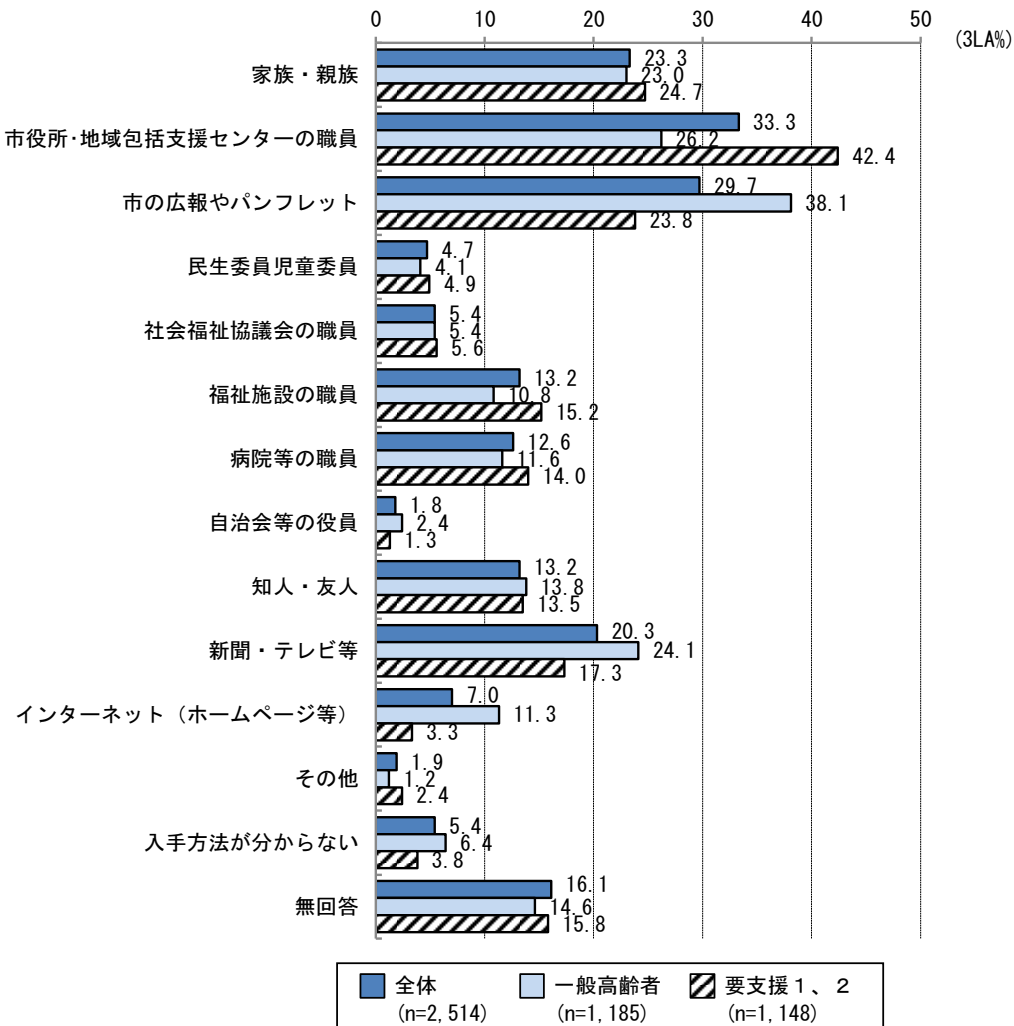
問10-（2） 在宅で介護をする家族には、どのような支援や理解が必要だと思いますか（〇はいくつでも）  
（これまで介護の経験がない方は、想像で構いません）



在宅で介護をする家族に必要な支援や理解については、一般高齢者、要支援1、2ともに、「介護用品の支給等、経済的負担軽減への支援」が5割台で最も多く、次いで、「介護サービス（ショートステイ等）利用による、身体的負担軽減への支援」となっています。

〔3〕健康に関する情報をどこから入手したいか

問10-(3) 介護保険や高齢者福祉サービス、健康に関する情報をどこから入手していますか。または、入手したいと思いませんか。(3つまでに○)

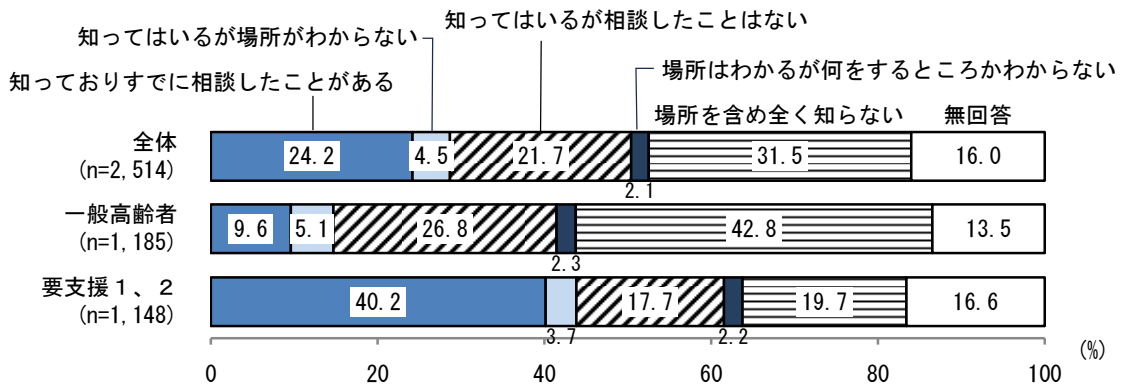


※「入手方法がわからない」については、他の項目との重複はない

介護保険や高齢者福祉サービス、健康に関する情報をどこから入手したいかについては、一般高齢者では「市の広報やパンフレット」が38.1%と最も多く、要支援1、2では「市役所・地域包括支援センターの職員」が42.4%と最も多くなっています。

〔4〕「地域包括支援センター」の認知

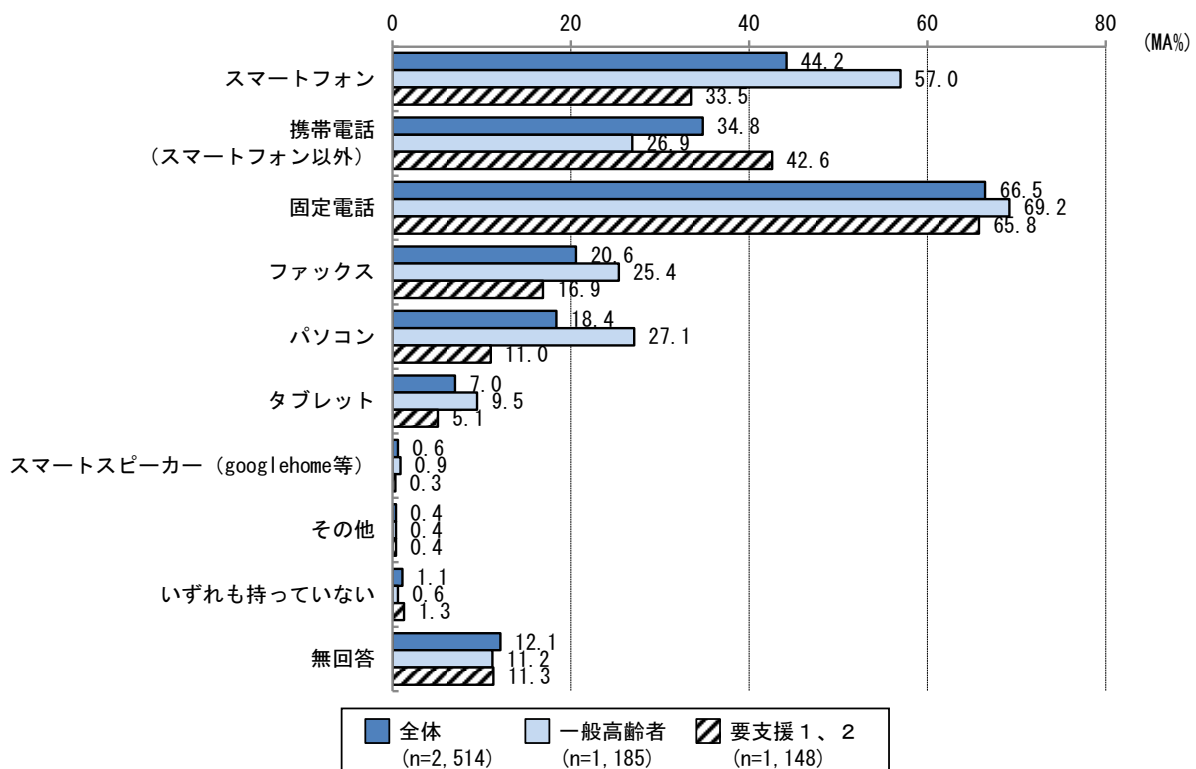
問10-（4） あなたは高齢者の総合相談窓口である「地域包括支援センター」について知っていますか（1つに○）



「地域包括支援センター」の認知については、一般高齢者では「場所を含め全く知らない」が42.8%と最も多くなっています。要支援1、2では「知っているが場所がわからない」が40.2%と最も多くなっています。『知っている』と回答した人は、一般高齢者で合計41.5%、要支援1、2では61.6%となっています。

〔5〕所有している通信機器・デジタル機器

問10-（5） ご自分またはご自宅用でお持ちの通信機器・デジタル機器は何ですか（○はいくつでも）

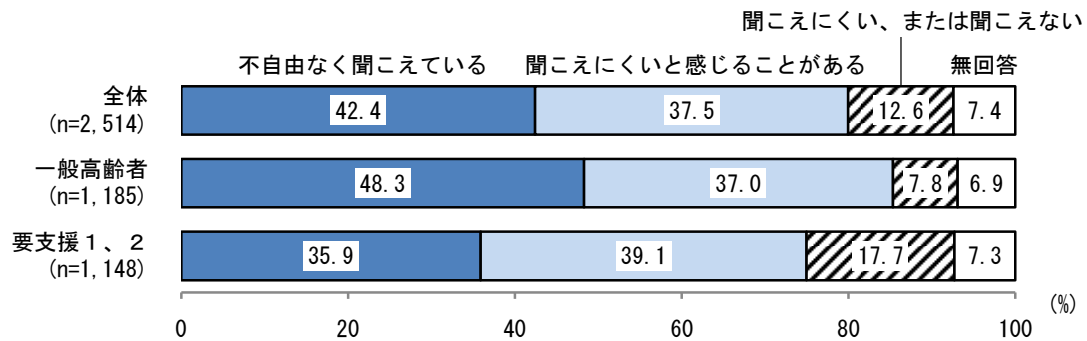


所有している通信機器・デジタル機器については、一般高齢者、要支援1、2ともに、「固定電話」が6割台と最も多く、一般高齢者では「スマートフォン」も57.0%と半数を占めています。

## 12 加齢性難聴について

### 〔1〕 耳の聞こえの状況

問11-（1） ご自身の耳の聞こえの状況について教えてください（1つに○）

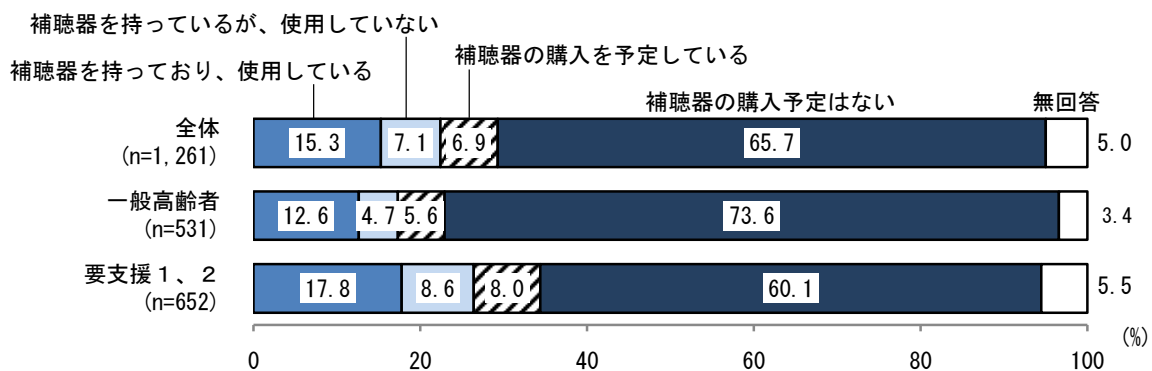


耳の聞こえの状況については、一般高齢者では「不自由なく聞こえている」が48.3%と最も多くなっています。一方、「聞こえにくい、または聞こえない」と「聞こえにくいと感じることがある」を合わせた『聞こえにくい』が、一般高齢者で44.8%、要支援1、2では56.8%となっています。

### 〔2〕 補聴器について

【問11-（1）で「2.聞こえにくいと感じることがある」または「3.聞こえにくい、または聞こえない」と回答された方のみ】

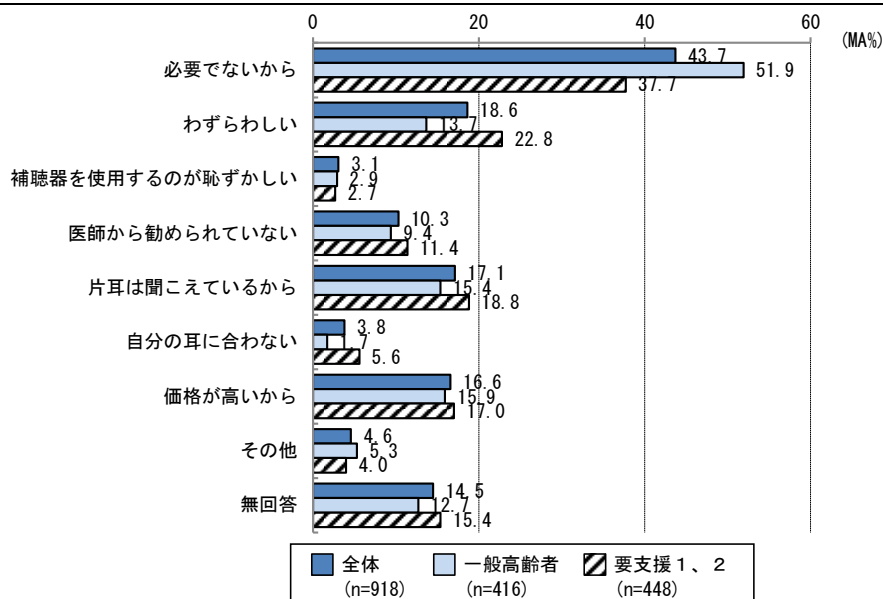
問11-（1）-1 補聴器の使用・所有状況について教えてください（1つに○）



補聴器の使用・所有状況については、一般高齢者、要支援1、2ともに「補聴器の購入予定はない」が6～7割と最も多くなっています。

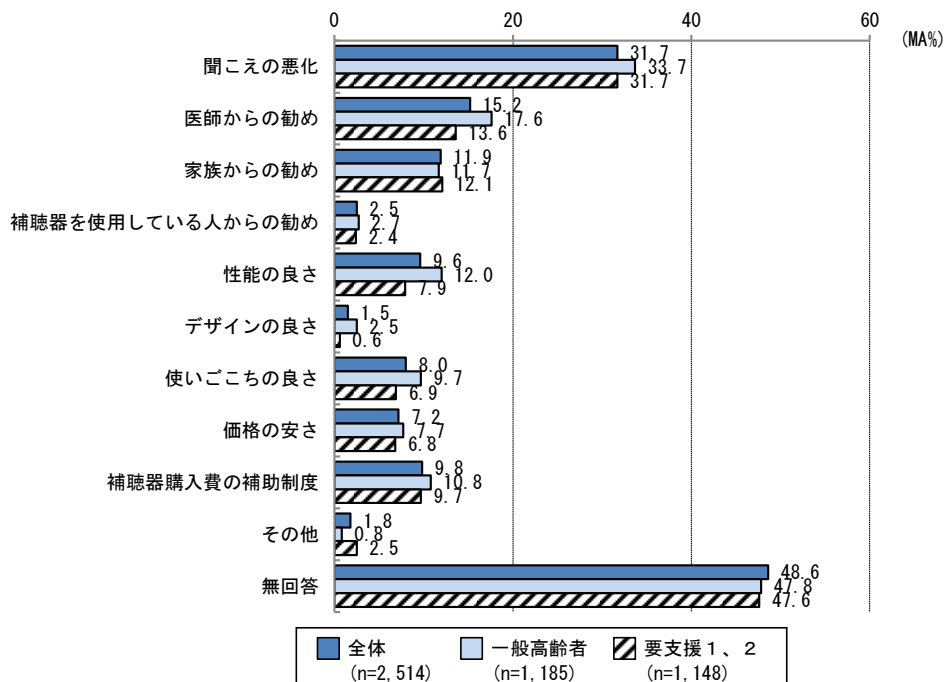
【問11-(1)で「2.補聴器を持っているが、使用していない」または「4.補聴器の購入予定はない」と回答された方のみ】

問11-(1)-2 補聴器を持っていないまたは使用していない理由は何ですか (〇はいくつでも)



補聴器を持っていないまたは使用していない理由をたずねたところ、一般高齢者、要支援1、2ともに「必要ではないから」が最も多く、一般高齢者で51.9%、要支援1、2で37.7%となっています。

問11-(2) 補聴器を購入した、または購入するとすれば、そのきっかけはなんですか (〇はいくつでも)

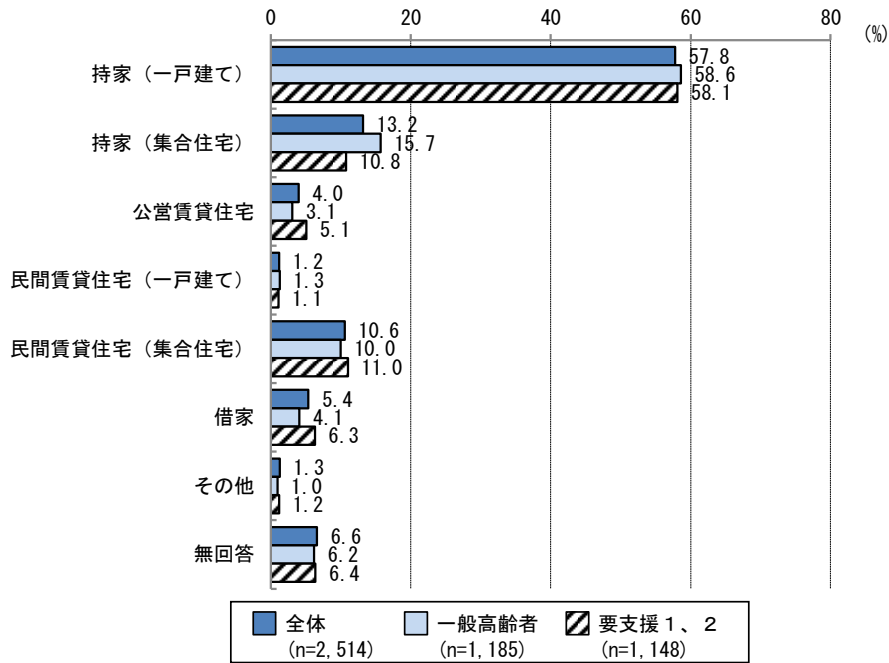


補聴器を購入した、または購入するきっかけをたずねたところ、一般高齢者、要支援1、2ともに「聞こえの悪化」が3割台と最も多くなっています。

## 13 お住まいについて

### 〔1〕現在の住まい

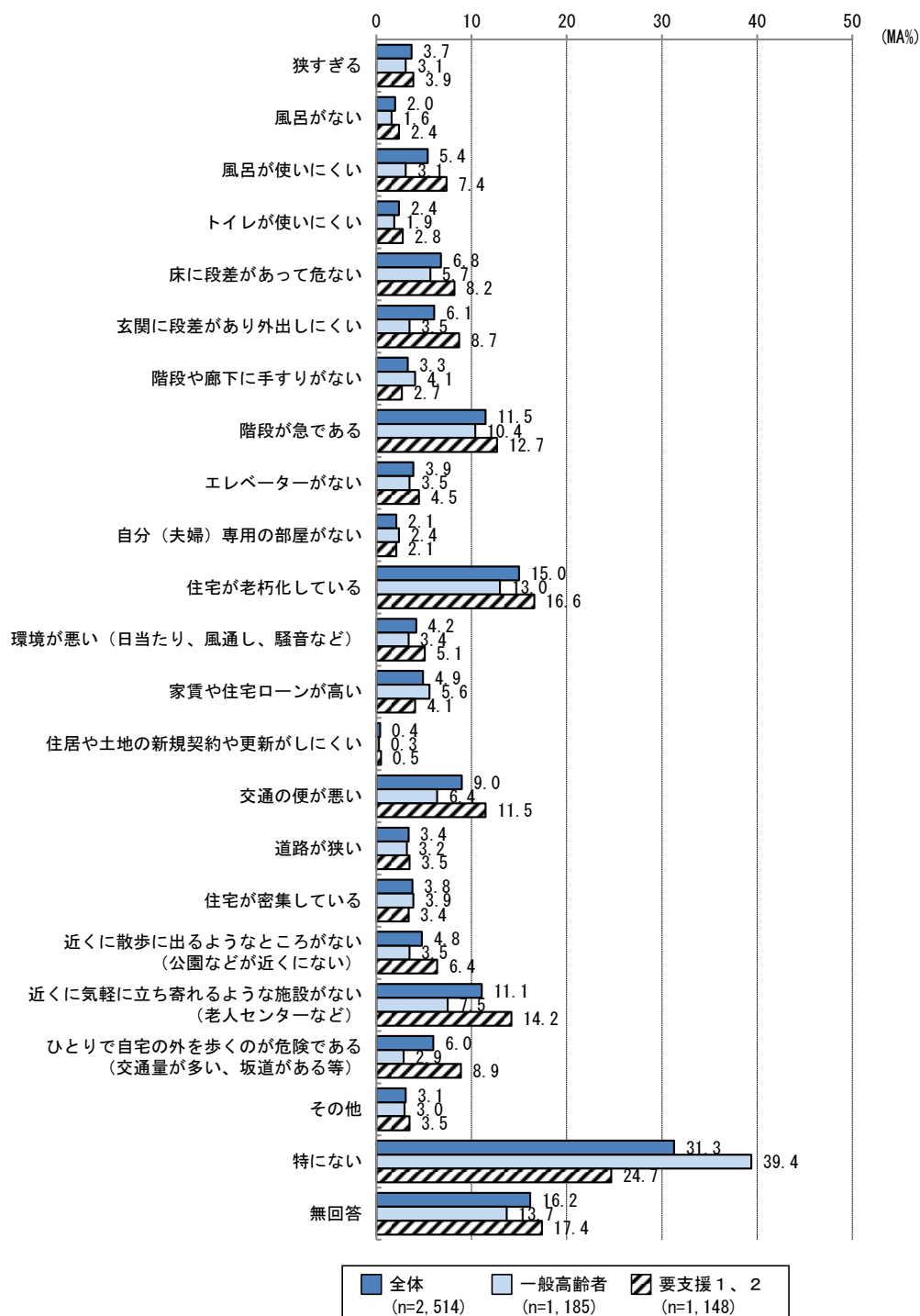
問12-(1) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか(1つに○)



現在の住まいについては、一般高齢者、要支援1、2ともに「持家(一戸建て)」が5割台と最も多く、次いで、「持家(集合住宅)」、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が1割台となっています。

〔2〕 周りの環境のことで、不便な事や困っていること

問12- (2) お住まいやその周りの環境のことで、不便を感じたり、困っていることがありますか (〇はいくつでも)

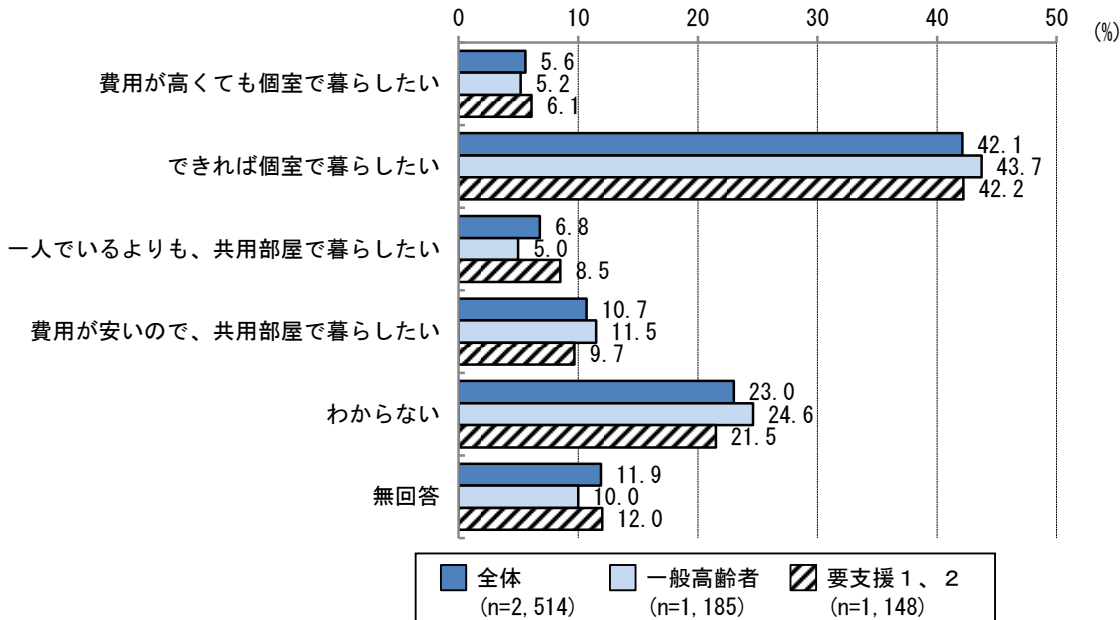


住まいや周りの環境のことで、不便を感じたり、困っていることについては、一般高齢者、要支援1、2ともに「住宅が老朽化している」が最も多くなっています。要支援1、2ではほかにも、「階段が急である」、「交通の便が悪い」、「近くに気軽に立ち寄れるような施設がない(老人センターなど)」なども10%以上となっています。



〔3〕 介護保険施設に入所することになった場合の希望の暮らし方

問12-（3） あなたは、今後、介護保険施設に入所することになれば、どのように暮らしたいですか（1つに○）  
 ※一般的には共用部屋（2名～6名）のほうが費用は安いです。



今後、介護保険施設に入所することになれば、どのように暮らしたいかについては、一般高齢者、要支援1、2ともに「できれば個室で暮らしたい」が4割台と最も多くなっています。個室を希望する人は一般高齢者で合計48.9%、要支援1、2で48.3%、共用部屋を希望する人は一般高齢者で合計16.5%、要支援1、2で18.2%となっています。

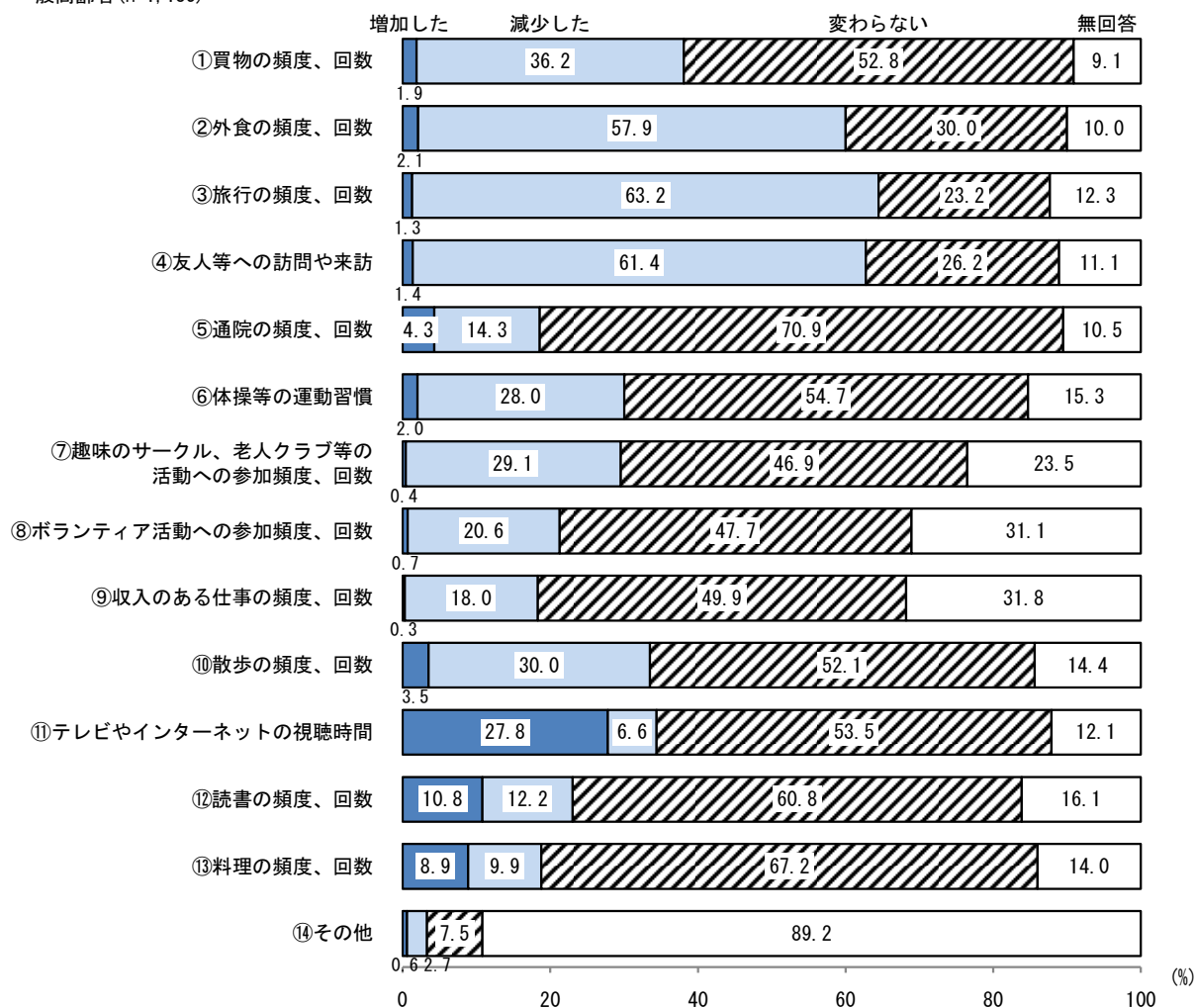
## 14 新型コロナウイルス感染症について

### 〔1〕新型コロナウイルス感染症の影響による日常生活の変化

問13 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が社会に影響を与える前と現在を比較して、あなたの日常生活はどのように変化しましたか。①～⑭のそれぞれの場面について、頻度や回数がどう変化したかを教えてください（それぞれ1つだけに○）

【新型コロナウイルス感染症の影響について 一般高齢者】

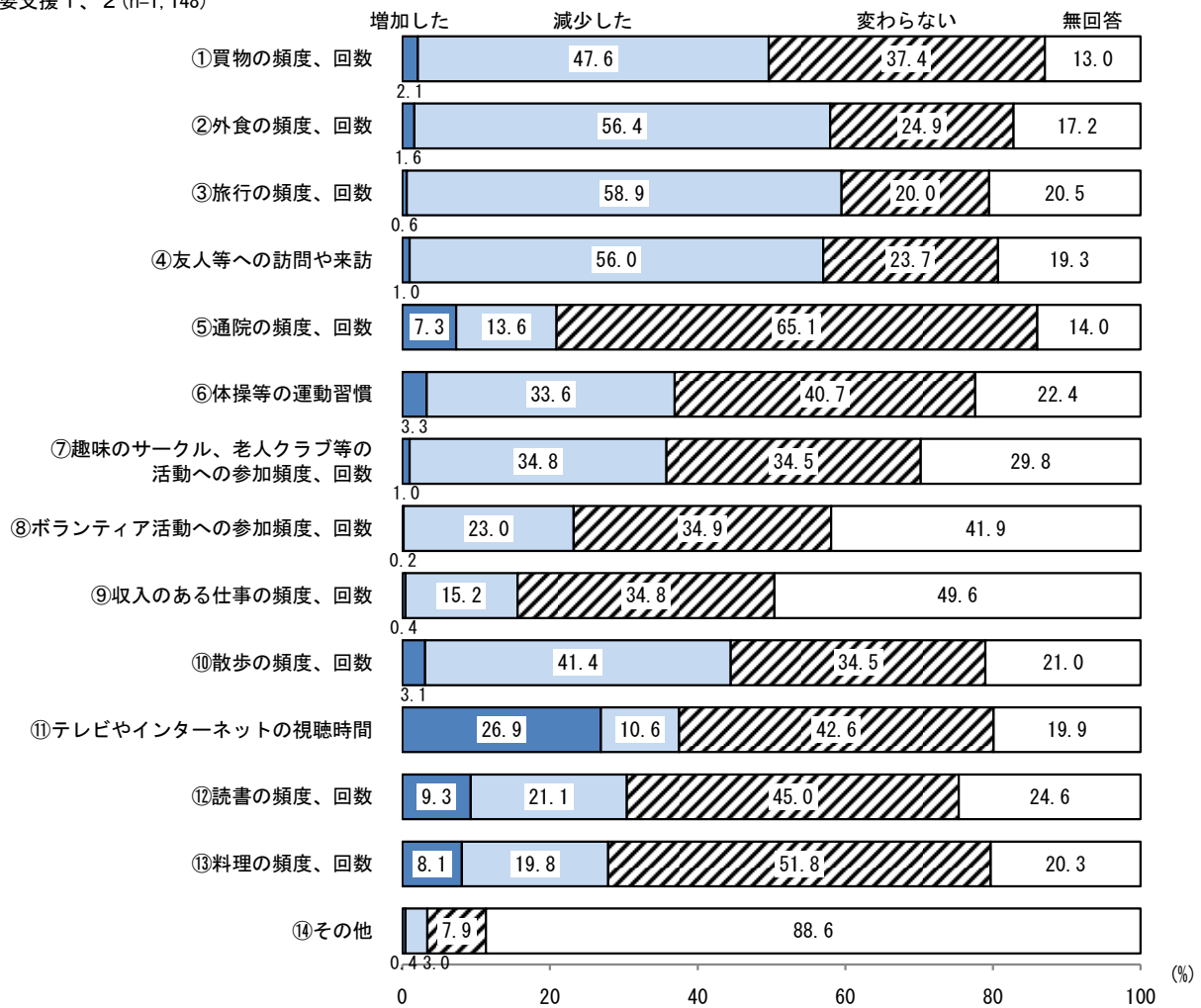
一般高齢者(n=1,185)



新型コロナウイルス感染症の影響についてみると、一般高齢者で「増加した」は、「⑪テレビやインターネットの視聴時間」が27.8%と最も多く、次いで、「⑫読書の頻度、回数」が10.8%となっています。一方で、「②外食の頻度、回数」、「③旅行の頻度、回数」、「④友人等への訪問や来訪」では「減少した」が5～6割台と半数を占めています。

【新型コロナウイルス感染症の影響について 要支援1、2】

要支援1、2 (n=1,148)

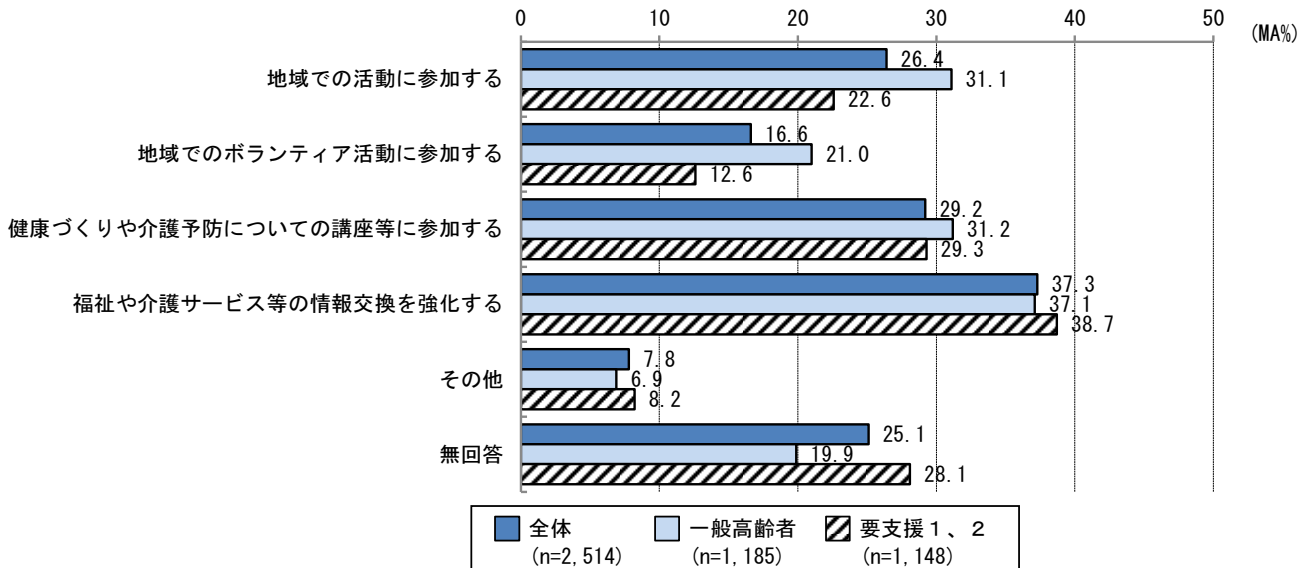


要支援1、2で「増加した」は、「⑪テレビやインターネットの視聴時間」が26.9%と最も多く、次いで、「⑫読書の頻度、回数」が9.3%となっています。一方で、「①買物の頻度、回数」、「②外食の頻度、回数」、「③旅行の頻度、回数」、「④友人等への訪問や来訪」、「⑩散歩の頻度、回数」では「減少した」が4～5割台となっています。

## 15 高齢者が暮らしやすいまちづくりについて

〔1〕 生きがいがづくりや地域貢献のため、高齢者自身が行き組んだら良いと思うこと

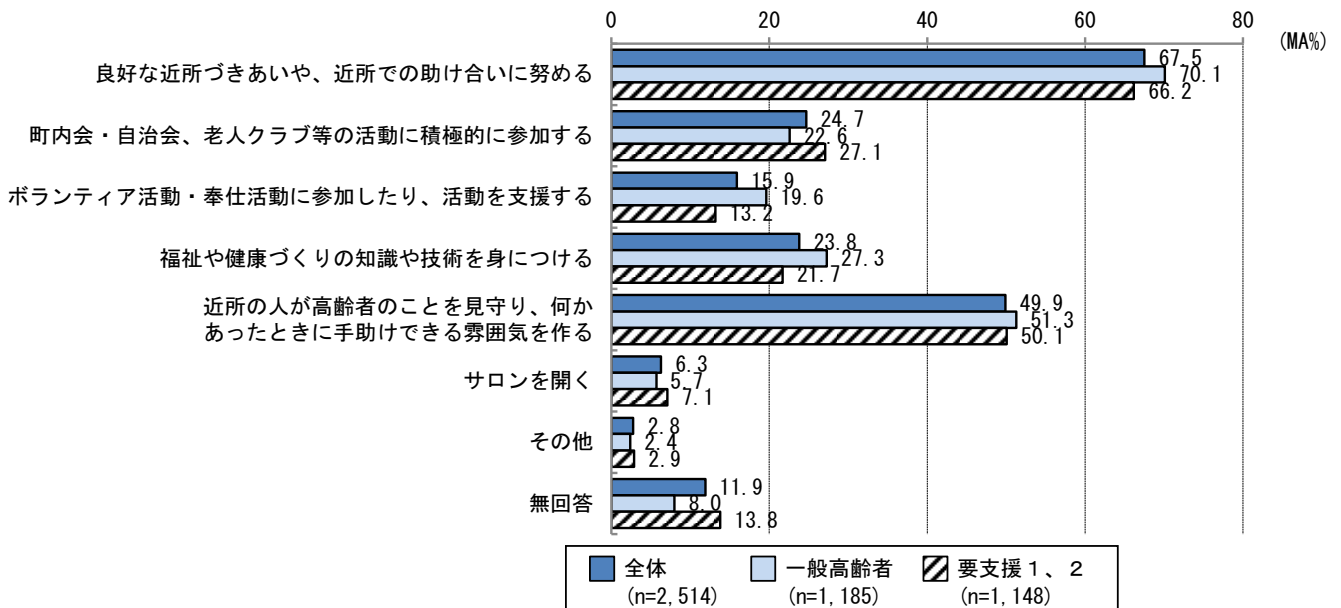
問14-（1） あなたは、高齢者の生きがいがづくりや地域に貢献できるようなことで、高齢者自身が行き組んだら良いと思うことはどのようなこととお考えですか（〇はいくつでも）



高齢者の生きがいがづくりや地域に貢献できるようなことで、高齢者自身が行き組んだら良いと思われることは、一般高齢者、要支援1、2ともに「福祉や介護サービス等の情報交換を強化する」が3割台で最も多く、次いで、「健康づくりや介護予防についての講座等に参加する」が3割前後となっています。「地域での活動に参加する」、「地域でのボランティア活動に参加する」については、一般高齢者と要支援1、2で10ポイント近い差がみられます。

〔2〕 高齢者が暮らしやすいまちをつくるため、地域の人がすべきこと

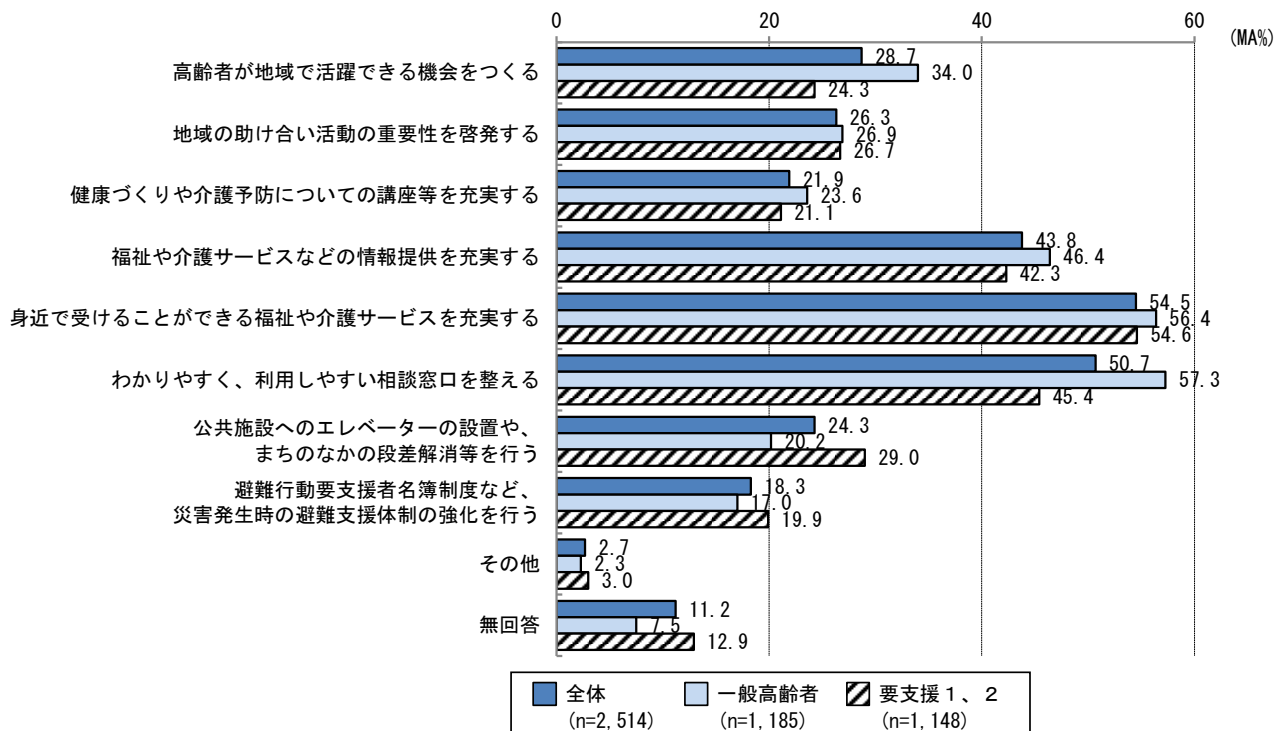
問14-（2） 高齢者が暮らしやすいまちをつくるため、あなた自身を含め、地域の人々がどのようなことをすべきと思いますか（〇はいくつでも）



高齢者が暮らしやすいまちをつくるため、地域の人々がすべきことについては、一般高齢者、要支援1、2ともに「良好な近所づきあいや、近所での助け合いに努める」が6～7割台で最も多く、次いで、「近所の人が高齢者のことを見守り、何かあったときに手助けできる雰囲気を作る」が5割前後となっています。

〔3〕高齢者が暮らしやすいまちづくりのため、市が重点的に取り組むべきこと

問14-（3） 高齢者が暮らしやすいまちをつくるため、市は特にどのようなことに重点的に取り組むべきとお考えですか（〇はいくつでも）



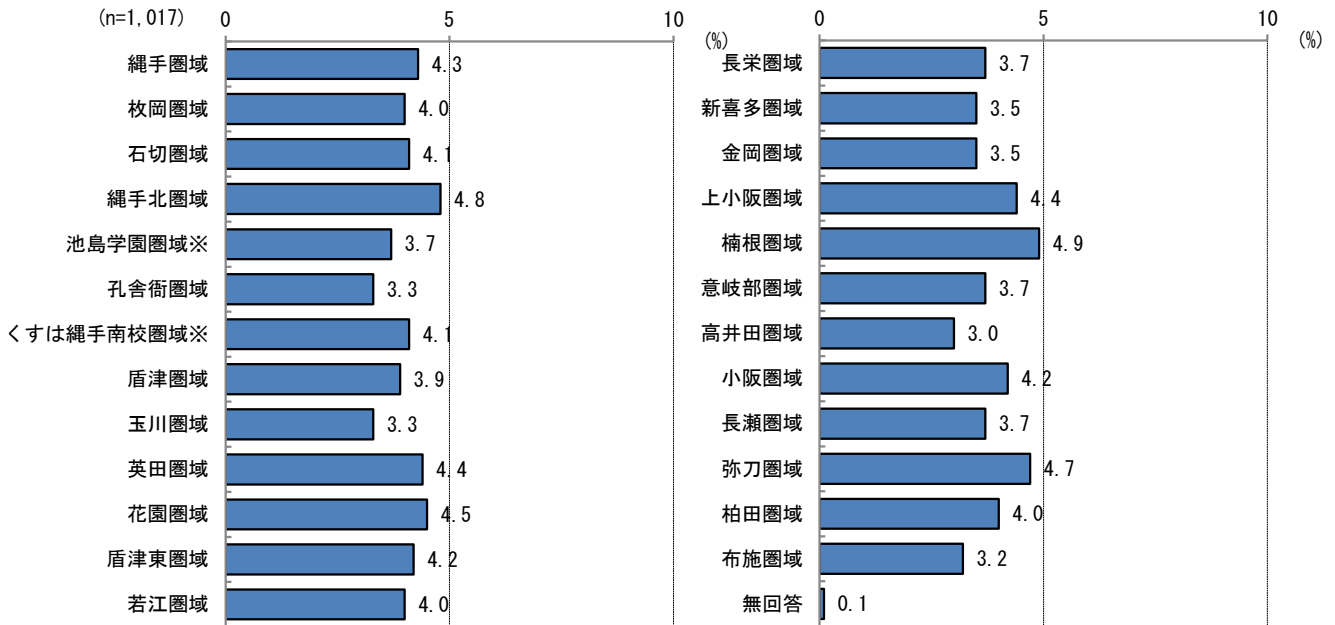
高齢者が暮らしやすいまちをつくるため、市が重点的に取り組むべきことについては、一般高齢者では「わかりやすく、利用しやすい相談窓口を整える」が57.3%と最も多く、要支援1、2では「身近で受けることができる福祉や介護サービスを充実する」が54.6%と最も多くなっています。

## Ⅱ-2-① 在宅介護実態調査・A票（要介護者アンケート）

### 1 回答者の属性

#### 〔1〕居住圏域

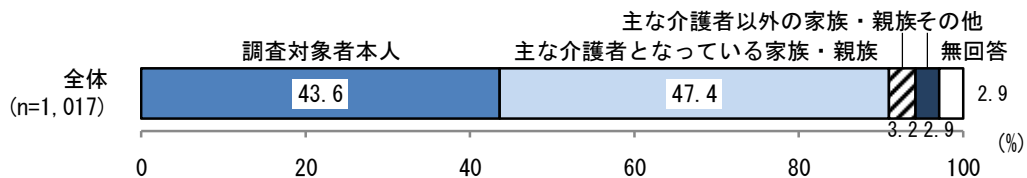
回答者の居住圏域は、以下のようになっています。



※「くすは縄手南校」と「池島学園」は義務教育学校

#### 〔2〕調査票の記入者

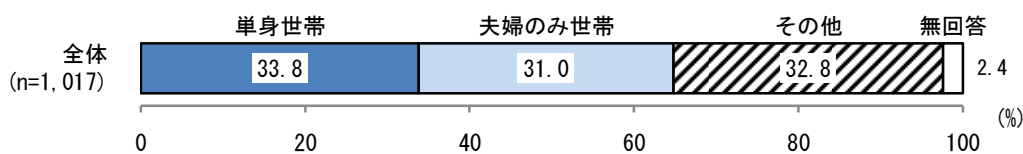
問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか（1つに○）



調査票の記入者は、「主な介護者以外の家族・親族」が 47.4%と最も多く、次いで、「調査対象者本人」が 43.6%となっています。

〔3〕世帯類型

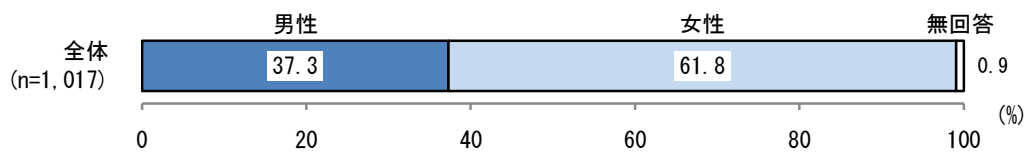
問2 世帯類型について、ご回答ください（1つに○）



回答者の世帯類型は、「単身世帯」が33.8%、「夫婦のみ世帯」が31.0%となっています。

〔4〕性別

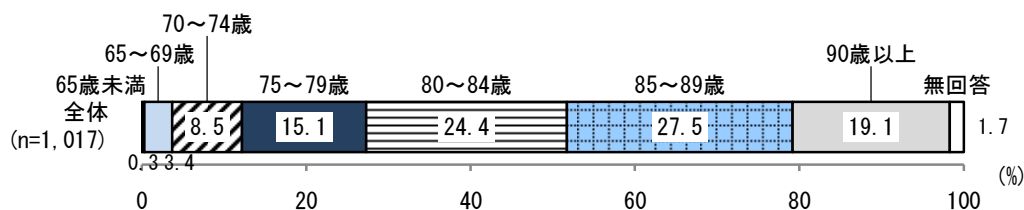
問3 ご本人の性別について、ご回答ください（1つに○）



回答者の性別は、「男性」が37.3%、「女性」が61.8%となっています。

〔5〕年齢

問4 ご本人の年齢について、ご回答ください（1つに○）

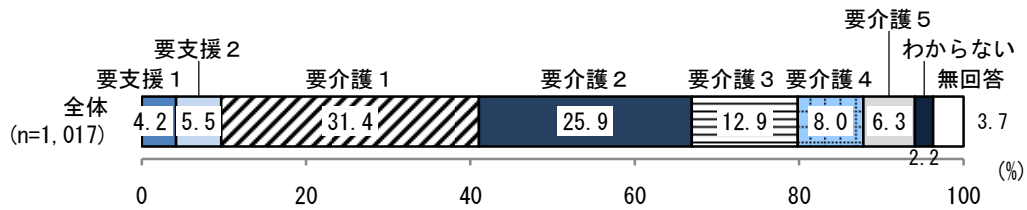


回答者の年齢は、「85～89歳」が27.5%と最も多く、次いで、「80～84歳」が24.4%となっています。



〔6〕 要介護度

問5 ご本人の要介護度について、ご回答ください（1つに○）



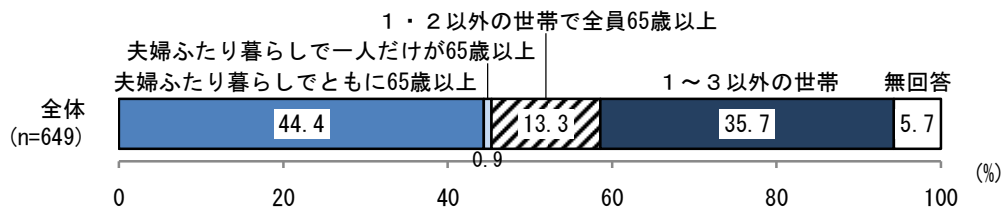
回答者本人の要介護度は、「要介護1」が31.4%と最も多く、次いで、「要介護2」が25.9%、「要介護3」が12.9%、「要介護4」が8.0%、「要介護5」が6.3%となっています。

〔7〕 同居家族

【問2で「2. 夫婦のみ世帯」または「3. その他」とご回答された方のみ】

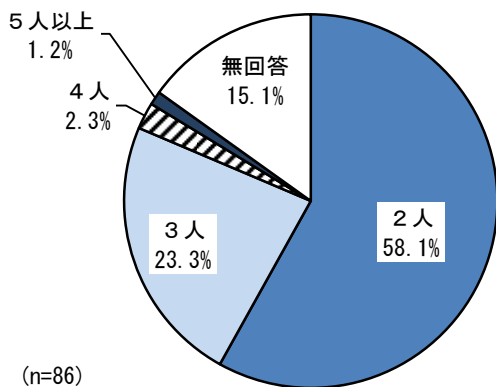
問6 同居の家族について、ご回答ください（1つに○）  
また〔 〕内にご記入ください

【同居の家族】

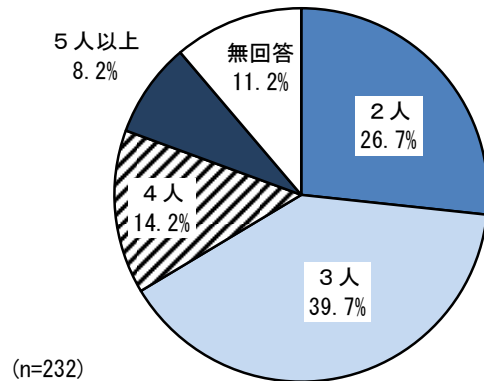


【同居人数】

「1・2以外の世帯で全員65歳以上」の人数



「1～3以外の世帯」の人数



## II-2-① 在宅介護実態調査・A票（要介護者アンケート）

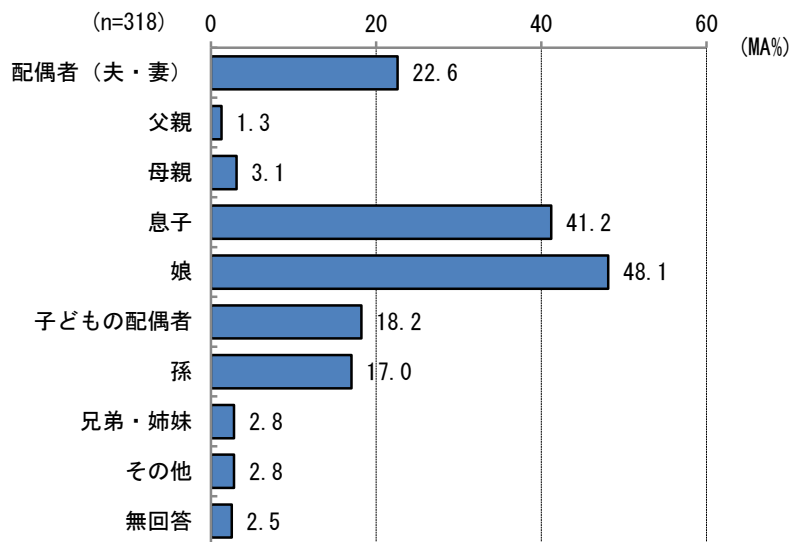
単身世帯以外の方の同居の家族については、「夫婦ふたり暮らしでともに65歳以上」が44.4%、「1～3以外の世帯」が35.7%、「1・2以外の世帯で全員65歳以上」が13.3%となっています。

夫婦ふたり暮らし以外の世帯の同居人数は、「1・2以外の世帯で全員65歳以上」では回答者本人を含め「2人」が58.1%、「3人」が23.3%となっています。「1～3以外の世帯」では「3人」が39.7%、「2人」が26.7%となっています。

【問6で「3. 1・2以外の世帯で全員65歳以上」「4. 1～3以外の世帯」とご回答の方のみ】

問6-1 同居されている方について、ご回答ください。（〇はいくつでも）

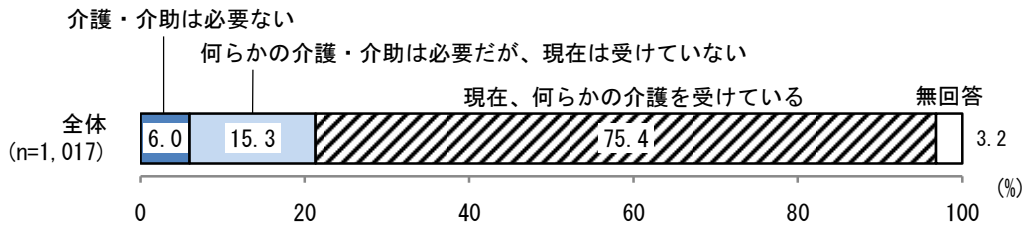
### 【夫婦ふたり暮らし以外の世帯の同居家族の内訳】



夫婦ふたり暮らし以外の世帯「1・2以外の世帯で全員65歳以上」、「1～3以外の世帯」の同居家族は、「娘」が48.1%と最も多く、次いで、「息子」が41.2%となっています。

〔8〕 介護・介助の必要性

問7 介護・介助の必要性について、ご回答ください（1つに○）

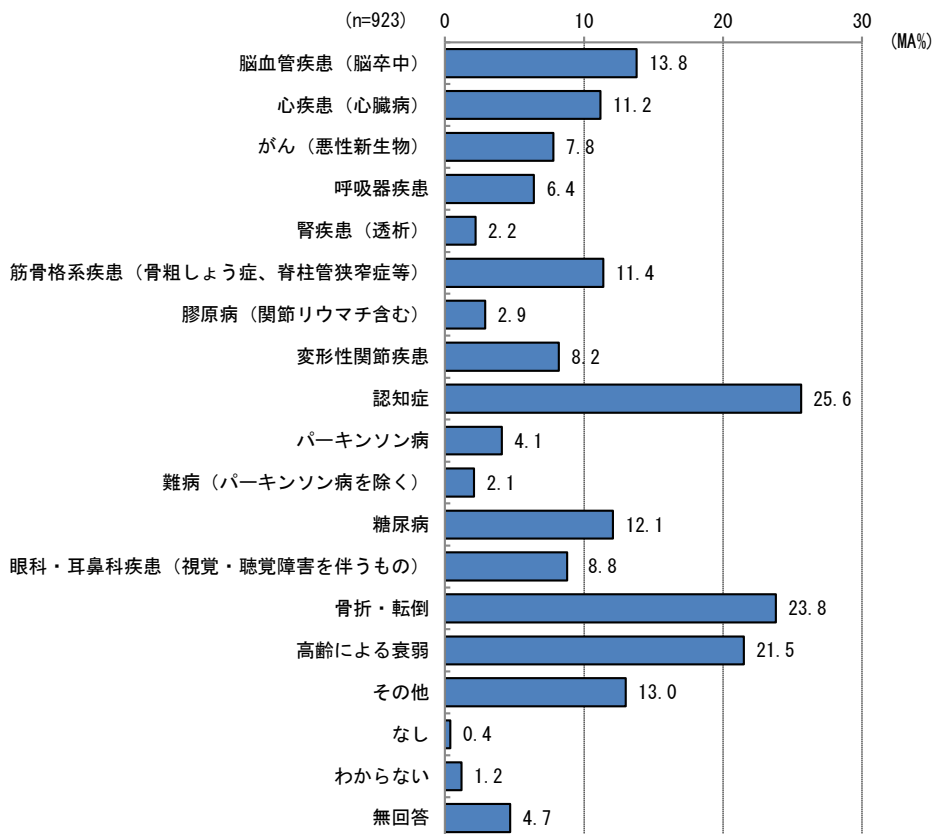


介護・介助の必要性については、「現在、何らかの介護を受けている」が75.4%と最も多く、次いで、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が15.3%、「介護・介助は必要ない」が6.0%で、何らかの介護・介助が必要な人が9割となっています。

〔9〕 介護・介助が必要になった主な原因

【介護・介助が必要な方のみ】

問8 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか（○はいくつでも）

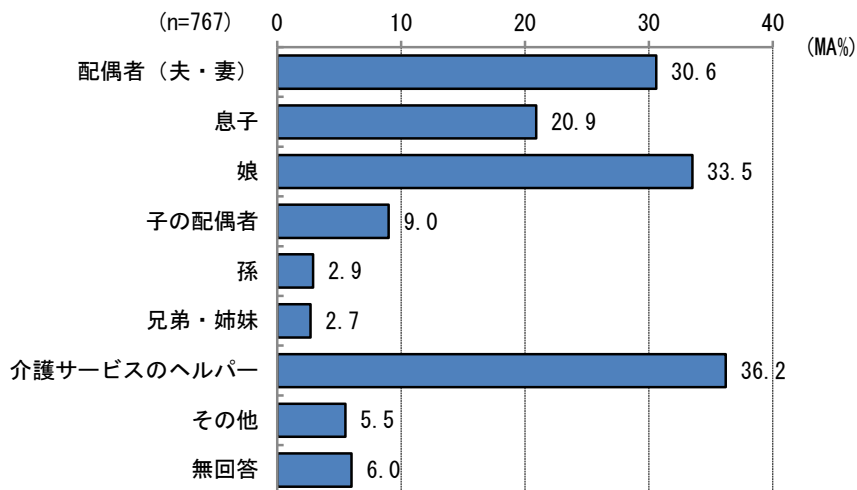


介護・介助が必要になった主な原因については、「認知症」が25.6%と最も多く、次いで、「骨折・転倒」が23.8%、「高齢による衰弱」が21.5%、「脳血管疾患（脳卒中）」が13.8%となっています。

〔10〕 主な介助者について

【介護・介助者がいる方のみ】

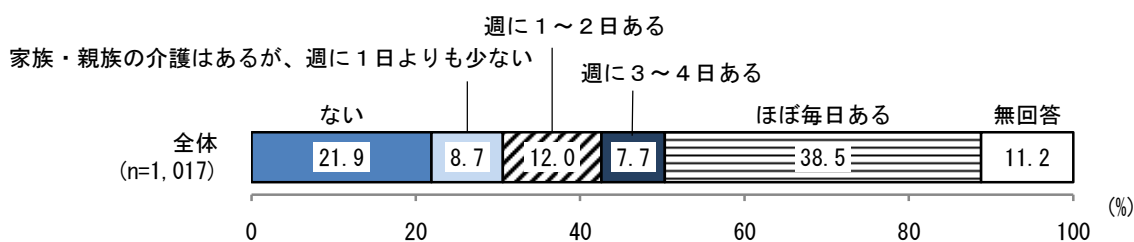
問9 主にどなたの介護・介助を受けていますか（〇はいくつでも）



主な介護・介助者については、「介護サービスのヘルパー」が 36.2%と最も多く、次いで、「娘」が 33.5%、「配偶者（夫・妻）」が 30.6%となっています。

〔11〕 家族や親族からの介護の頻度

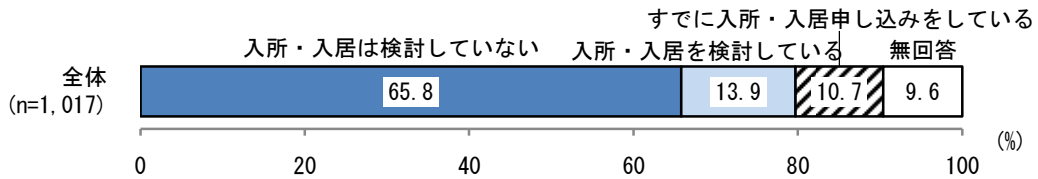
問10 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つに〇）



家族や親族からの介護が週にどのくらいあるかについては、「ほぼ毎日ある」が 38.5%と最も多く、次いで、「週に1～2日ある」が 12.0%、「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」が 8.7%、「週に3～4日ある」が 7.7%となっています。一方で、「ない」も2割ほどみられます。

〔12〕 施設等への入所・入居の検討状況

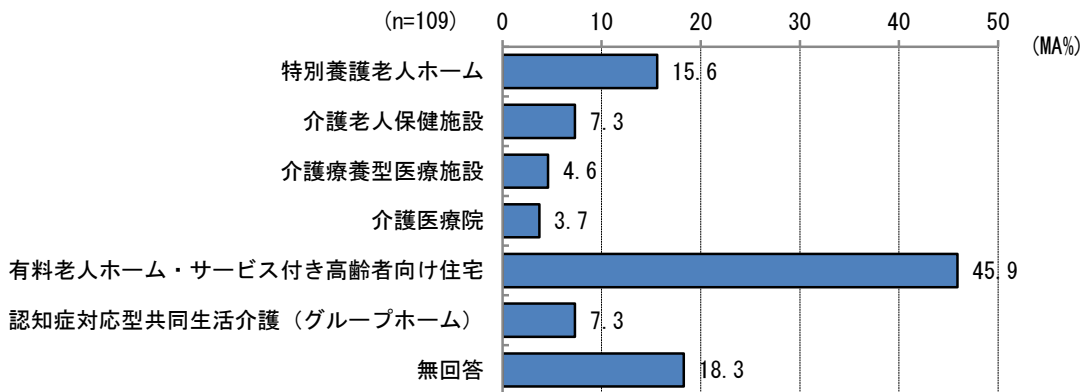
問11 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください  
（1つに○）



施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が 65.8%と最も多く、次いで、「入所・入居を検討している」が 13.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 10.7%となっています。

〔13〕 申し込みをしている施設

【問11で「3. すでに入所・入居申し込みをしている」を選んだ方のみ】  
問12-1 申し込みをしている施設すべてに○をつけてください

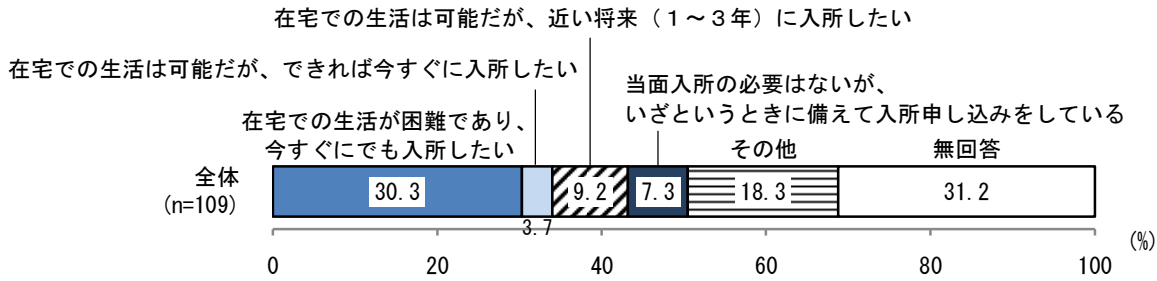


「すでに入所・入居申し込みをしている」方に、申し込みをしている施設をたずねたところ、「有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅」が 45.9%と最も多く、次いで、「特別養護老人ホーム」が 15.6%となっています。

〔14〕 介護保険施設へ入所の緊急度

【問11で「3. すでに入所・入居申し込みをしている」を選んだ方のみ】

問12-2 介護保険施設へ入所の緊急度は次のうちどれですか（1つに○）

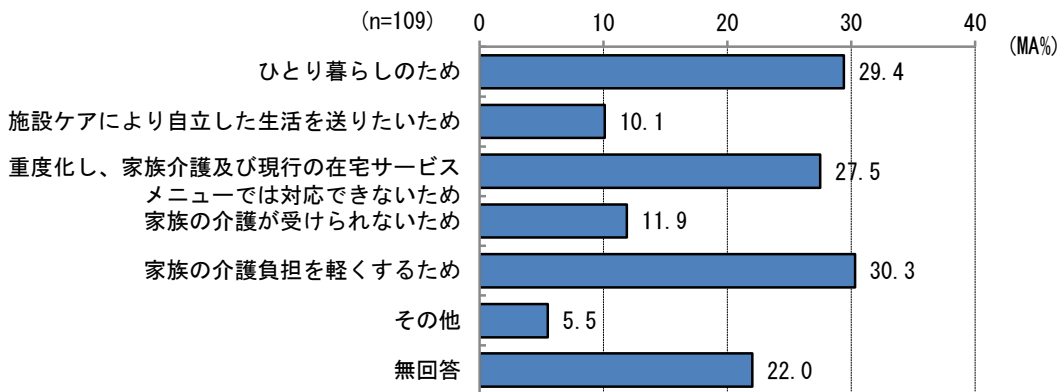


介護保険施設へ入所の緊急度については、「在宅での生活が困難であり、今すぐにも入所したい」が30.3%と最も多く、次いで、「在宅での生活は可能だが、近い将来（1～3年）に入所したい」が9.2%となっています。

〔15〕 介護保険施設へ入所したい理由

【問11で「3. すでに入所・入居申し込みをしている」を選んだ方のみ】

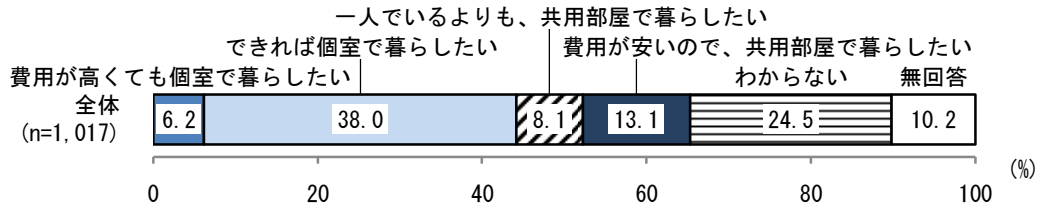
問12-3 介護保険施設へ入所したい理由としてあなたのお考えに近いものを選んでください（○はいくつでも）



介護保険施設へ入所したい理由については、「家族の介護負担を軽くするため」が30.3%と最も多く、次いで、「ひとり暮らしのため」が29.4%、「重度化し、家族介護及び現行の在宅サービスメニューでは対応できないため」が27.5%となっています。

〔16〕 介護保険施設入所時の部屋の希望

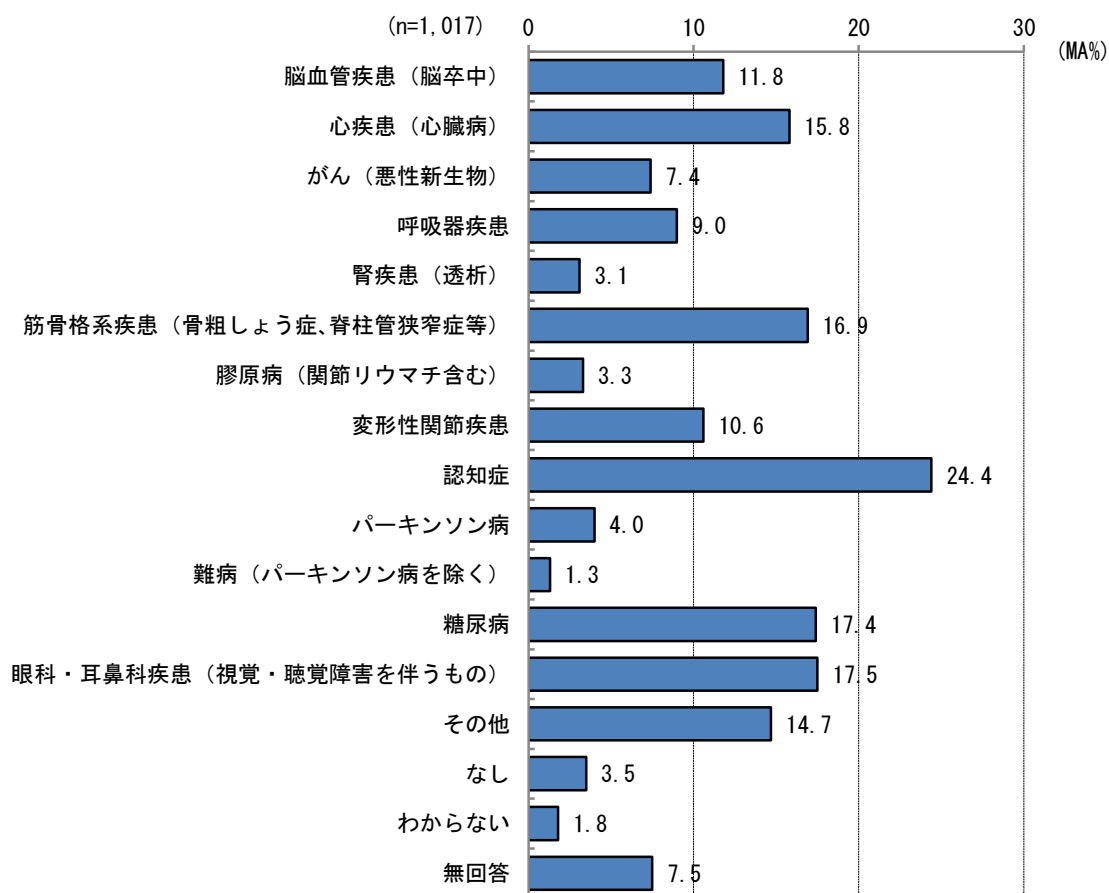
問13 あなたは、今後、介護保険施設に入所することになれば、どのように暮らしたいですか（1つに○）  
 ※一般的には共用部屋（2名～6名）のほうが費用は安いです



今後、介護保険施設に入所することになれば、どのように暮らしたいかについては、「できれば個室で暮らしたい」が38.0%と最も多く、「費用が高くても個室で暮らしたい」の6.2%と合わせて、個室を希望する人は合計44.2%となっています。また、共用部屋を希望する人は合わせて21.2%で、「費用が安いので、共用部屋で暮らしたい」が13.1%、「一人であるよりも、共用部屋で暮らしたい」が8.1%となっています。

〔17〕 現在抱えている傷病について

問14 あなたが、現在抱えている傷病について、ご回答ください（〇はいくつでも）

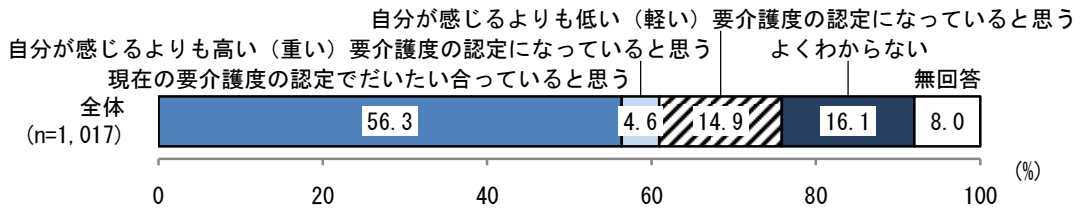


現在抱えている傷病については、「認知症」が 24.4%と最も多く、次いで、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 17.5%、「糖尿病」が 17.4%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊椎管狭窄症等）」が 16.9%となっています。



〔18〕現在の要介護度認定について

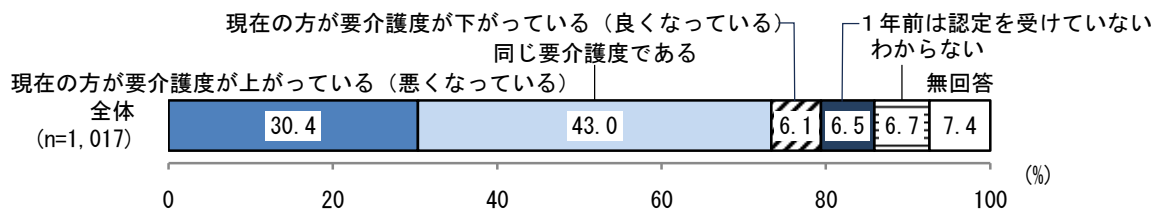
問15 あなたは、ご自身のからだの状態と比べて、現在の要介護度の認定についてどう思われますか（1つに○）



自身のからだの状態と比べて、現在の要介護度の認定をどう思うかについては、約6割の人が、「現在の要介護度の認定でだいたい合っていると思う」と回答しています。また、14.9%の人が、「自分が感じるよりも低い（軽い）要介護度の認定になっていると思う」と回答しています。

〔19〕要介護度の変化

問16 あなたの要介護度は、1年前と比べて、どのように変化していますか（1つに○）

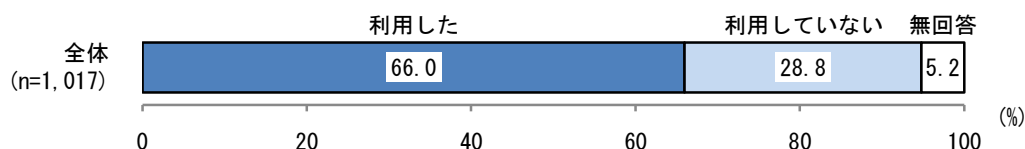


1年前と比べて要介護度がどのように変化しているかについては、4割の人が「同じ要介護度である」と回答しています。次いで、「現在の方が要介護度が上がっている（悪くなっている）」が30.4%となっています。

## 2 必要となる支援や介護保険サービスについて

### 〔1〕介護保険サービスの利用状況

問17 令和4年12月の1か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか（1つに○）



令和4年12月の1か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを「利用した」は66.0%となっています。

### 〔2〕対象の介護保険サービスの利用状況

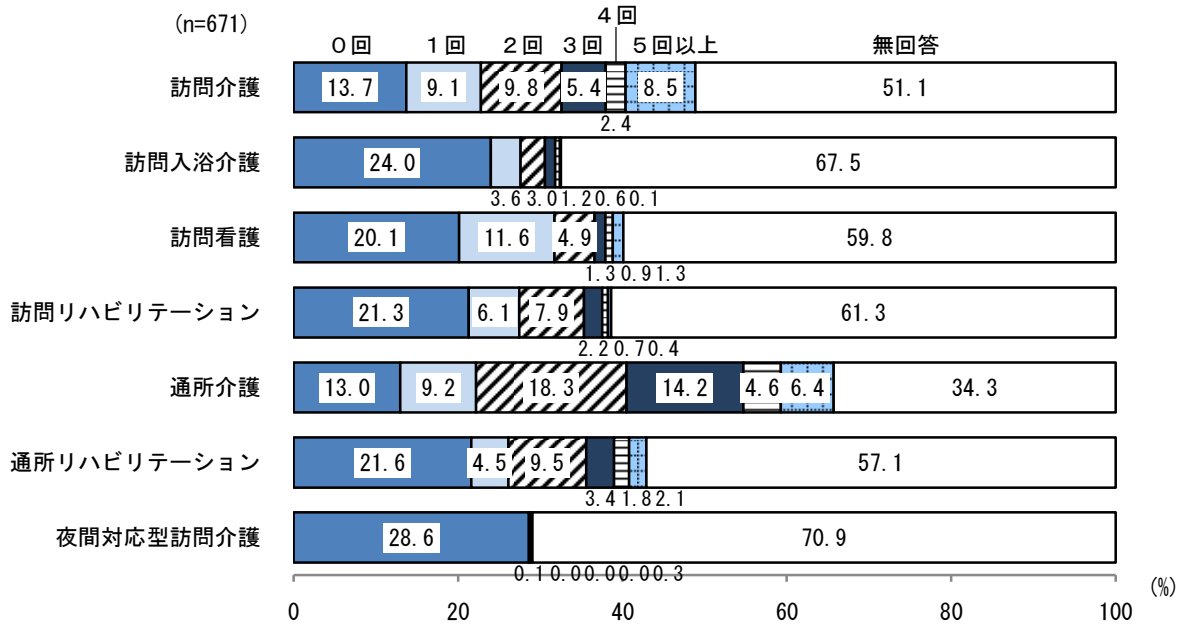
#### 【問17で「1. 利用した」と回答した方のみ】

問18 以下の介護保険サービスについて、令和4年12月の1か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「利用していない（0回、1. 利用していない）」を選択してください（それぞれ1つに○）

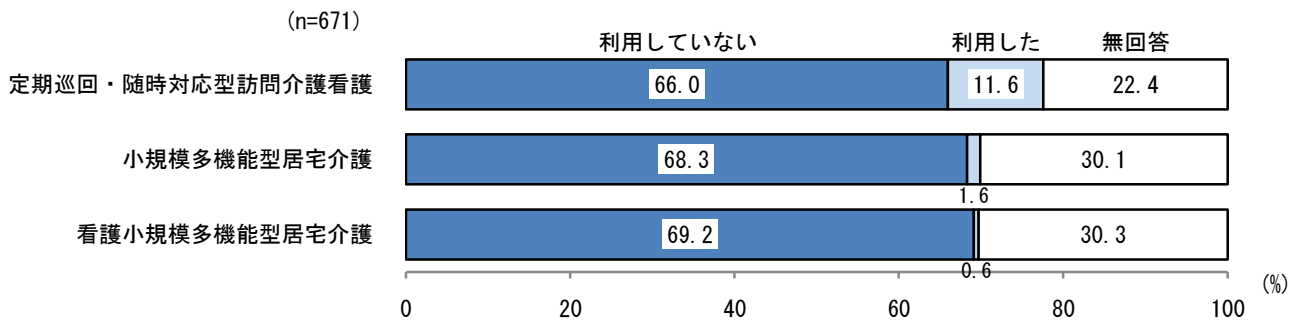
	(n=671)	
	利用した	利用していない (%)
A. 訪問介護	35.2	13.7
B. 訪問入浴介護	8.5	24.0
C. 訪問看護	20.0	20.1
D. 訪問リハビリテーション	17.3	21.3
E. 通所介護	52.7	13.0
F. 通所リハビリテーション	21.3	21.6
G. 夜間対応型訪問介護	0.4	28.6
H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	11.6	66.0
I. 小規模多機能型居宅介護	1.6	68.3
J. 看護小規模多機能型居宅介護	0.6	69.2
K. ショートステイ	11.9	63.8
L. 居宅療養管理指導	10.9	62.9

【対象の介護保険サービスの利用】

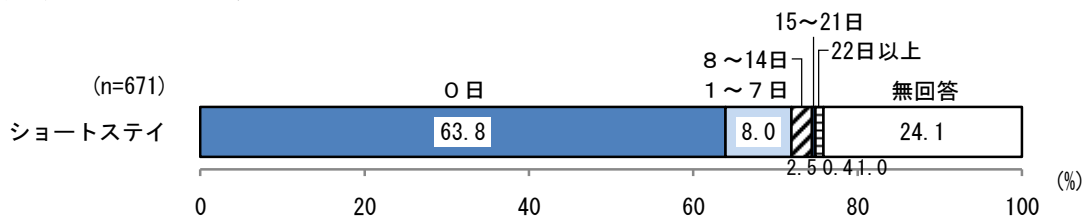
※ 1週間あたりの利用回数



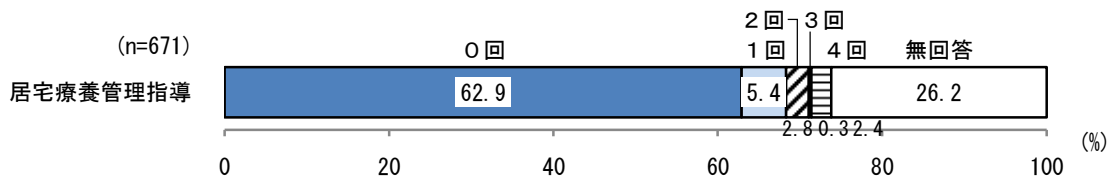
※ 利用の有無



※ 1か月あたりの利用日数



※ 1か月あたりの利用回数



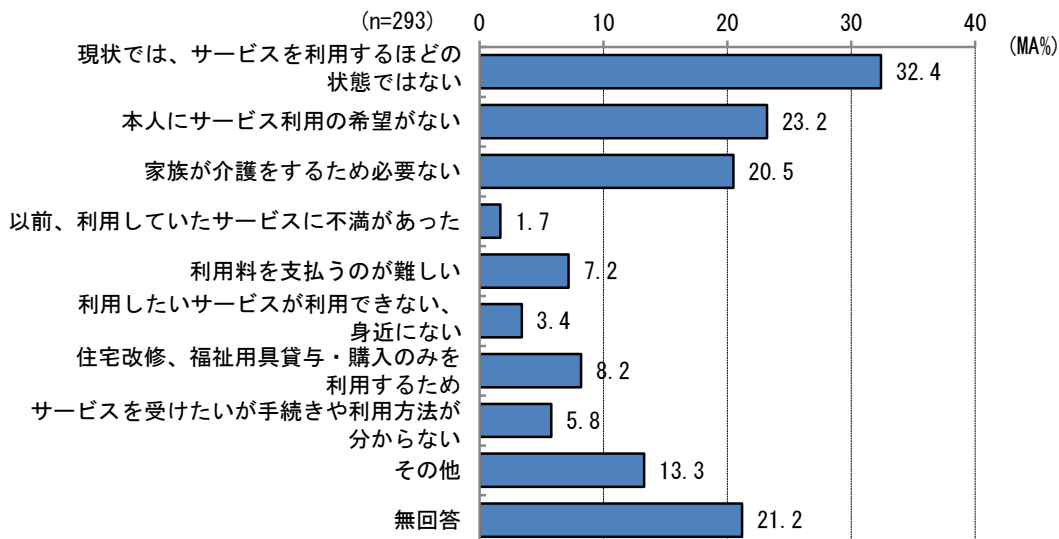
令和4年12月の1か月間に、対象の介護保険サービスの利用が最も多かったのは、「通所介護」で52.7%、次いで、「訪問介護」が35.2%、「通所リハビリテーション」が21.3%となっています。

1週間あたりの利用回数については、「通所介護」、「訪問介護」、「通所リハビリテーション」とともに「2回」の利用が多くなっています。

〔3〕介護保険サービスを利用していない理由

【問17で「2. 利用していない」と回答した方のみ】

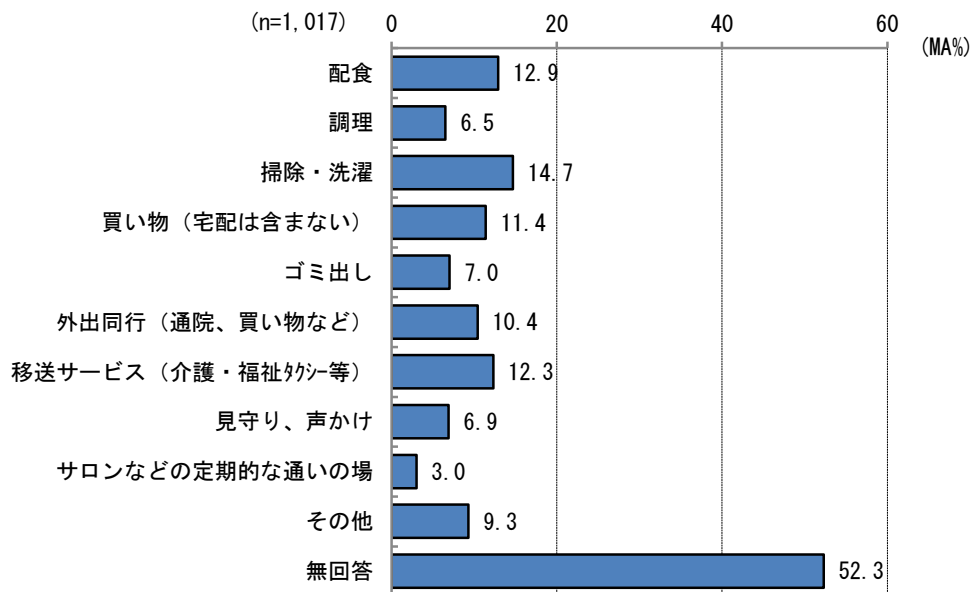
問19 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（〇はいくつでも）



介護保険サービスを利用していない方に、その理由をたずねたところ、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 32.4%と最も多く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が 23.2%、「家族が介護をするため必要ない」が 20.5%となっています。

〔4〕「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用

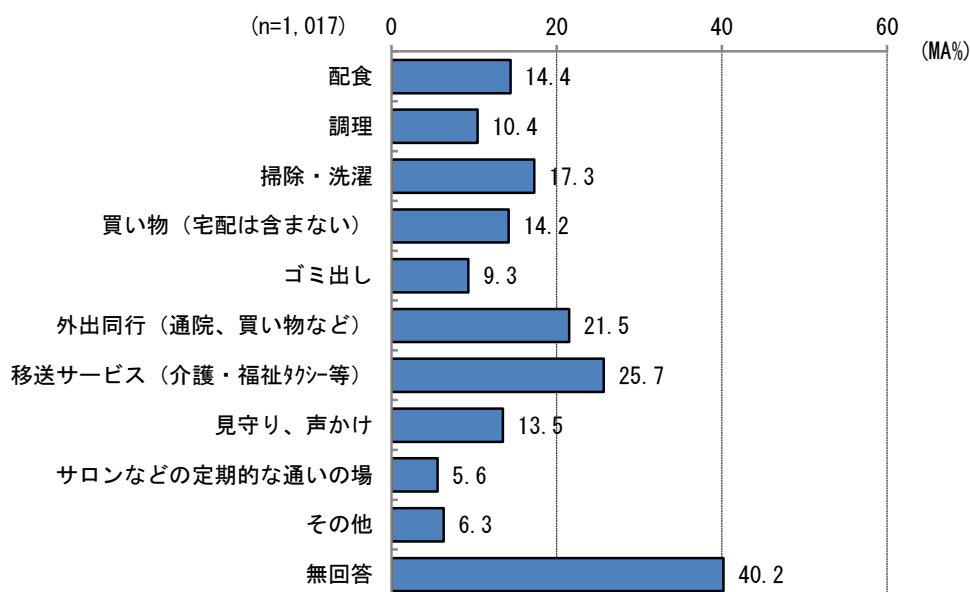
問20 現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（〇はいくつでも）



現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについては、「掃除・洗濯」が 14.7%と最も多く、次いで、「配食」が 12.9%となっています。

〔5〕今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

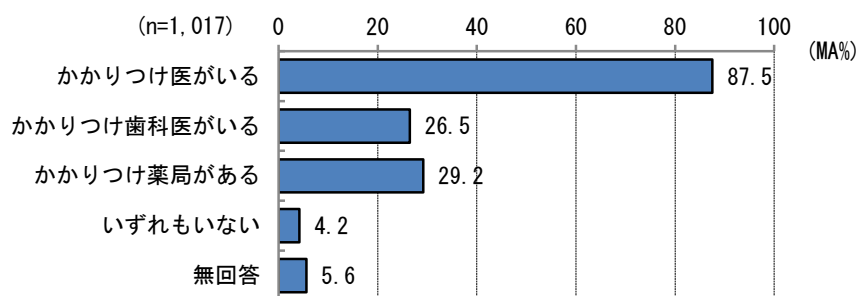
問21 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（〇はいくつでも）



今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 25.7%と最も多く、次いで、「外出同行（通院、買い物など）」が 21.5%、「掃除・洗濯」が 17.3%となっています。

〔6〕「かかりつけ医」等の有無

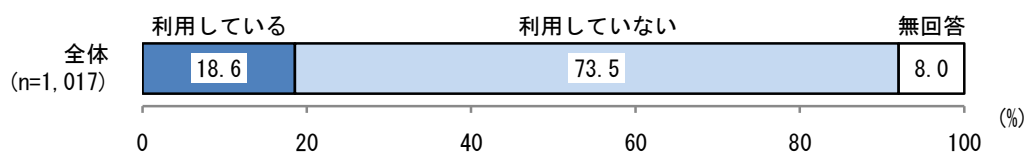
問22 健康や病気のことについて気軽に相談できる「かかりつけ医」等がいますか（○はいくつでも）



「かかりつけ医」等がいるかについては、「かかりつけ医がいる」が87.5%、「かかりつけ薬局がある」が29.2%、「かかりつけ歯科医がいる」が26.5%となっています。

〔7〕訪問診療の利用

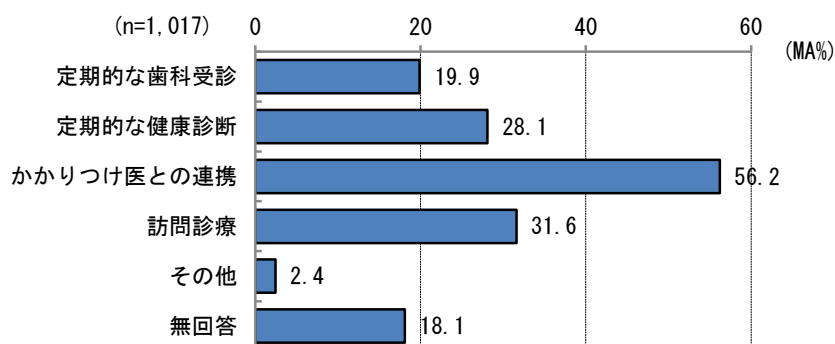
問23 現在、訪問診療を利用していますか（1つに○）



訪問診療の利用については、「利用している」は18.6%となっています。

〔8〕在宅生活を続けるために必要な医療支援

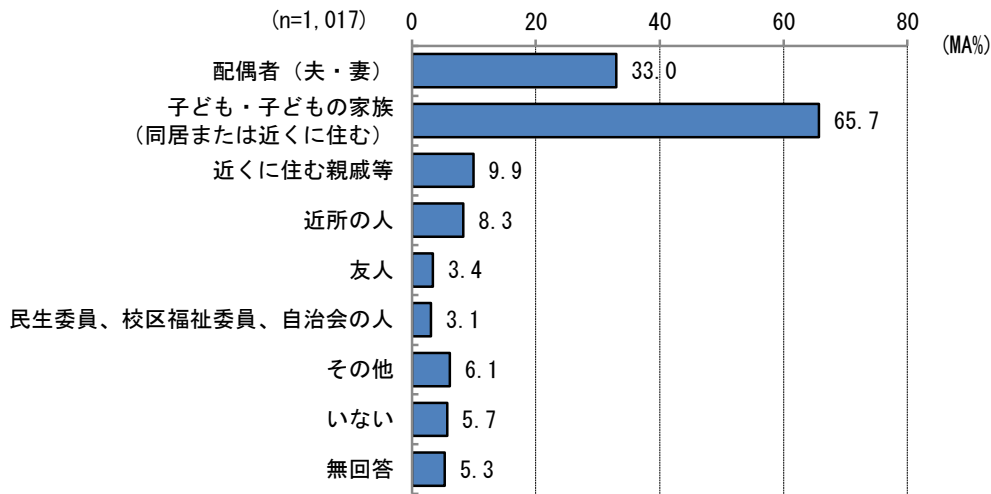
問24 自宅で暮らし続けるためには、医療においてどのような支援が必要ですか（○はいくつでも）



自宅で暮らし続けるために医療において必要な支援は、「かかりつけ医との連携」が56.2%と最も多く、次いで、「訪問診療」が31.6%となっています。

〔9〕緊急時に身近に頼ることのできる人

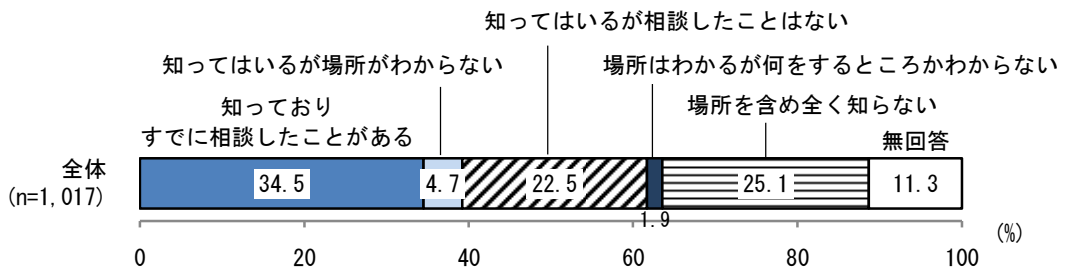
問25 緊急時など何かあったときに、身近に頼ることのできる人がいますか  
（○はいくつでも）



緊急時など何かあったときに、身近に頼ることのできる人がいるかについては、「子ども・子どもの家族（同居または近くに住む）」が 65.7%と最も多く、次いで、「夫・妻」が 33.0%となっています。

〔10〕「地域包括支援センター」の認知

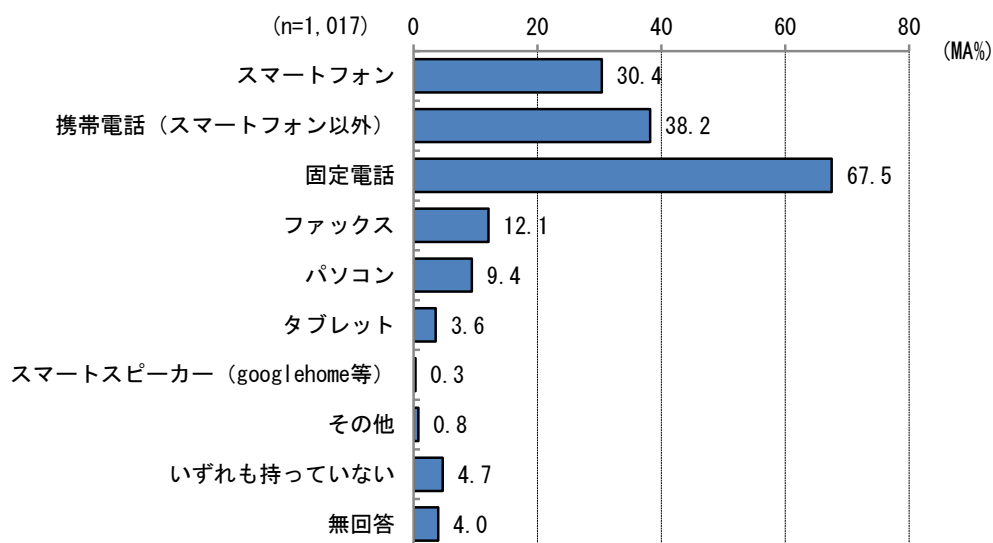
問26 高齢者の総合相談窓口である「地域包括支援センター」について知っていますか（1つに○）



「地域包括支援センター」について『知っている』と回答した人は合わせて 61.7%で、そのうち、「知っているが相談したことがある」が 34.5%、「知っているが相談したことはない」が 22.5%となっています。一方、「場所を含め全く知らない」は 25.1%となっています。

〔11〕 所有している通信機器・デジタル機器

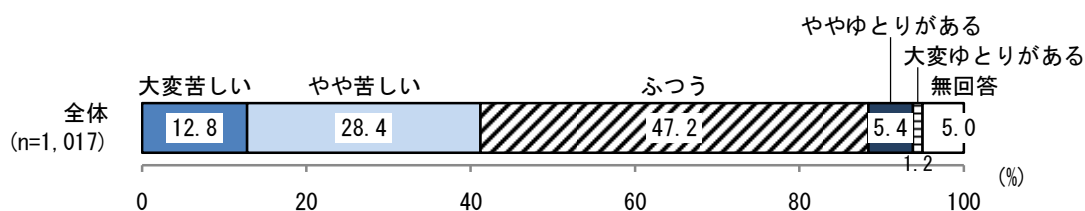
問27 ご自分またはご自宅用でお持ちの通信機器・デジタル機器は何ですか。（〇はいくつでも）



所有している通信機器・デジタル機器については、「固定電話」が 67.5%と最も多く、次いで、「携帯電話（スマートフォン以外）」が 38.2%、「スマートフォン」が 30.4%となっています。

〔12〕 現在の暮らしの経済状況について

問28 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（1つに〇）

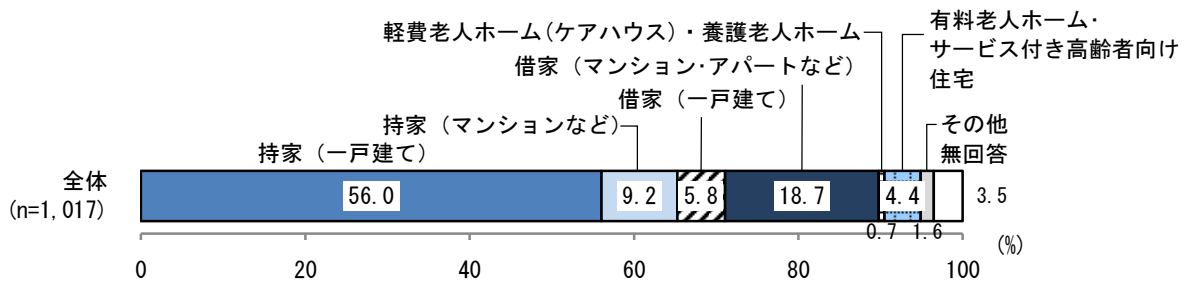


現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるかについては、「ふつう」が 47.2%と約半数を占め、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は 41.2%、「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』は 6.6%となっています。



〔13〕現在の住まい

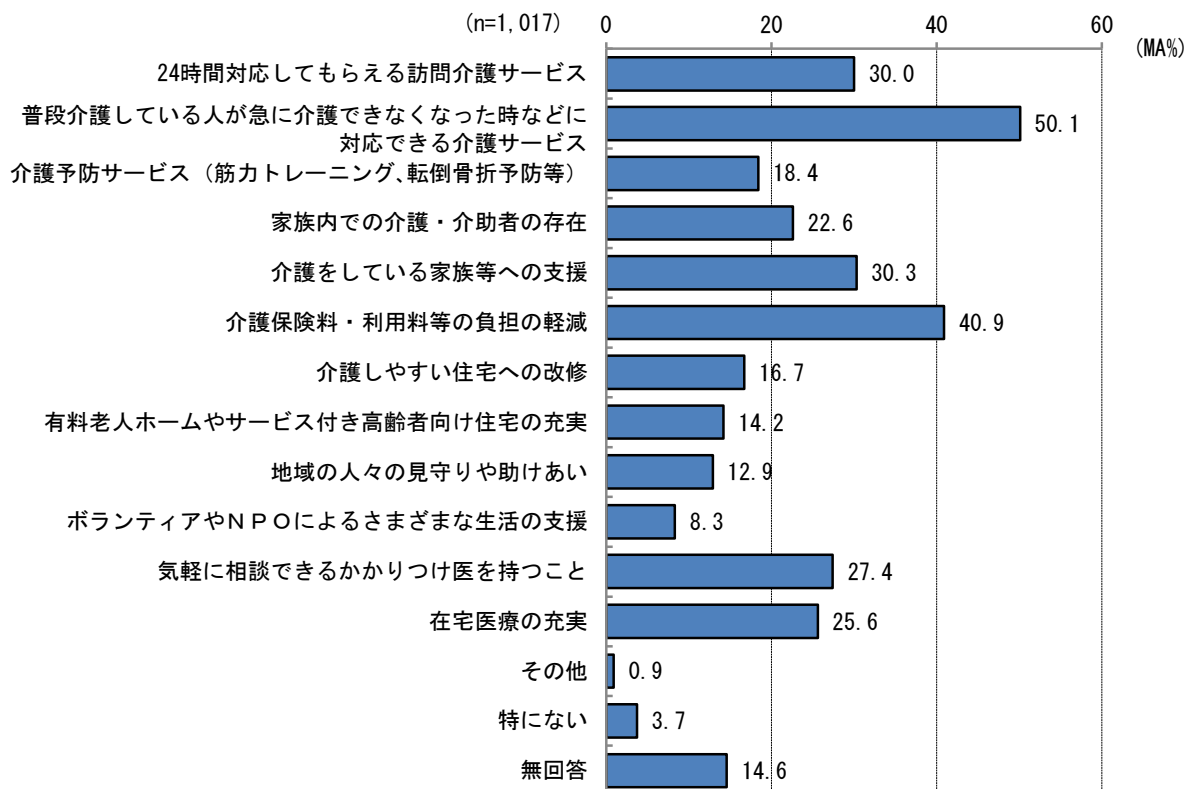
問29 現在のお住まいをお教えてください（1つに○）



現在の住まいの状況については、「持家（一戸建て）」が 56.0%と最も多く、次いで、「借家（マンション・アパートなど）」が 18.7%となっています。

〔14〕 高齢者が自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、必要だと思うこと

問30 高齢者ができる限りご自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、あなたは、特にどのようなことが必要だと思いますか（〇はいくつでも）

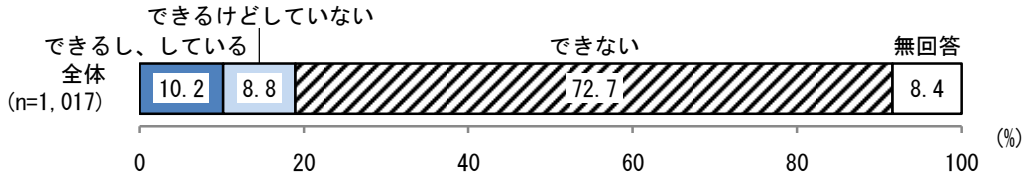


高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと思うことについては、「普段介護している人が急に介護できなくなった時などに対応できる介護サービス」が50.1%と最も多く、次いで、「介護保険料・利用料等の負担の軽減」が40.9%となっています。

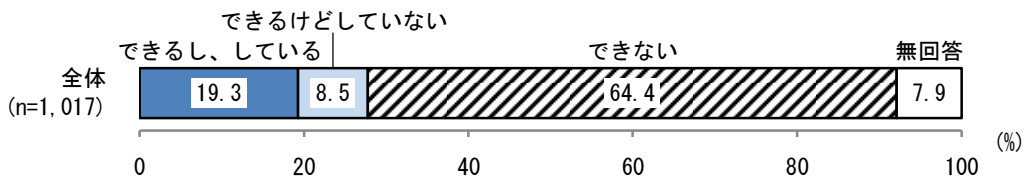
### 3 からだを動かすことについて

#### 〔1〕運動の状況

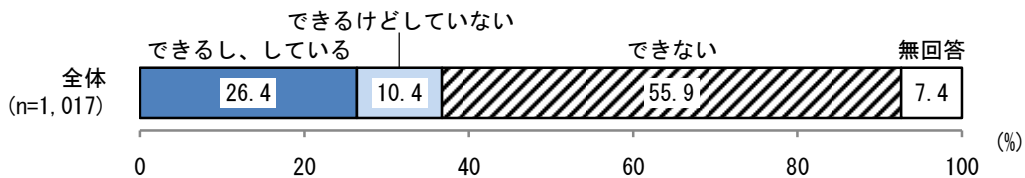
問31-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（1つに○）



問31-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（1つに○）



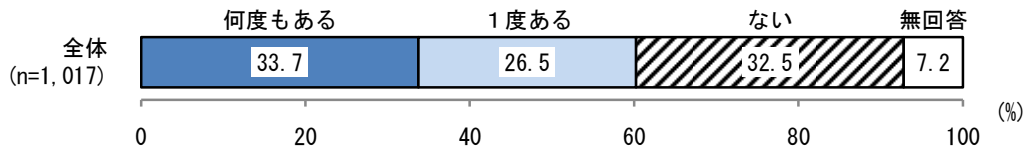
問31-3 15分位続けて歩いていますか（1つに○）



運動に関する状況についてみると、どの項目も「できない」が多く、とくに、「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」については、7割以上が「できない」と回答しています。

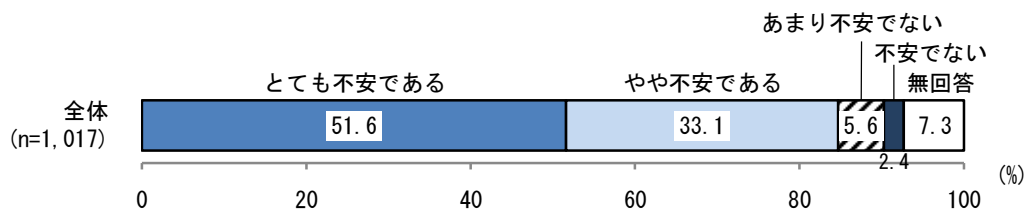
〔2〕 転倒について

問31-4 過去1年間に転んだ経験がありますか（1つに○）



過去1年間の転んだ経験については、「何度もある」と「1度ある」を合わせた『ある』が60.2%、「ない」が32.5%となっています。

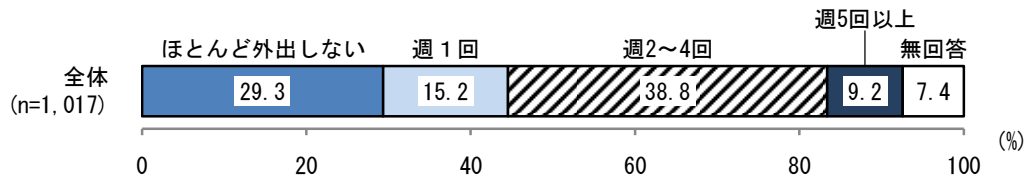
問31-5 転倒に対する不安は大きいですか（1つに○）



転倒に対する不安については、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』が84.7%と、8割以上の方が不安を持っています。

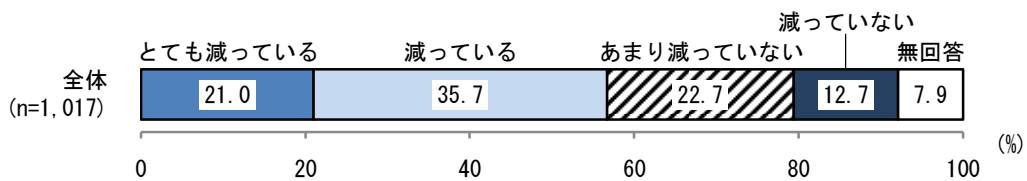
〔3〕 外出の状況

問31-6 週に1回以上は外出していますか（1つに○）



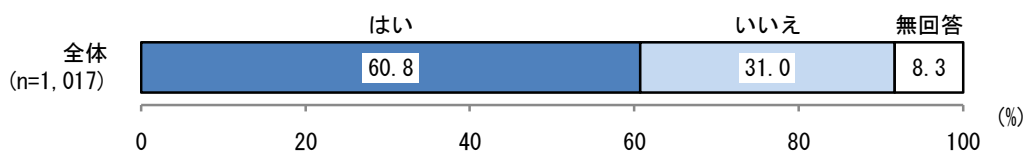
外出の頻度については、「週2～4回」が38.8%と最も多く、次いで、「ほとんど外出しない」が29.3%、「週1回」が15.2%、「週5回以上」が9.2%となっています。

問31-7 昨年と比べて外出の回数が減っていますか（1つに○）



昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』が56.7%、「減っていない」と「あまり減っていない」を合わせた『減っていない』が35.4%となっています。

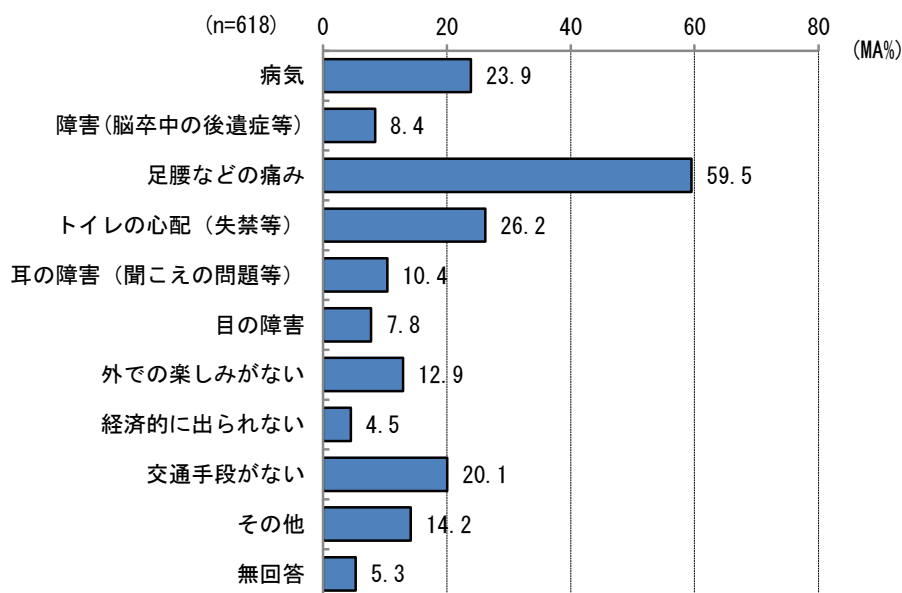
問31-8 外出を控えていますか（1つに○）



外出を控えているかについては、「はい」が60.8%、「いいえ」が31.0%となっています。

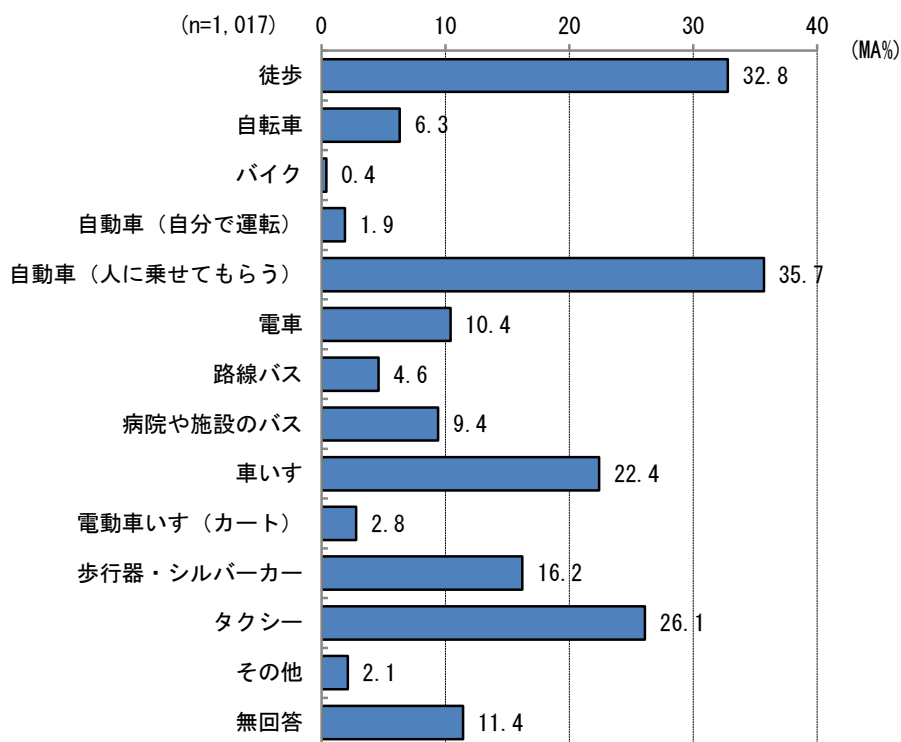
【問31-8で「1. はい」（外出を控えている）の方のみ】

問31-8-1 外出を控えている理由は、次のどれですか（〇はいくつでも）



外出を控えている人に、その理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」が 59.5%と最も多く、次いで、「トイレの心配（失禁等）」が 26.2%、「病気」が 23.9%となっています。

問31-9 外出する際の移動手段は何ですか（〇はいくつでも）



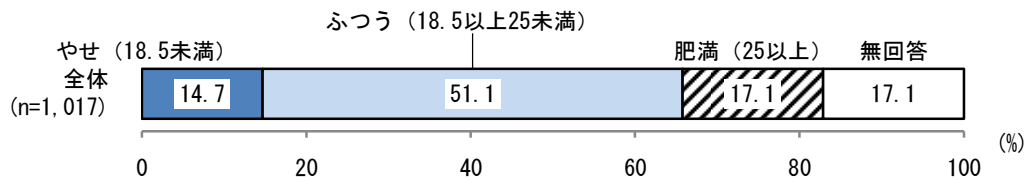
外出する際の移動手段は、「自動車（人に乗せてもらう）」が 35.7%と最も多く、次い

で、「徒歩」が32.8%、「タクシー」が26.1%、「車いす」が22.4%となっています。

## 4 食べることについて

### 〔1〕身長・体重

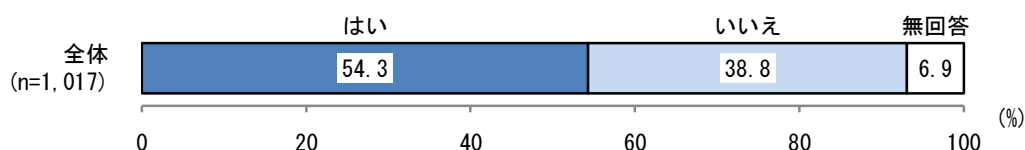
問32-1 身長・体重についてご記入下さい ※小数点以下は四捨五入



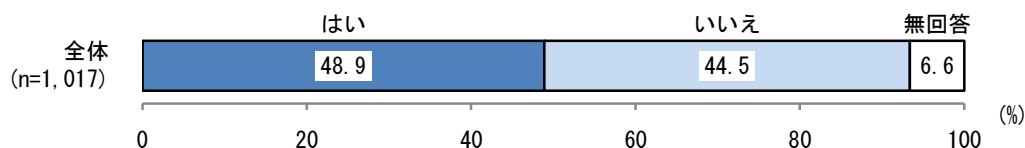
身長・体重から算出したBMI値の分類については、「ふつう（18.5以上25未満）」が51.1%と最も多く、次いで、「肥満（25以上）」が17.1%、「やせ（18.5未満）」が14.7%となっています。

〔2〕口腔内の状況

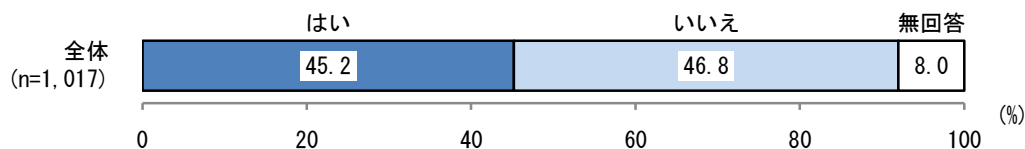
問32-2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（1つに○）



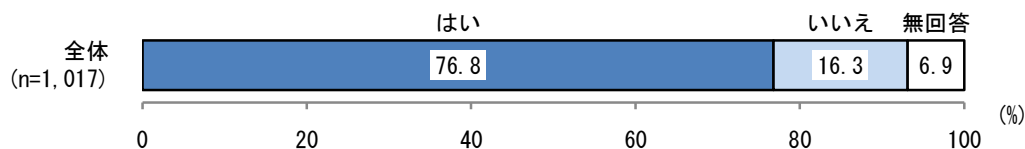
問32-3 お茶や汁物等でむせることがありますか（1つに○）



問32-4 口の渇きが気になりますか（1つに○）



問32-5 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日1回以上はしていますか（1つに○）

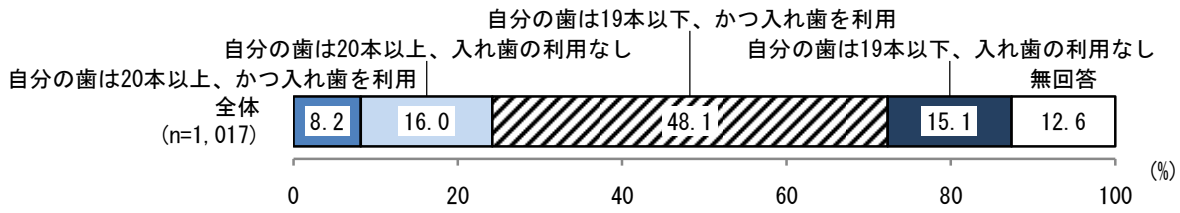


口腔内の状態についてみると、半年前に比べて固いものが食べにくくなったか、お茶や汁物等でむせることがあるか、口の渇きが気になるかのいずれも「はい」が5割前後となっています。

歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日1回以上はしているかについては、「はい」が76.8%と多くなっています。

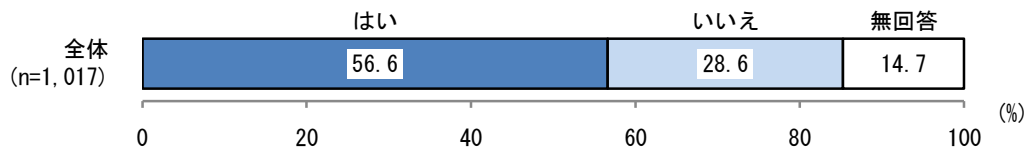


問32-6 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（1つに○）  
 ※成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です



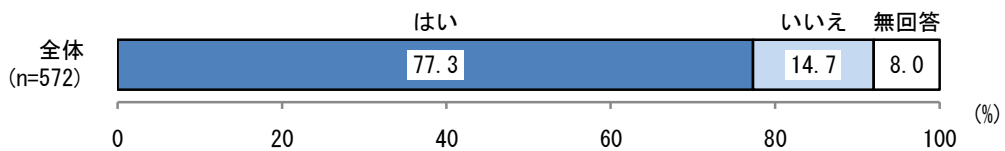
歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が48.1%と最も多く、次いで、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が16.0%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が15.1%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が8.2%で、入れ歯利用者は合計56.3%となっています。

問32-6-① 噛み合わせは良いですか（1つに○）



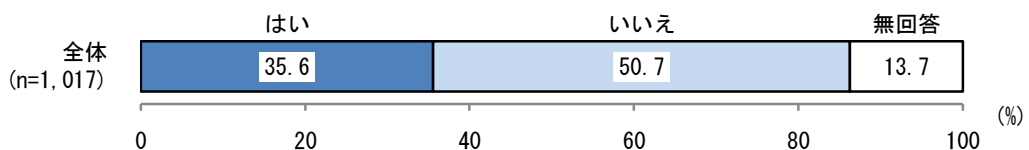
【問32-6で「1」「3」（入れ歯を利用）の方のみ】

問32-6-② 毎日入れ歯の手入れをしていますか（1つに○）



噛み合わせは良いかについては、「はい」が56.6%、毎日入れ歯の手入れをしているかについては、「はい」が77.3%と多くなっています。

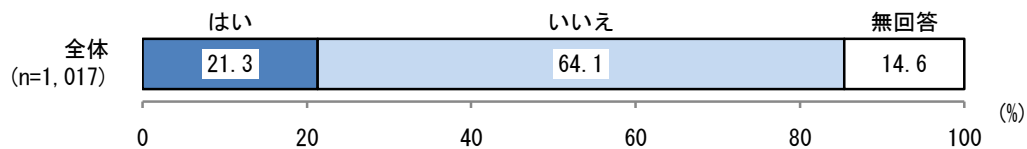
問32-7 定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか（1つに○）



定期的に歯科受診（健診を含む）しているかについては、「はい」が35.6%となっています。

〔3〕 体重減少について

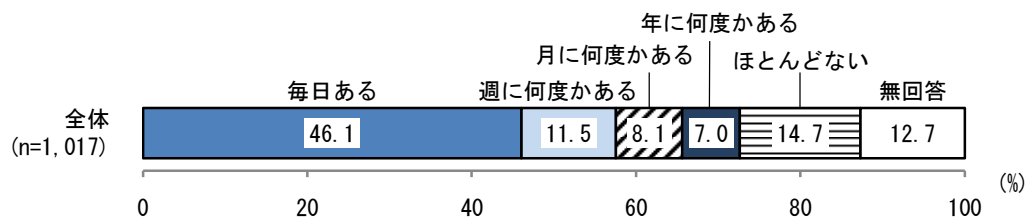
問32-8 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか（1つに○）



6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が21.3%、「いいえ」が64.1%となっています。

〔4〕 共食の頻度

問32-9 どなたかと食事をとにもする機会がありますか（1つに○）

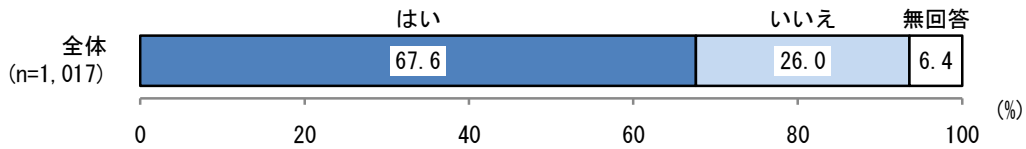


誰かと食事をとにもする機会はあるかについては、「毎日ある」が46.1%と最も多く、次いで、「ほとんどない」が14.7%、「週に何度かある」が11.5%となっています。

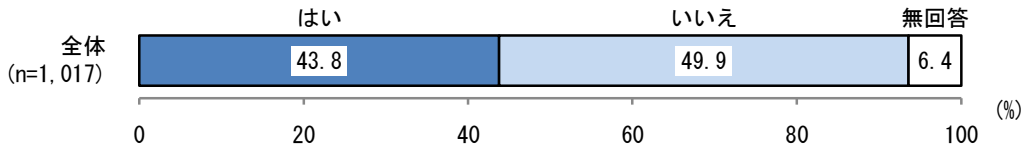
## 5 毎日の生活について

### 〔1〕物忘れの状況

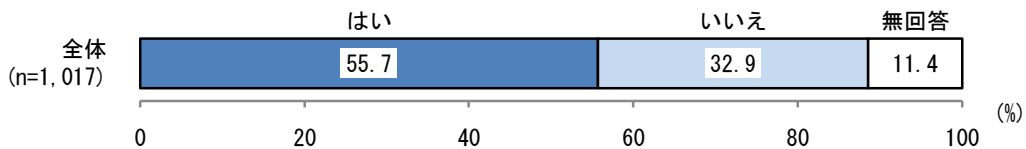
問33-1 物忘れが多いと感じますか（1つに○）



問33-2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（1つに○）



問33-3 今日が何月何日かわからない時がありますか（1つに○）



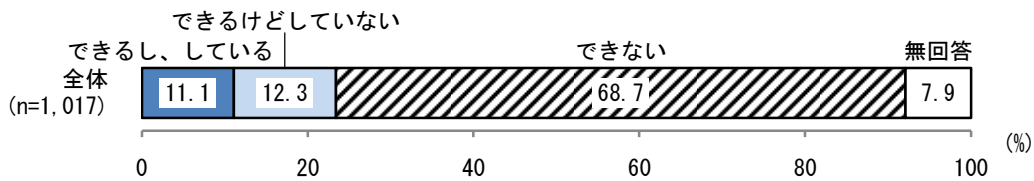
物忘れの状況についてみると、物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が 67.6% となっています。

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについては、「はい」が 43.8%、「いいえ」が 49.9%となっています。

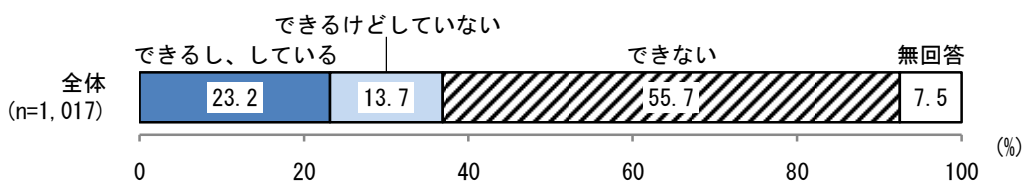
今日が何月何日かわからない時があるかについては、「はい」が 55.7%、「いいえ」が 32.9%となっています。

〔2〕日常生活の状況

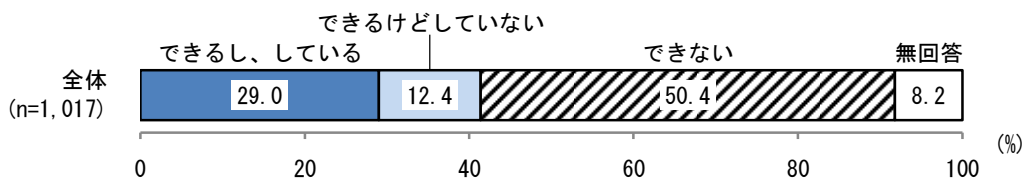
問33-4 バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（1つに○）



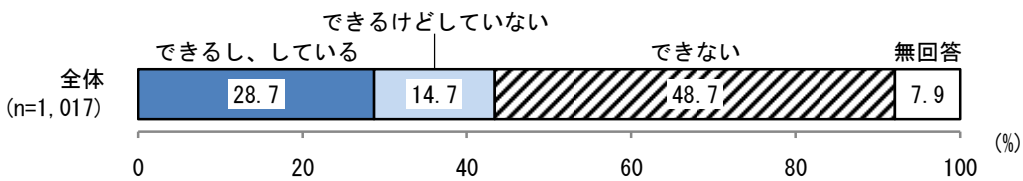
問33-5 自分で食品・日用品の買物をしていますか（1つに○）



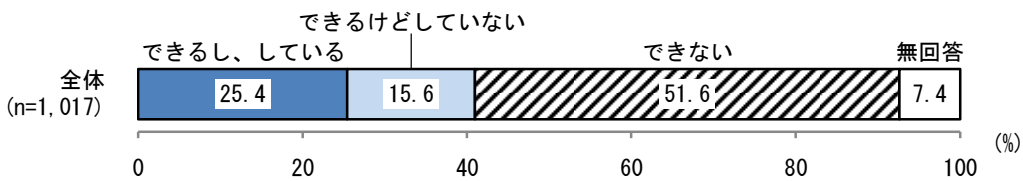
問33-6 自分で食事の用意をしていますか（1つに○）



問33-7 自分で請求書の支払いをしていますか（1つに○）



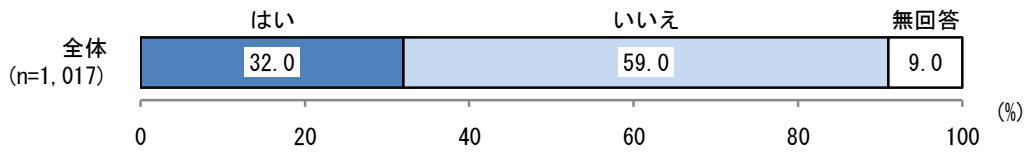
問33-8 自分で預貯金の出し入れをしていますか（1つに○）



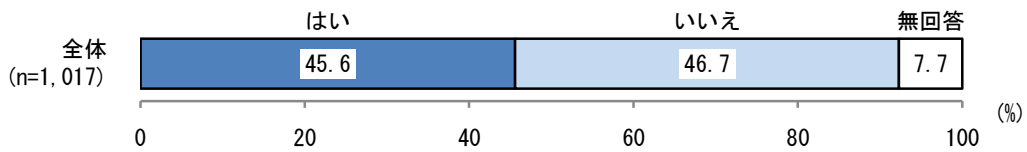
日常生活の状況についてみると、どの項目についても、半数以上の人「できない」と回答しています。とくに、バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できない」が68.7%と、他の項目に比べて多くなっています。

〔3〕 社会参加の状況

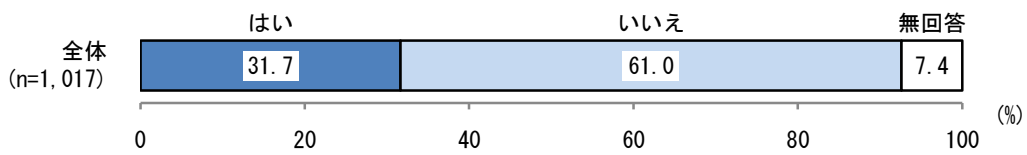
問33-9 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（1つに○）



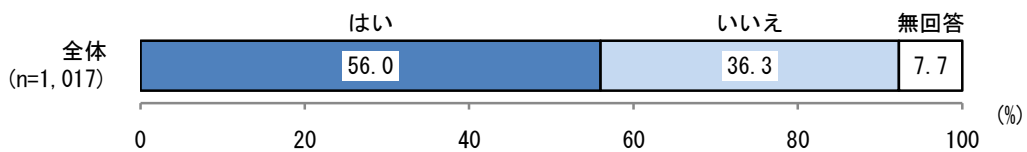
問33-10 新聞を読んでいますか（1つに○）



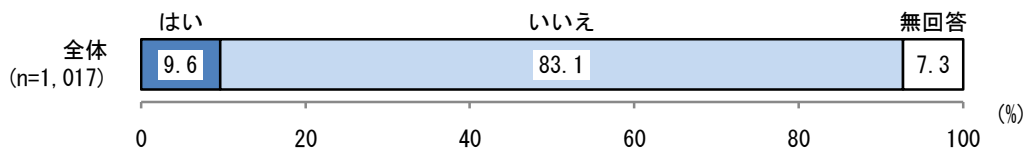
問33-11 本や雑誌を読んでいますか（1つに○）



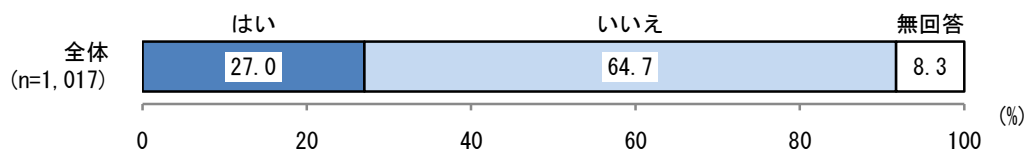
問33-12 健康についての記事や番組に関心がありますか（1つに○）



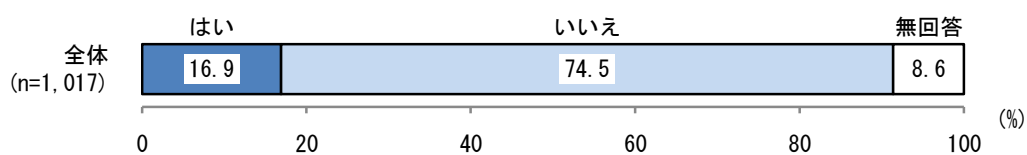
問33-13 友人の家を訪ねていますか（1つに○）



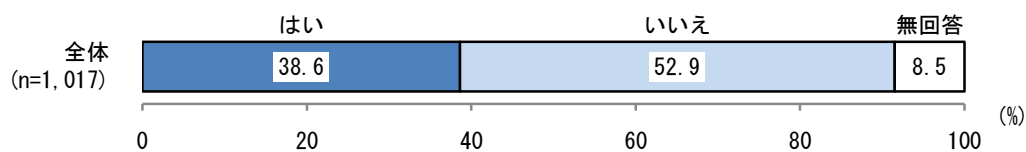
問33-14 家族や友人の相談にのっていますか（1つに○）



問33-15 病人を見舞うことができますか（1つに○）



問33-16 若い人に自分から話しかけることがありますか（1つに○）

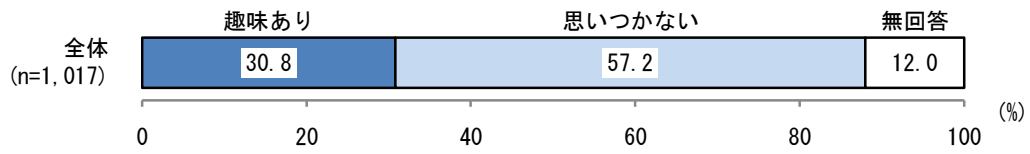


社会参加の状況についてみると、健康についての記事や番組に関心があるか、新聞を読んでいるかで「はい」が4～5割と比較的多くなっています。

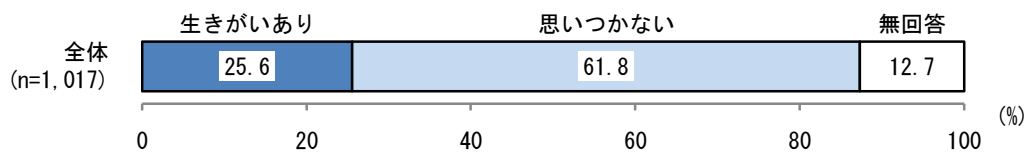
一方、友人の家を訪ねているかでは8割、病人を見舞うことができるかでは7割の人が「いいえ」と回答しています。

〔4〕 趣味や生きがいについて

問33-17 趣味はありますか（1つに○）



問33-18 生きがいはありますか（1つに○）

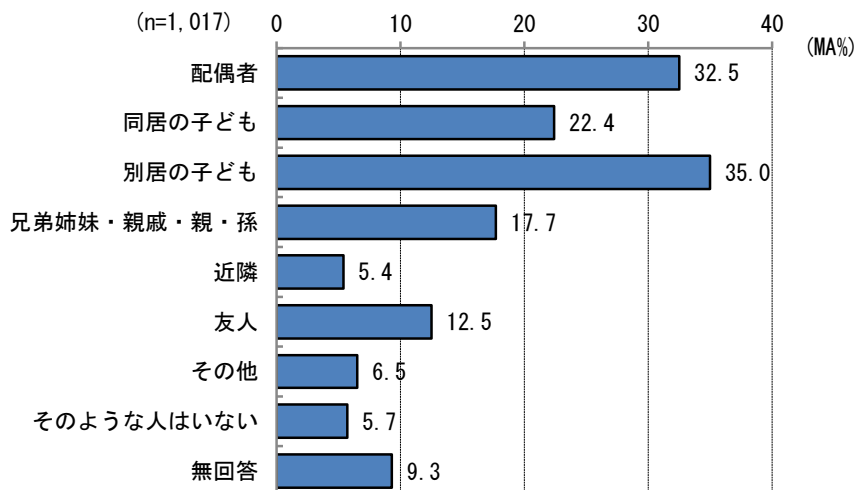


趣味や生きがいについてみると、「趣味あり」は30.8%、「生きがいあり」は25.6%となっています。

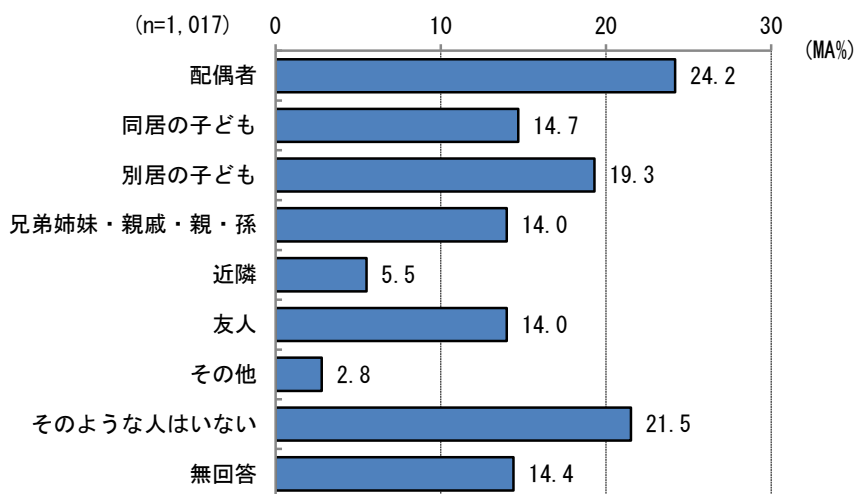
## 6 あなたとまわりの人の「たすけあい」について

### 〔1〕まわりの人とのたすけあいの状況

問34-1 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）



問34-2 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

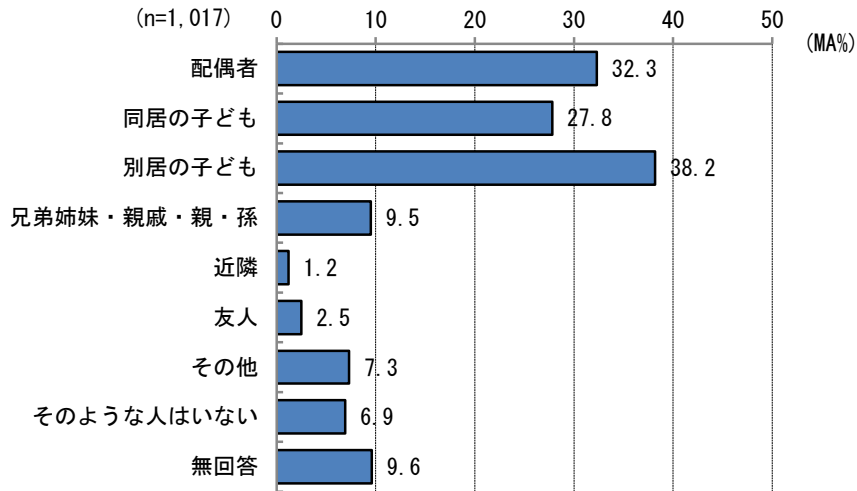


心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「別居の子ども」が 35.0%と最も多く、次いで、「配偶者」が 32.5%となっています。

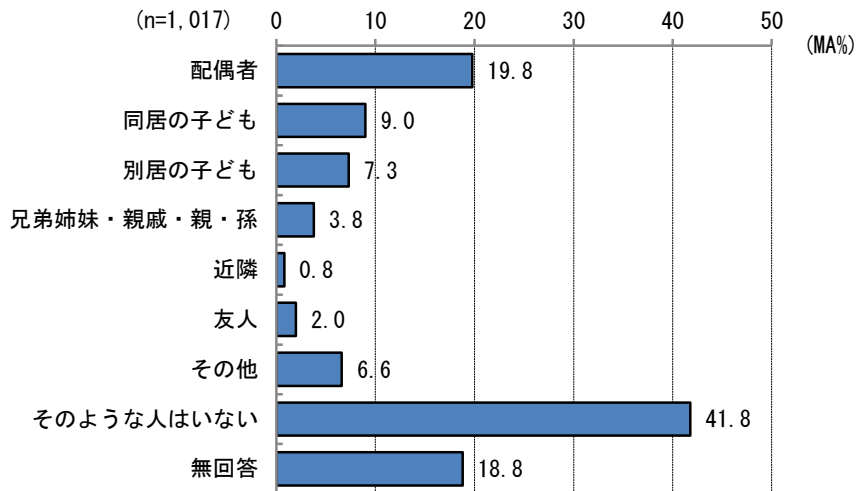
心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」が 24.2%と最も多く、次いで、「別居の子ども」が 19.3%となっています。一方で、「そのような人はいない」も 21.5%みられます。



問34-3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）



問34-4 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

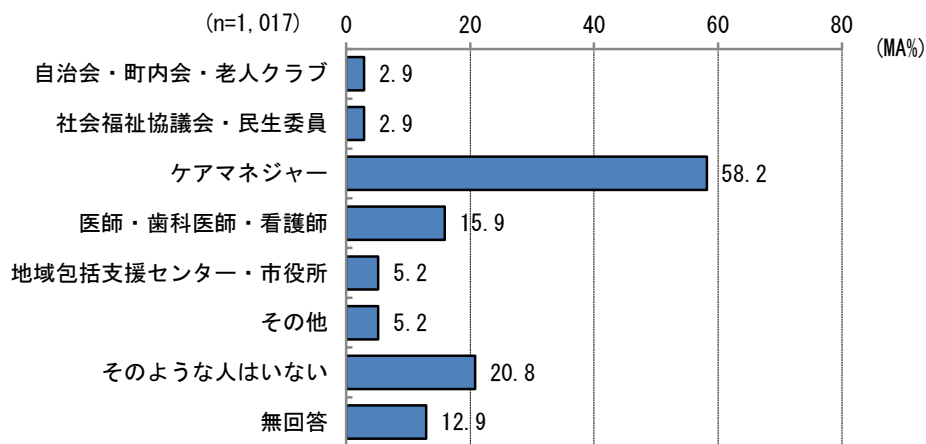


病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は、「別居の子ども」が38.2%と最も多く、次いで、「配偶者」が32.3%、「同居の子ども」が27.8%となっています。

看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」が19.8%、「同居の子ども」が9.0%となっています。一方で、「そのような人はいない」が41.8%と最も多くなっています。

〔2〕 家族や友人・知人以外の相談先

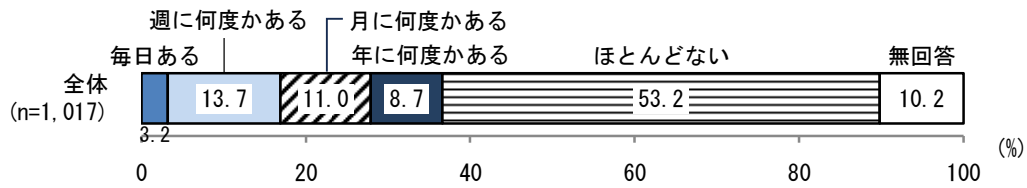
問34-5 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）



家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、「ケアマネジャー」が 58.2%と最も多く、次いで、「医師・歯科医師・看護師」が 15.9%となっています。一方で、「そのような人はいない」も 20.8%みられます。

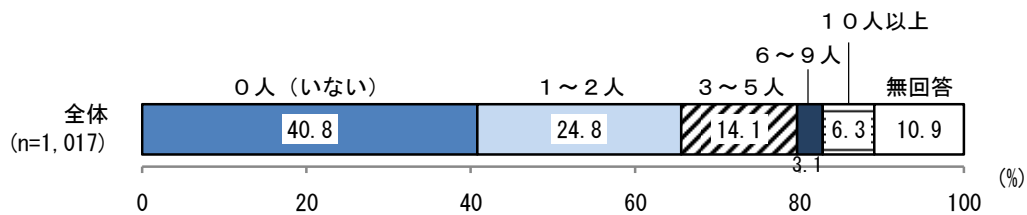
〔3〕交友関係

問34-6 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（1つに○）



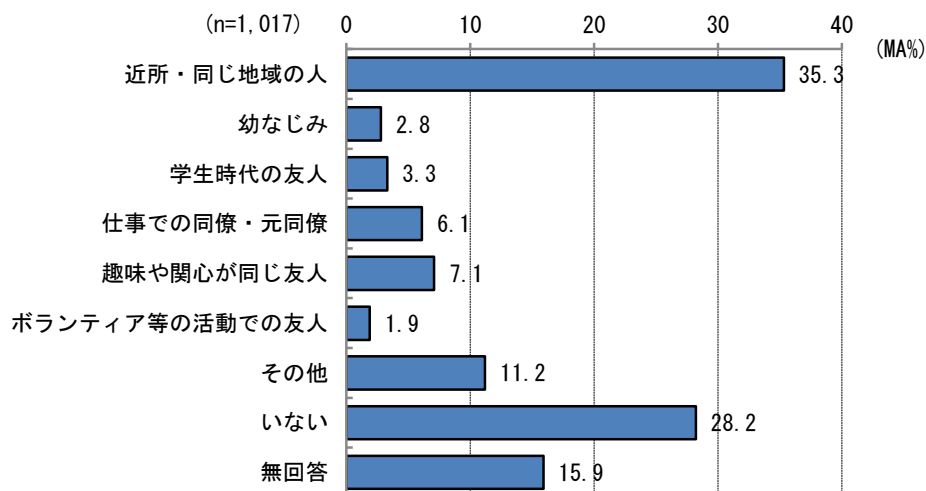
友人・知人と会う頻度については、「ほとんどない」が 53.2%と最も多く、次いで、「週に何度かある」が 13.7%、「月に何度かある」が 11.0%となっています。

問34-7 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか（1つに○）  
※同じ人には何度会っても一人と数えることとします



この1か月間に会った友人・知人の数については、「0人（いない）」が 40.8%と最も多く、次いで、「1～2人」が 24.8%、「3～5人」が 14.1%となっています。

問34-8 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）

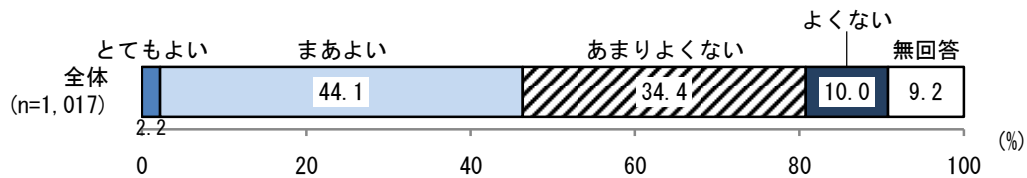


よく会う友人・知人との関係については、「近所・同じ地域の人」が 35.3%と最も多く、「いない」も 28.2%みられます。

## 7 健康について

### 〔1〕現在の健康状態

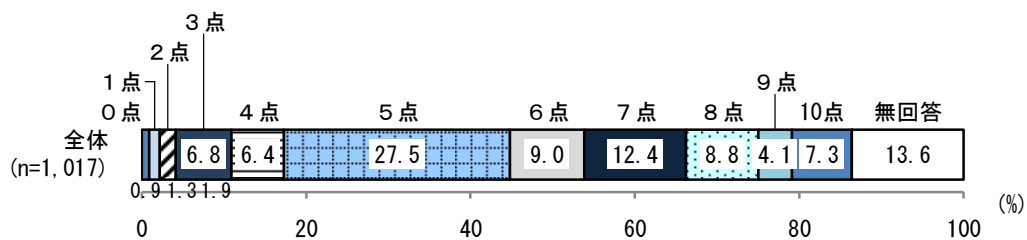
問35-1 現在のあなたの健康状態はいかがですか（1つに○）



現在の健康状態については、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』が 46.3%、「よくない」と「あまりよくない」を合わせた『よくない』が 44.4%となっています。

### 〔2〕現在の幸せ度

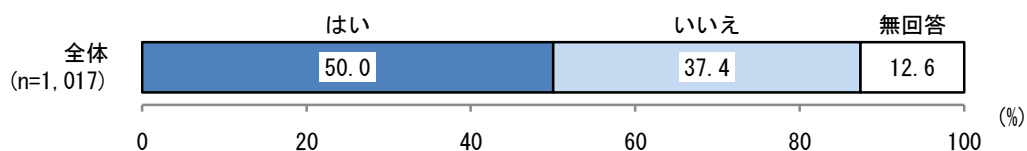
問35-2 あなたは、現在どの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、あてはまる点数を○で囲んでください。



現在の幸せ度を10点満点で評価してもらったところ、「5点」と回答した方が 27.5%と最も多く、次いで、「7点」が 12.4%となっています。

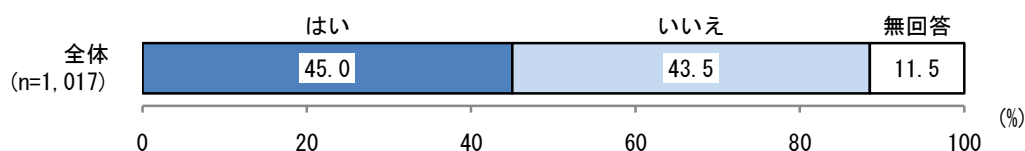
〔3〕 この1か月の心の状況

問35-3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（1つに○）



この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりしたかについては、「はい」が50.0%、「いいえ」が37.4%となっています。

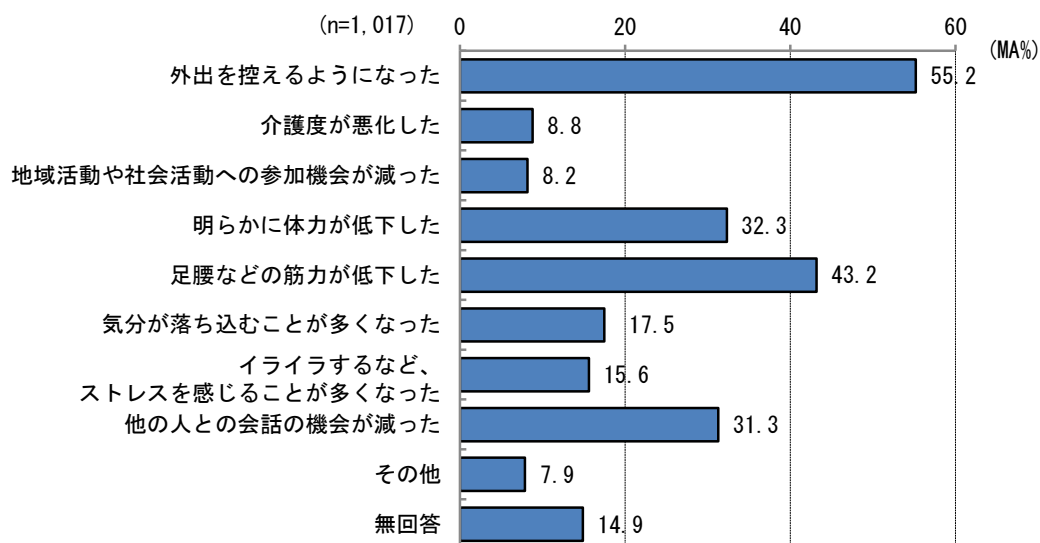
問35-4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（1つに○）



この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかについては、「はい」が45.0%、「いいえ」が43.5%となっています。

〔4〕新型コロナウイルス感染症の影響

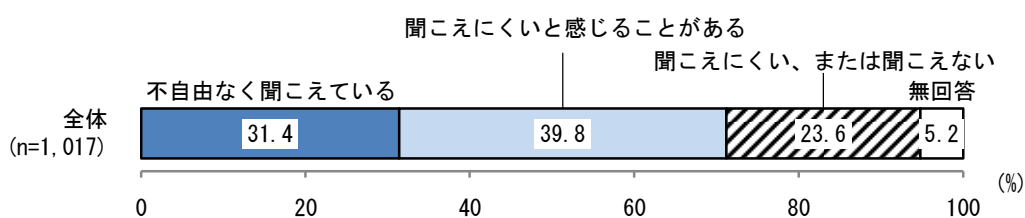
問35-5 あなたは新型コロナウイルス感染症の影響により、以下のような変化はありましたか（〇はいくつでも）



新型コロナウイルス感染症の影響については、「外出を控えるようになった」が55.2%と最も多く、次いで、「足腰などの筋力が低下した」が43.2%となっています。

〔5〕耳の聞こえの状況

問35-6 ご自身の耳の聞こえの状況について教えてください（1つに〇）

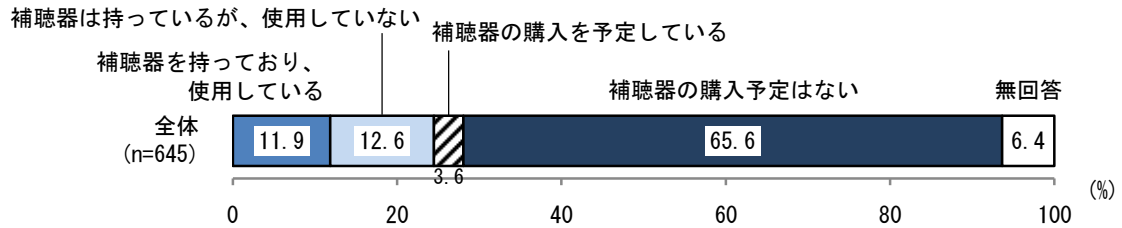


耳の聞こえの状況については、「聞こえにくいと感じることがある」と「聞こえにくい、または聞こえない」を合わせた『聞こえにくい』が63.4%となっています。

〔6〕補聴器について

【問35-6で「2.聞こえにくいと感じることがある」または「3.聞こえにくい、または聞こえない」と回答された方のみ】

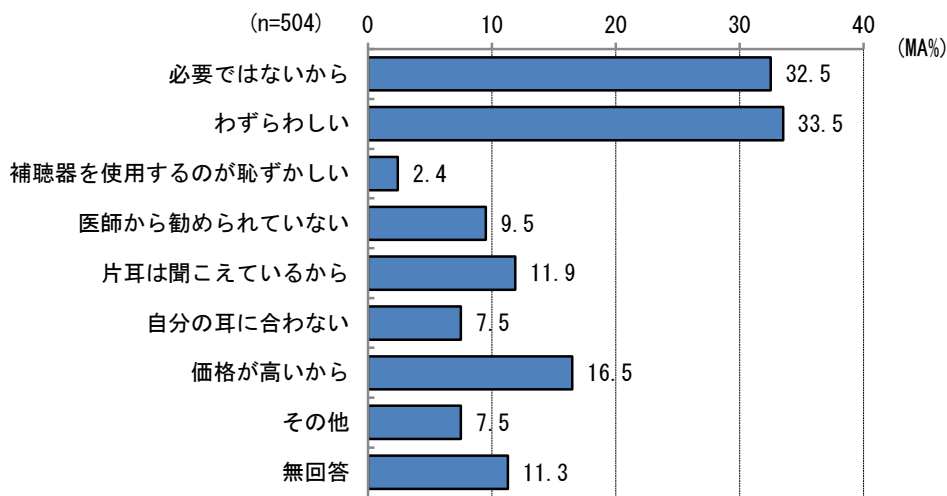
問35-6-1 補聴器の使用・所有状況について教えてください（1つに○）



補聴器の使用・保有状況について、「補聴器の購入予定はない」が65.6%と最も多くなっています。

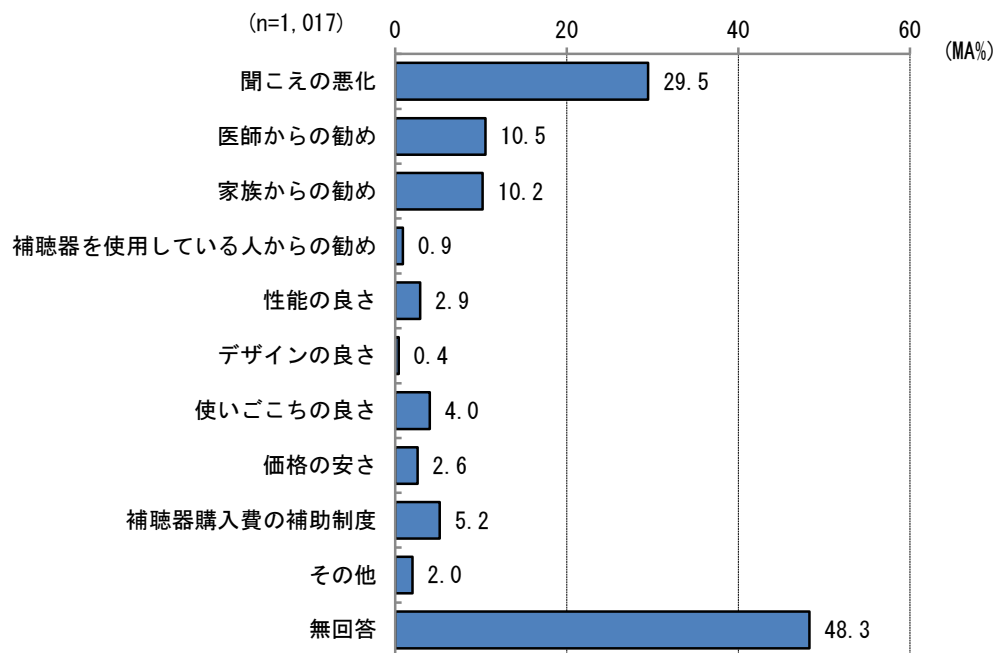
【問35-6-1で「2.補聴器を持っているが、使用していない」または「4.補聴器の購入予定はない」と回答された方のみ】

問35-6-2 補聴器を持っていないまたは使用していない理由は何ですか（○はいくつでも）



補聴器を持っていないまたは使用していない理由をたずねたところ、「わずらわしい」が33.5%と最も多く、次いで、「必要ではないから」が32.5%、「価格が高いから」が16.5%となっています。

問35-7 補聴器を購入した、または購入するとすれば、そのきっかけはなんですか  
（1つに○）



※回答の重複が多数みられたため、複数回答（MA%）として集計した。

補聴器を購入した、または購入するきっかけをたずねたところ、「聞こえの悪化」が29.5%と最も多く、次いで、「医師からの勧め」が10.5%、「家族からの勧め」が10.2%となっています。

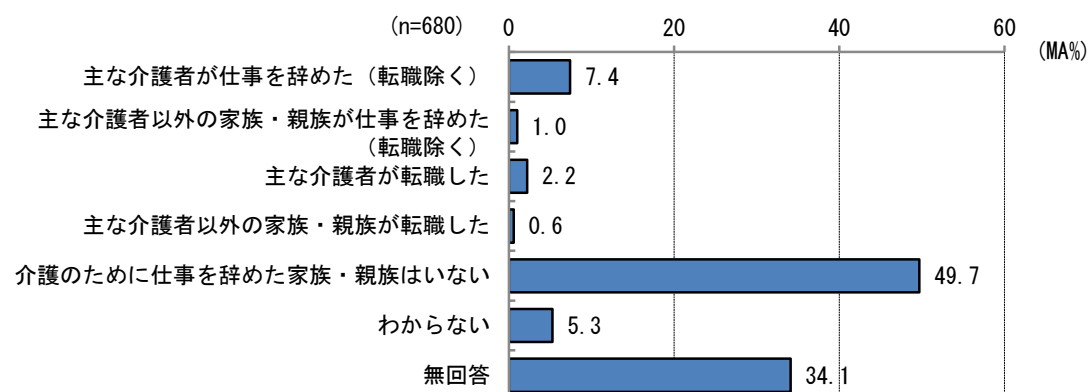


## Ⅱ-2-② 在宅介護実態調査・B票（介護者アンケート）

### 1 介護者の属性

#### 〔1〕 介護を理由に仕事を辞めた家族・親族の有無

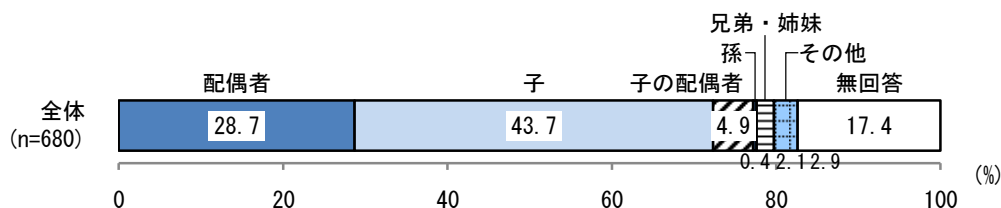
問1 ご家族やご親族の中で、宛名のご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（○はいくつでも）



家族や親族の中で、介護を主な理由として過去1年の間に仕事を辞めた方の有無については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が49.7%と最も多く、次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が7.4%となっています。

〔2〕 主な介護者

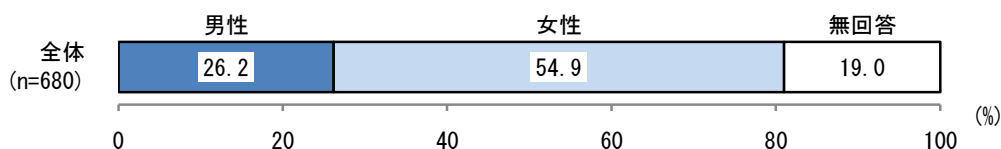
問2 主な介護者の方は、どなたですか（1つに○）



主な介護者は、「子」が43.7%と最も多く、次いで、「配偶者」が28.7%となっています。

〔3〕 主な介護者の性別

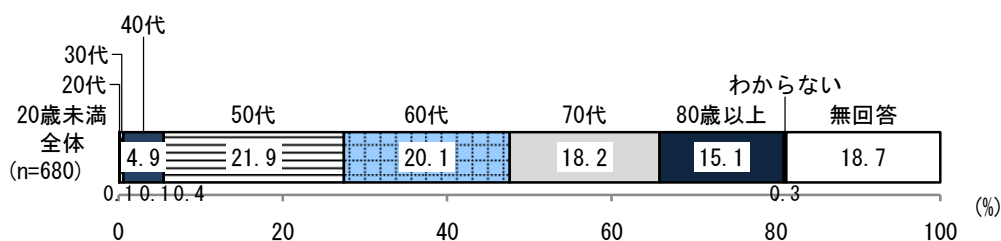
問3 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つに○）



主な介護者の性別は、「男性」が26.2%、「女性」が54.9%となっています。

〔4〕 主な介護者の年齢

問4 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つに○）



主な介護者の年齢は、「50代」が21.9%と最も多く、次いで、「60代」が20.1%、「70代」が18.2%、「80歳以上」が15.1%、「40代」が4.9%となっています。

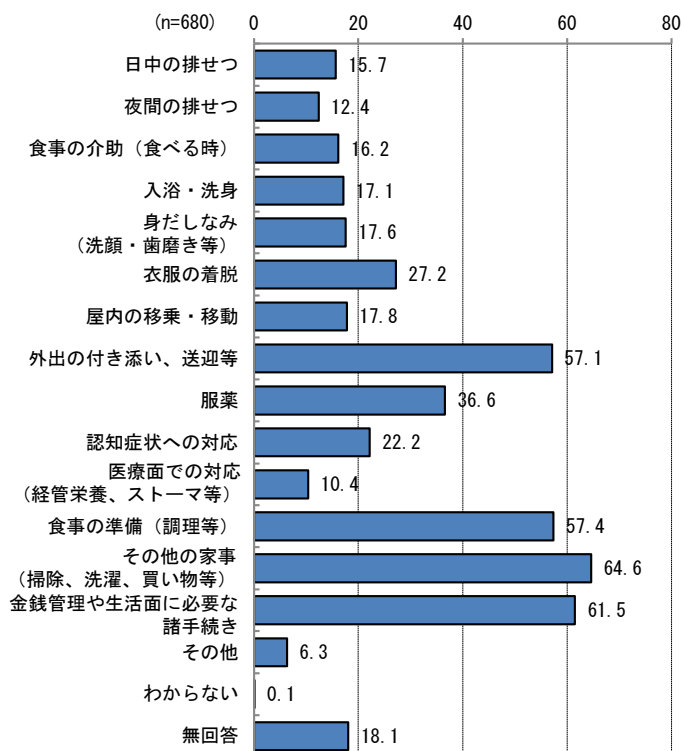
## 2 行っている介護等について

### 〔1〕 現在行っている介護・不安に感じる介護

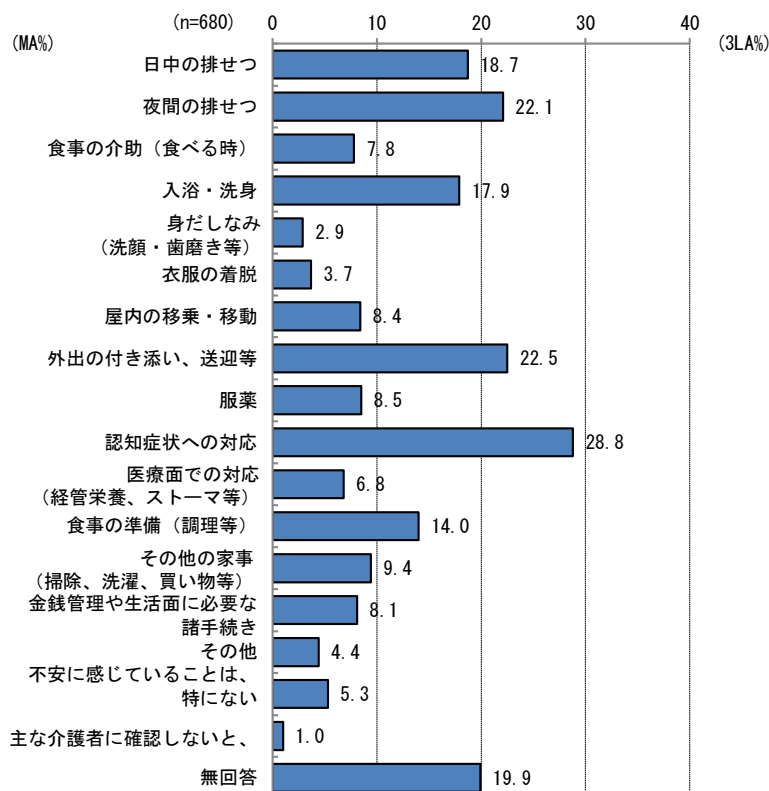
問5 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください  
（〇はいくつでも）

問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）  
（〇は3つまで）

【現在行っている介護】



【不安に感じる介護】



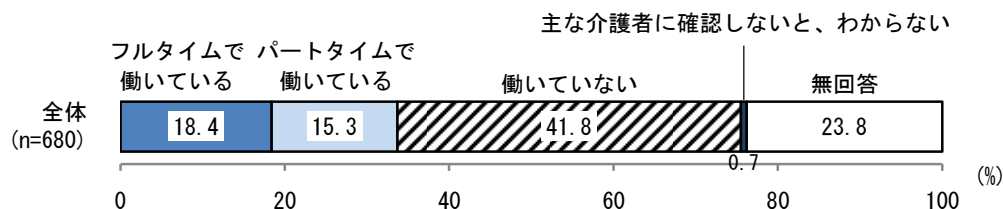
現在、主な介護者の方が行っている介護等は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 64.6%と最も多く、次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 61.5%、「食事の準備（調理等）」が 57.4%、「外出の付き添い、送迎等」が 57.1%となっています。

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等は、「認知症状への対応」が 28.8%と最も多く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」が 22.5%、「夜間の排せつ」が 22.1%となっています。

### 3 介護者の就業状況について

#### 〔1〕主な介護者の方の勤務形態

問7 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つに○）

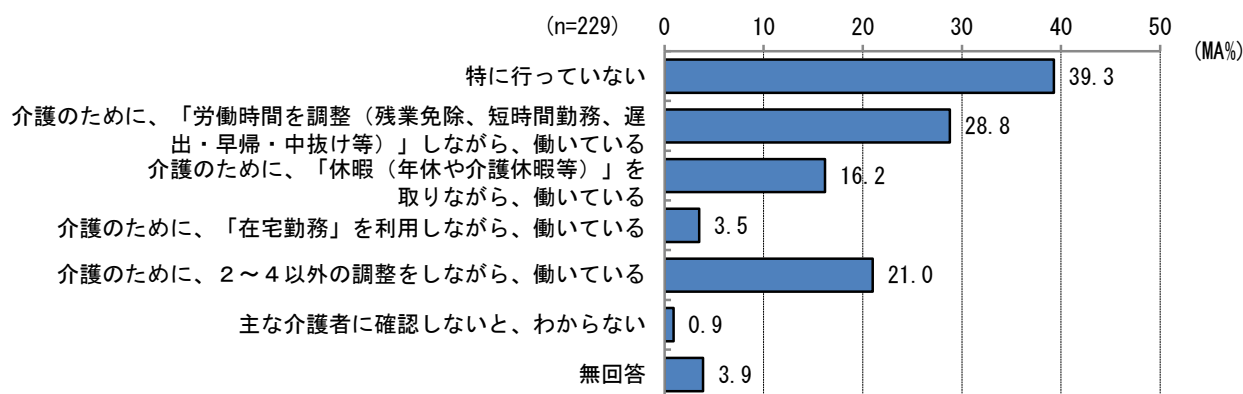


主な介護者の勤務形態については、「フルタイムで働いている」が18.4%、「パートタイムで働いている」が15.3%で、『働いている』の合計は33.7%、「働いていない」が41.8%となっています。

#### 〔2〕働き方の調整等をしているか

【問7で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

問8 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか（○はいくつでも）

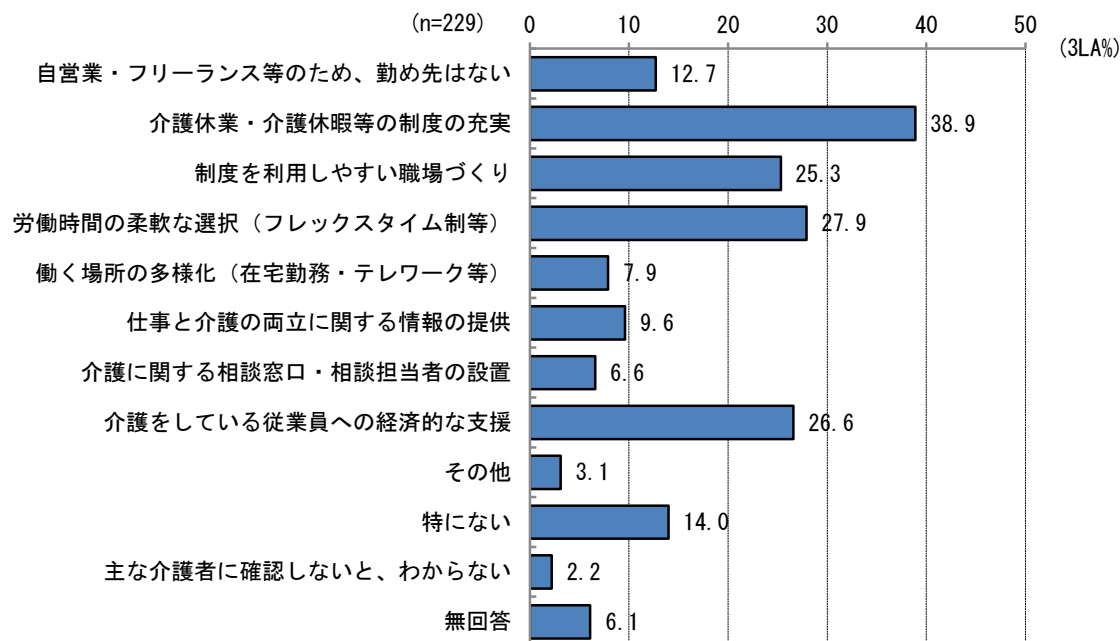


主な介護者が、介護をするにあたって、働き方の調整等をしているかについては、「特に行っていない」が39.3%と最も多く、次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が28.8%となっています。

### 〔3〕仕事と介護の両立に効果的な支援

【問7で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

問9 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（○は3つまで）

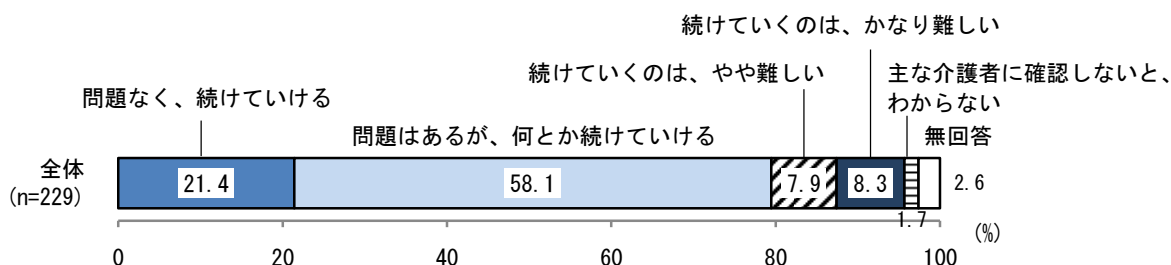


仕事と介護の両立に効果的な支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 38.9%と最も多く、次いで、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制等）」が 27.9%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 26.6%となっています。

### 〔4〕就業継続の可否

【問7で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

問10 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つに○）



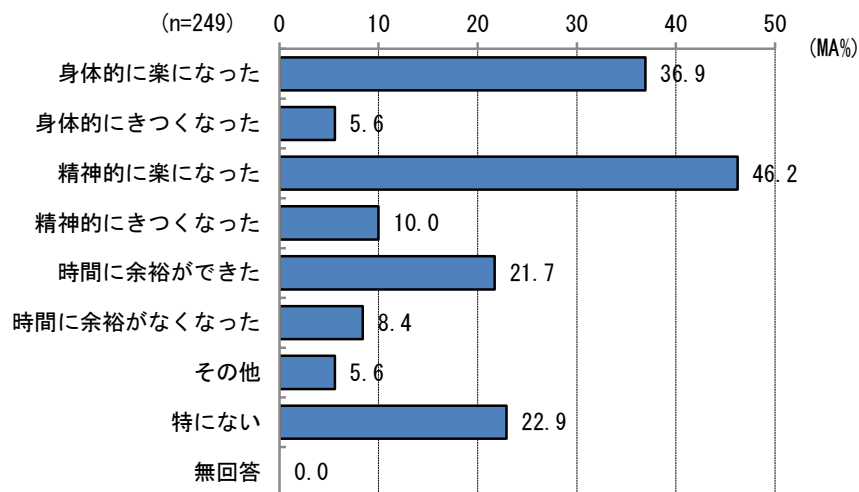
今後も働きながら介護を続けていけそうかについては、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた『続けていける』が 79.5%、「続けていくのは、かなり難しい」と「続けていくのは、やや難しい」を合わせた『続けていくのは難しい』が 16.2%となっています。

## 4 サービス利用について

### 〔1〕居宅サービスの利用による介護者の生活の変化

【居宅サービスを利用している方のみ】

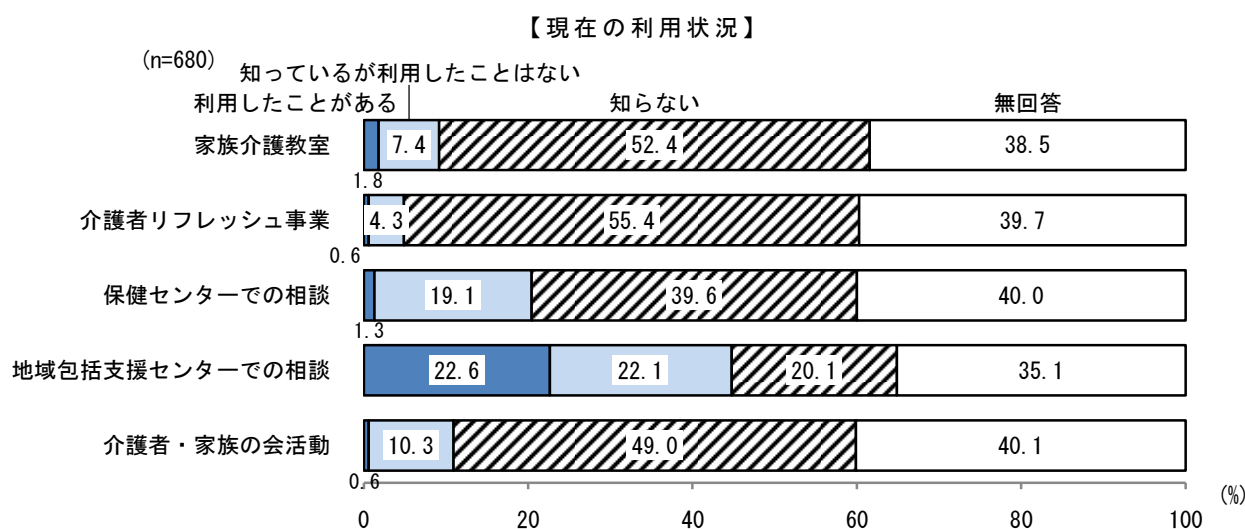
問11 居宅サービスを利用することで、主な介護者の生活にどのような変化がありましたか（〇はいくつでも）



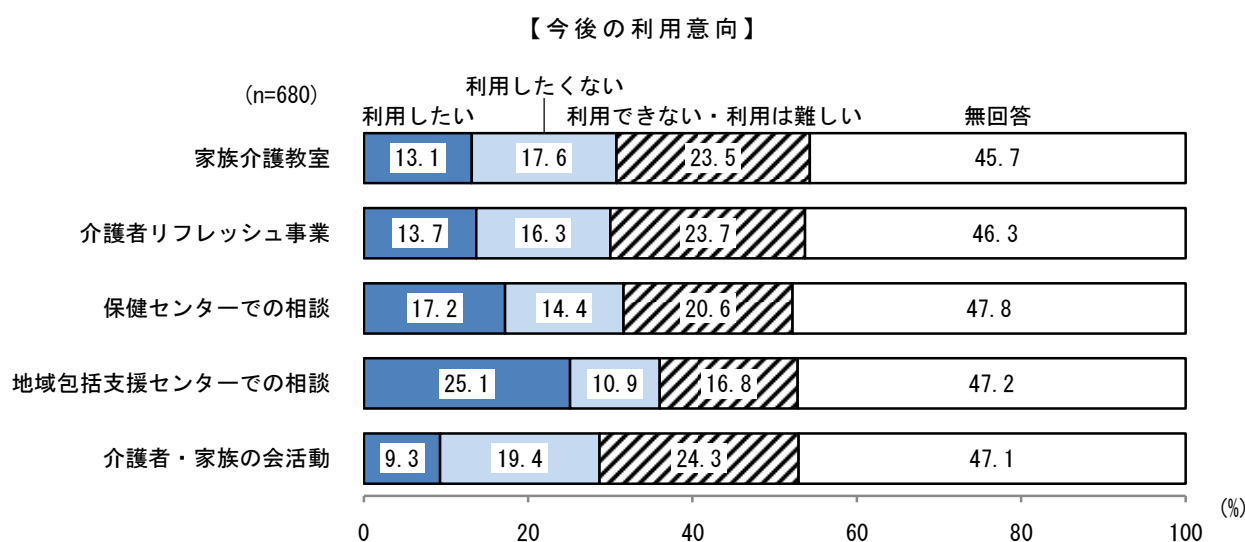
居宅サービスを利用することで、主な介護者の生活にどのような変化があったかについては、「精神的に楽になった」が46.2%と最も多く、次いで、「身体的に楽になった」が36.9%、「時間に余裕ができた」が21.7%となっています。

〔2〕 介護者向けのサービスや活動について

問12 下記の介護者向けサービスや活動についてご存知ですか。また、今後利用してみたいと思いますか（あてはまるものそれぞれ1つに○）



介護者向けのサービスや活動の現在の利用状況について、「利用したことがある」は「地域包括支援センターでの相談」で 22.6%みられますが、それ以外は2%以下と少なくなっています。また、「家族介護教室」、「介護者リフレッシュ事業」については、半数以上の人々が「知らない」と回答しています。

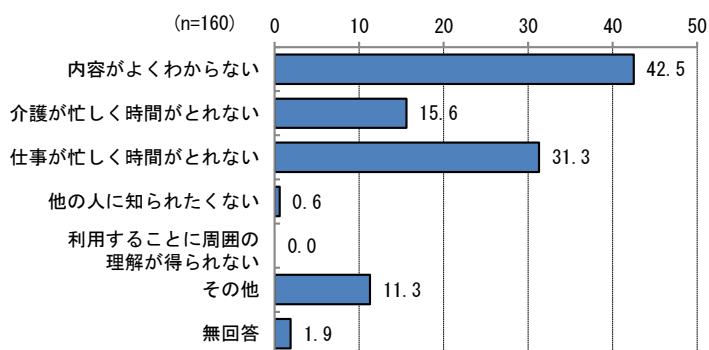


今後の利用意向について、「利用したい」は「地域包括支援センターでの相談」が 25.1%と最も多く、次いで、「保健センターでの相談」が 17.2%となっています。

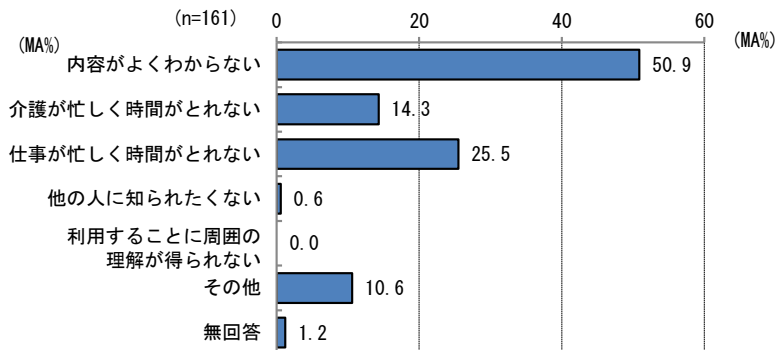
Ⅱ-2-② 在宅介護実態調査・B票（介護者アンケート）

【利用できない・利用は難しい理由】

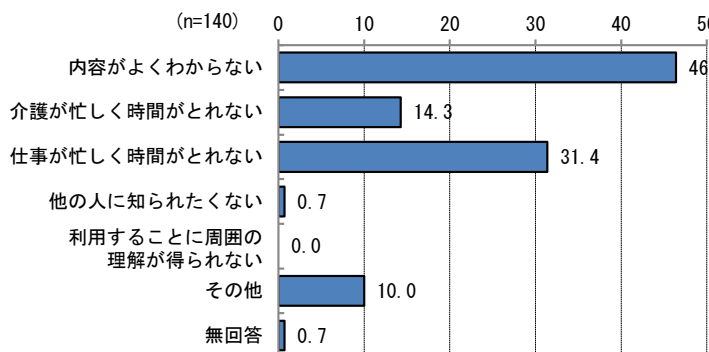
【家族介護教室】



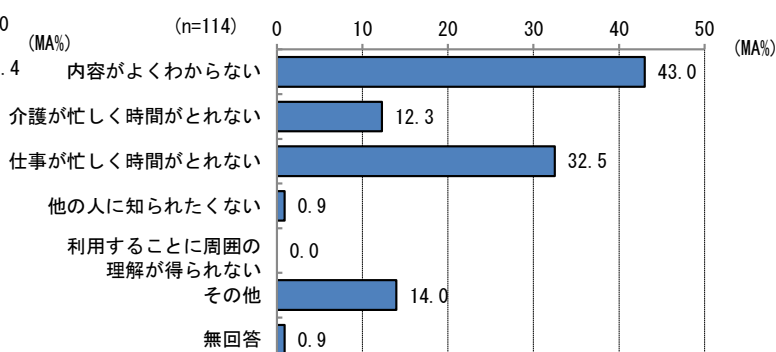
【介護者リフレッシュ事業】



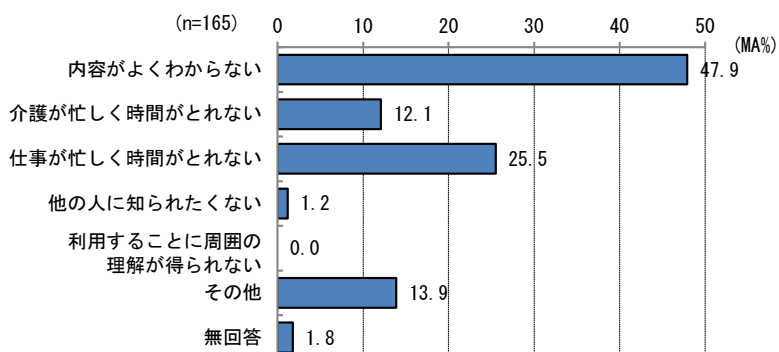
【保健センターでの相談】



【地域包括支援センターでの相談】



【介護者・家族の会活動】



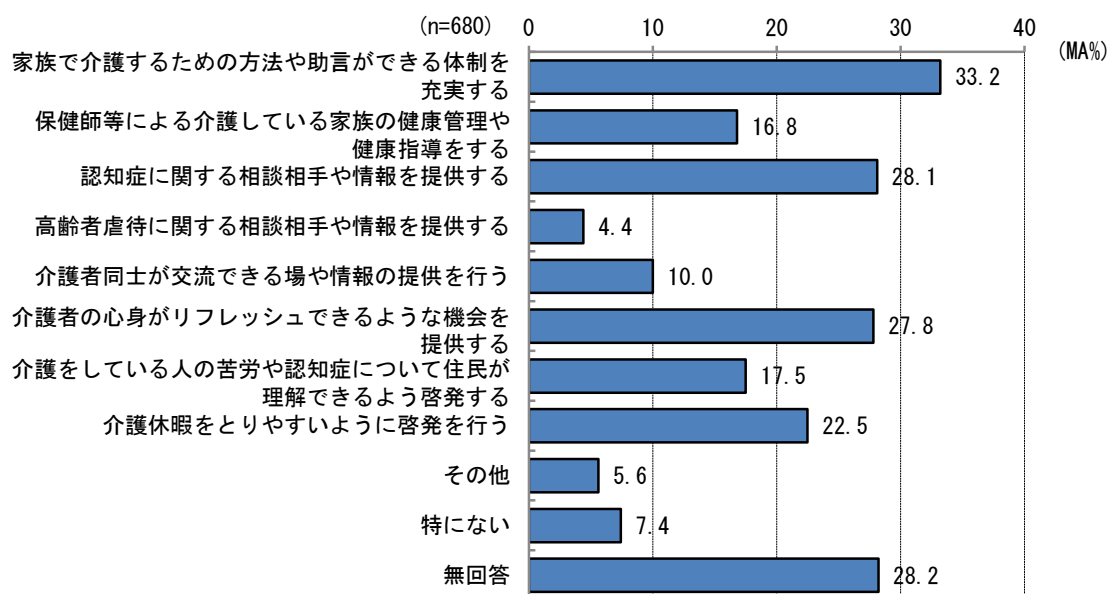
利用意向で「利用できない・利用は難しい」と回答した人の理由については、どのサービス・活動についても「内容がよくわからない」が4～5割を占め、最も多くなっています。



## 5 介護者への支援について

### 〔1〕行政が介護者に行うべき支援

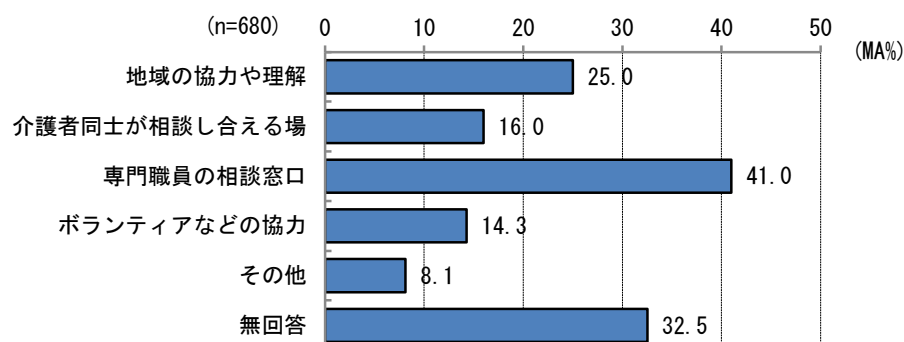
問13 今後、行政が介護者に関してどのような支援をすべきだとお考えですか（〇はいくつでも）



今後、行政が介護者に関して行うべき支援については、「家族で介護するための方法や助言ができる体制を充実する」が 33.2%と最も多く、次いで、「認知症に関する相談相手や情報を提供する」が 28.1%となっています。

### 〔2〕介護疲れやストレス緩和のために必要なこと

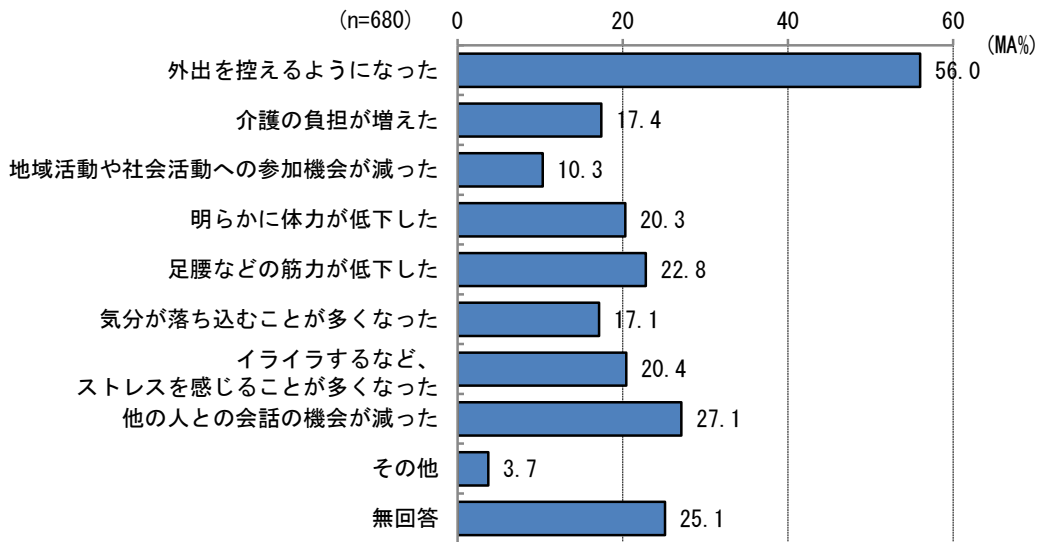
問14 家族を介護する人の介護疲れやストレス緩和のためには、何が必要だと思いますか（〇はいくつでも）



家族を介護する人の介護疲れやストレス緩和のために必要なことについては、「専門職員の相談窓口」が 41.0%と最も多く、次いで、「地域の協力や理解」が 25.0%となっています。

〔3〕新型コロナウイルス感染症の影響

問15 あなたは新型コロナウイルス感染症の影響により、以下のような変化はありましたか（○はいくつでも）



新型コロナウイルス感染症の影響については、「外出を控えるようになった」が56.0%と最も多く、次いで、「他の人との会話の機会が減った」が27.1%となっています。

## II-3 生活機能評価等に関する分析

本調査は、地域における高齢者の課題や必要な支援・サービス等をよりの確に把握するため、国が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を取り入れており、介護予防事業の「基本チェックリスト」や「手段的自立度（IADL）」などの指標の判定に関する調査項目が設定されています。

本報告書の『生活機能評価等に関する分析』では、これらの調査項目を使用し、各指標の判定（リスク評価等）を行っています。

### 1 生活機能評価

#### (1) 運動器の機能低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を『運動器の機能低下』のリスク該当者と判定しました。

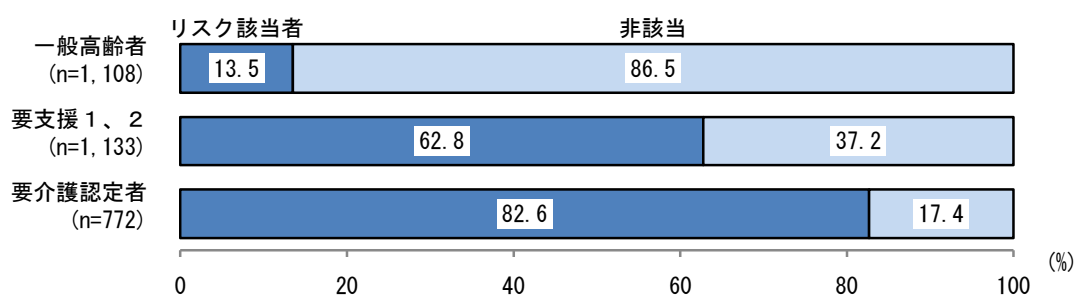
##### 【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
ニーズ調査	在宅介護実態調査		
問2 (1)	問31-1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問2 (2)	問31-2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問2 (3)	問31-3	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問2 (4)	問31-4	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
問2 (5)	問31-5	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

【リスク該当状況】 ※無回答により判定・評価困難な場合は、調査数（n数）から除外して集計しています。

（以下、同様）

『運動器の機能低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は一般高齢者で1割強（13.5%）、要支援1、2で6割強（62.8%）、要介護認定者では8割強（82.6%）となっています。



## II-3 生活機能評価等に関する分析

### (2) 転倒リスク

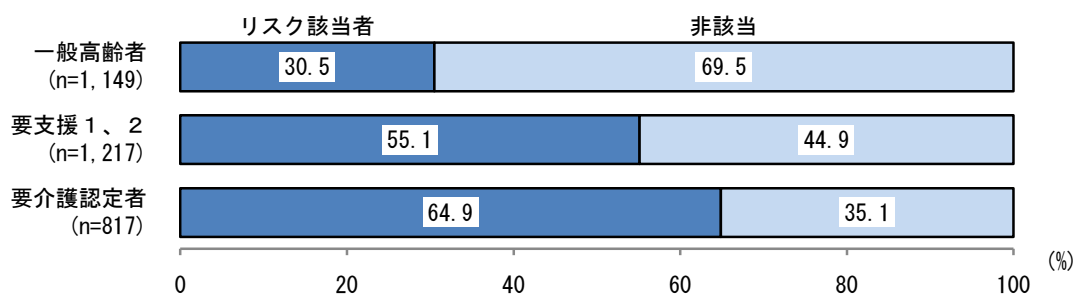
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『転倒』のリスク該当者と判定しました。

#### 【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
ニーズ調査	在宅介護実態調査		
問2 (4)	問31-4	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

#### 【リスク該当状況】

『転倒リスク』の判定結果をみると、該当者(リスクあり)は一般高齢者で3割(30.5%)、要支援認定者で5割台(55.1%)、要介護認定者で6割台(64.9%)となっています。



### (3) 閉じこもり傾向

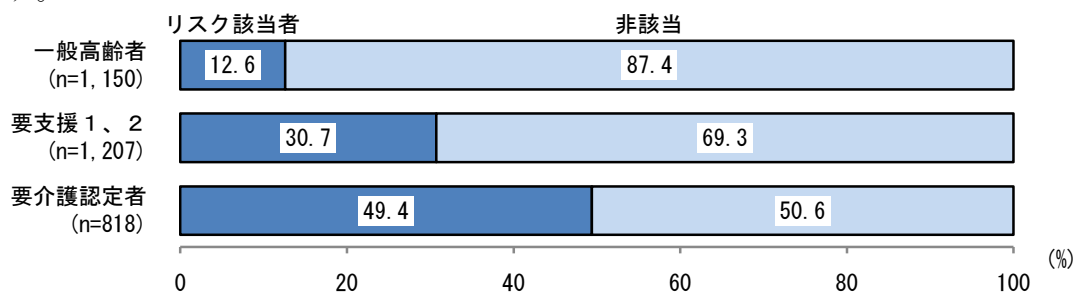
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『閉じこもり傾向』のリスク該当者と判定しました。

#### 【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
ニーズ調査	在宅介護実態調査		
問2 (6)	問31-6	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

#### 【リスク該当状況】

『閉じこもり傾向』の判定結果をみると、該当者(リスクあり)は一般高齢者で1割強(12.6%)、要支援認定者で3割(30.7%)、要介護認定者で5割弱(49.4%)となっています。



(4) 低栄養の傾向

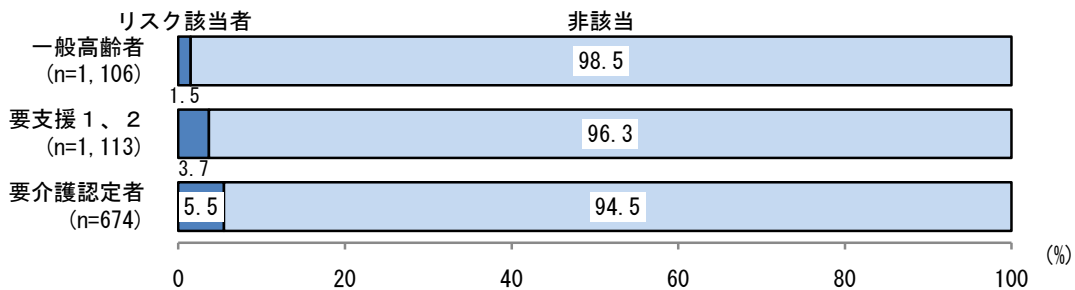
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を『低栄養の傾向』のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
ニーズ調査	在宅介護実態調査		
問3 (1)	問32-1	身長・体重を記入ください	BMI 18.5未満
問3 (8)	問32-8	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

【リスク該当状況】

『低栄養の傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は一般高齢者で1.5%、要支援認定者で3.7%、要介護認定者でも5.5%となっています。



(5) 口腔機能の低下

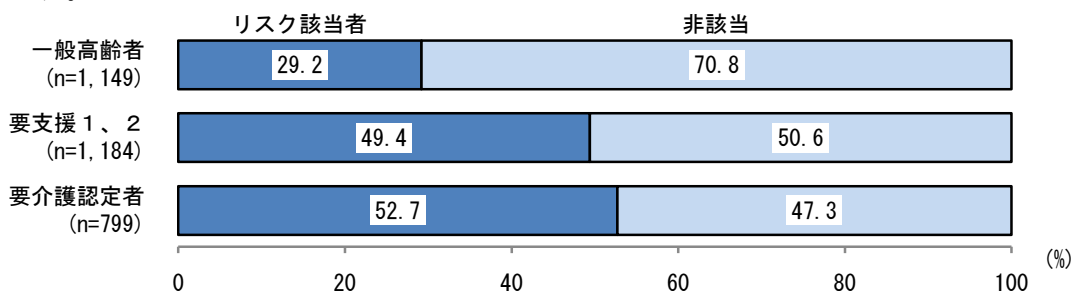
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を『口腔機能の低下』のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
ニーズ調査	在宅介護実態調査		
問3 (2)	問32-2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問3 (3)	問32-3	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問3 (4)	問32-4	口の渇きが気になりますか	1. はい

【リスク該当状況】

『口腔機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は一般高齢者で3割弱（29.2%）、要支援認定者で5割弱（49.4%）、要介護認定者で5割強（52.7%）となっています。



## II-3 生活機能評価等に関する分析

### (6) 認知機能の低下

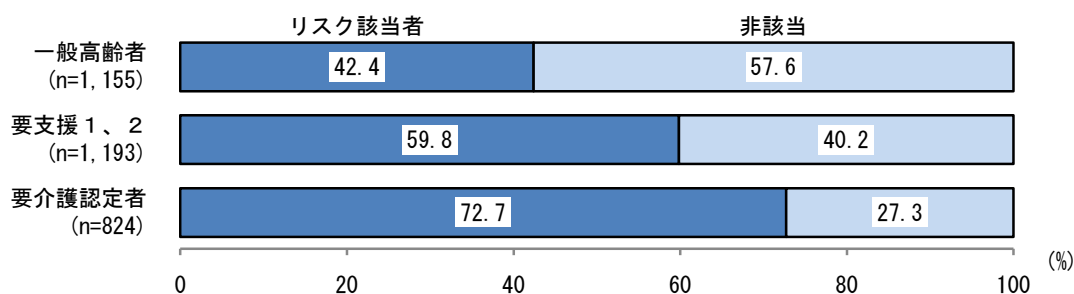
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『認知機能の低下』のリスク該当者と判定しました。

#### 【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
ニーズ調査	在宅介護実態調査		
問4 (1)	問33-1	物忘れが多いと感じますか	1. はい

#### 【リスク該当状況】

『認知機能の低下』の判定結果をみると、該当者(リスクあり)は一般高齢者で4割強(42.4%)、要支援認定者で6割弱(59.8%)、要介護認定者で7割強(72.7%)となっています。



### (7) うつ傾向

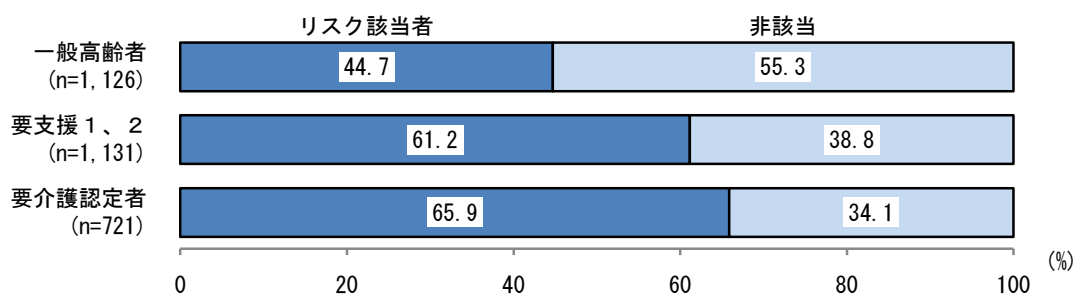
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人を『うつ傾向』のリスク該当者と判定しました。

#### 【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
ニーズ調査	在宅介護実態調査		
問7 (3)	問35-3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問7 (4)	問35-4	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

#### 【リスク該当状況】

『うつ傾向』の判定結果をみると、該当者(リスクあり)は一般高齢者で4割台(44.7%)、要支援認定者で6割強(61.2%)、要介護認定者で6割台(65.9%)となっています。



## 2 日常生活評価

### (1) 手段的自立度 (IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問（5項目）に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力（手段的自立度：IADL）が低下している人の状況を把握します。

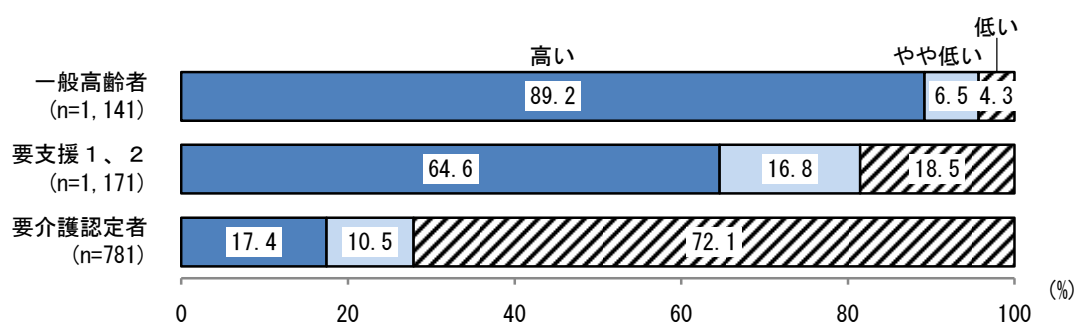
評価は、調査票の以下の設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を“1点”として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」（※4点以下を低下者）と評価しました。

#### 【評価設問】

問番号		設問	該当する選択肢
ニーズ調査	在宅介護実態調査		
問4 (4)	問33-4	バスや電車を使って1人で外出していますか	1. できるし、している(1点) 2. できるけどしていない(1点)
問4 (5)	問33-5	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している(1点) 2. できるけどしていない(1点)
問4 (6)	問33-6	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している(1点) 2. できるけどしていない(1点)
問4 (7)	問33-7	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している(1点) 2. できるけどしていない(1点)
問4 (8)	問33-8	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している(1点) 2. できるけどしていない(1点)

#### 【該当状況】

『手段的自立度 (IADL)』の評価結果をみると、低下者（「やや低い」「低い」の計）は一般高齢者で1割（10.8%）、要支援認定者で3割台（35.3%）、要介護認定者で8割強（82.6%）となっています。



### 3 社会参加評価

#### (1) 知的能動性

老研式活動能力には、高齢者の余暇や創作など生活を楽しむ能力に関する設問が4問あり、『知的能動性』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握します。

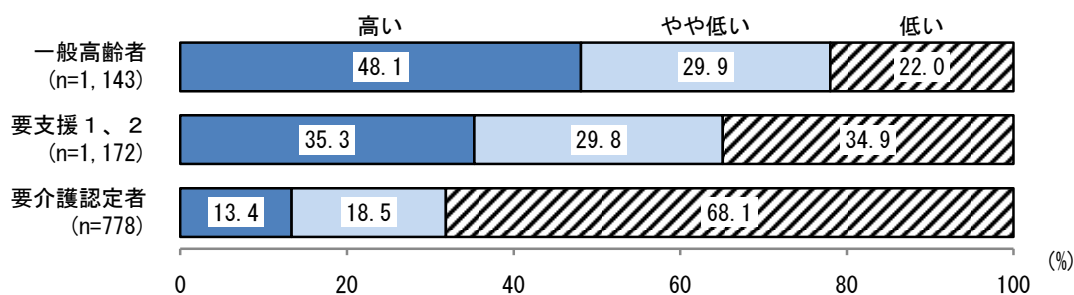
評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“1点”として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」（※3点以下を低下者）と評価しています。

#### 【評価設問】

問番号		設問	該当する選択肢
ニーズ調査	在宅介護実態調査		
問4 (9)	問33-9	年金などの書類が書けますか	1. はい (1点)
問4 (10)	問33-10	新聞を読んでいますか	1. はい (1点)
問4 (11)	問33-11	本や雑誌を読んでいますか	1. はい (1点)
問4 (12)	問33-12	健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい (1点)

#### 【該当状況】

『知的能動性』の評価結果をみると、低下者（「やや低い」「低い」の計）は一般高齢者で5割強（51.9%）、要支援認定者で6割台（64.7%）、要介護認定者で8割台（86.6%）となっています。





(2) 社会的役割

老研式活動能力には、地域で社会的な役割を果たす能力に関する設問が4問あり、『社会的役割』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握します。

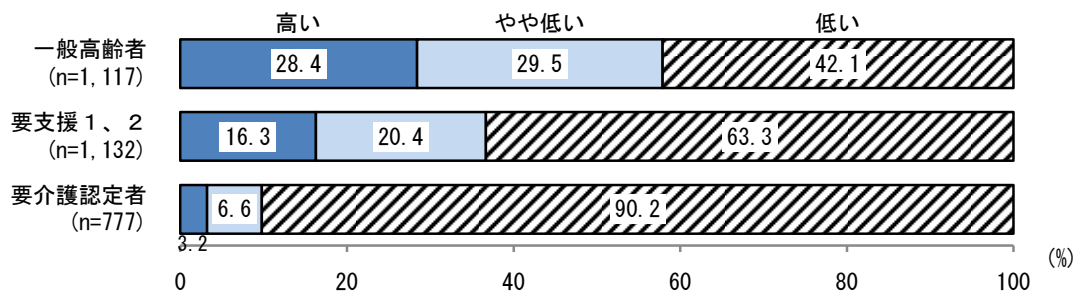
評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“1点”として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」(※3点以下を低下者)と評価しています。

【評価設問】

問番号		設問	該当する選択肢
ニーズ調査	在宅介護実態調査		
問4 (13)	問 33-13	友人の家を訪ねていますか	1. はい (1点)
問4 (14)	問 33-14	家族や友人の相談にのっていますか	1. はい (1点)
問4 (15)	問 33-15	病人を見舞うことができますか	1. はい (1点)
問4 (16)	問 33-16	若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい (1点)

【該当状況】

『社会的役割』の評価結果をみると、低下者(「やや低い」「低い」の計)は一般高齢者で7割強(71.6%)、要支援認定者で8割台(83.7%)、要介護認定者で9割台(96.8%)となっています。

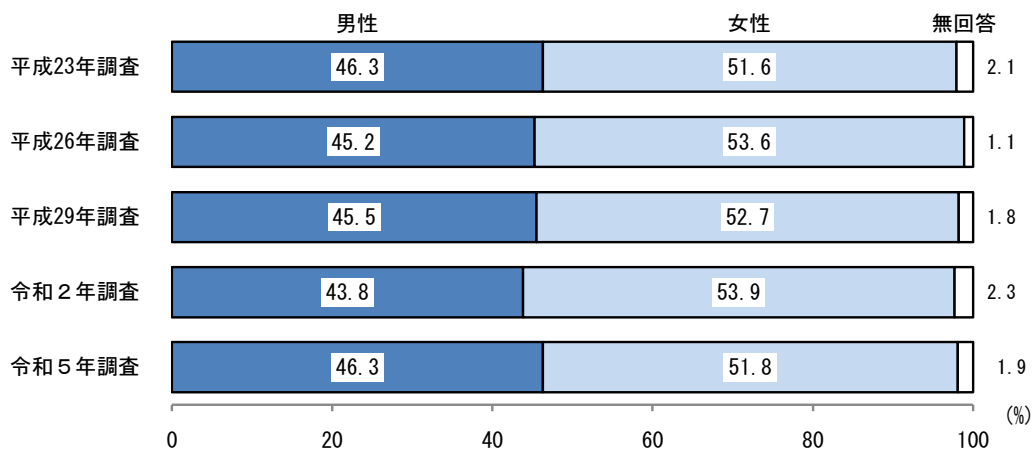


## Ⅱ-4 経年比較

経年比較は、「1 一般高齢者」については介護予防・日常生活圏域ニーズ調査における調査対象者から要介護認定を受けていない方のみを抽出、集計し、「2 居宅サービス利用者」については在宅介護実態調査における調査対象者に介護予防・日常生活圏域ニーズ調査における要支援の方を加えて集計し、比較しました。

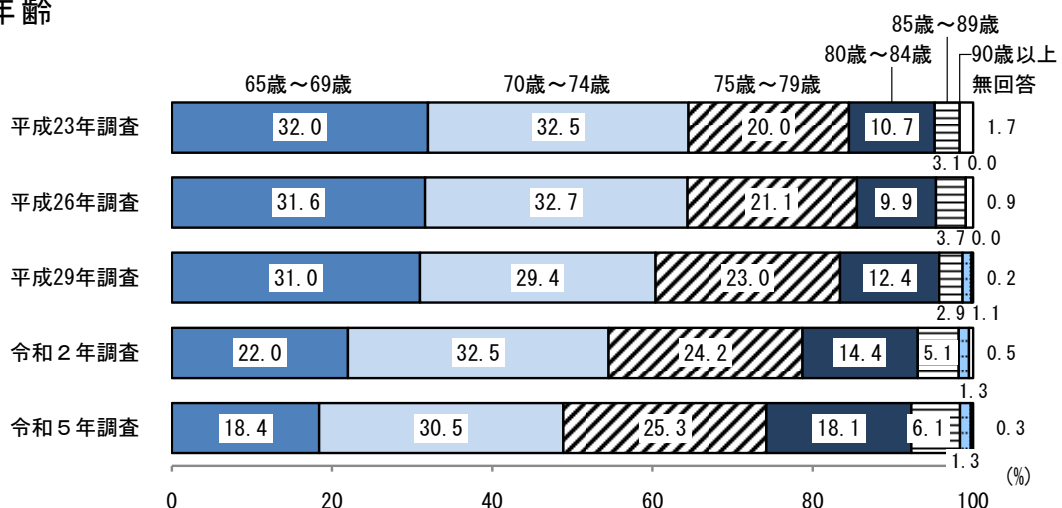
### 1 一般高齢者

#### 〔1〕性別



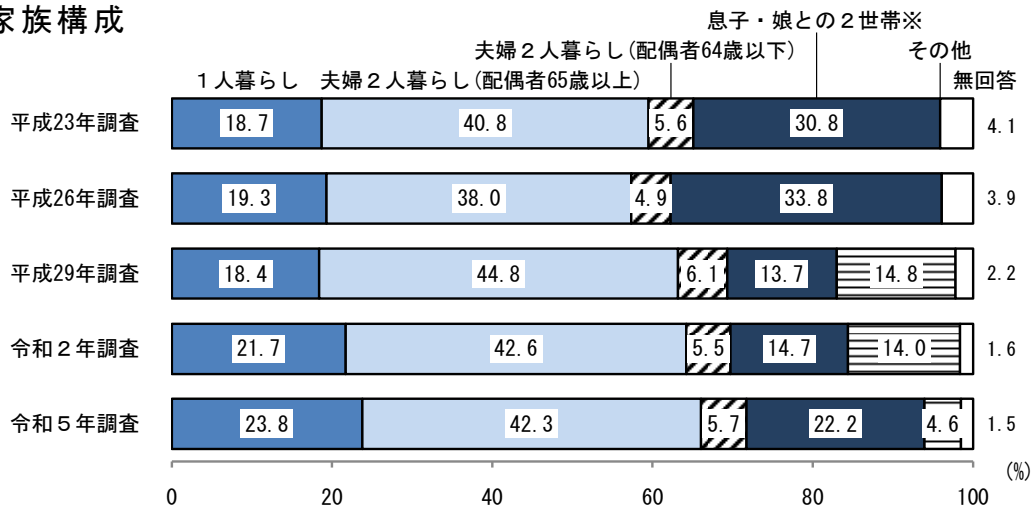
男女比については、前回までに比べて、男性が4割台後半とやや多くなっています。

#### 〔2〕年齢



年齢については、平成29年調査以降、後期高齢者の割合が増加傾向にあり、令和5年調査では後期高齢者が前期高齢者よりも多くなっています。

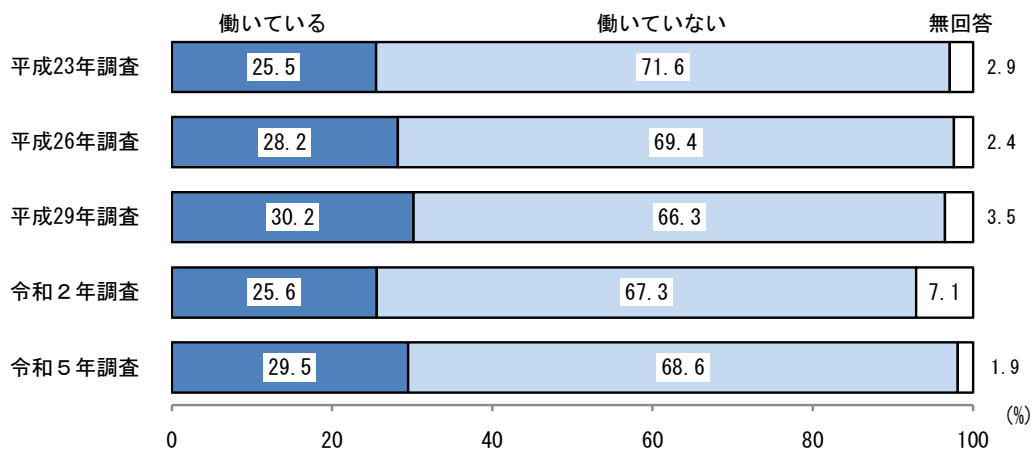
〔3〕 家族構成



※平成26年調査までは、「同居世帯(全員65歳以上)」、「同居世帯」。

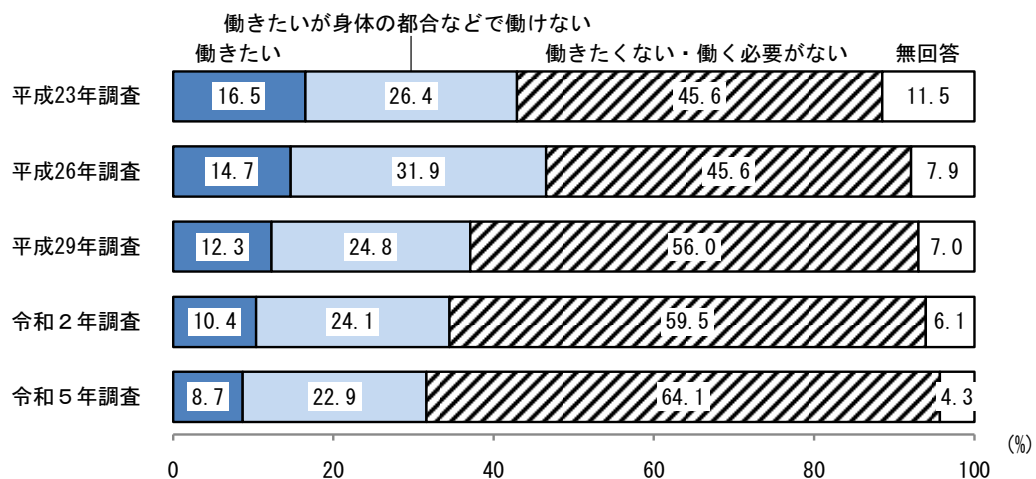
家族構成については、「1人暮らし」で増加傾向がみられます。

〔4〕 現在の就労状況



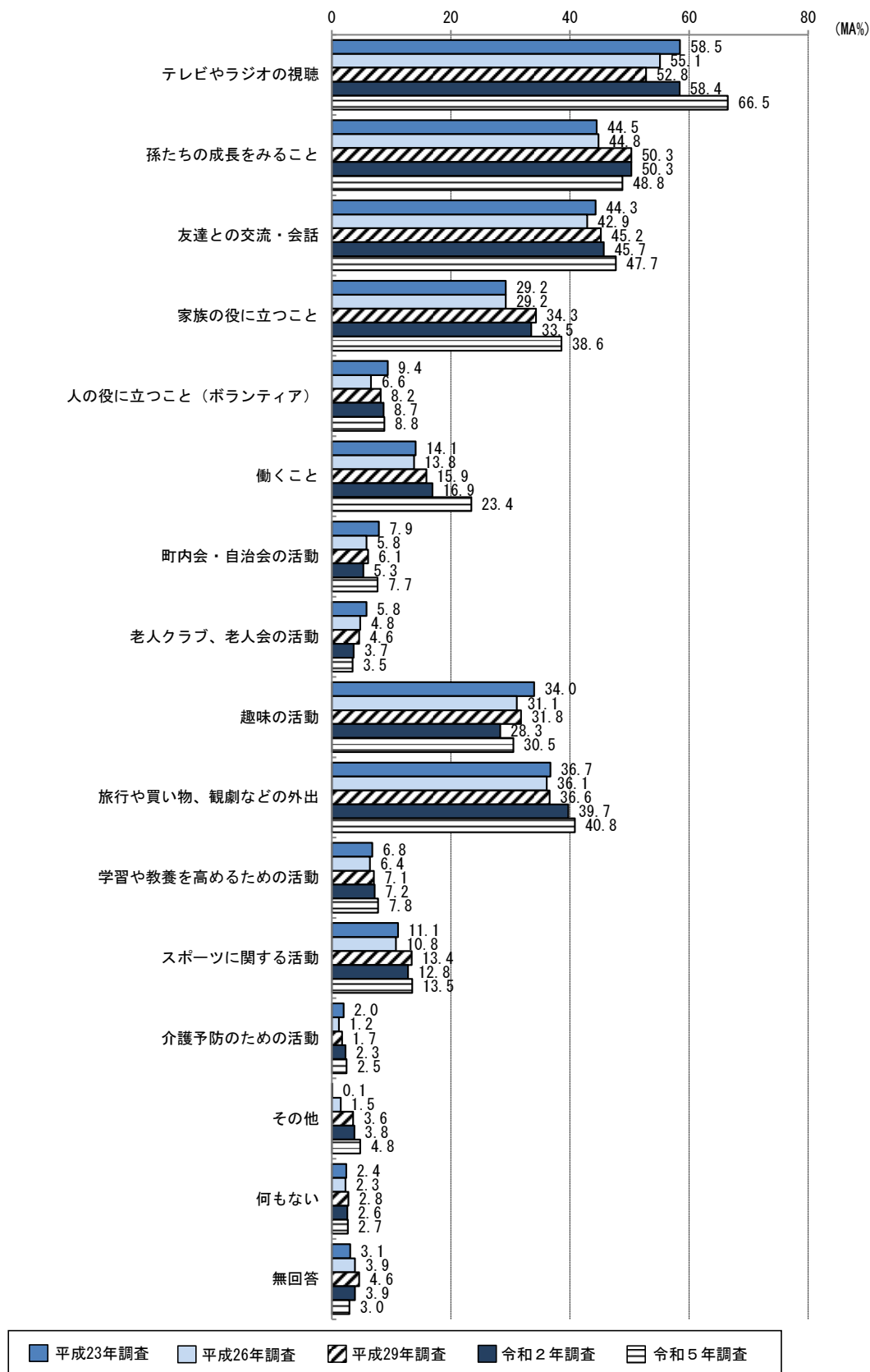
就労状況については、前回調査に比べて「働いている」が増加しています。

〔5〕 今後の就労意向



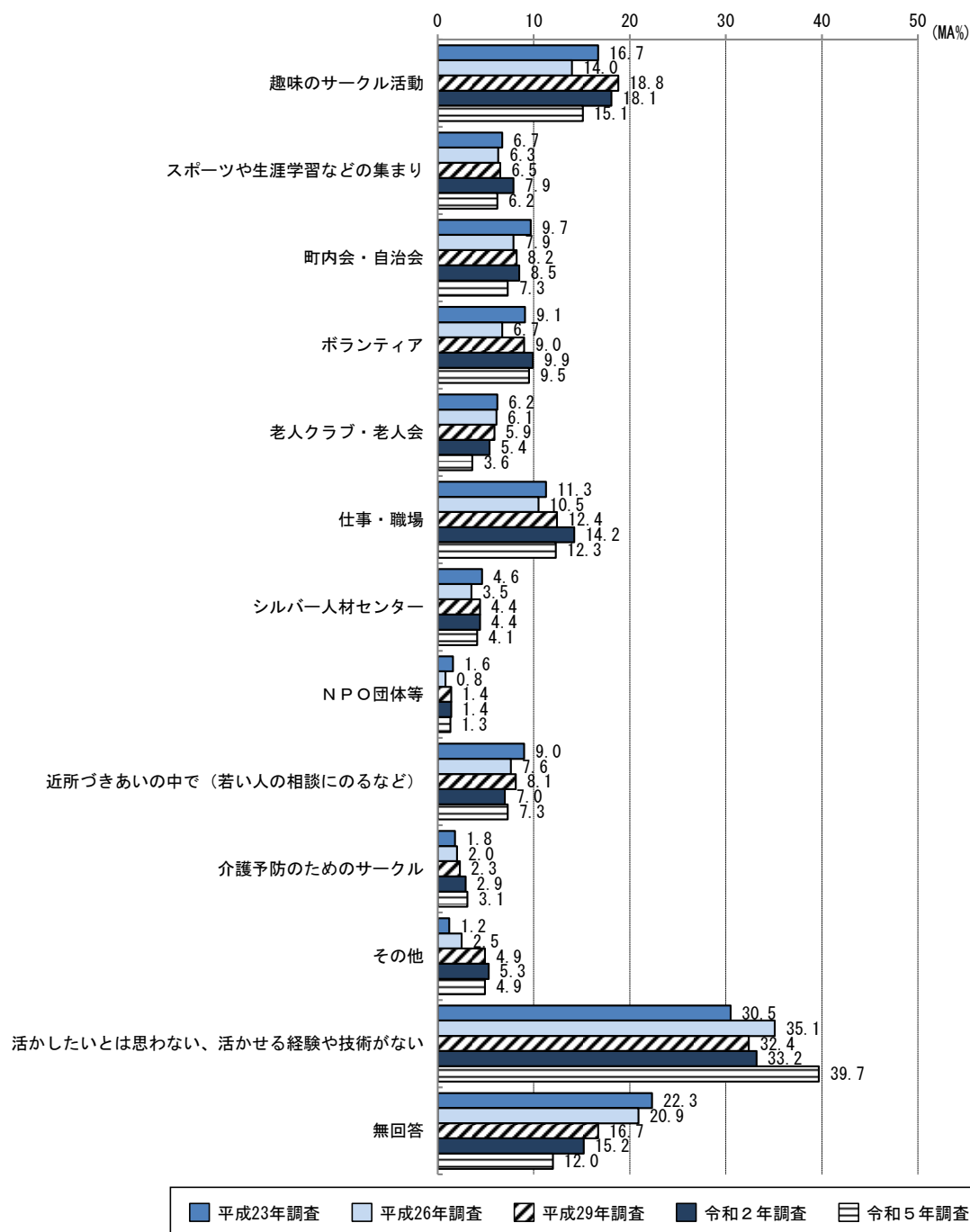
今後の就労意向については、「働きたい」の割合が減少傾向にあり、「働きたくない・働く必要がない」は前回調査よりさらに増加し、6割強となっています。

〔6〕生きがいや楽しみ



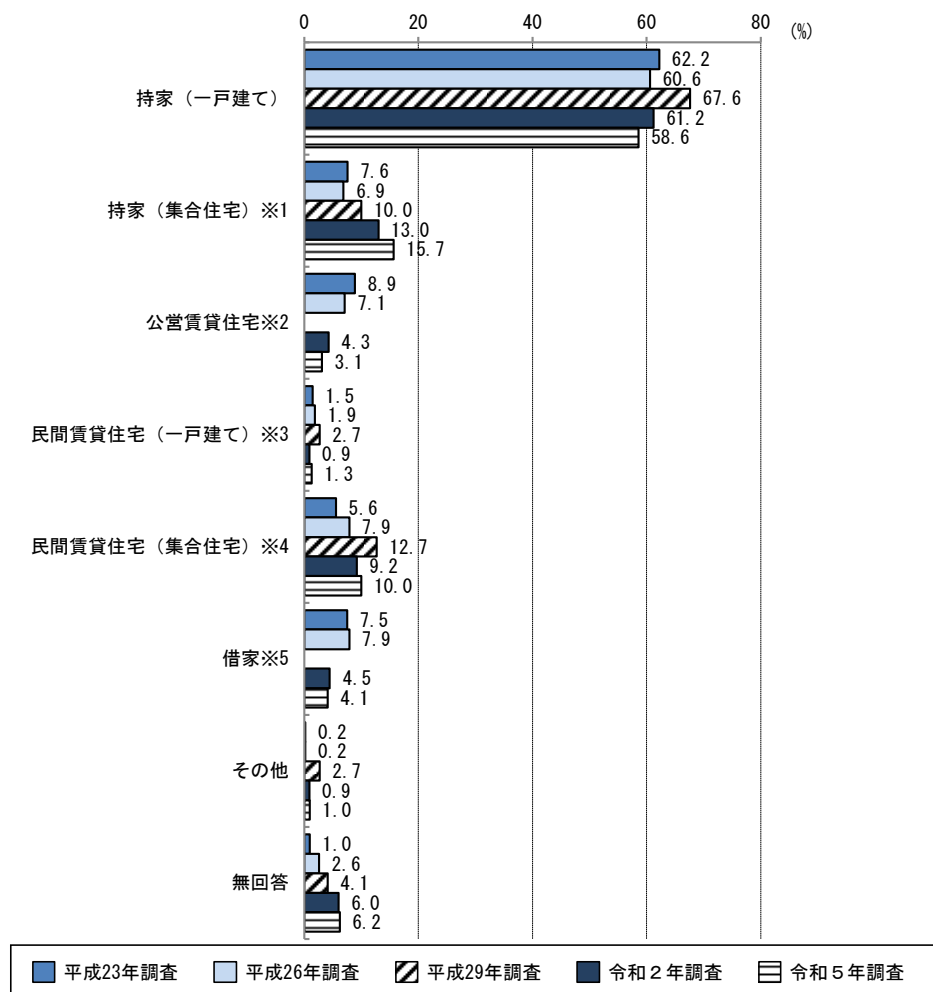
生きがいや楽しみについて、上位にあがっているものは、前回までと同様となっていますが、「テレビやラジオの視聴」、「家族の役に立つこと」、「働くこと」が、前回調査に比べて多くなっています。

〔7〕身に付けた経験や技術を活かしたい場



身に付けた経験や技術を活かしたい場について、上位にあがっているものは、前回までと同様になっていますが、「趣味のサークル活動」が、前回調査に比べて少なくなっています。また、「活かしたいとは思わない、活かせる経験や技術がない」が前回までに比べて多くなっています。

〔8〕現在の住まいの種類



※今回調査（令和5年調査）の選択肢にあるもののみ掲載

※1 平成29年調査までは、「持家（マンションなど）」

※2 平成26年調査までは、「公営住宅（府営・市営・公団など）」、平成29年調査では選択肢なし

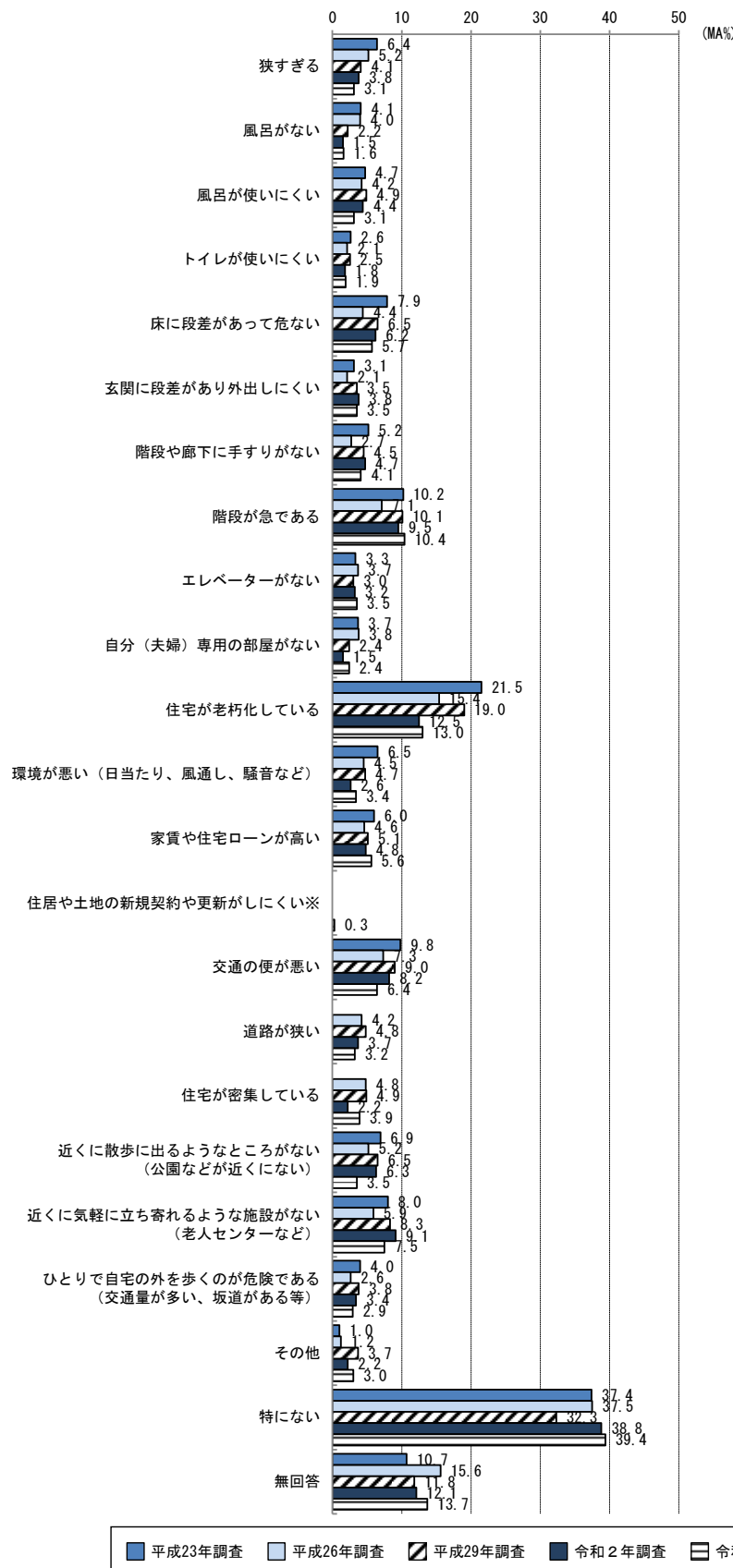
※3 平成29年調査までは、「借家（一戸建て）」

※4 平成29年調査までは、「借家（マンション・アパートなど）」

※5 平成26年調査までは、「借家（長屋建て）」、平成29年調査では選択肢なし

住居形態については、前回までと同様、「持家（一戸建て）」が最も多くなっていますが、「持家（集合住宅）」で年々増加傾向がみられます。

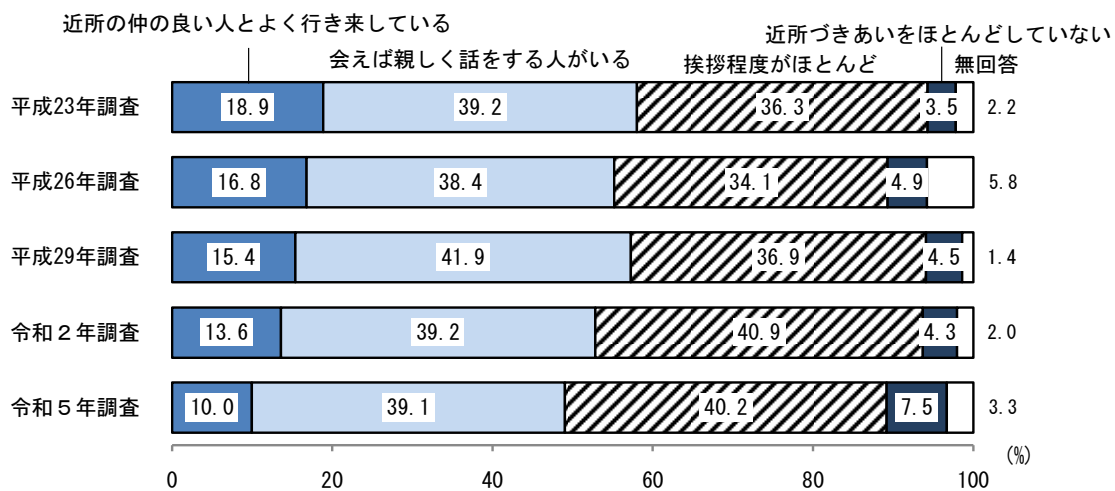
〔9〕住まいの環境で不便に感じること



※「住居や土地の新規契約や更新がしにくい」は今回調査からの新規項目。

住まいの環境で不便に感じることについては、前回までと同様、「住宅が老朽化している」が最も多くなっていますが、その割合は平成29年調査までに比べて少なくなっています。

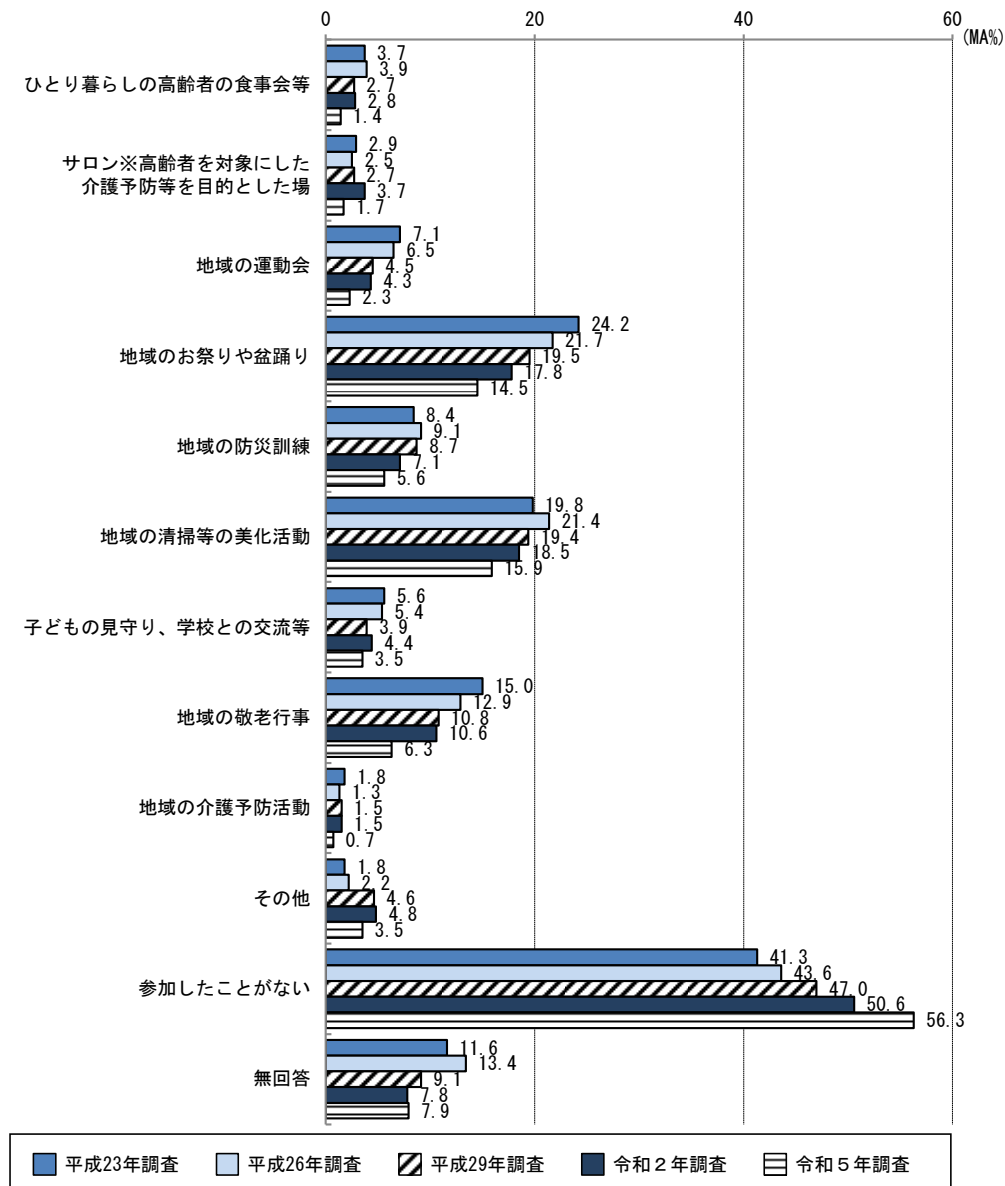
〔10〕 近所づきあいの程度



近所づきあいの程度については、前回までと同様、半数が比較的親密な近所づきあいをしていますが、「近所の仲の良い人とよく行き来している」の割合は、年々少なくなってきています。

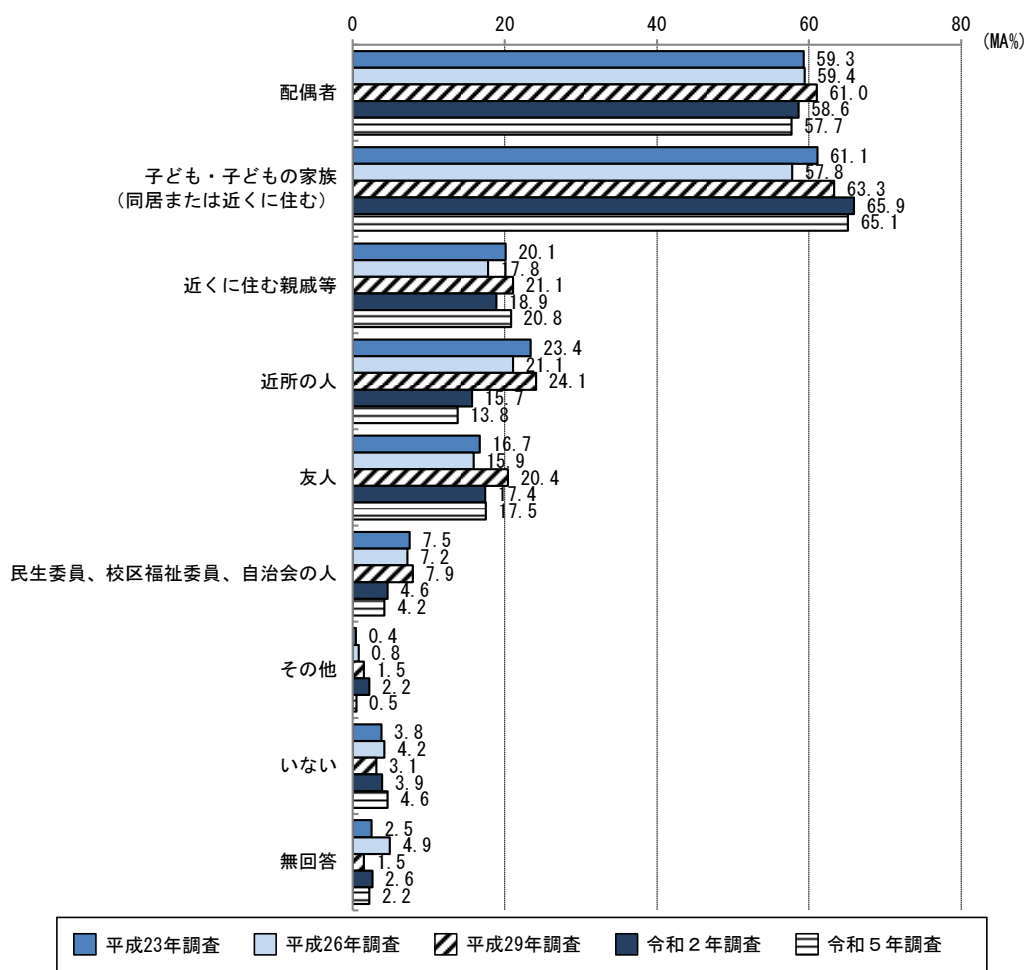


〔11〕 地域の行事等への参加状況



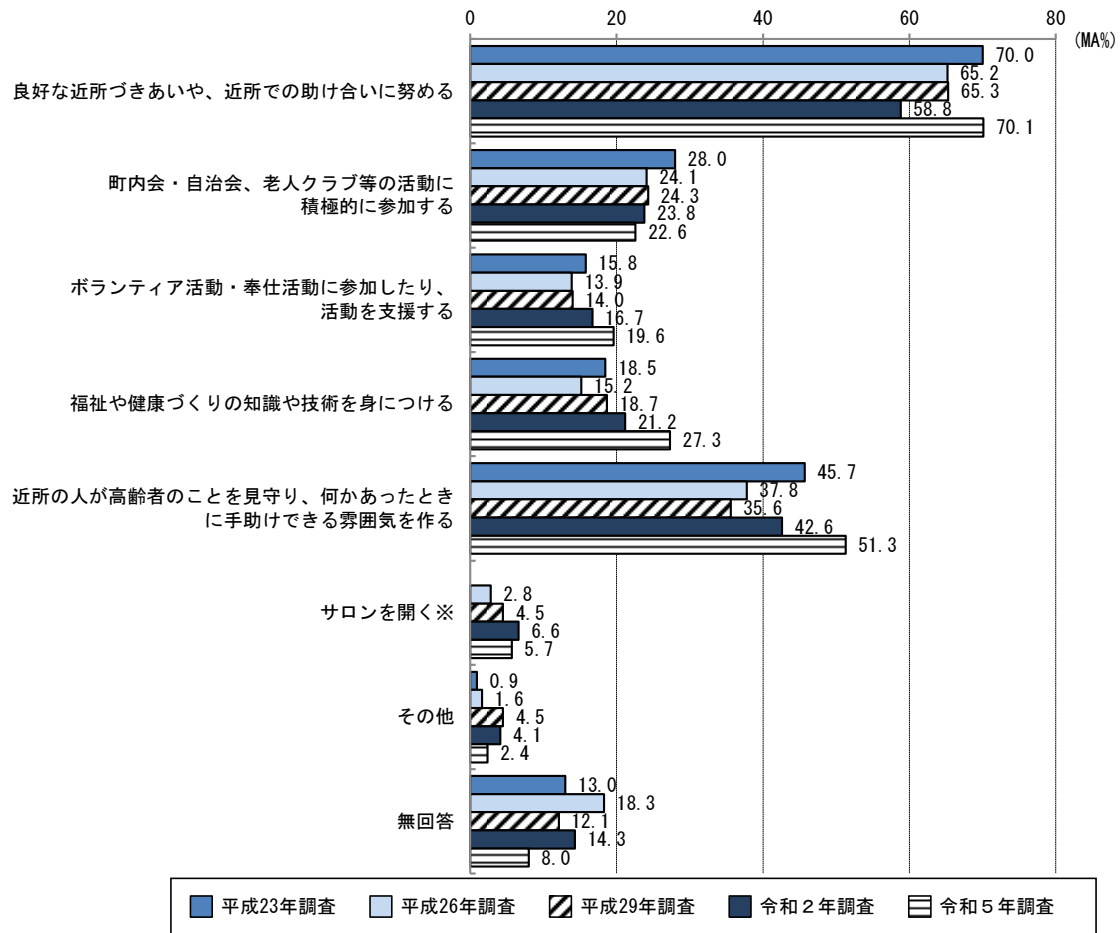
地域の行事等への参加状況については、上位にあがっているものは前回までと同様、「地域のお祭りや盆踊り」、「地域の清掃等の美化活動」となっていますが、その割合は年々減少しています。一方、「参加したことがない」人の割合は年々増加しており、令和5年調査では半数以上となっています。

〔12〕 身近に頼ることのできる人



身近に頼ることのできる人について、上位にあがっているものは、前回までと同様、「配偶者」、「子ども・子どもの家族（同居または近くに住む）」が多くなっています。

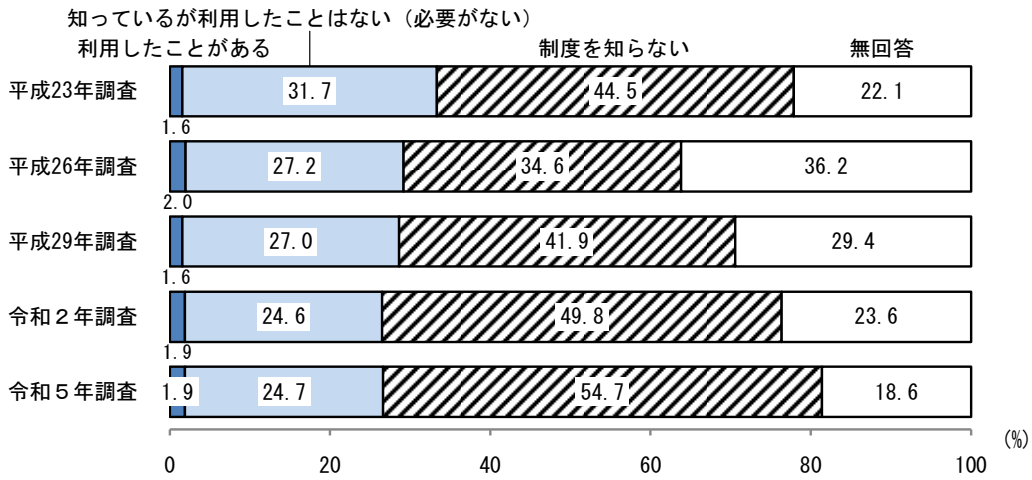
〔13〕 高齢者が暮らしやすいまちづくりのためにすべきこと



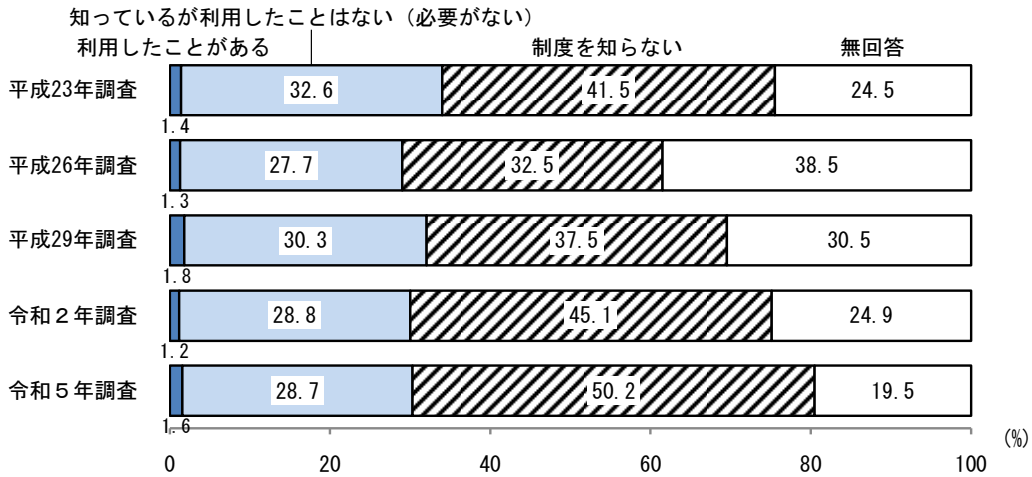
高齢者が暮らしやすいまちづくりのためにすべきことについて、上位にあがっているものは、前回までと同様になっていますが、「近所の人が高齢者のことを見守り、何かあったときに手助けできる雰囲気を作る」の割合が前回までに比べて多くなっています。また、「良好な近所づきあいや、近所での助け合いに努める」が再び増加しています。

〔14〕 サービス利用の状況

① 日常生活用具の給付

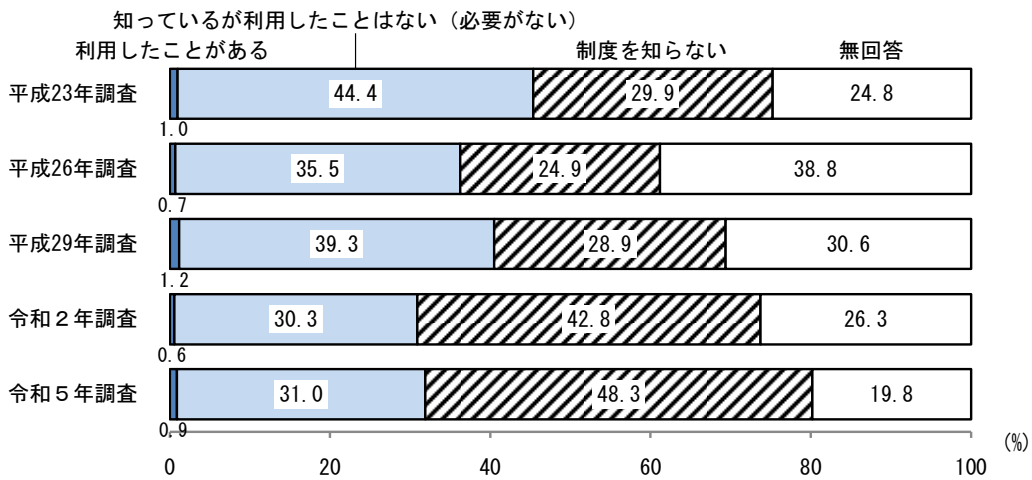


② 緊急通報システム

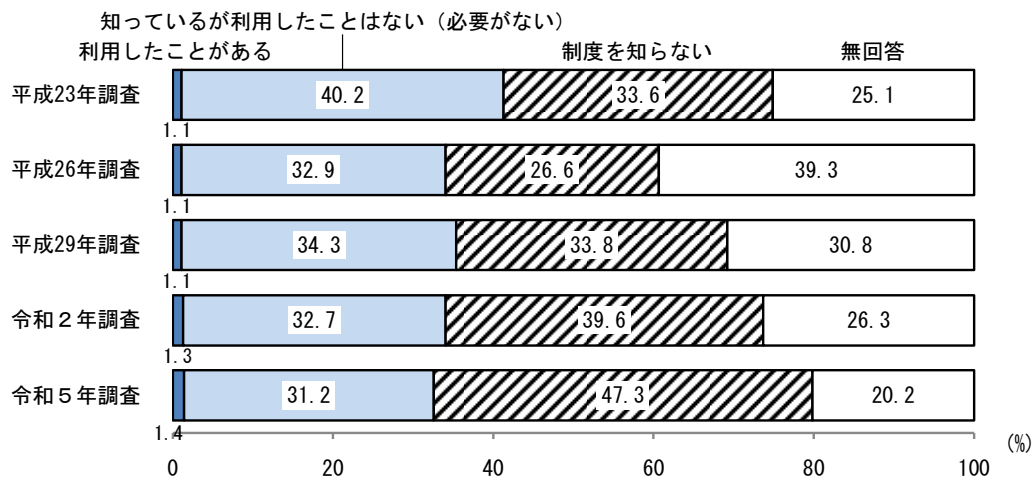


③ 高齢者配食サービス見守り支援事業

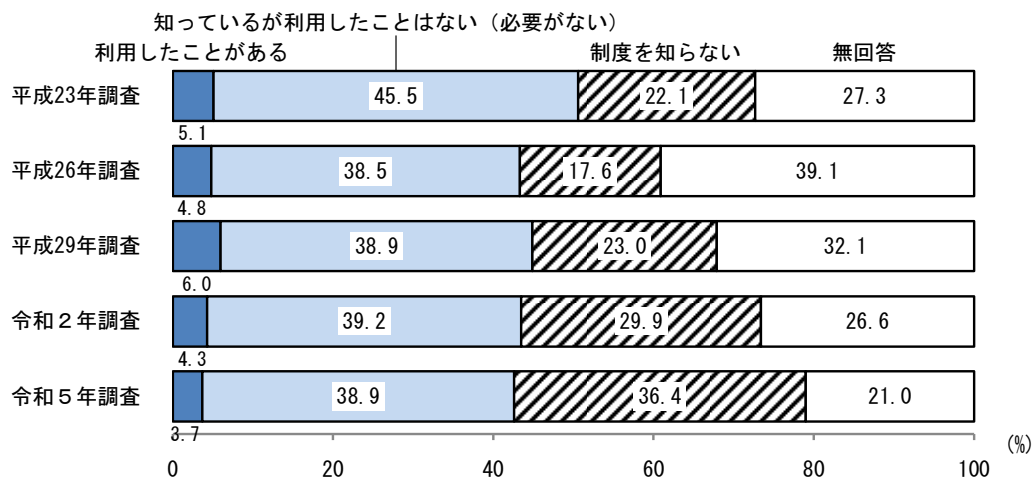
※平成29年度までは「配食サービス（食の自立支援事業）」



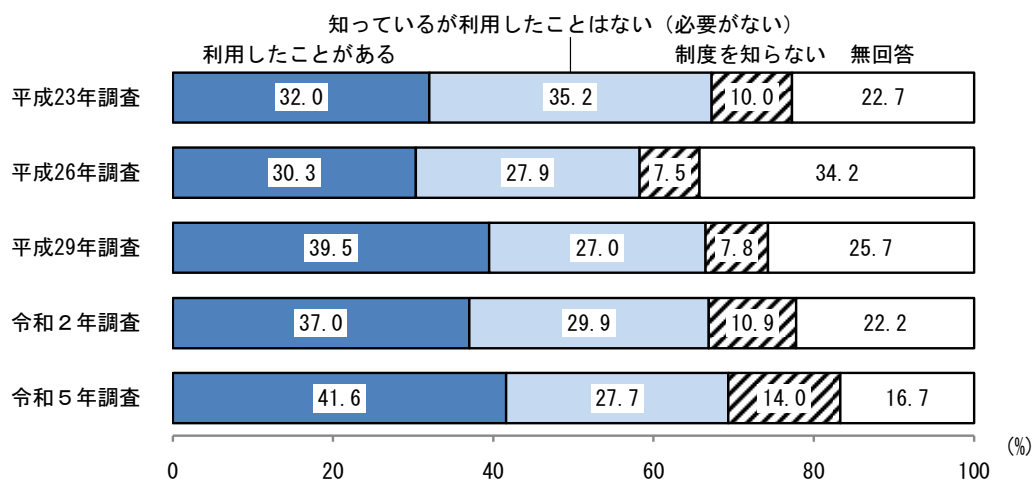
④ 街かどデイハウス



⑤ 健康相談

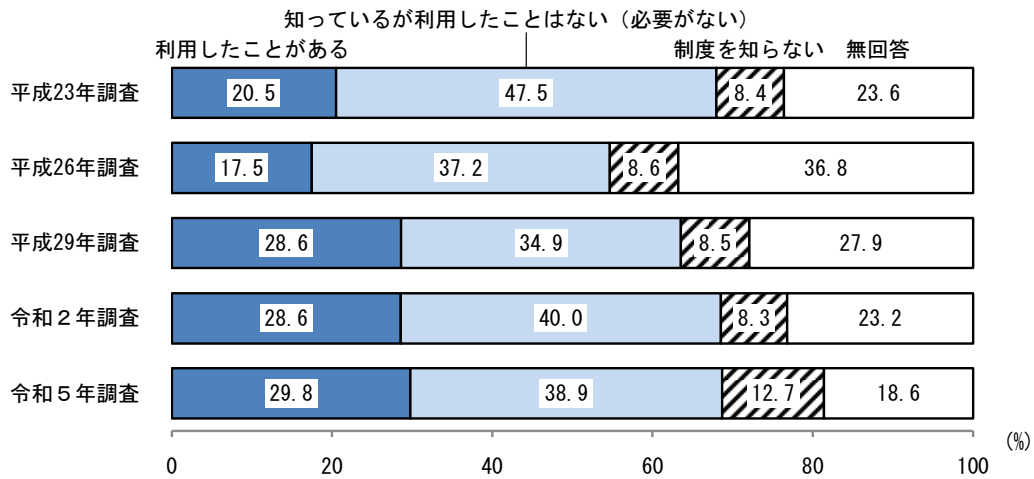


⑥ 健康診査（特定健康診査等の健診）

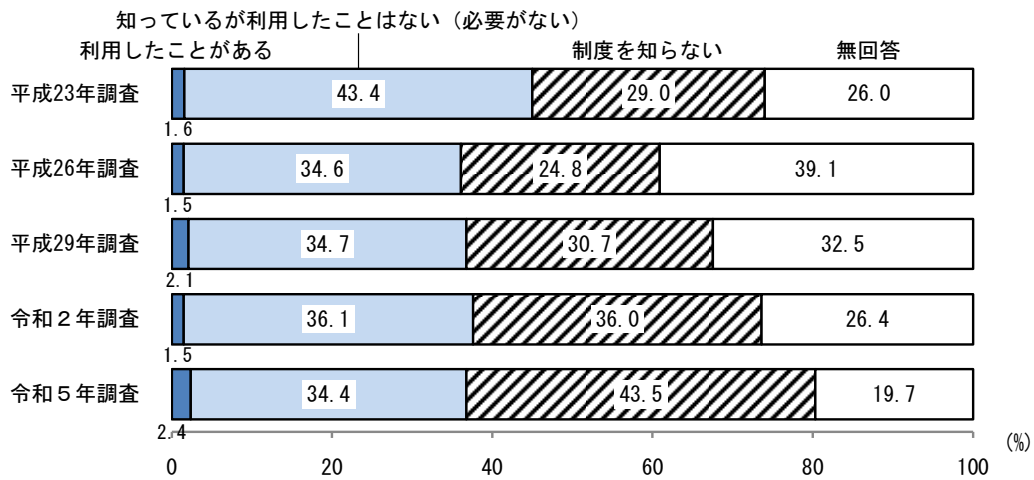


II-4 経年比較

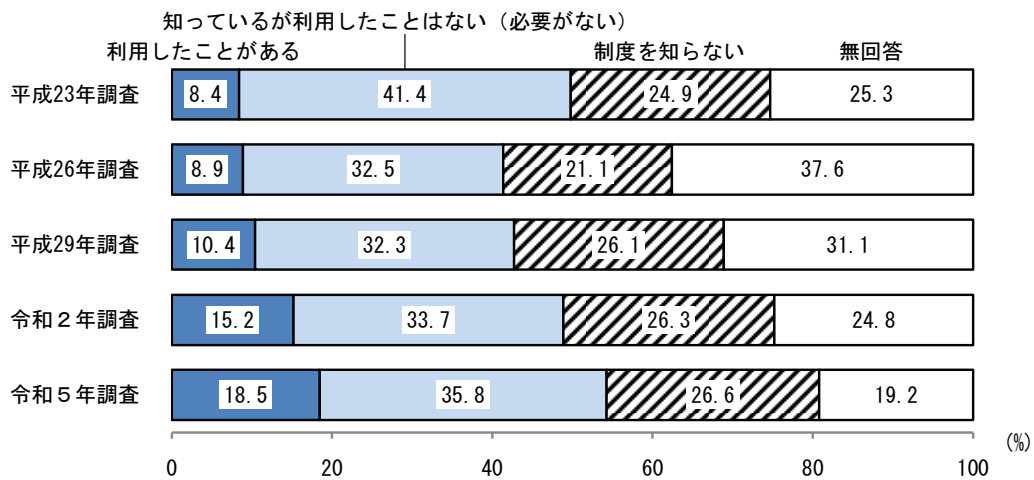
⑦ がん検診



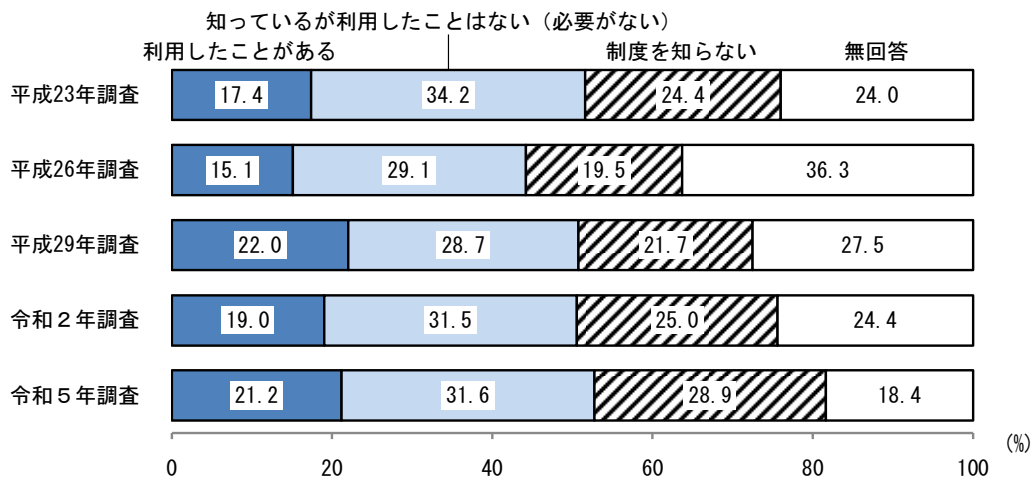
⑧ 訪問指導



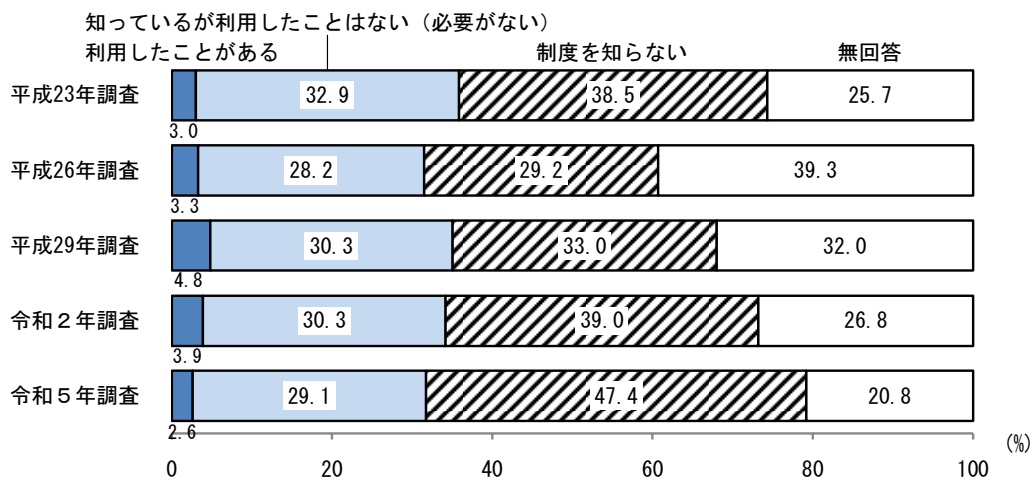
⑨ 成人歯科検診



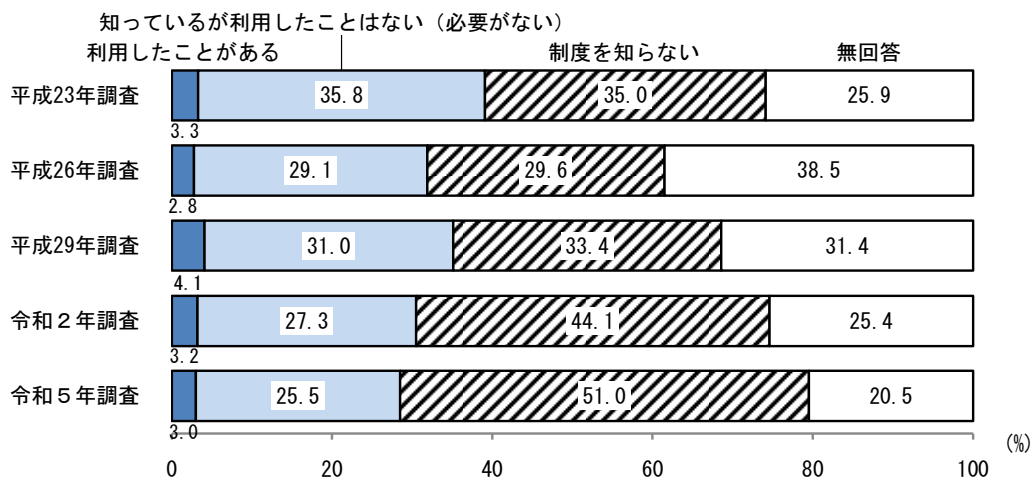
⑩ 骨密度測定



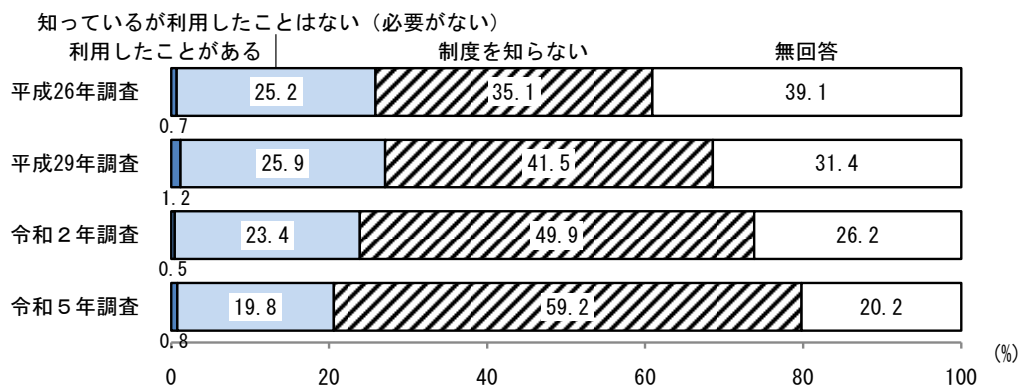
⑪ 介護予防の講座・教室



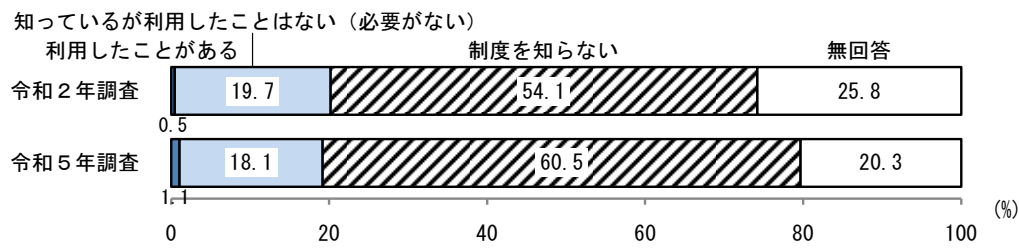
⑫ 福祉農園



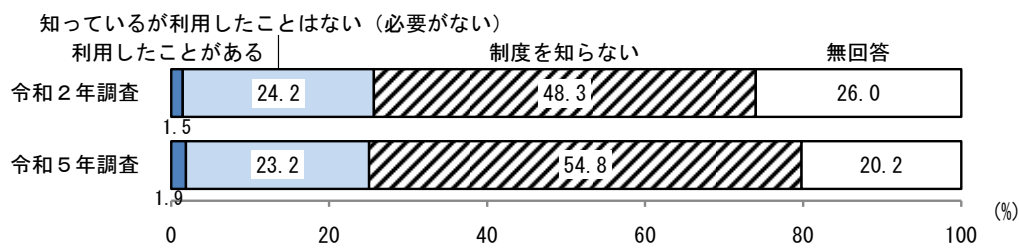
⑬ 認知症高齢者見守りネットワーク



⑭ 地域の住民ボランティアによる訪問型助け合いサービス（玄関先で行うごみ出し等の生活支援）

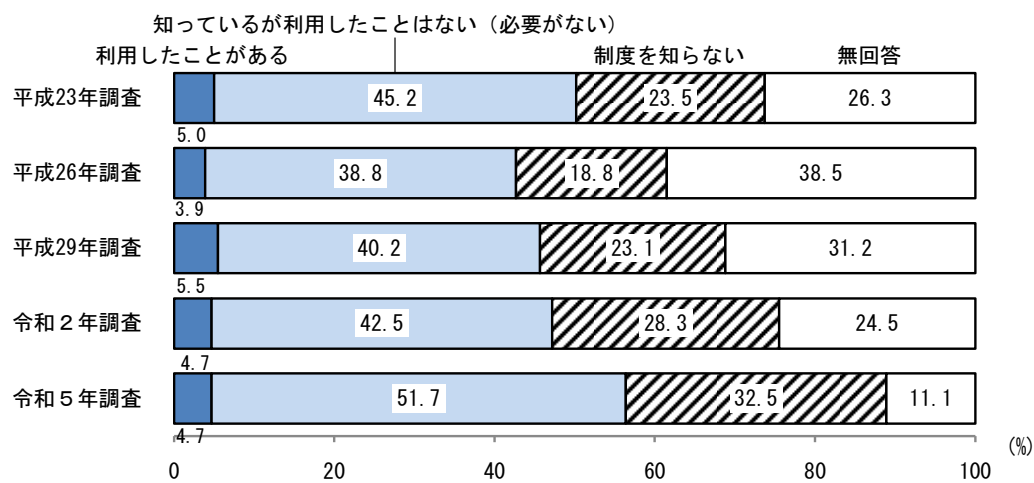


⑮ 地域の住民ボランティアによる通所型つどいサービス（地域の集いの場で体操等の介護予防を実施）





⑯ 老人センター

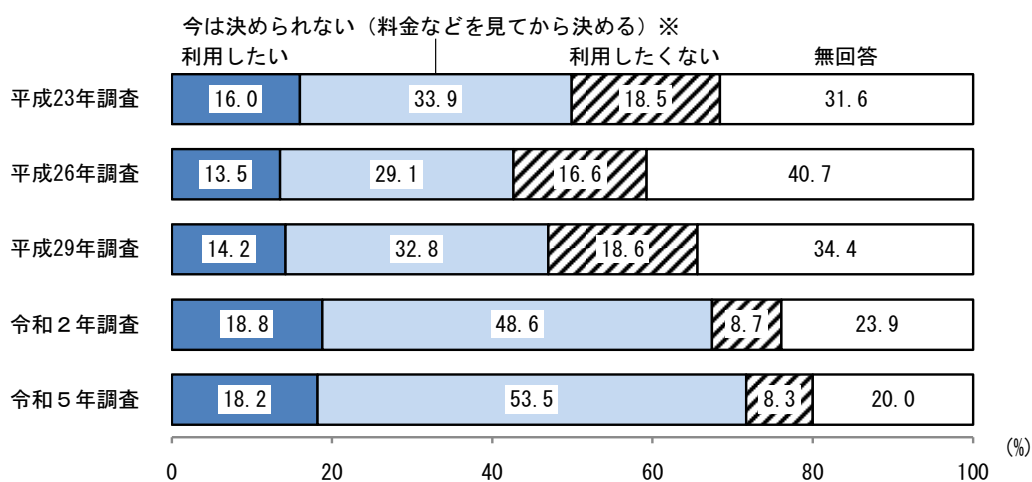


サービス利用の状況については、前回までと同様の傾向となっておりますが、「成人歯科検診」の利用が、年々増加傾向となっております。

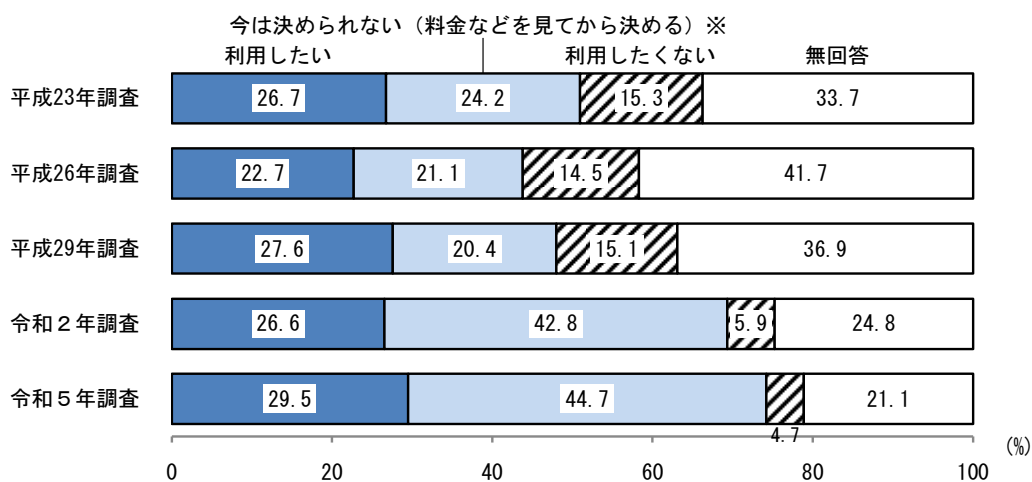
〔15〕 サービス利用意向

① 日常生活用具の給付

※「今は決められない」は、平成29年度調査までは「料金などを見てから決める」（以下同様）

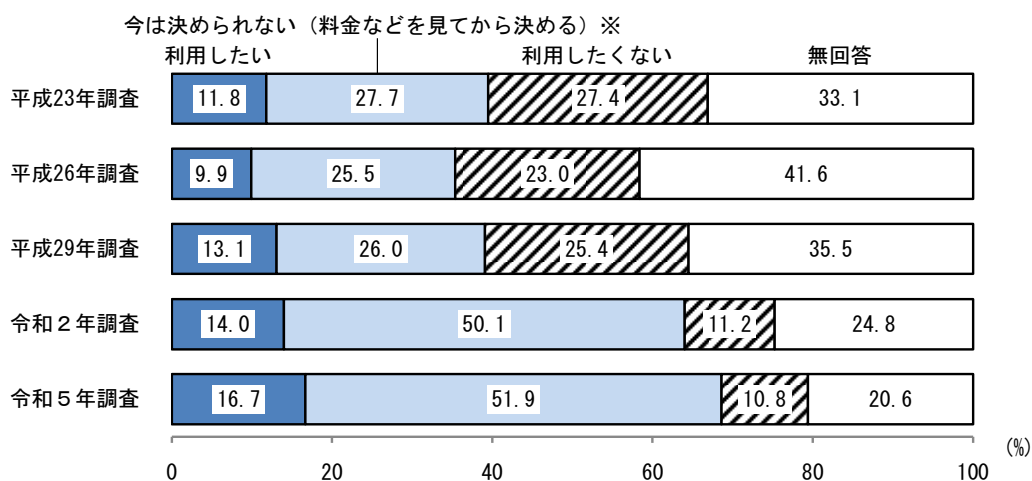


② 緊急通報システム

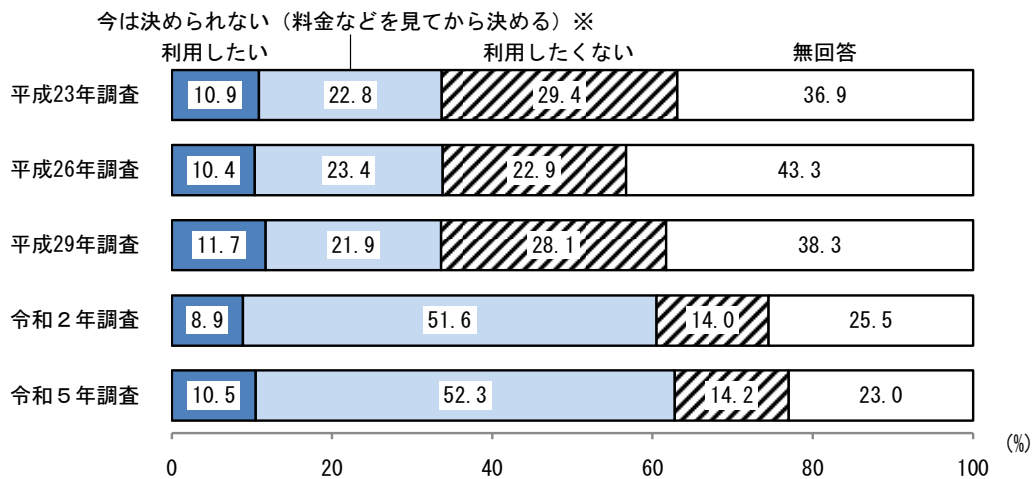


③ 高齢者配食サービス見守り支援事業

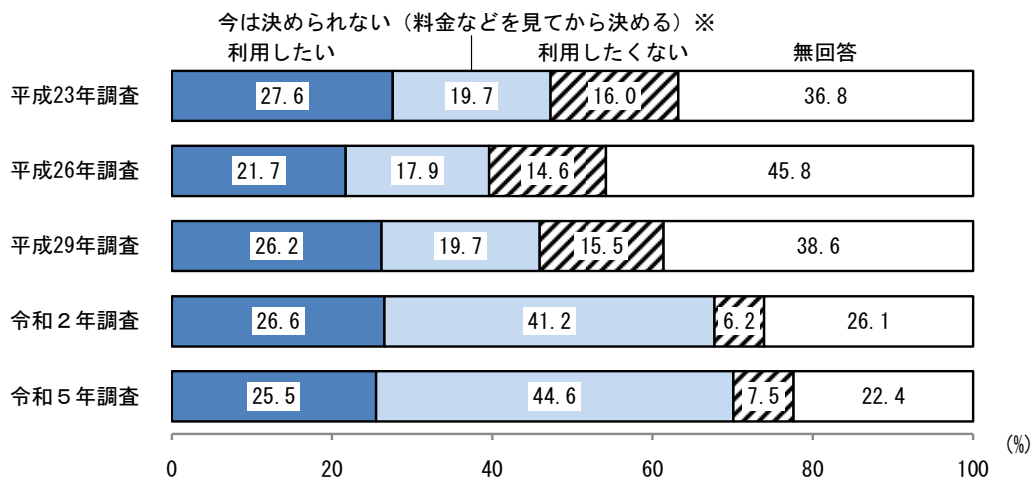
※平成29年度までは「配食サービス（食の自立支援事業）」



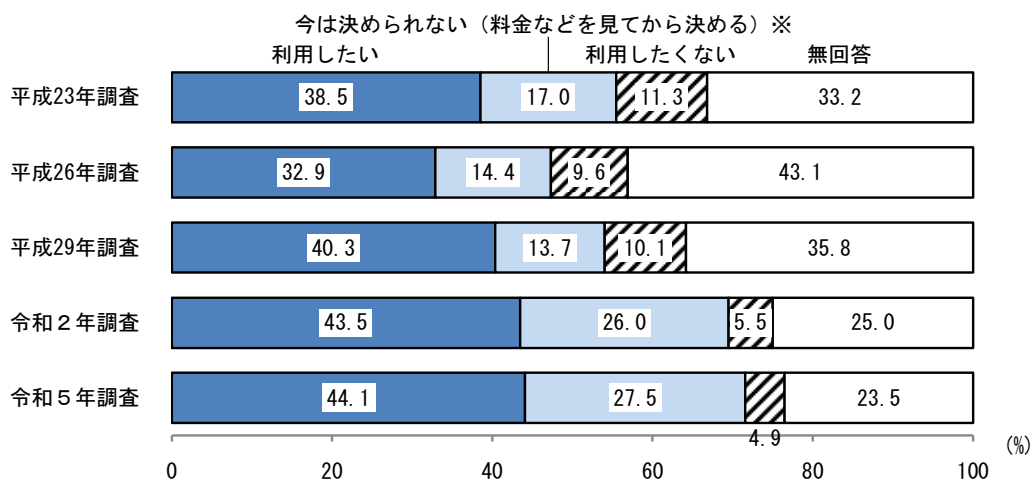
④ 街かどデイハウス



⑤ 健康相談

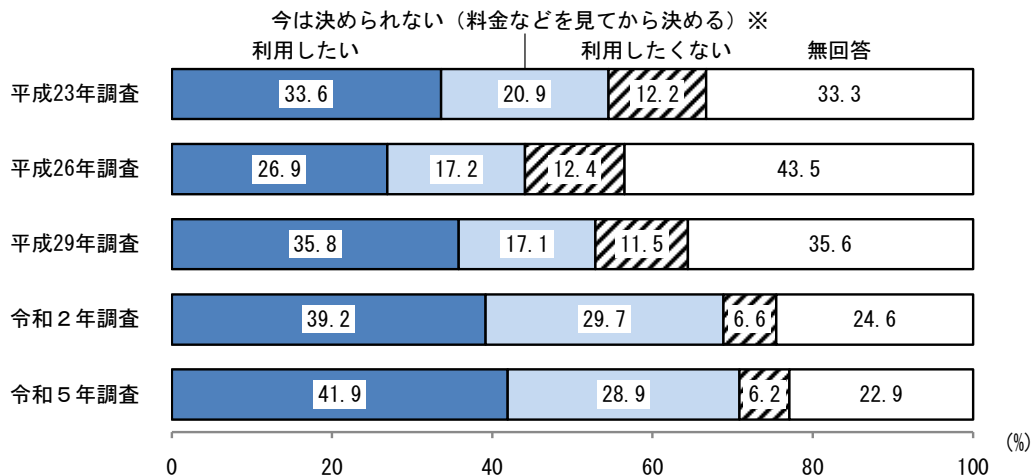


⑥ 健康診査（特定健康診査等の健診）

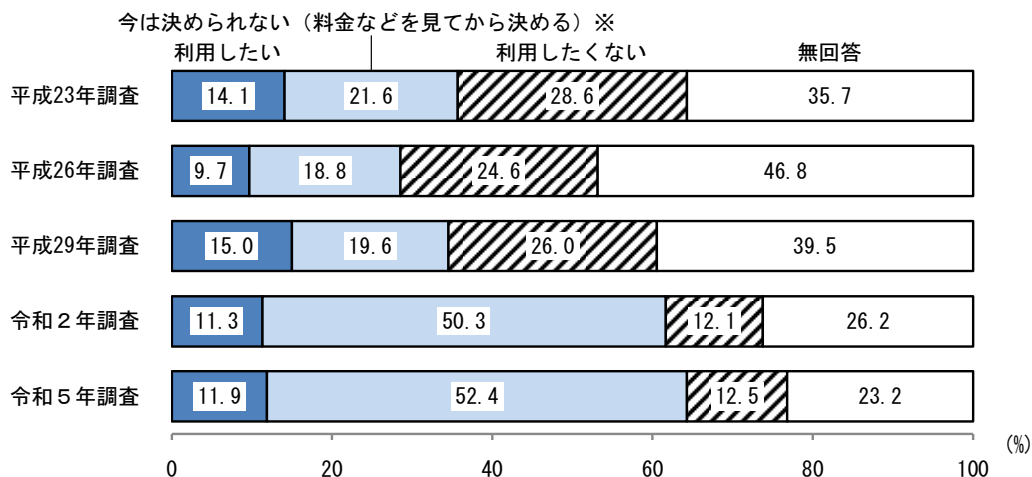


II-4 経年比較

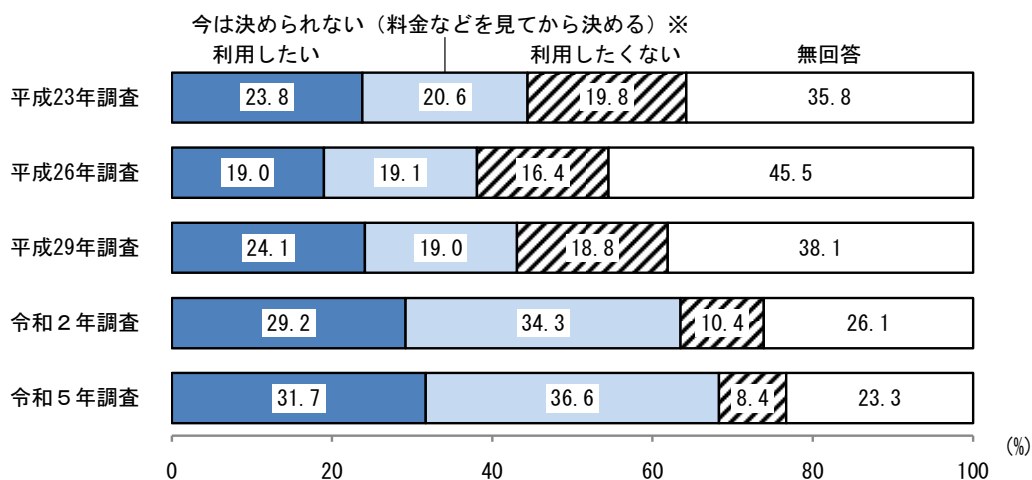
⑦がん検診



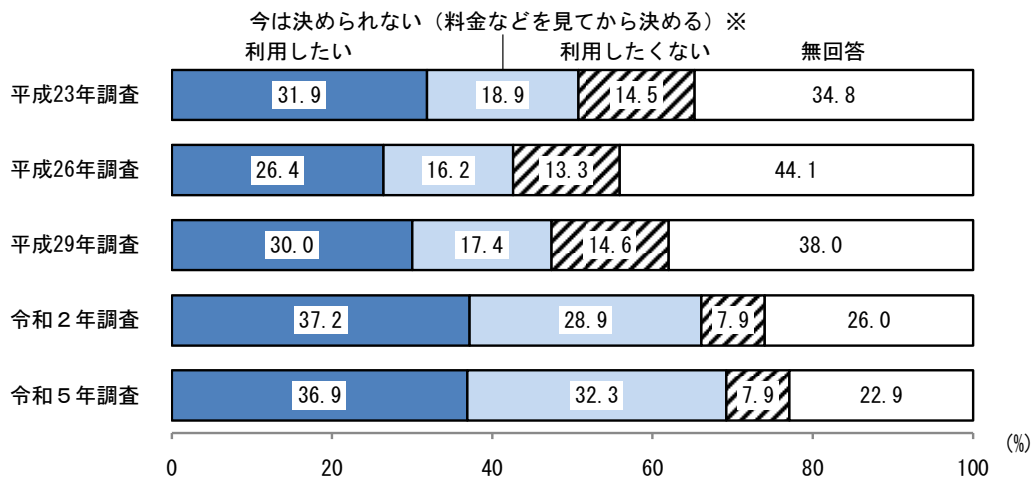
⑧訪問指導



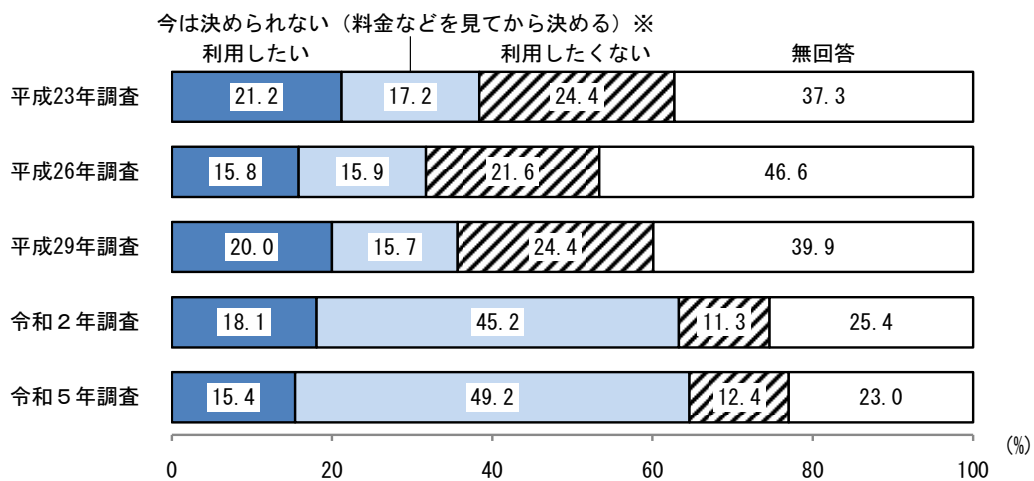
⑨成人歯科検診



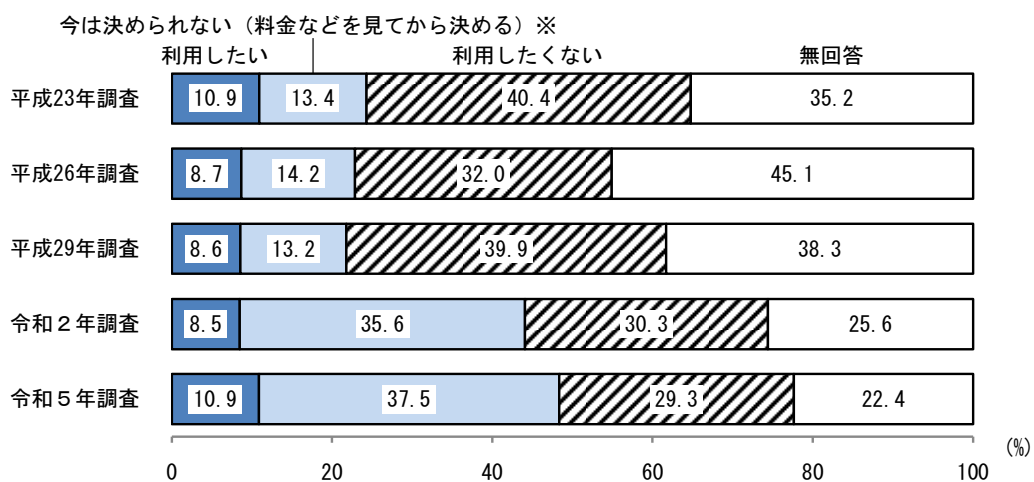
⑩ 骨密度測定



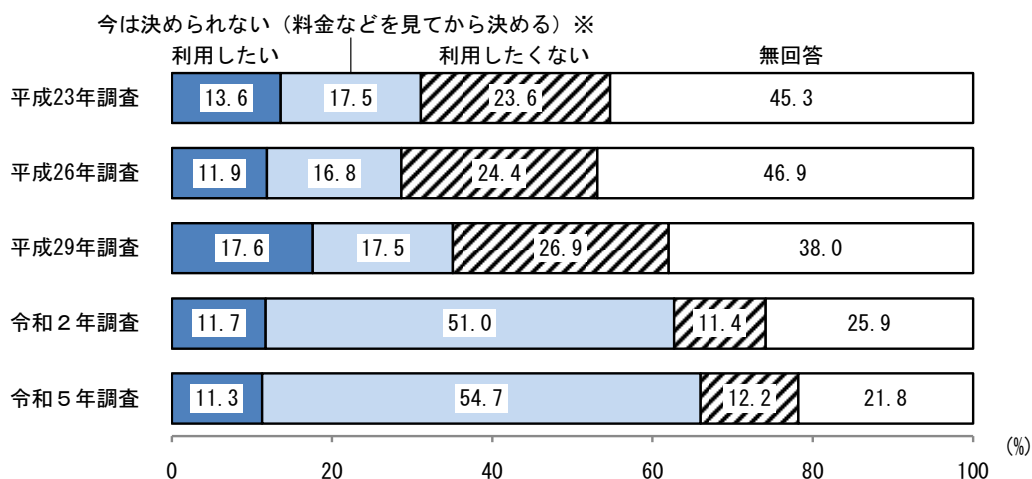
⑪ 介護予防の講座・教室



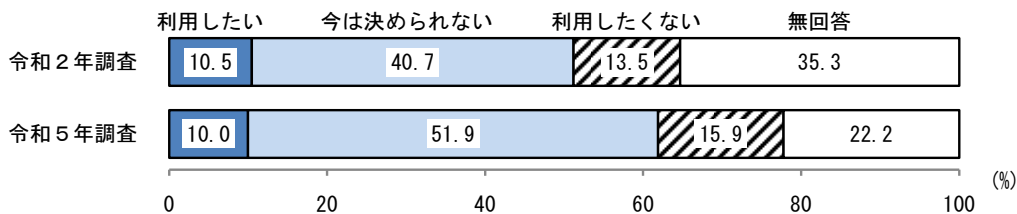
⑫ 福祉農園



⑬認知症高齢者見守りネットワーク

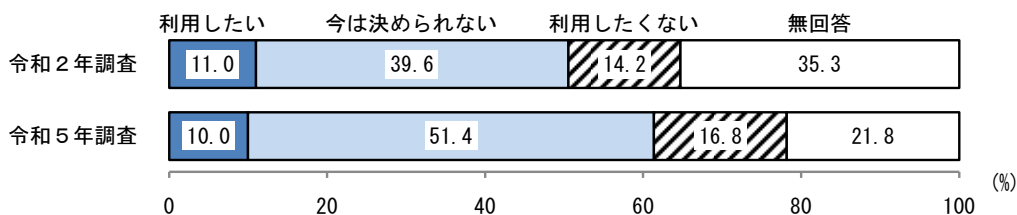


⑭地域の住民ボランティアによる訪問型助け合いサービス（玄関先で行うごみ出し等の生活支援）



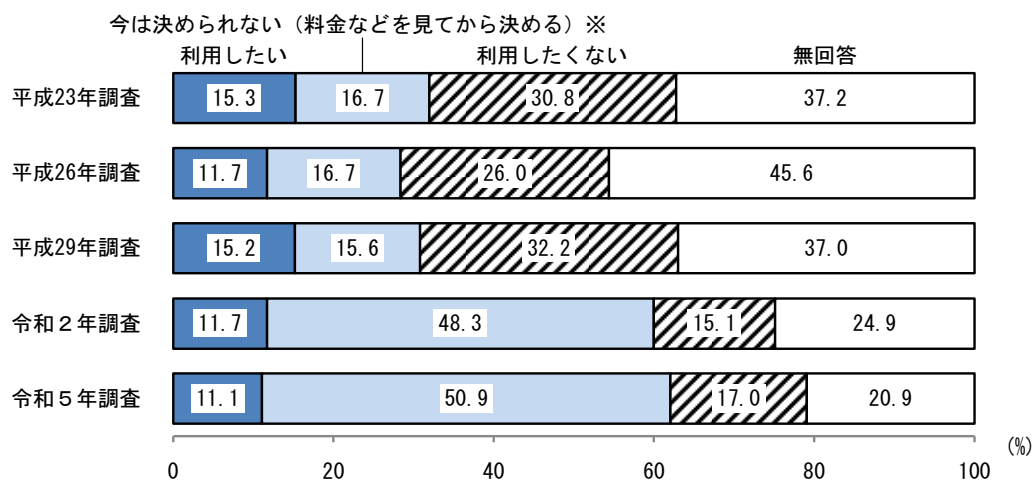
※平成29年調査までは項目なし

⑮地域の住民ボランティアによる通所型つどいサービス（地域の集いの場で体操等の介護予防を実施）



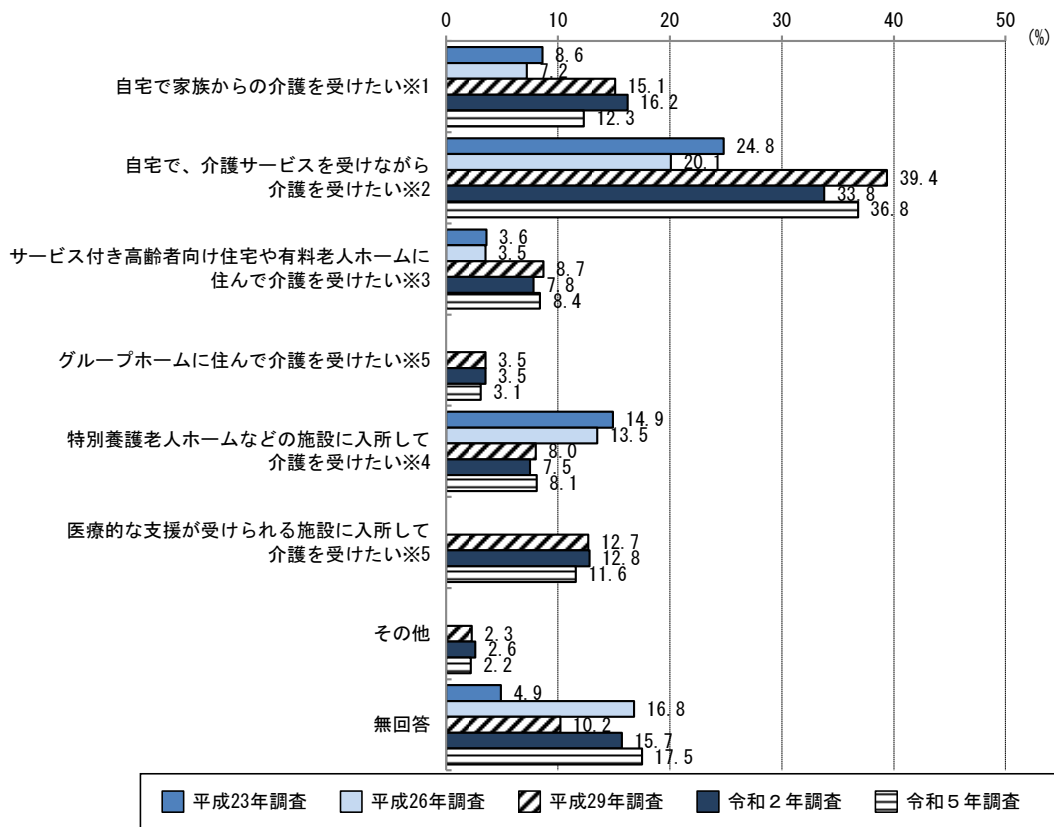
※平成29年調査までは項目なし

## ⑯ 老人センター



サービスの利用意向については、前回までと同様の傾向になっていますが、「がん検診」、「成人歯科検診」、「高齢者配食サービス見守り支援事業」などで、前回までに比べて利用意向が増加しています。

〔16〕 介護が必要となったときに希望する対応



※今回調査（令和5年調査）の選択肢にあるもののみ掲載、平成29年調査から「今はわからない」の選択肢がなくなったため、各項目の割合が多くなっている

※1 「自宅で主に家族からの介護を受けたい」は、平成26年調査では「自宅で家族などを中心に介護してほしい」と表記。

※2 「自宅で、主に介護サービスを受けながら介護を受けたい」は、平成26年調査では「自宅で介護保険などのサービスを受けたい」と表記。

※3 「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームに住んで介護を受けたい」は、平成26年調査では「サービス付高齢者向け住宅、有料老人ホームなどに移りたい」と表記。

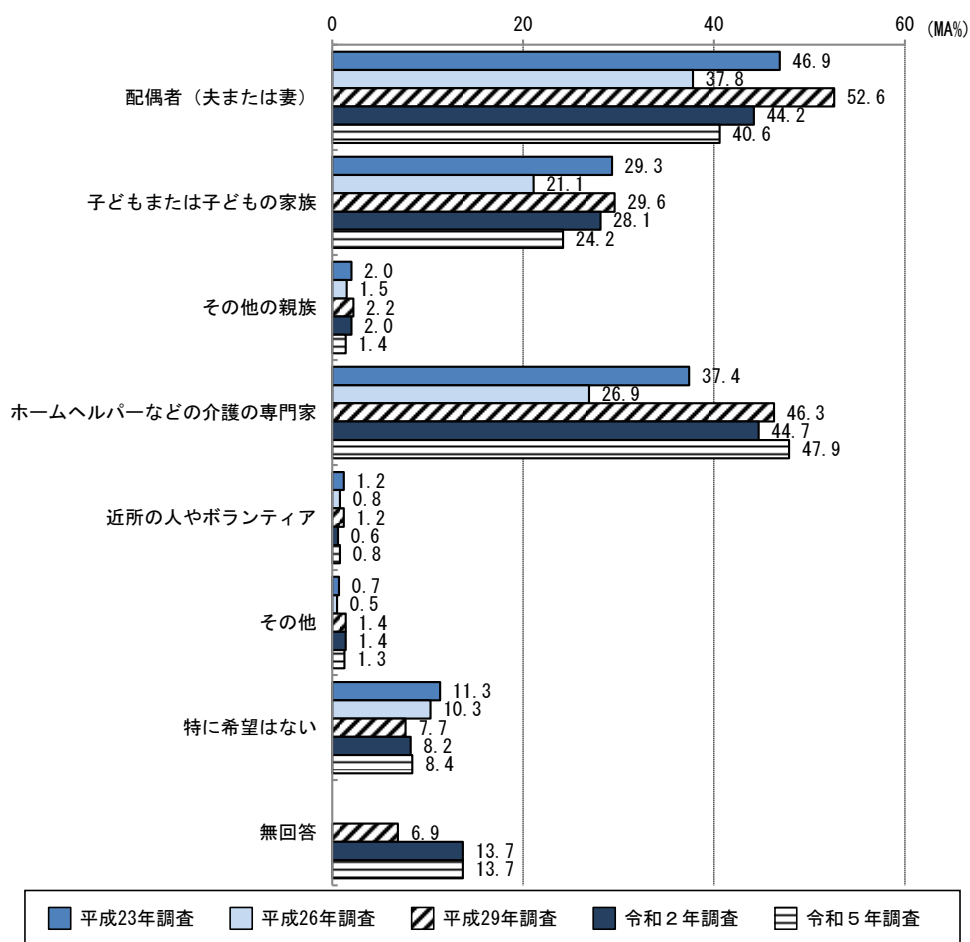
※4 「特別養護老人ホームなどの施設に入所して介護を受けたい」は、平成26年調査では「いずれは特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所したい」と表記。

※5 「グループホームに住んで介護を受けたい」、「医療的な支援が受けられる施設に入所して介護を受けたい」、「その他」については平成29年調査からの新規設問。

介護が必要となったときに希望する対応については、前回同様、自宅での介護を希望する人が半数を占めていますが、「自宅で、介護サービスを受けながら介護を受けたい」の割合は、前回調査に比べて増加しています。

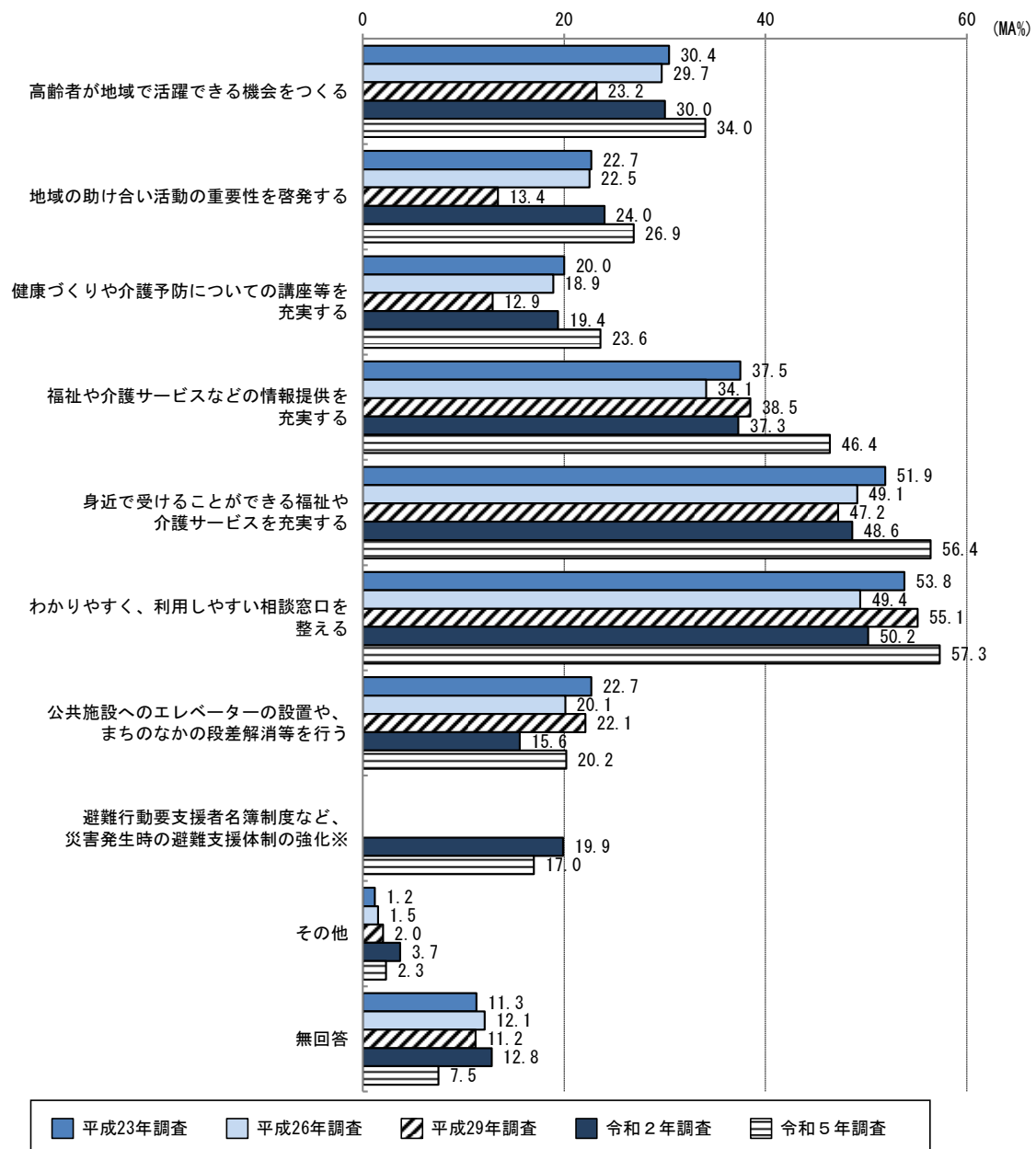


〔17〕 介護されたい人



介護されたい人については、上位にあがっているものは前回までと同様になっていますが、「配偶者（夫または妻）」や「子どもまたは子どもの家族」は減少傾向にあり、「ホームヘルパーなどの介護の専門家」で増加傾向がみられます。

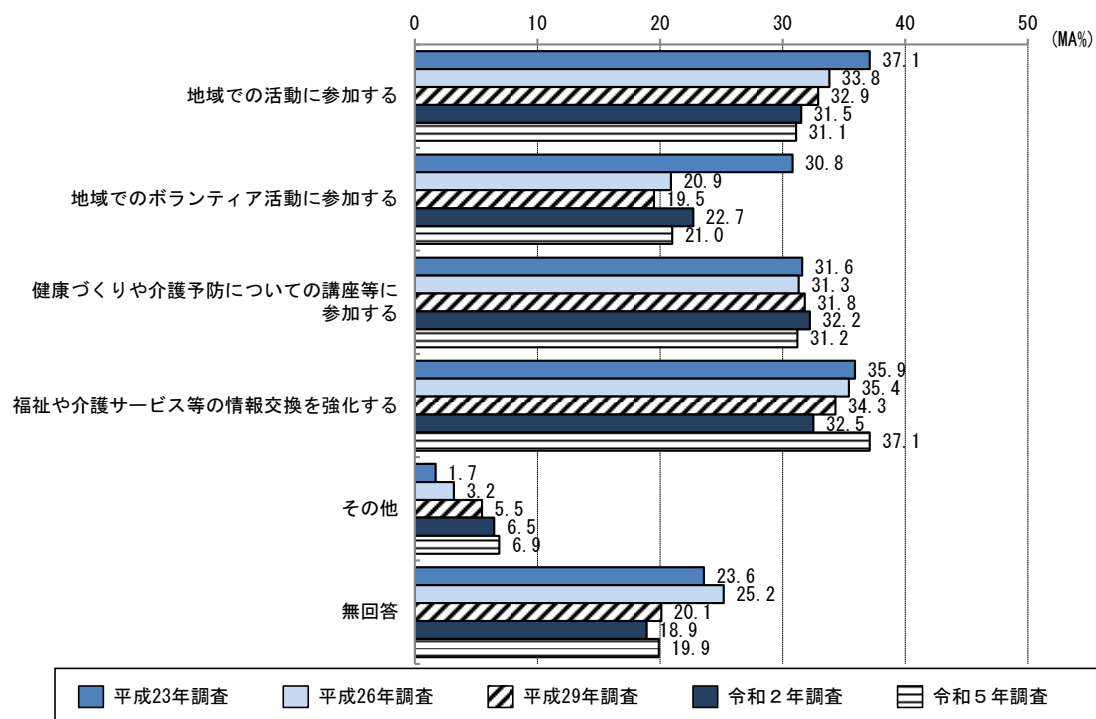
[18] 高齢者が暮らしやすいまちづくりのために市が重点的に取り組むべきこと



※「避難行動要支援者名簿制度など、災害発生時の避難支援体制の強化」は、令和2年調査からの新規項目

高齢者が暮らしやすいまちづくりのために市が重点的に取り組むべきことについて、上位にあがっているものは前回までと同様になっていますが、「福祉や介護サービスなどの情報提供を充実する」、「身近で受けることができる福祉や介護サービスを充実する」、「わかりやすく、利用しやすい相談窓口を整える」など、多くの項目が前回調査に比べて増加しています。

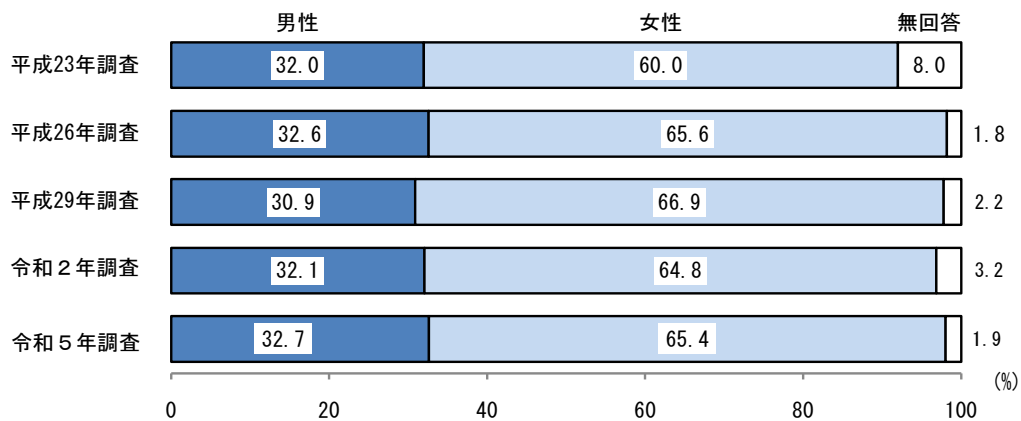
〔19〕 高齢者自身が取り組むとよいこと



高齢者自身が取り組むとよいことについては、「地域での活動に参加する」が年々減少傾向となっています。「福祉や介護サービス等の情報交換を強化する」の割合は前回までに比べて多くなっています。

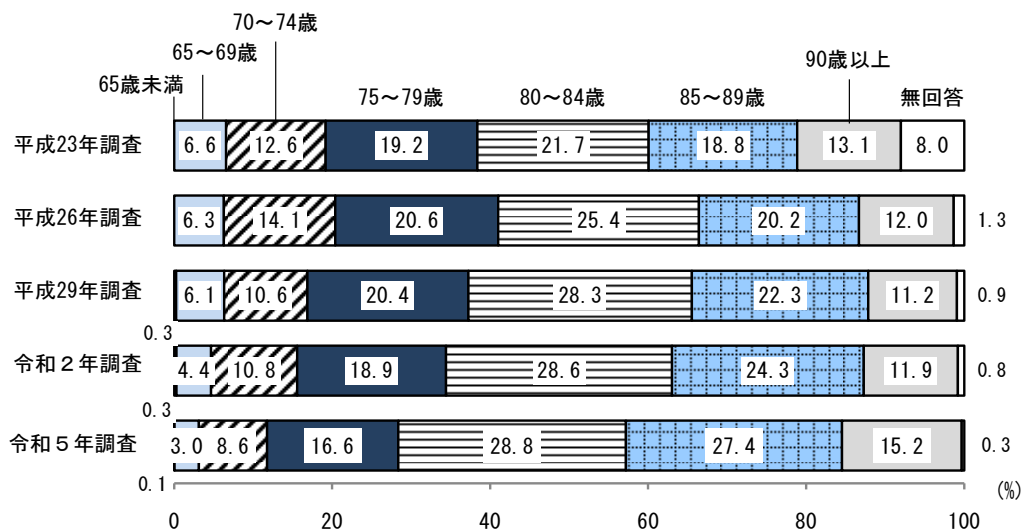
## 2 居宅サービス利用者

### 〔1〕性別



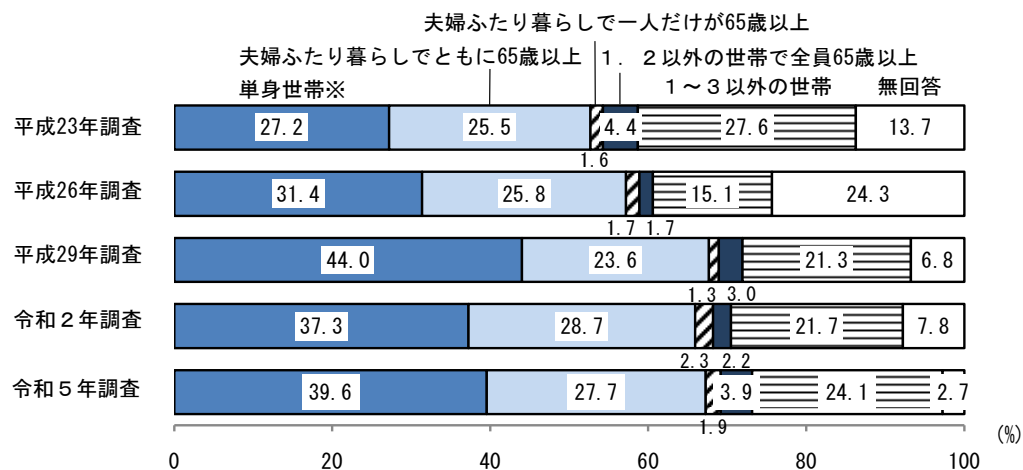
性別については、前回までと同様の傾向となっています。

### 〔2〕年齢



年齢については、75歳以上の後期高齢者の割合が年々増加しており、令和5年調査では9割弱（87.9%）を占めています。

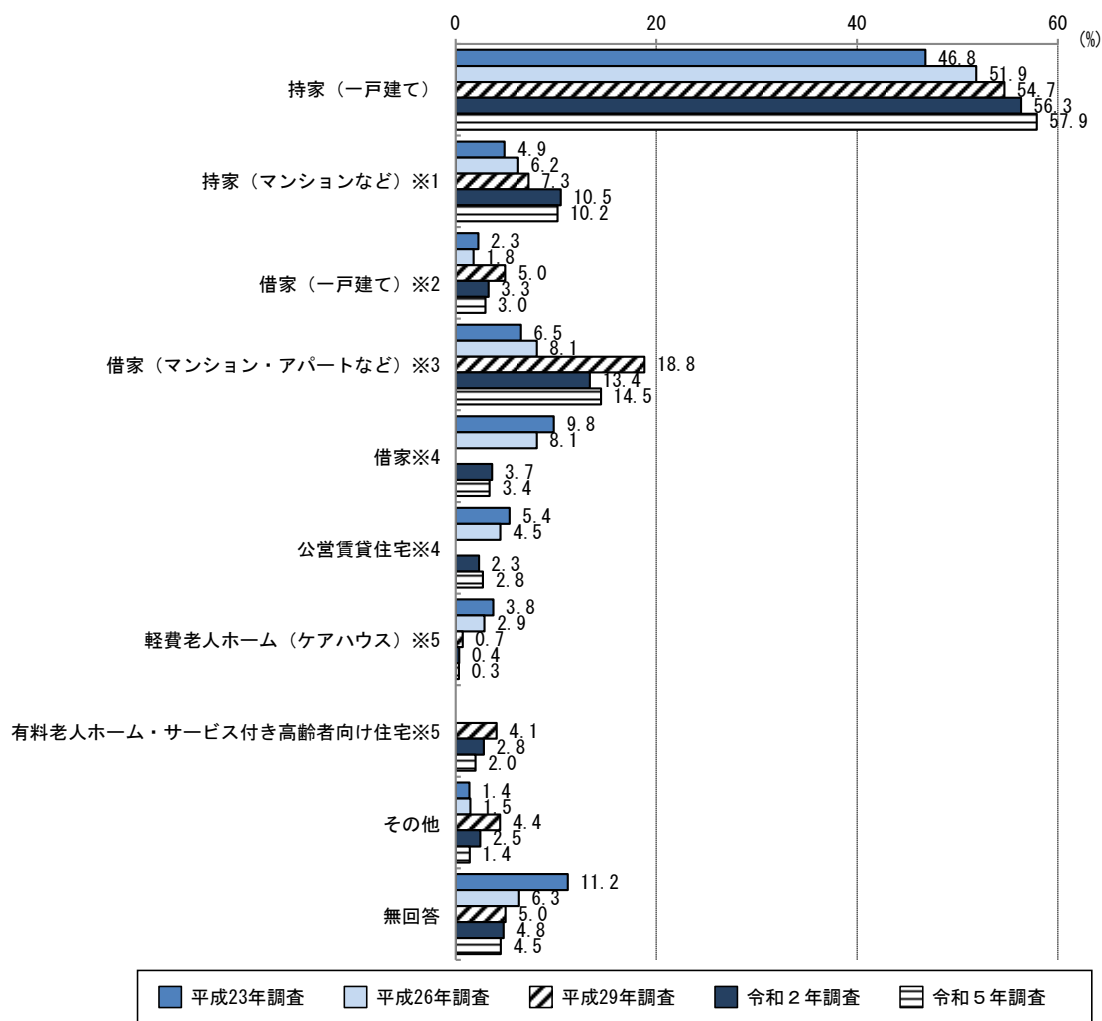
〔3〕 家族構成



※平成29年調査、令和2年調査、令和5年調査の要支援認定者は、「息子・娘との2世帯」、「その他」を合算して「1～3以外の世帯」とした。

家族構成については、前回に比べて「単身世帯」がやや増加しています。

〔4〕現在の住まいの種類



※今回調査（令和5年調査）の選択肢にあるもののみ掲載

※1 要支援認定者では、「持家（集合住宅）」

※2 要支援認定者では、「民間賃貸住宅（一戸建て）」

※3 要支援認定者では、「民間賃貸住宅（集合住宅）」

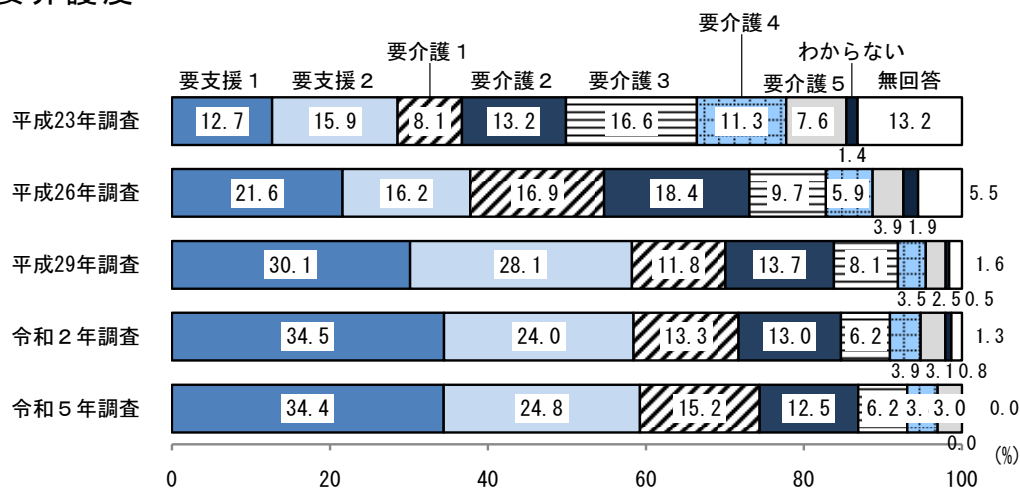
※4 要支援認定者のみの選択肢（要介護認定者では選択肢なし）、平成29年調査では選択肢なし  
「借家」は平成26年調査までは「借家（長屋建て）」

※5 要介護認定者のみの選択肢（要支援認定者では選択肢なし）

「有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅」は平成26年調査までは選択肢なし

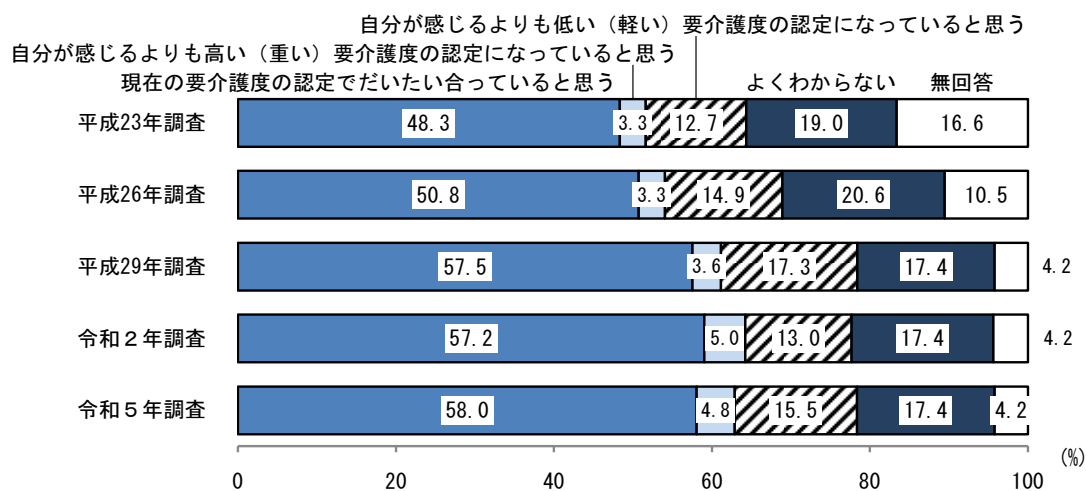
住居形態については、前回までと同様、「持家（一戸建て）」が多くなっていますが、「借家（マンション・アパートなど）」、「公営賃貸住宅」など、集合住宅の割合が増加傾向にあります。

〔5〕要介護度



要介護度については、前回調査と同様の傾向となっています。

〔6〕現在の要介護度をどう思うか



※平成29年調査、令和2年調査、令和5年調査は、要介護認定者調査における調査対象者のみを集計

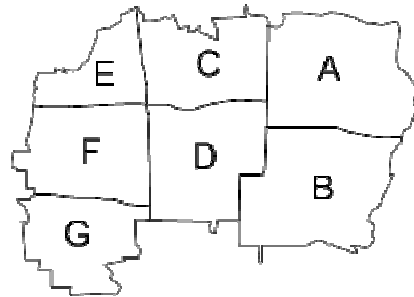
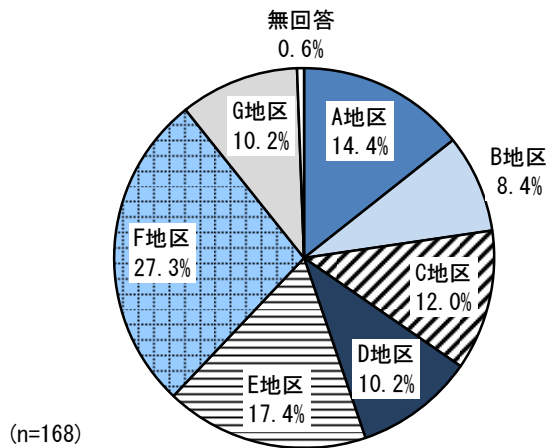
現在の要介護度をどう思うかについては、前回調査とほぼ同様の結果で、「現在の要介護度の認定でだいたい合っていると思う」が6割弱となっています。

## II-5 居宅介護支援事業所アンケート

### 1 事業所の概要

#### [1] 事業所の所在地

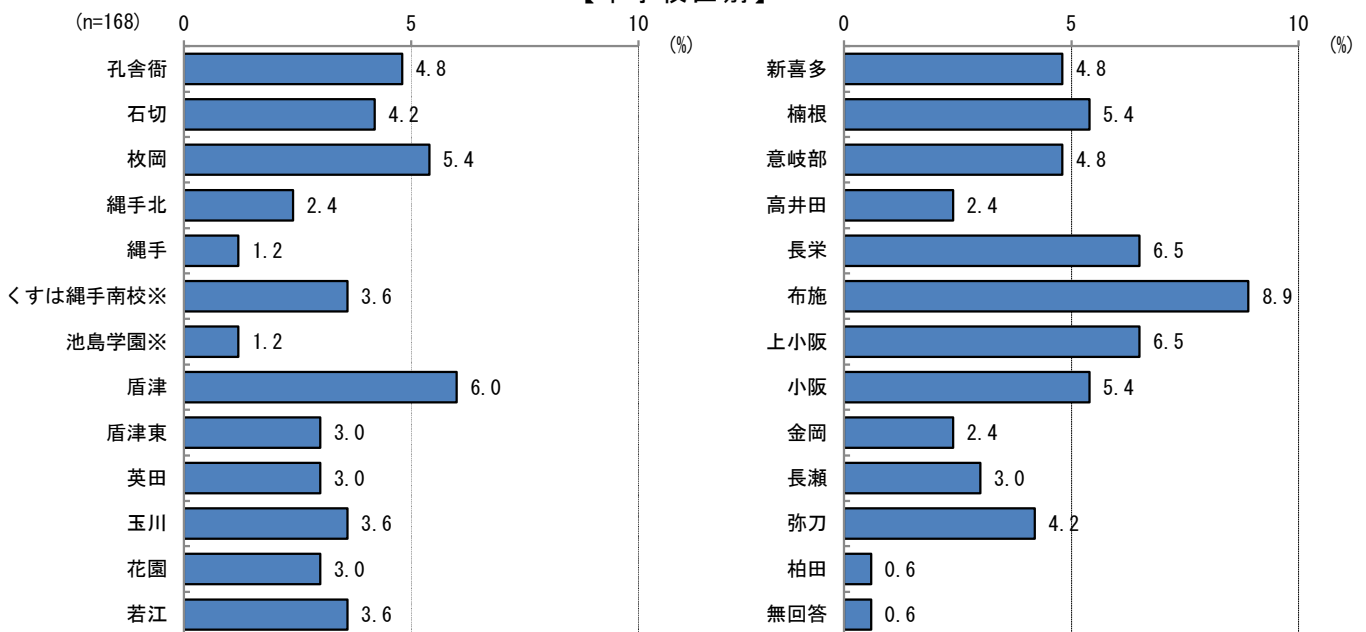
問1 貴事業所の中学校区をご回答ください。(1つ選択)



A地区：孔舎衛、石切、枚岡  
 B地区：縄手北、縄手、くすは縄手南校、池島学園  
 C地区：盾津、盾津東、英田  
 D地区：玉川、花園、若江  
 E地区：新喜多、楠根、意岐部、高井田  
 F地区：長栄、布施、上小阪、小阪  
 G地区：金岡、長瀬、弥刀、柏田

居宅介護支援事業所の所在地は、「F地区」が27.3%と最も多く、次いで、「E地区」が17.4%、「A地区」が14.4%となっています。

#### 【中学校区別】



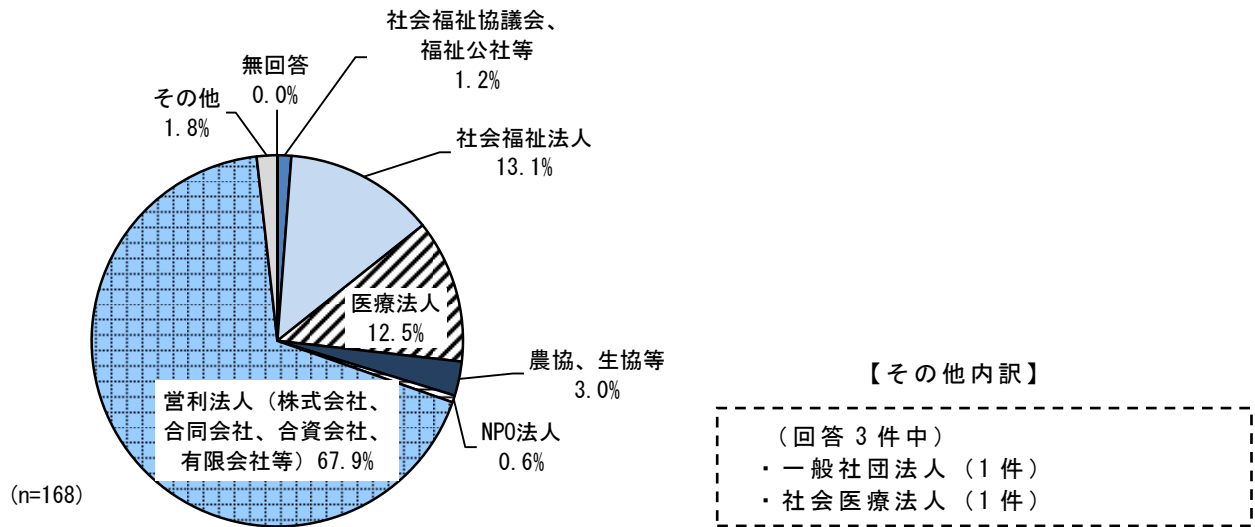
※「くすは縄手南校」と「池島学園」は義務教育学校

中学校区別にみると、「布施中学校区」、「長栄中学校区」、「上小阪中学校区」、「盾津中学校区」などで多くなっています。



〔2〕 運営形態

問2 貴事業所の運営形態をご回答ください。(1つ選択)



運営形態は、「営利法人(株式会社、合同会社、合資会社、有限会社等)」が67.9%と最も多く、次いで、「社会福祉法人」が13.1%、「医療法人」が12.5%となっています。

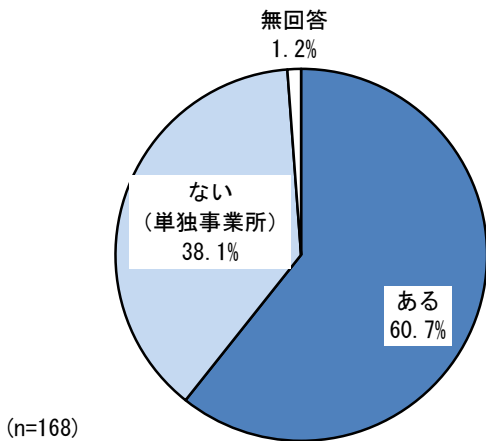
〔3〕併設事業所の有無と実施しているサービス

問3 貴事業所の併設事業所はありますか。(1つ選択)

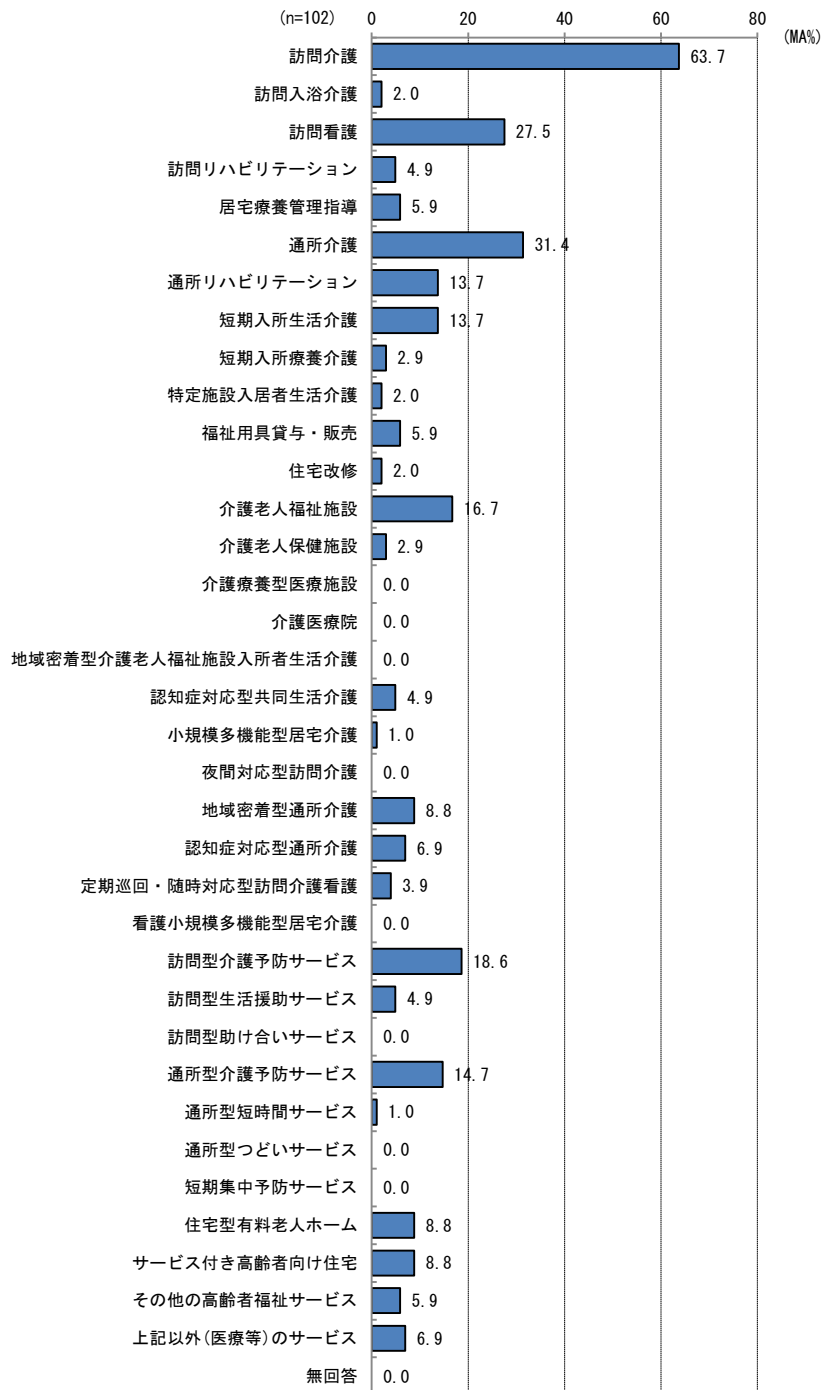
【問3で「1. ある」を回答された事業所のみ】

問3-1 併設事業所(おおむね同一敷地内)で実施しているサービスをご回答ください。(あてはまるものすべてに○)

【併設事業所の有無】



【併設事業所で実施しているサービス】



【その他の高齢者福祉サービス】

(回答6件中)

- ・ケアハウス(2件)
- ・住宅型有料老人ホーム(1件)
- ・サービス付高齢者住宅(1件)
- ・グループホーム(1件)
- ・障害福祉サービス(移動支援等)(1件)

【上記以外(医療等)のサービス】

(回答7件中)

- ・整骨院(2件)
- ・診療所(1件)
- ・精神科(1件)
- ・医療(1件)
- ・(障害福祉サービス)相談支援(1件)

※各サービスには介護予防サービスを含む

※「訪問型介護予防サービス」～「短期集中予防サービス」は介護予防・生活支援サービス事業

併設事業所の有無については、「ある」が60.7%で、実施しているサービスは、「訪問介護」が63.7%と最も多く、次いで、「通所介護」が31.4%、「訪問看護」が27.5%となっています。

〔4〕事業所の職員構成

問4 貴事業所の職員構成について、人数をご回答ください。  
(令和4年12月末日現在)

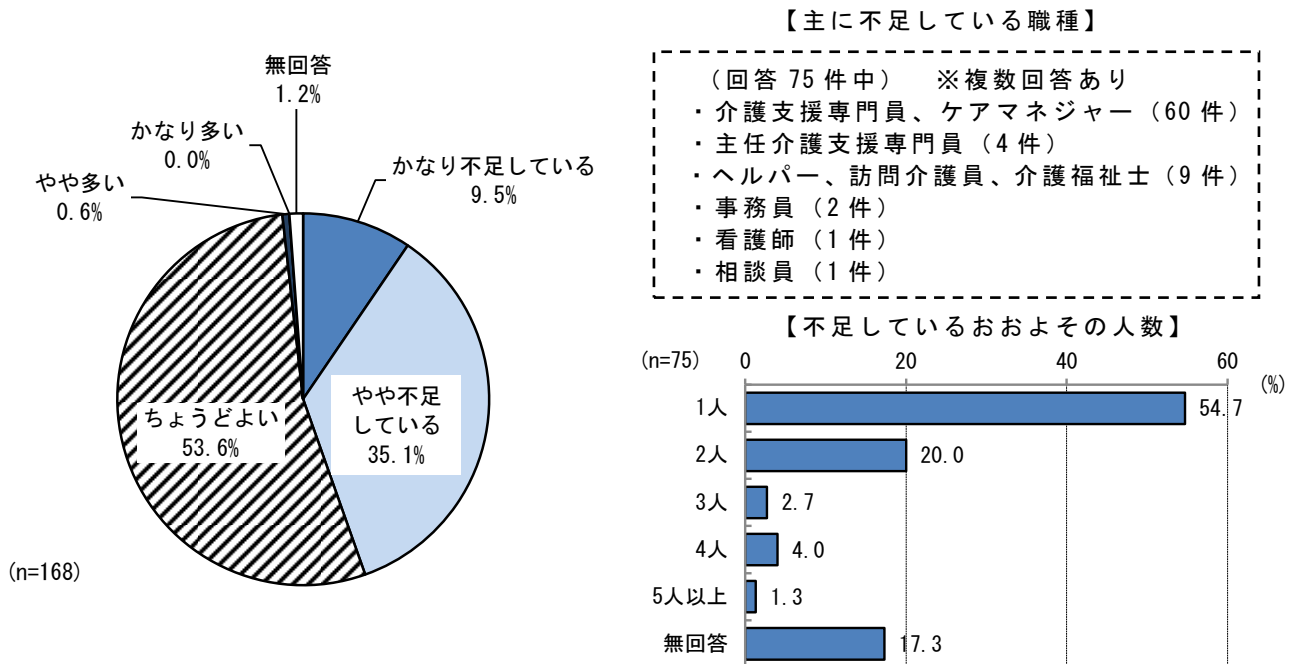
(上段：件、下段：%)

		n	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	
常勤	主任介護支援専門員	168	<b>75</b>	24	7	3	6	53	
		100	<b>44.6</b>	14.3	4.2	1.8	3.6	31.5	
	専従	介護支援専門員	168	<b>60</b>	1	0	0	1	106
		100	<b>35.7</b>	0.6	0	0	0	0.6	63.1
	その他(事務職等)	168	<b>6</b>	1	0	0	0	0	161
		100	<b>3.6</b>	0.6	0	0	0	0	95.8
	兼務	主任介護支援専門員	168	<b>2</b>	1	0	0	0	165
			100	<b>1.2</b>	0.6	0	0	0	98.2
		介護支援専門員	168	<b>51</b>	29	11	9	4	64
			100	<b>30.4</b>	17.3	6.5	5.4	2.4	38.1
		その他(事務職等)	168	<b>10</b>	0	0	0	0	158
			100	<b>6.0</b>	0	0	0	0	94.0
非常勤	主任介護支援専門員	168	<b>22</b>	9	3	0	0	134	
		100	<b>13.1</b>	5.4	1.8	0	0	79.8	
	専従	介護支援専門員	168	<b>7</b>	1	0	0	0	160
		100	<b>4.2</b>	0.6	0	0	0	95.2	
	その他(事務職等)	168	<b>11</b>	0	0	0	0	157	
		100	<b>6.5</b>	0	0	0	0	93.5	
	兼務	主任介護支援専門員	168	<b>7</b>	1	0	0	0	160
			100	<b>4.2</b>	0.6	0	0	0	95.2
		介護支援専門員	168	<b>14</b>	0	0	0	0	154
			100	<b>8.3</b>	0	0	0	0	91.7
		その他(事務職等)	168	<b>8</b>	1	0	0	0	159
			100	<b>4.8</b>	0.6	0	0	0	94.6

事業所の職員構成について、主任介護支援専門員は、「常勤・専従・1人」が44.6%と最も多く、次いで、「常勤・専従・2人」が14.3%となっています。介護支援専門員は、「常勤・専従・1人」が35.7%と最も多く、次いで、「常勤・兼務・1人」が30.4%となっています。

〔5〕 職員の過不足状況

問5 貴事業所における職員の過不足状況をご回答ください。(1つ選択)

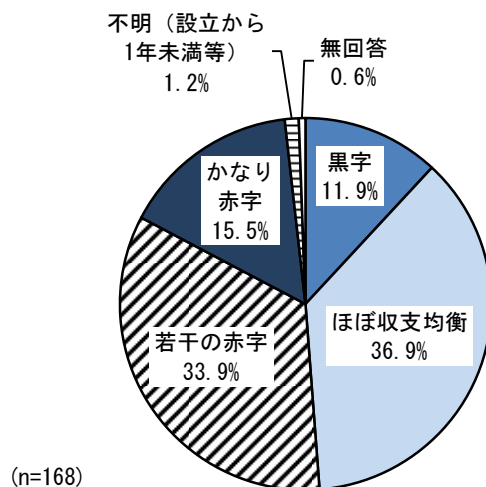


職員の過不足状況については、「ちょうどよい」が 53.6%と多く、「かなり不足している」(9.5%) と「やや不足している」(35.1%) を合わせた『不足している』が 44.6%となっています。

主に不足している職種は、「介護支援専門員」が最も多く、不足している人数は「1人」が 54.7%と最も多くなっています。

〔6〕 昨年度1年間の収支状況

問6 貴事業所の昨年度1年間の収支状況についてご回答ください。(1つ選択)



昨年度1年間の収支状況については、「ほぼ収支均衡」が 36.9%と最も多く、次いで、「若干の赤字」が 33.9%、「かなり赤字」が 15.5%で、『赤字』は合計 49.4%となっています。

〔7〕 ケアプラン給付管理件数

問7 貴事業所におけるケアプラン給付管理件数（令和4年12月分）をご回答ください。

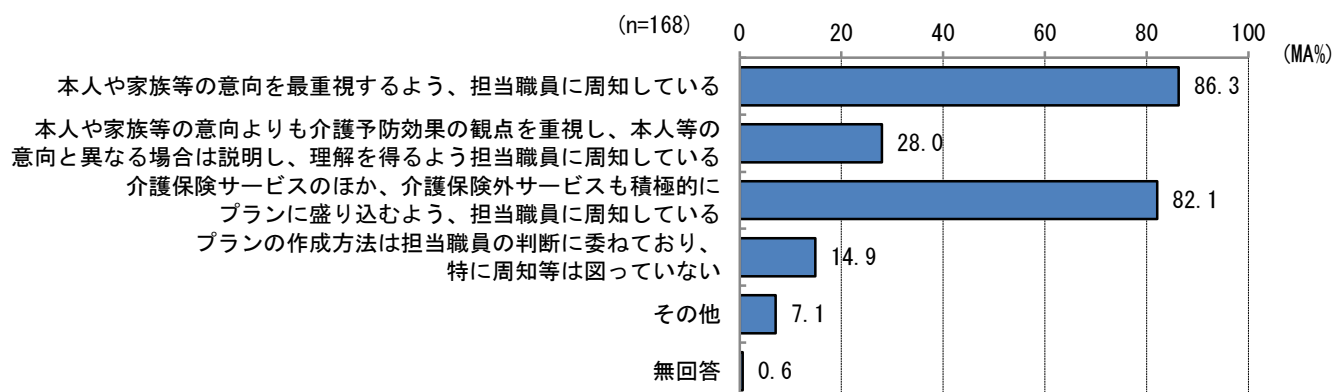
(上段：件、下段：%)

		n	1 ~ 4 人	5 ~ 9 人	10 ~ 19 人	20 ~ 29 人	30 ~ 39 人	40 ~ 49 人	50 ~ 59 人	60 ~ 69 人	70 ~ 79 人	80 ~ 89 人	90 ~ 99 人	100 人以上	無 回 答	平均 (人)
事業対象者		168	15	5	5	2	0	1	1	5	134	9.0				
		100	8.9	3.0	3.0	1.2	0	0.6	0.6	3.0	79.8					
介護予防 ケアマネジメント	要支援1	168	75	36	9	1	0	1	0	0	46	4.0				
		100	44.6	21.4	5.4	0.6	0	0.6	0	0	27.4					
	要支援2	168	58	36	20	3	0	0	0	0	51	4.7				
		100	34.5	21.4	11.9	1.8	0	0	0	0	30.4					
予防給付	要支援1	168	68	44	13	1	0	0	0	0	42	4.1				
		100	40.5	26.2	7.7	0.6	0	0	0	0	25.0					
	要支援2	168	61	49	24	9	0	0	0	0	25	6.4				
		100	36.3	29.2	14.3	5.4	0	0	0	0	14.9					
介護給付	要介護1	168	14	30	42	27	22	14	14	1	4	23.6				
		100	8.3	17.9	25.0	16.1	13.1	8.3	8.3	0.6	2.4					
	要介護2	168	14	35	36	33	15	12	20	1	2	24.0				
		100	8.3	20.8	21.4	19.6	8.9	7.1	11.9	0.6	1.2					
	要介護3	168	38	42	47	20	8	5	4	0	4	13.6				
		100	22.6	25.0	28.0	11.9	4.8	3.0	2.4	0	2.4					
	要介護4	168	51	46	34	15	8	4	1	0	9	10.4				
		100	30.4	27.4	20.2	8.9	4.8	2.4	0.6	0	5.4					
	要介護5	168	54	46	28	6	8	2	1	0	23	8.5				
		100	32.1	27.4	16.7	3.6	4.8	1.2	0.6	0	13.7					
暫定・申請中		168	36	6	0	0	0	0	0	1	125	2.2				
		100	21.4	3.6	0	0	0	0	0	0.6	74.4					

令和4年12月分のケアプラン給付管理件数について、介護予防ケアマネジメントと予防給付では、「要支援1」の「1~4人」が最も多く、次いで、「要支援2」の「1~4人」となっています。介護給付では、「要介護5」の「1~4人」が最も多く、次いで、「要介護4」の「1~4人」となっています。平均管理件数は介護給付の「要介護1」、「要介護2」がそれぞれ20人以上と多くなっています。

〔8〕ケアプランを作成する際に留意していること

問8 貴事業所では、ケアプランを作成する際に留意していることはありますか。  
 (あてはまるものすべてに○)



【「本人や家族等の意向よりも介護予防効果の観点を重視し、本人等の意向と異なる場合は説明し、理解を得るよう担当職員に周知している」の具体的な事例】

(回答 47 件中 ※複数回答あり)

- ・残存機能を活用し、自立生活を支援していくことを説明する (9 件)
- ・サービス利用を拒否されている方に必要性を説明し、サービス利用につなげる (5 件)
- ・介護予防効果、利用しなかった場合のリスクなどを説明し、サービス利用につなげる (5 件)
- ・能力の維持、機能の向上を考えた提案をする (4 件)
- ・過剰や不足を調整し、より適切なサービスを提案する (4 件)
- ・外出を促すようなサービスを勧める (2 件)
- ・本人のできる事ややりたい目標を聞き、できる対策を一緒に考える (1 件)
- ・本人や家族の意向が適切でなかったり、介護保険の制度と異なる場合は理解してもらえよう説明する (1 件)
- ・色々な角度からの提案を行なう (1 件) など

【その他内訳】

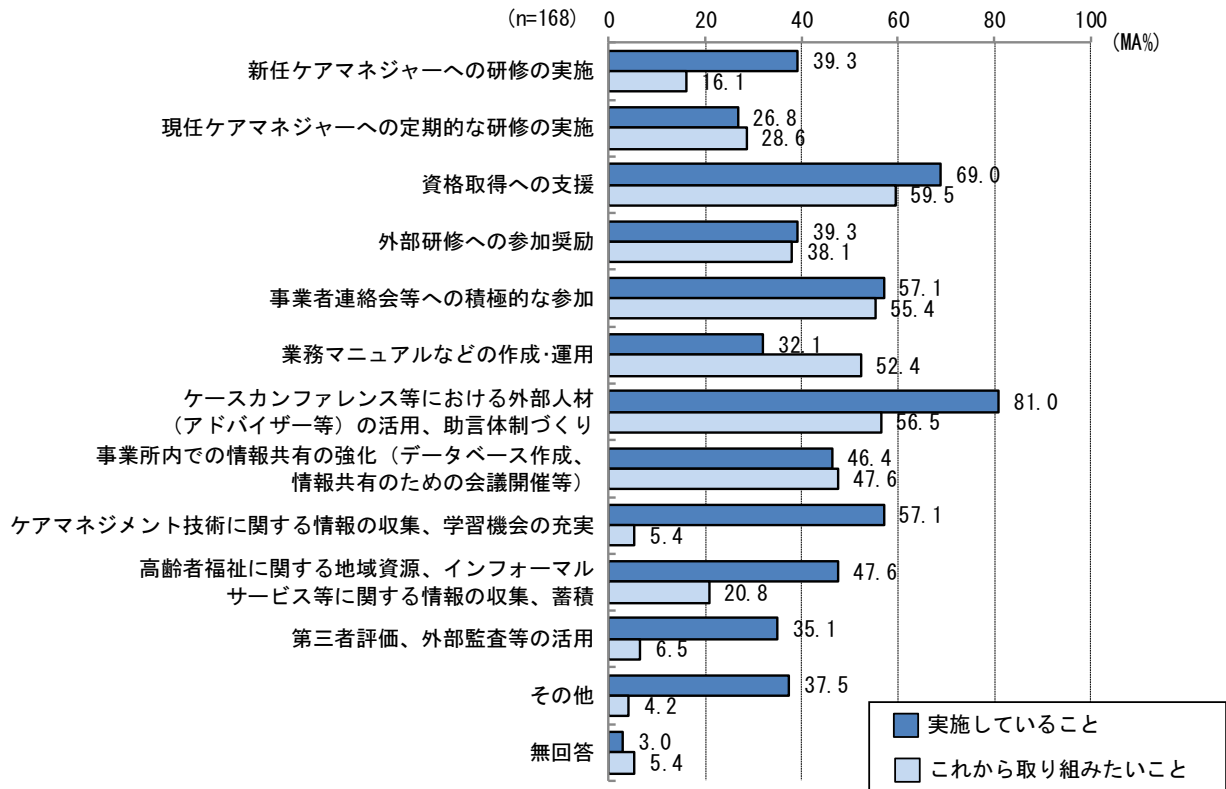
(回答 12 件中)

- ・インフォーマルやセルフケアを盛り込むようにしている (1 件)
- ・本人家族の意向は重視するがニーズに合ったサービスの提案は行う (1 件)
- ・本人や家族の意向は重視するが、必要以上のサービスにならないように留意 (1 件)
- ・介護予防効果の観点を説明し理解を求め、段階を経て納得してもらおう (1 件)
- ・本人・家族の意向も大事だが、医師にも聞き取りを行うようにしている (1 件)
- ・定期的に事例検討会を開催し、アセスメントを皆で考えるようにしている (1 件)
- ・アセスメントを行う際、必要な点については数値化、評価できるように具体的に把握する (1 件)
- ・第三者視点が入るように、新規相談の際は簡単な説明を行う時間を設けている (1 件)
- ・経済面の考慮 (1 件)
- ・法令順守を徹底し周知 (1 件)

ケアプランを作成する際に留意していることは、「本人や家族等の意向を最重視するよう、担当職員に周知している」が 86.3%と最も多く、次いで、「介護保険サービスのほか、介護保険外サービスも積極的にプランに盛り込むよう、担当職員に周知している」が 82.1%となっています。

〔9〕 ケアマネジメント向上への取り組みとして実施していること、取り組みたいこと

問9 貴事業所では、ケアマネジメント向上への取り組みとして、どのようなことを実施していますか。また、今後どのようなことに取り組みたいと考えていますか。  
 『A. 実施していること』、『B. これから取り組みたいこと』それぞれについて、1～12の中からあてはまるものをご回答ください。  
 (あてはまるものすべてに○)



【その他内訳】

- A. 「実施していること」(回答6件)
- ・コロナ感染や急な病気などで担当者がいないことで、利用者のことがわからないということがないように、基本訪問は2名体制で訪問するようにしている(2件)
  - ・法人内でのケアプランチェック(1件)・他事業所等とのケアプランなどの勉強会(1件)
  - ・高齢者施策の活用(1件) ・BCP計画の作成を進める(1件)
- B. 「これから取り組みたいこと」(回答7件)
- ・BCP計画の作成を進める(1件) ・BCPについて地域と情報共有(1件)
  - ・事業所内の事例検討(1件) ・他法人との事例検討会の開催・参加(1件)
  - ・他居宅支援事業者との積極的な勉強会、情報交換(1件)
  - ・事業所にて週1回のケース会議、他居宅支援事業所との事例検討会の開催など(1件)
  - ・介護支援専門員が一人で抱え込まないように、常時、業務の進捗状況を話せる職場環境作り(1件)
  - ・ケアマネジャーの採用(1件)

ケアマネジメント向上への取り組みとして実施していることでは、「ケースカンファレンス等における外部人材(アドバイザー等)の活用、助言体制づくり」が81.0%と最も多く、次いで、「資格取得への支援」が69.0%となっています。

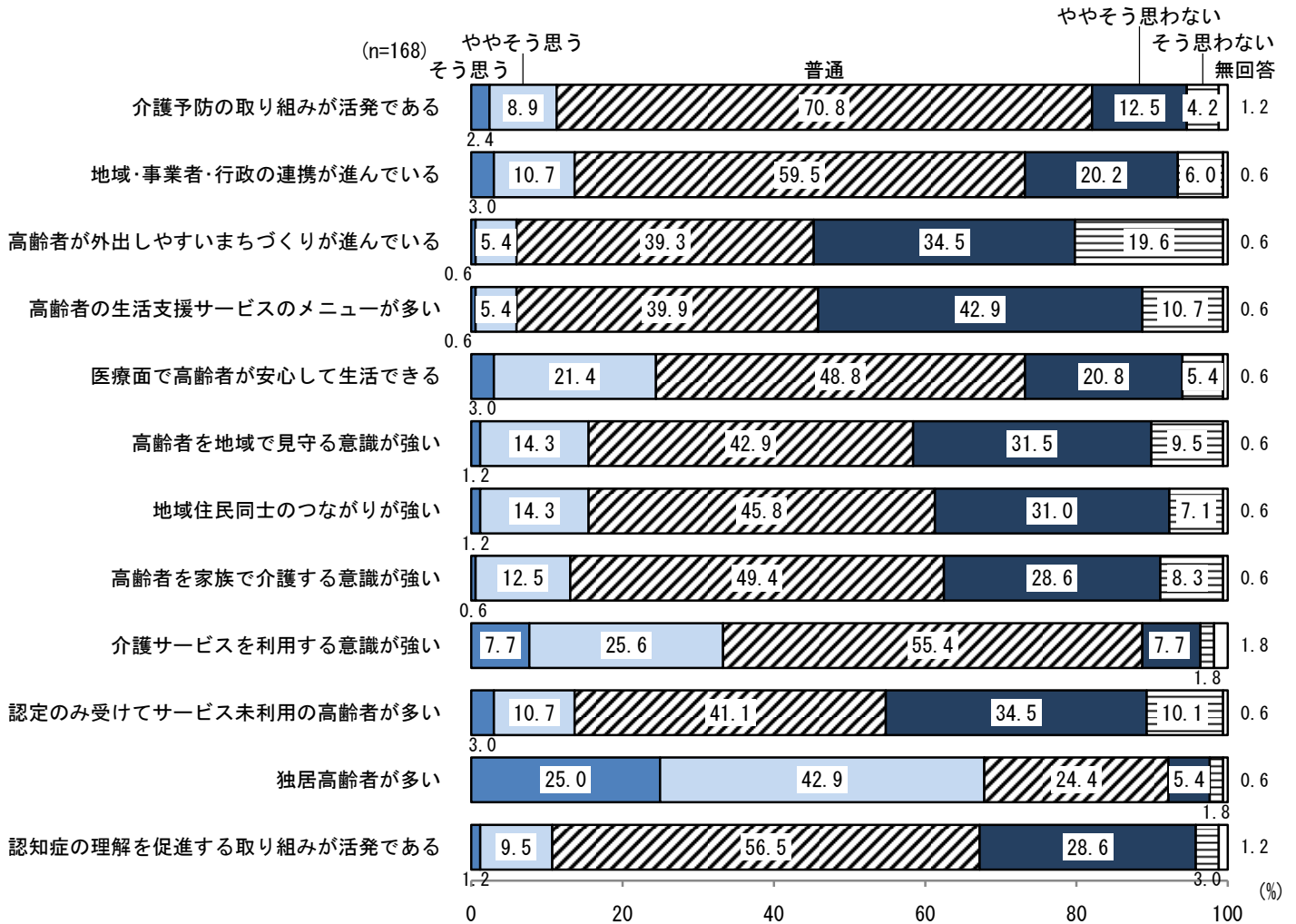
これから取り組みたいことでは、「資格取得への支援」が59.5%と最も多く、次いで、「ケースカンファレンス等における外部人材(アドバイザー等)の活用、助言体制づくり」が56.5%となっています。

実施意向に比べて実施が少ないのは、「業務マニュアルなどの作成・運用」(20.3ポイント)となっています。

## 2 事業所立地地域の特色や介護・介護予防サービスについて

### 〔1〕地域の特色

問10 高齢者の生活や介護・介護予防に関連して、地域の特色と感ずるものがありますか。1～12の各項目について、そう思う程度をご回答ください。



高齢者の生活や介護・介護予防に関連して、地域の特色と感ずるものについて、「強く思う」と「やや思う」を合わせた『強く思う』は、「独居高齢者が多い」で67.9%と最も多く、次いで、「介護サービスを利用する意識が強い」で33.3%となっています。一方、「そう思わない」と「ややそう思わない」を合わせた『そう思わない』は、「高齢者が外出しやすいまちづくりが進んでいる」で54.1%、「高齢者の生活支援サービスのメニューが多い」で53.6%と多くなっています。



## 【その他、地域の特色と思うこと】

(回答 36 件中) ※複数回答あり

<地域のつながりに関すること(12件)>

- ・地元で生まれ育った人も多い。地元の方は、地域住民との関わりは強い
- ・地域のつながりが強く、相談等件数も多い
- ・地域によっては自治会の活動が活発
- ・自治会や地域ネットワークの取り組みはしている
- ・町内会の活動が活発で、地蔵盆や旅行等高齢者を巻き込んだ活動を積極的に行っている
- ・昔からその土地に住み着いている「地の人」は自治会等の活動に参加しているが、後で移り住んだ人たちは孤立傾向。孤独死も耳にする
- ・この数年、マンションが数件新築されて若年層は増えているが、地域の関係は希薄
- ・「向こう3軒両隣り」の関係性がないので孤独感を感じている高齢者も多いと推測している
- ・自治会に参加される方も少なくなっていると聞いている。ご近所や自治会の介入は今後メリットがないと難しいと感じる
- ・地域によっての差や地域住民の中での担い手不足を感じる

<移動に関すること(9件)>

- ・住宅が山の傾斜地にあり、外出を困難にしている
- ・坂道が多く、受診難民や買い物難民が多い
- ・山手で坂道が多い。比較的元気な方でも通院や買い物に支援が必要
- ・坂道が著明でスーパーが少なく高齢者が買い物に苦労されており、その面での支援が全くされていない
- ・駅から遠く、買い物や通院が不便。バスは開通したが、停留所の場所も座って待てず、利用しにくく本数も少ない。大きな病院までバス1本で行けるようになって欲しい
- ・坂が多いことで高齢者の外出が妨げられている反面、地域住民は歩いての移動に慣れており、足腰のしっかりしている高齢者も多い
- ・山間部のため移動手段に困ることが多い。生活支援のサービス内容(買物と調理・買物と掃除など)60分枠内で終わらないため利用回数で調整せざるをえず効率がいいとは言い難い

<多職種連携について(6件)>

- ・地域包括の協力を得られて問題解決に結びつけることができている。多職種との連携も取れて地域でのネットワークづくりも活用できている
- ・地域の医療機関との連携も取れているように思う
- ・医師会の取り組みが積極的
- ・独居高齢者の把握や地域の診療所との連携、情報の共有が密に行われていると思う
- ・介護予防の観点においては地域包括支援センターが主体とはなると思うが、取り組みに関してや情報の共有など地域差(包括支援センターでの温度差のようなものを含めて)を感じる
- ・介護サービスからの卒業に向け、介護従事者と地域の連携が活発ではない

<独居高齢者、生活困窮者に関すること(6件)>

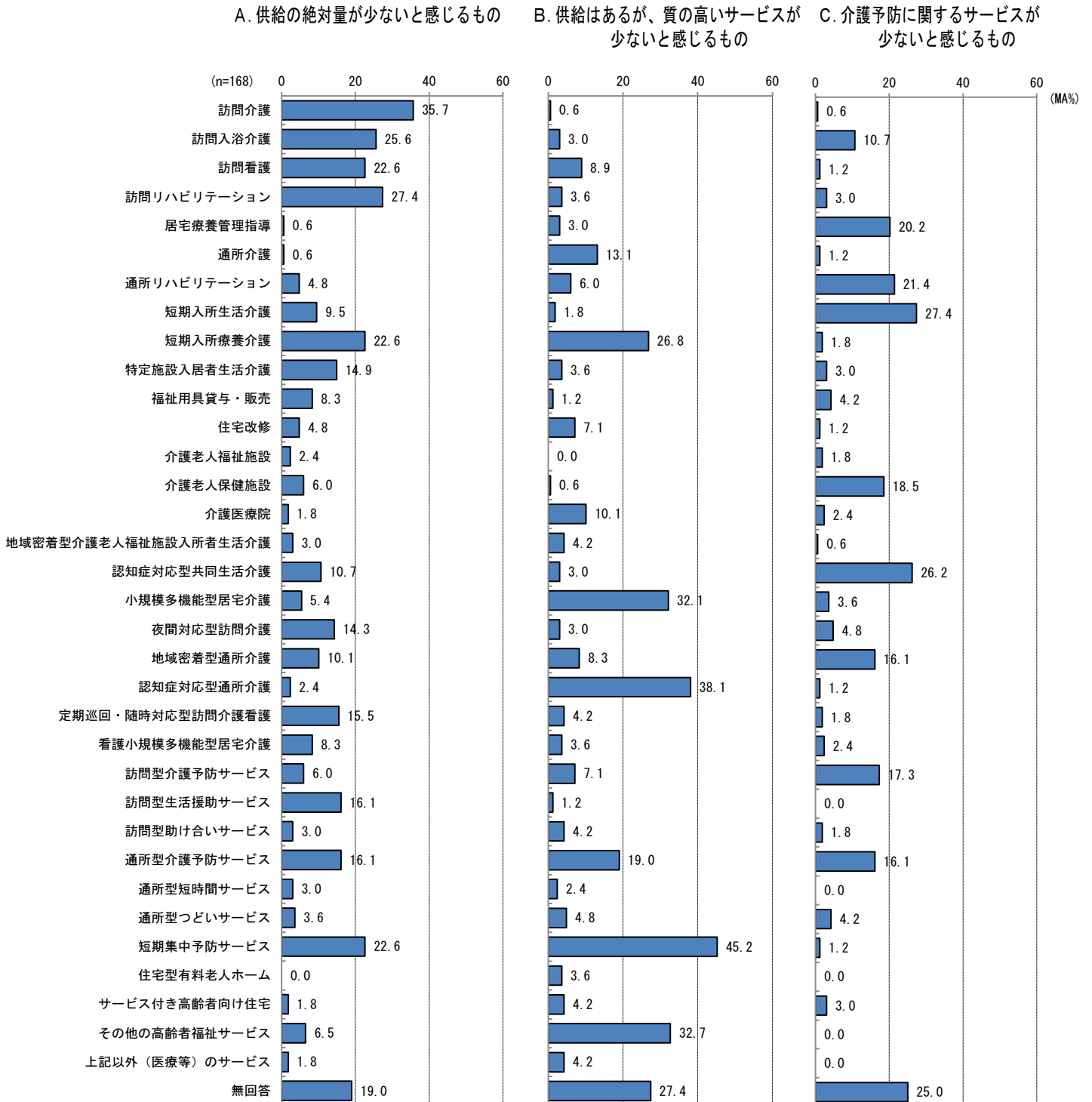
- ・この地域は高齢者世帯が多い、また精神疾患を患った方も多く、混在するケースも多い
- ・1人暮らし高齢者が多い。また障害者も多い(特に精神障がい者)
- ・生活困窮者が多い地域と感じる
- ・独居高齢者や生活保護受給者が多いように感じる
- ・独居高齢者が外出しやすい取り組みを、自治会長や包括などが連携して行っている地域がある反面、丘陵地に住む独居高齢者に対しては支援が行き届いているとは言い難い

<その他(5件)>

- ・比較的平和な街で穏やかな高齢者も多い
- ・空き家が増え、少しずつ古い家を取り壊され、マンションが建ち始めている。高齢者が減少している
- ・近所の人に勧められたとか用心のためという理由で介護認定の更新を行っている人が非常に多い印象。デイサービスやホームヘルパーなど以外にも利用できるサービスがあることを伝えても、今は必要ないと一蹴されるケースが非常に多い
- ・ヘルパー事業所が少なく十分活用できない
- ・行政毎のローカルルールによる地域差、また包括支援センターの対応のバラツキ等が結果プラン作成に影響し、場合によっては利用者に不利益な状況を与えていることもあると感じる。もう少し柔軟な対応をいただくことで、迅速に利用者対応を行えると思う

〔2〕地域において供給の不足を感じるサービス

問11 地域において、供給の不足を感じるサービスはありますか。  
 A・B・Cそれぞれについて、あてはまるものをご回答ください。  
 (あてはまるものすべてに○)



地域において、供給の絶対量が少ないと感じるサービスは、「訪問介護」(35.7%)、「訪問リハビリテーション」(27.4%)が多く、供給はあるが、質の高いサービスが少ないと感じるものは、「短期集中予防サービス」(45.2%)、「認知症対応型通所介護」(38.1%)、介護予防に関するサービスが少ないと感じるものは、「短期入所生活介護」(27.4%)、「認知症対応型共同生活介護」(26.2%)となっています。

〔3〕 介護予防・日常生活支援サービス事業のサービス等に関する意見（自由記述）

問12 介護予防・日常生活支援サービス事業のサービス等に関する意見等があればご自由にご回答ください。

A. 訪問型介護予防サービス	計 13 件
制度が複雑で利用者が理解しにくい、介護サービスと差別化できていない	3 件
対応している事業所が少ない	3 件
元々の利用者以外でサービス開始することがほとんどない	1 件
利用についての制限が多く使いづらい	1 件
訪問生活援助サービスとの使い分けが難しい	1 件
本人ができる支援は行わないよう伝えても、本人希望で行われることがある	1 件
その他	3 件

B. 訪問型生活援助サービス	計 14 件
提供事業所が少ない、研修を受けた受講者が地域にいない	8 件
支援内容の制限が厳しい、保険外でしてほしいことができない	2 件
訪問型介護予防サービスとの使い分けが難しい、サービス自体が見えてこない	2 件
その他	2 件

C. 訪問型助け合いサービス	計 18 件
実施事業所、担い手がない	6 件
事業所や利用方法についての情報がない、存在自体が周知されていない	5 件
玄関先まで出せない方など、ゴミ出しは利用できない	2 件
利用対象者がいない	1 件
その他	4 件

D. 通所型介護予防サービス	計 7 件
利用方法、回数などについての制限が多い、要支援 1 でも週 2 回は行けるのが標準になればいい	2 件
サービス提供事業所が少ない	1 件
通所型時短サービスとの使い分けが難しい	1 件
独居の方が多く、入浴サービスや送迎が必要	1 件
その他	2 件

II-5 居宅介護支援事業所アンケート

E. 通所型短時間サービス	計 10 件
希望のサービスがない（食事のついでにしているところがない、入浴できない）	2 件
実施している事業所がない、少ない	2 件
要支援 1 でも週 2 回は行けるのが標準になればいい	1 件
通所型介護予防サービスとの使い分けが難しい	1 件
利用対象者なし	1 件
サービス相談しても新規は受けない等で利用に至らない	1 件
その他	2 件

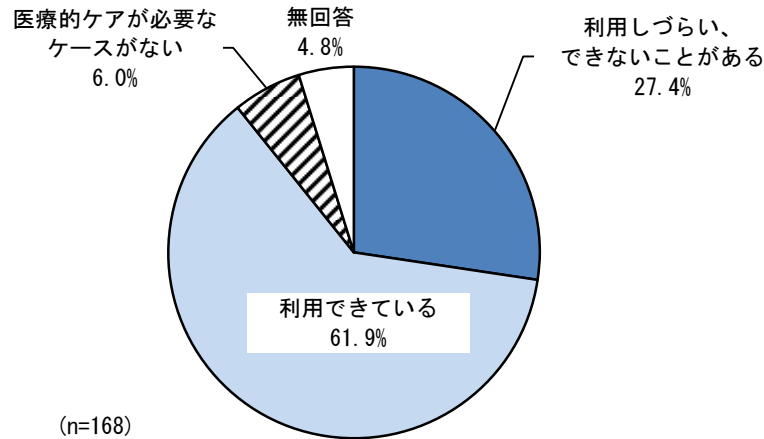
F. 通所型つどいサービス	計 14 件
認知がまだまだ、利用方法などの認識が少ない、存在自体が周知されておらず機能していない、もっとアピールしてほしい	4 件
実施事業所が少なく利用の機会がない、担い手先を増やしてほしい	4 件
送迎が無い場合、通いたくても通えない	1 件
通える場所にあるつどいサービスの充実	1 件
目標設定が明確でない	1 件
利用対象者なし	1 件
その他	2 件

G. 短期集中予防サービス	計 7 件
実施している事業所がない	2 件
存在自体が周知されておらず機能していない	1 件
地域包括支援センターが担う業務との認識。利用方法や手配方法を具体的に理解できていない	1 件
情報収集の仕方がわからない	1 件
利用対象者なし	1 件
その他	1 件

H. その他、全体に関すること	計 10 件
地域のヘルパー不足が深刻、希望の日時のサービスが導入できない	2 件
単価が高く導入に躊躇することが多い、マルメ請求でなくてもよいのでは	2 件
新しいサービスができてから、余計にわかりにくい、説明しにくいものとなった	1 件
予防の利用者の訪問看護の設定を可とする包括と不可とする包括があり困っている。正しい見解を知らせてほしい	1 件
民間での自費サービスの方が営業（紹介）されているが、認識が薄いので利用しづらいし、情報提供しにくい	1 件
その他（通訳できる人が必要、送迎付きの就労の場）	3 件

〔4〕 医療的ケアが必要なために利用できないサービスの有無

問13 貴事業所が担当しているケースで、医療的ケアが必要なために、利用できるサービスがない、利用しづらいといったことを感じることはありますか。  
(1つ選択)



医療的ケアが必要なためにサービスを「利用しづらい、できないことがある」と回答した事業所は 27.4%となっています。

【利用しづらいと感じているサービス内訳】

(回答 46 件中) ※複数回答あり

<通所系のサービス (14 件)>

- ・医療度の高い利用者の通所系サービス利用が難しい (吸引・胃瘻が必要)
- ・機能訓練のできるデイサービスが増えたことにより通所リハの必要性が低くなっている
- ・機能訓練型デイサービス (半日型) で機械浴リフト浴のできるデイサービスはほとんどない

<短期系のサービス (11 件)>

- ・吸引や胃ろうの手技があると短期入所をしづらいことがある
- ・短期入所生活介護でインスリン・経管栄養・鼻腔栄養の方の利用を断られる

<訪問系のサービス (8 件)>

- ・痰吸引ができる訪問介護事業所が少ない
- ・ケアハウスに戻りたいが、医療的ケアが複数 (24 時間持続点滴とストマ交換など) 必要なために訪問看護事業所が受けてくれない
- ・訪問介護の事業所が少なくヘルパーも少ないため、必要なサービスの提供が受けられない

<医療系のサービス、医療行為への対応 (6 件)>

- ・資格がいる医療行為の対応ができる人材が不足しており、対応に困ることがある
- ・介護度に応じて、医療サービスが多くなると、介護サービスが入れられない

<通院、入院 (5 件)>

- ・介護タクシーなど利用者の負担が大きくなるサービスは提案しづらい
- ・受診同行。膨大な待ち時間や通院の介助も発生する上、単価が安すぎる
- ・通院同行も少ないためケアマネが同行することになってしまう
- ・レスパイト入院できる病院が少ない

<医師との連携 (3 件)>

- ・病院との連携 (特に大病院) との連携がスムーズにいかない
- ・医療者と在宅介護者の思いの食い違いがあり、その調整や提案など利用しづらい時がある

<施設系サービス (3 件)>

- ・胃ろうやインスリン注射など、医療的処置が必要な方の受け入れ施設が少ない
- ・透析患者、気切カニューレが入っているなどで利用できないサービス (老健入所) がある

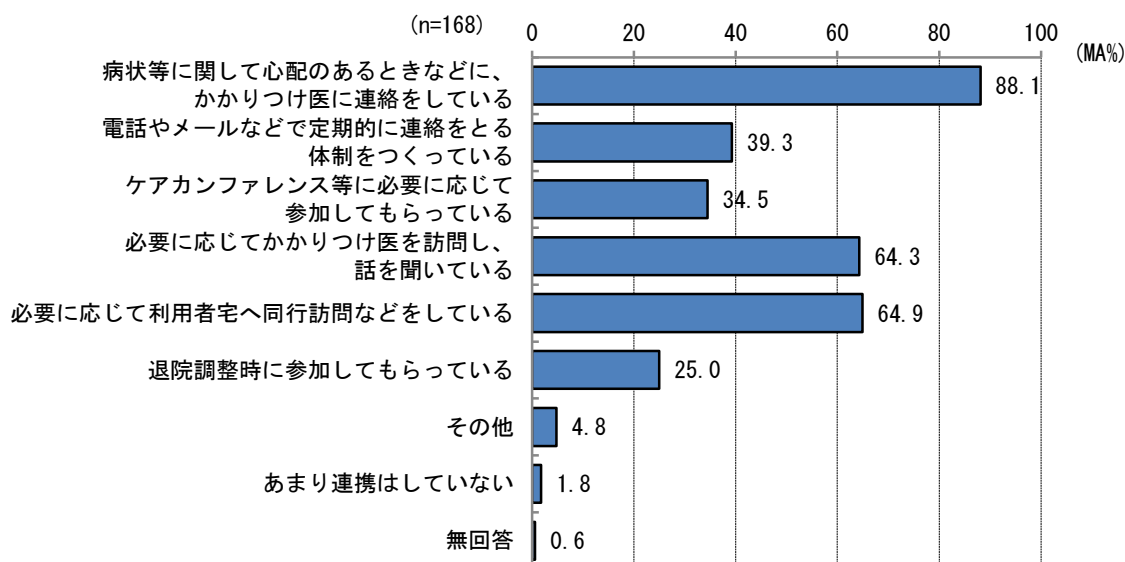
<その他 (6 件)>

- ・小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護
- ・24 時間体制の高齢者住宅が少ない
- ・特定入所施設で医療度の高い利用者が退所扱いになるケースがある
- ・共生型のサービス事業所がない

### 3 地域の関係機関等との連携について

#### 〔1〕かかりつけ医との連携

問14 貴事業所では、かかりつけ医とどのような連携をしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)



#### 【その他内訳】

(回答 8 件中)

- ・受診同行している (2 件)
- ・定期往診時に同席している (2 件)
- ・訪問診療の場合は積極的に同席させていただいている (1 件)
- ・ケアカンファレンス、同行訪問、退院調整などは医師側も参加が困難であることが多い。訪問診療の場合は頼みやすい (1 件)
- ・生保の方など自費利用ができない場合、キーパーソン不在時の受診の同行を行っている (1 件)
- ・意見書の依頼時は連絡をしている。状況に応じて、主治医へファックス、メールや同行訪問しサービスに関する助言もらう (1 件)

#### 【連携していない理由】

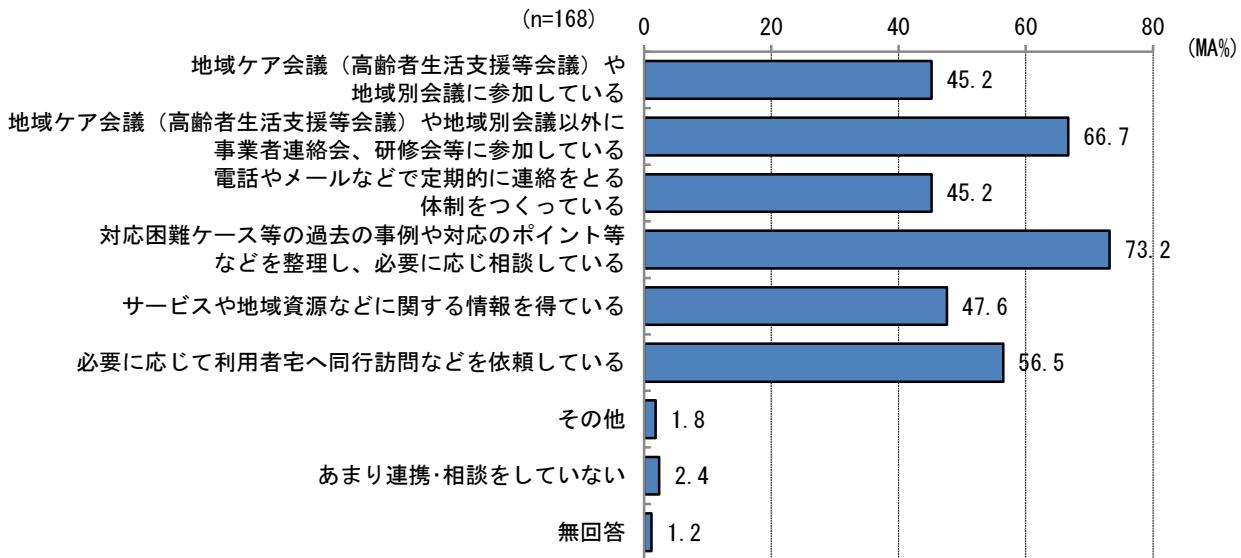
(回答 4 件中)

- ・敷居が高い
- ・遠方
- ・どのタイミングでどのように関わってもらえるかがわからない。何か連絡ツールや決め事があれば連絡が取りやすくなるかも
- ・ケースが少なく、現在、本人や家族の対応で問題ないため (各 1 件)

かかりつけ医との連携については、「病状等に関して心配のあるときなどに、かかりつけ医に連絡をしている」が 88.1%と最も多く、次いで、「必要に応じて利用者宅へ同行訪問などをしている」が 64.9%、「必要に応じてかかりつけ医を訪問し、話を聞いている」が 64.3%となっています。

〔2〕地域包括支援センターとの連携

問15 貴事業所では、地域包括支援センターとどのような連携をしていますか。  
 (あてはまるものすべてに○)



【その他内訳】

(回答 3 件中)

- ・ 毎月の実績報告時に情報交換している
- ・ 定期的（月に 1 回程度）は包括への訪問を行う
- ・ 地域活動を一緒に思案、参加（各 1 件）

【連携していない理由】

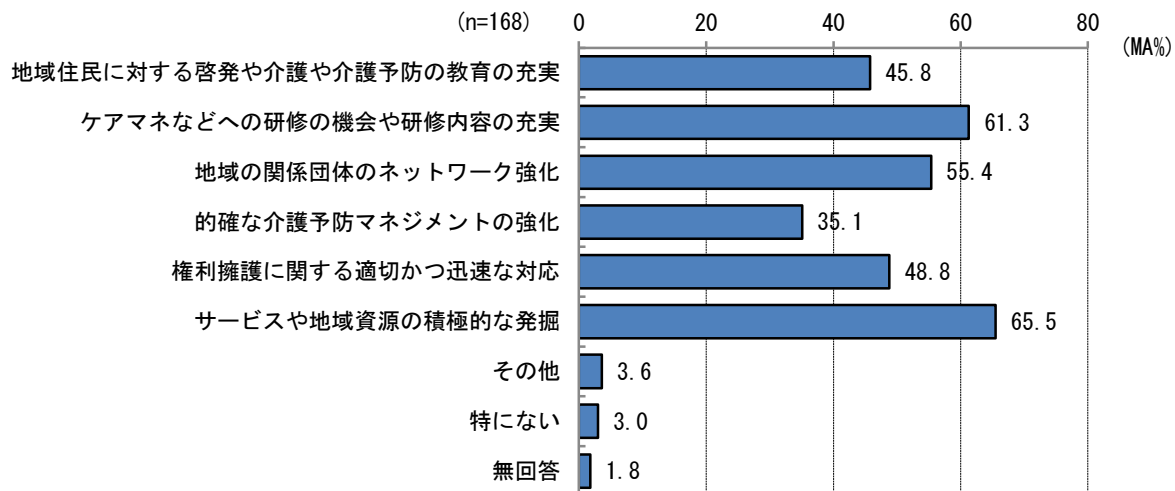
(回答 4 件中)

- ・ 担当ケースが少ないため連携、相談をするケースがない
- ・ 利用者が少ない。現状では利用者はみんな落ちついている
- ・ 事例が少ない、敷居が高い
- ・ グループ内で解決できている（各 1 件）

地域包括支援センターとの連携については、「対応困難ケース等の過去の事例や対応のポイントなどを整理し、必要に応じ相談している」が 73.2%と最も多く、次いで、「地域ケア会議（高齢者生活支援等会議）や地域別会議以外に事業者連絡会、研修会等に参加している」が 66.7%、「必要に応じて利用者宅へ同行訪問などを依頼している」が 56.5%となっています。

〔3〕地域包括支援センターに期待すること

問16 貴事業所が、地域包括支援センターに期待することはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)



【その他内訳】

(回答 6 件中)

- ・ 困難ケース時の相談、対応、後方支援 (3 件)
- ・ 予防プランの受け持ち (1 件)
- ・ 困難事例を包括より受け、引継ぎなどした後も、包括としてしっかりと関わってほしい (1 件)
- ・ 困難ケースやトラブル多い方には、チームでの関わりに包括支援センターにも入ってほしい (1 件)

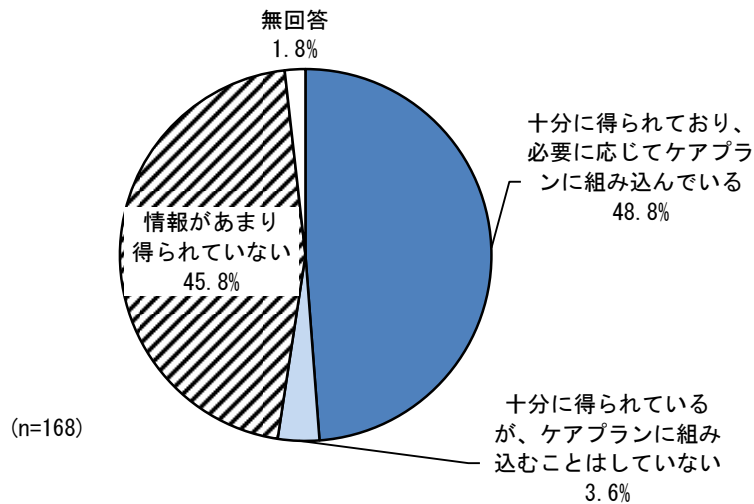
地域包括支援センターに期待することは、「サービスや地域資源の積極的な発掘」が 65.5%と最も多く、次いで、「ケアマネなどへの研修の機会や研修内容の充実」が 61.3%となっています。



## 4 介護保険外サービス（インフォーマルサービス等）について

### 〔1〕地域の介護保険外サービス情報の入手状況

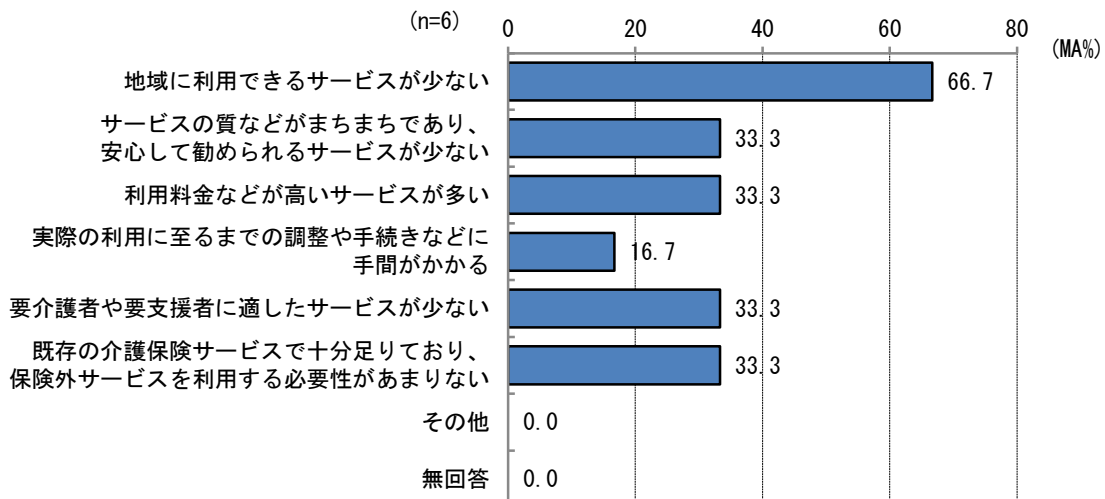
問17 貴事業所では、地域の介護保険外サービス（インフォーマルサービス等）の情報を十分に得られていますか。（1つ選択）



地域の介護保険外サービス（インフォーマルサービス等）の情報を十分に得られているかについては、「十分に得られており、必要に応じてケアプランに組み込んでいる」が48.8%、「情報があまり得られていない」が45.8%となっています。

【問17で「2. 十分に得られているが、ケアプランに組み込むことはしていない」と回答した事業所のみ】

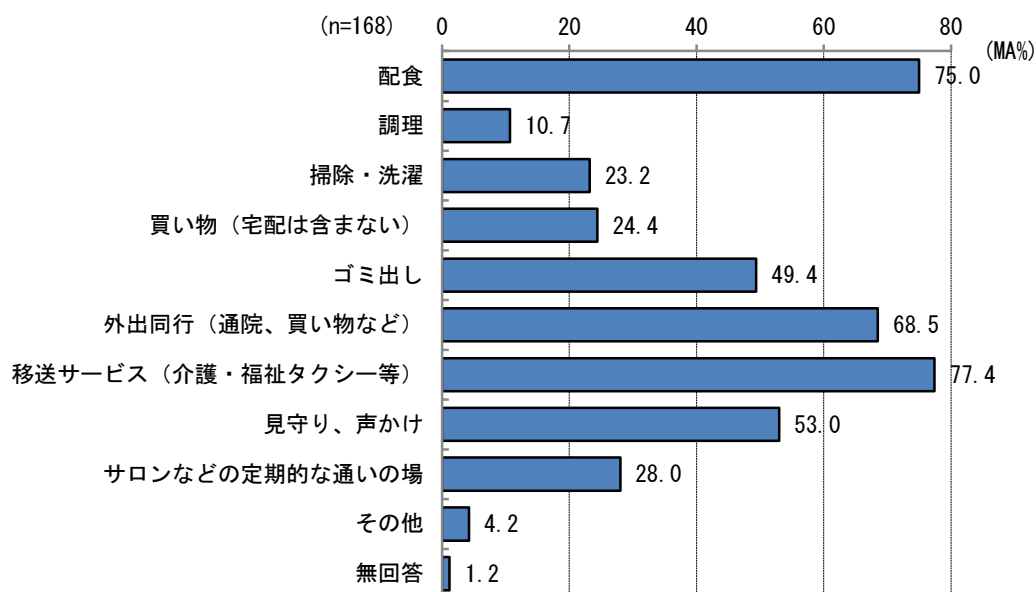
問17-1 ケアプランに組み込むことをしていない理由をご回答ください。（あてはまるものすべてに○）



地域の介護保険外サービス（インフォーマルサービス等）の情報を「十分に得られているが、ケアプランに組み込むことはしていない」と回答した事業所は6件で、その理由は「地域に利用できるサービスが少ない」が66.7%と最も多くなっています。

〔2〕ニーズが高いと思われる介護保険外サービス

問18 介護保険外サービス（インフォーマルサービス等）について、ニーズが高いと思われるものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）



【その他内訳】

(回答 7 件中)

- ・ 訪問理容・美容 (3 件)
- ・ 近隣住民の見守り、安否確認 (2 件)
- ・ 定期的以外の必要に応じた排泄介助 (1 件)
- ・ 後見人制度 (1 件)

ニーズが高いと思われる介護保険外サービスは、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 77.4%と最も多く、次いで、「配食」が 75.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が 68.5%となっています。

## 〔3〕地域で充実が必要だと思う介護保険外サービス（自由記述）

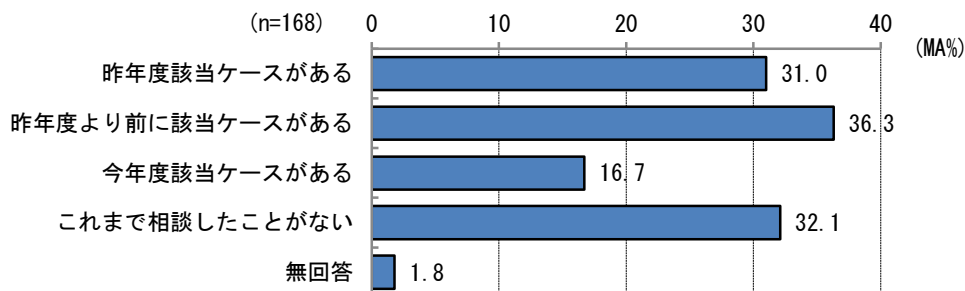
問19 今後、地域で充実が必要だと思う介護保険外サービス（インフォーマルサービス等）の提供体制についてのお考えをご自由に記載ください（誰が、どこでやるのか、など）。

地域で充実が必要だと思う介護保険外サービス	計 55 件
移送サービス、外出同行、タクシー券の配布など外出を補助する支援	11 件
見守り、声かけ、話し相手、傾聴ボランティア（特に独居高齢者に対して）	10 件
通院時の院内の付き添い、通院介助	5 件
地域の中で高齢者が気軽に集える場、趣味の機会が少なくなった方が活動できる場、高齢者に限らず各世代が自由に参加交流できる場	4 件
巡回バス、コミュニティバス等の整備、歩行器の方も利用できるバス	3 件
ふれあいゴミ収集を利用できない利用者へのゴミ出し	3 件
移動スーパー、買い物難民の支援（企業の参画）	2 件
食事の提供サービス	2 件
お布団の洗濯、クリーニング	1 件
同居家族がいる利用者への掃除の支援	1 件
訪問理美容サービスが使いやすくなれば良い	1 件
ワンコインサービスを充実して利用しやすくしてほしい	1 件
銭湯は重要なインフォーマル資源。以前は銭湯がコミュニティの場として、また、お互いの健康や安否が確認できた重要な場であった。近年銭湯が激減して、入浴ができず介護サービス、介護予防サービスを利用せざるを得なくなっている	1 件
地域包括支援センター単位で巡回的に予防接種などしてもらえたら、高齢者も受けやすいのではないか	1 件
ケアマネが行っている介護保険以外の相談支援（マイナンバーカードの手続き、障害認定申請など）	1 件
行政の電話相談窓口、必要に応じて出張相談	1 件
介護保険事業者に限らない団体の事業参画	1 件
介護助手（シルバー人材の採用）の活用	1 件
町会にいかに効果的に地域にかかわっていただくか。行政は縦割りではなく横につながるためにどの部、どの課と連携していくべきかを考えるべき	1 件
金銭的な問題でマッチングしないことがある。安価での提供でも厳しく、保険サービスを優先せざる終えない事例が多い	1 件
特になし	3 件

## 5 認知症、高齢者虐待・権利擁護等の対応ケースについて

### 〔1〕高齢者虐待で地域包括支援センターに相談したこと

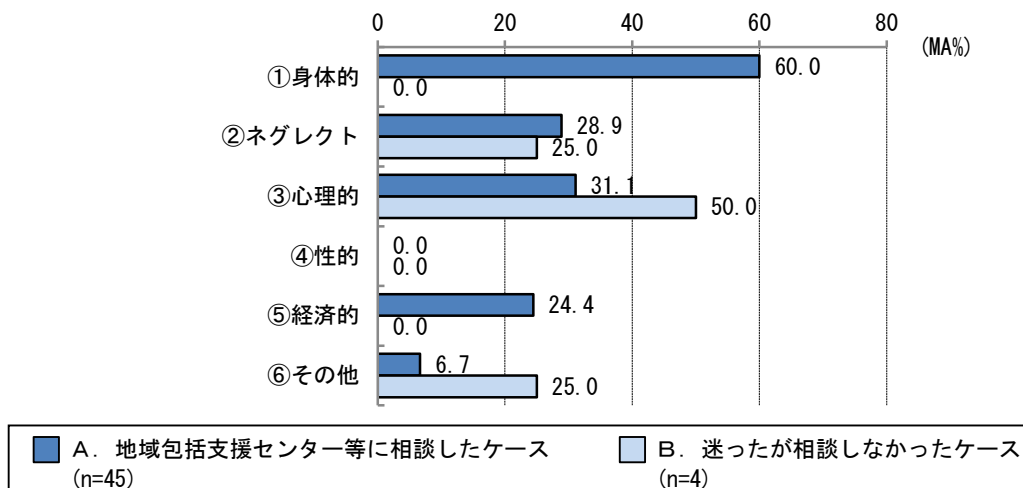
問20 昨年度、貴事業所では高齢者虐待と思われ、地域包括支援センター等に相談したケース（相談するかどうかわからないケースを含む。）がありますか。  
（あてはまるものすべてに○）



高齢者虐待で地域包括支援センターに相談したケースについては、「昨年度該当ケースがある」が31.0%、「昨年度より前に該当ケースがある」が36.3%、「今年度該当ケースがある」が16.7%となっています。

#### 【問20で「1. 昨年度該当ケースがある」と回答した事業所のみ】

問20-1 昨年度のおおよその件数をお答えください。



「昨年度該当ケースがある」と回答した52の事業所のうち、地域包括支援センターに相談したケースがあったと回答したのは45件で、その内訳は、「①身体的」虐待が60.0%と最も多く、次いで、「③心理的」虐待が31.1%、「②ネグレクト」が28.9%となっています。一方、迷ったが相談しなかったケースは「③心理的」虐待が50.0%と最も多くなっています。また、おおよその件数については次頁の表のとおりとなっています。

【高齢者虐待で地域包括センター等に相談したおおよその件数】

地域包括支援センター等に相談したケース

(上段：件、下段：%)

	n	1 件	2 件	3 件	4 件	5 件	6 件 以上	無 回 答
全体	52	<b>26</b>	9	4	5	0	1	7
	100	<b>50.0</b>	17.3	7.7	9.6	0	1.9	13.5
①身体的	45	<b>20</b>	5	1	1	0	0	18
	100	<b>44.4</b>	11.1	2.2	2.2	0	0	40.0
②ネグレクト	45	<b>8</b>	3	2	0	0	0	32
	100	<b>17.8</b>	6.7	4.4	0	0	0	71.1
③心理的	45	<b>11</b>	3	0	0	0	0	31
	100	<b>24.4</b>	6.7	0	0	0	0	68.9
④性的	45	0	0	0	0	0	0	45
	100	0	0	0	0	0	0	100.0
⑤経済的	45	<b>9</b>	1	1	0	0	0	34
	100	<b>20.0</b>	2.2	2.2	0	0	0	75.6
⑥その他	45	<b>2</b>	1	0	0	0	0	42
	100	<b>4.4</b>	2.2	0	0	0	0	93.3

迷ったが相談しなかったケース

(上段：件、下段：%)

	n	1 件	2 件	3 件	4 件	5 件	6 件 以上	無 回 答
全体	52	<b>4</b>	0	0	0	0	0	48
	100	<b>7.7</b>	0	0	0	0	0	92.3
①身体的	4	0	0	0	0	0	0	4
	100	0	0	0	0	0	0	100.0
②ネグレクト	4	<b>1</b>	0	0	0	0	0	3
	100	<b>25.0</b>	0	0	0	0	0	75.0
③心理的	4	<b>2</b>	0	0	0	0	0	2
	100	<b>50.0</b>	0	0	0	0	0	50.0
④性的	4	0	0	0	0	0	0	4
	100	0	0	0	0	0	0	100.0
⑤経済的	4	0	0	0	0	0	0	4
	100	0	0	0	0	0	0	100.0
⑥その他	4	<b>1</b>	0	0	0	0	0	3
	100	<b>25.0</b>	0	0	0	0	0	75.0

【相談しなかった理由】

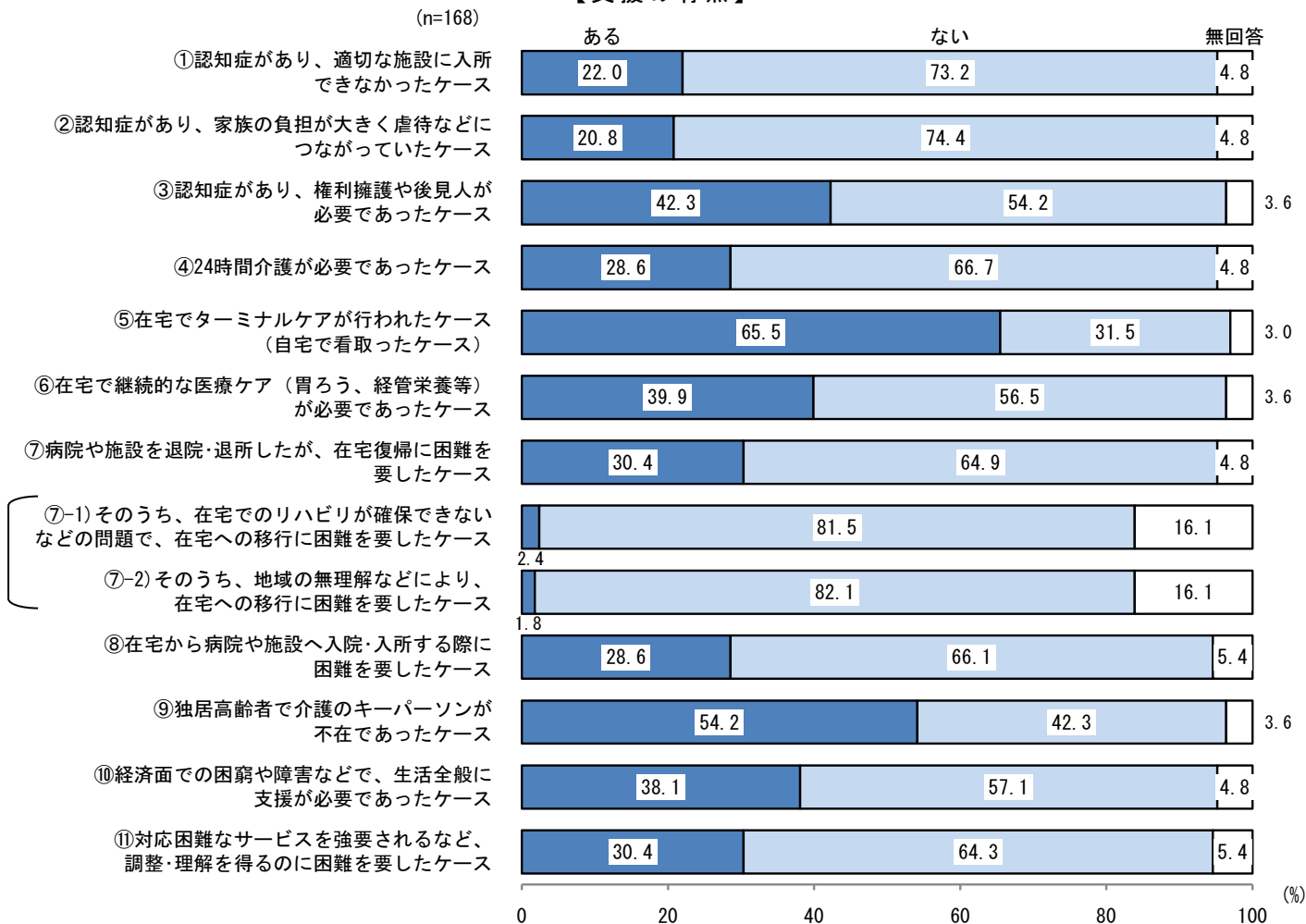
(回答8件中)

- ・ 家族と話し合い、改善が見られたため
- ・ 短期間で正常化した
- ・ 大事になる場合があり、慎重に様子を見た
- ・ 他事業所より引き継いだ直後で、報告のみ行った
- ・ 相手側が包括相談拒否、包括から相談があった事例
- ・ 相談しても地域包括が取り合わない
- ・ 一度相談したが関与できる内容ではないと言われた
- ・ 包括職員も忙しそうではなかった(各1件)

〔2〕昨年度に支援、対応したケース

問21 昨年度、貴事業所では次のようなケースに対応したことがありますか。それぞれのケースについてご回答ください。対応したことがある場合は、その件数と対応の可否についてご回答ください。

【支援の有無】



昨年度に事業所で支援、対応したことが「ある」ケースは、「⑤在宅でターミナルケアが行われたケース (自宅で看取ったケース)」が 65.5%と最も多く、次いで、「⑨独居高齢者で介護のキーパーソンが不在であったケース」が 54.2%、「③認知症があり、権利擁護や後見人が必要であったケース」が 42.3%となっています。

また、支援したケースの件数、そのうち対応可能であったもの、対応不可であったものの件数の内訳は、次頁の表のとおりです。

【支援した件数】

(上段：件、下段：%)

	n	1 件	2 件	3 件	4 件	5 件	6 ～ 9 件	1 0 ～ 1 9 件	2 0 件 以 上	無 回 答
①認知症があり、適切な施設に入所できなかったケース	37 100	<b>21</b> 56.8	8 21.6	2 5.4	0 0	0 0	1 2.7	0 0	0 0	5 13.5
②認知症があり、家族の負担が大きく虐待などにつながっていたケース	35 100	<b>25</b> 71.4	7 20.0	1 2.9	0 0	1 2.9	0 0	0 0	0 0	1 2.9
③認知症があり、権利擁護や後見人が必要であったケース	71 100	<b>39</b> 54.9	19 26.8	10 14.1	0 0	2 2.8	1 1.4	0 0	0 0	0 0
④24時間介護が必要であったケース	48 100	<b>23</b> 47.9	9 18.8	5 10.4	0 0	6 12.5	2 4.2	2 4.2	1 2.1	0 0
⑤在宅でターミナルケアが行われたケース（自宅で看取ったケース）	110 100	<b>31</b> 28.2	27 24.5	17 15.5	10 9.1	6 5.5	8 7.2	5 4.5	5 4.5	1 0.9
⑥在宅で継続的な医療ケア（胃ろう、経管栄養等）が必要であったケース	67 100	<b>31</b> 46.3	16 23.9	10 14.9	1 1.5	3 4.5	1 1.5	2 3.0	2 3.0	1 1.5
⑦病院や施設を退院・退所したが、在宅復帰に困難を要したケース	51 100	<b>30</b> 58.8	11 21.6	4 7.8	0 0	4 7.8	1 2.0	1 2.0	0 0	0 0
⑦-1)そのうち、在宅でのリハビリが確保できないなどの問題で、在宅への移行に困難を要したケース	4 100	<b>3</b> 75.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 25.0
⑦-2)そのうち、地域の無理解などにより、在宅への移行に困難を要したケース	3 100	<b>3</b> 100.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
⑧在宅から病院や施設へ入院・入所する際に困難を要したケース	48 100	<b>25</b> 52.1	11 22.9	3 6.3	3 6.3	5 10.4	0 0	0 0	1 2.1	0 0
⑨独居高齢者で介護のキーパーソンが不在であったケース	91 100	<b>31</b> 34.1	20 22.0	12 13.2	8 8.8	10 11.0	7 7.7	2 2.2	1 1.1	0 0
⑩経済面での困窮や障害などで、生活全般に支援が必要であったケース	64 100	<b>33</b> 51.6	10 15.6	10 15.6	0 0	7 10.9	2 3.1	2 3.1	0 0	0 0
⑪対応困難なサービスを強要されるなど、調整・理解を得るのに困難を要したケース	51 100	<b>33</b> 64.7	8 15.7	2 3.9	3 5.9	2 3.9	2 4.0	1 2.0	0 0	0 0

【支援したことがある場合の対応状況 対応可能件数】

(上段：件、下段：%)

	n	1 件	2 件	3 件	4 件	5 件	6 ～ 9 件	1 0 ～ 1 9 件	2 0 件 以 上	無 回 答
①認知症があり、適切な施設に入所できなかったケース	37 100	<b>20</b> 54.1	5 13.5	1 2.7	0 0	0 0	1 2.7	0 0	0 0	10 27.0
②認知症があり、家族の負担が大きく虐待などにつながっていたケース	35 100	<b>25</b> 71.4	5 14.3	0 0	0 0	1 2.9	0 0	0 0	0 0	4 11.4
③認知症があり、権利擁護や後見人が必要であったケース	71 100	<b>34</b> 47.9	14 19.7	10 14.1	1 1.4	1 1.4	1 1.4	0 0	0 0	10 14.1
④24時間介護が必要であったケース	48 100	<b>20</b> 41.7	8 16.7	4 8.3	0 0	6 12.5	2 4.2	2 4.2	1 2.1	5 10.4
⑤在宅でターミナルケアが行われたケース（自宅で看取ったケース）	110 100	<b>27</b> 24.5	<b>27</b> 24.5	16 14.5	10 9.1	5 4.5	7 6.3	5 4.5	5 4.5	8 7.3
⑥在宅で継続的な医療ケア（胃ろう、経管栄養等）が必要であったケース	67 100	<b>29</b> 43.3	16 23.9	10 14.9	1 1.5	3 4.5	1 1.5	2 3.0	2 3.0	3 4.5
⑦病院や施設を退院・退所したが、在宅復帰に困難を要したケース	51 100	<b>29</b> 56.9	11 21.6	1 2.0	0 0	4 7.8	1 2.0	1 2.0	0 0	4 7.8
⑦-1)そのうち、在宅でのリハビリが確保できないなどの問題で、在宅への移行に困難を要したケース	4 100	<b>3</b> 75.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 25.0
⑦-2)そのうち、地域の無理解などにより、在宅への移行に困難を要したケース	3 100	<b>2</b> 66.7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 33.3
⑧在宅から病院や施設へ入院・入所する際に困難を要したケース	48 100	<b>27</b> 56.3	10 20.8	2 4.2	1 2.1	5 10.4	0 0	0 0	1 2.1	2 4.2
⑨独居高齢者で介護のキーパーソンが不在であったケース	91 100	<b>34</b> 37.4	18 19.8	10 11.0	8 8.8	10 11.0	5 5.5	2 2.2	1 1.1	3 3.3
⑩経済面での困窮や障害などで、生活全般に支援が必要であったケース	64 100	<b>31</b> 48.4	8 12.5	11 17.2	0 0	7 10.9	1 1.6	2 3.1	0 0	4 6.3
⑪対応困難なサービスを強要されるなど、調整・理解を得るのに困難を要したケース	51 100	<b>27</b> 52.9	7 13.7	2 3.9	2 3.9	3 5.9	1 2.0	1 2.0	0 0	8 15.7

II-5 居宅介護支援事業所アンケート

【支援したことがある場合の対応状況 対応不可件数】

(上段：件、下段：%)

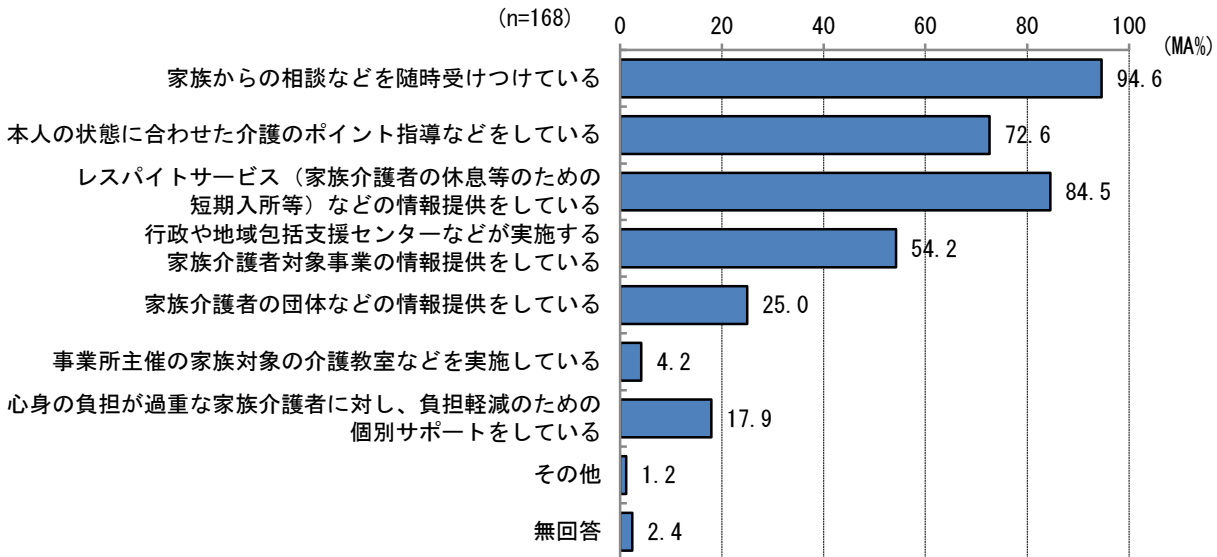
	n	1 件	2 件	3 件	4 件	5 件	6 5 9 件	1 0 5 1 9 件	2 0 件 以 上	無 回 答
①認知症があり、適切な施設に入所できなかったケース	37 100	<b>10</b> 27.0	3 8.1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	24 64.9
②認知症があり、家族の負担が大きく虐待などにつながっていたケース	35 100	<b>2</b> 5.7	1 2.9	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	32 91.4
③認知症があり、権利擁護や後見人が必要であったケース	71 100	<b>9</b> 12.7	2 2.8	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	60 84.5
④24時間介護が必要であったケース	48 100	<b>4</b> 8.3	1 2.1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	43 89.6
⑤在宅でターミナルケアが行われたケース（自宅で看取ったケース）	110 100	<b>1</b> 0.9	<b>2</b> 1.8	<b>2</b> 1.8	0 0	1 0.9	0 0	0 0	0 0	104 94.5
⑥在宅で継続的な医療ケア（胃ろう、経管栄養等）が必要であったケース	67 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	67 100.0
⑦病院や施設を退院・退所したが、在宅復帰に困難を要したケース	51 100	<b>5</b> 9.8	0 0	1 2.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	45 88.2
⑦-1)そのうち、在宅でのリハビリが確保できないなどの問題で、在宅への移行に困難を要したケース	4 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 100.0
⑦-2)そのうち、地域の無理解などにより、在宅への移行に困難を要したケース	3 100	<b>1</b> 33.3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 66.7
⑧在宅から病院や施設へ入院・入所する際に困難を要したケース	48 100	<b>8</b> 16.7	3 6.3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	37 77.1
⑨独居高齢者で介護のキーパーソンが不在であったケース	91 100	<b>7</b> 7.7	2 2.2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	82 90.1
⑩経済面での困窮や障害などで、生活全般に支援が必要であったケース	64 100	<b>4</b> 6.3	2 3.1	0 0	0 0	1 1.6	0 0	0 0	0 0	57 89.1
⑪対応困難なサービスを強要されるなど、調整・理解を得るのに困難を要したケース	51 100	<b>10</b> 19.6	1 2.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	40 78.4



## 6 家族介護者への支援

### 〔1〕 家族介護者への支援として実施していること

問22 貴事業所では、家族介護者への支援として、どのようなことを実施していますか。(あてはまるものすべてに○)



#### 【その他内訳】

(回答 2 件中)

- ・介護者が若年性認知症になり、必要なサービス事業所や疎遠であった家族との連携を図った。
- ・自宅が全焼した本人家族に対して、消防署から出ている災害にあわれた方への冊子をお渡しして手順を一緒に確認した。

家族介護者への支援として実施していることは、「家族からの相談などを随時受け付けている」が 94.6%と最も多く、次いで、「レスパイトサービス（家族介護者の休息等のための短期入所等）などの情報提供をしている」が 84.5%となっています。

【問22で「7. 心身の負担が過重な家族介護者に対し、負担軽減のための個別サポートをしている」と回答の事業所のみ】

具体的なサポート内容、サポートにおける連携先などをご記入ください。

家族介護者の負担軽減のためのサポート内容、連携先	計 34 件
傾聴、家族介護者の話を聞く機会を設ける	13 件
サービスの提案や施設の情報提供、介助・介護方法の伝授など	7 件
24 時間、必要に応じた訪問・電話相談、こまめな連絡対応	5 件
必要時には地域包括センター、社会福祉協議会、医療機関、ピアカウンセリングや家族会などの紹介	5 件
受診同行や薬の受け取り代行、福祉事務所への同行や申請代行	2 件
レスパイトの必要性を促し、休息をとってもらう	2 件

## 7 自由意見

### 〔1〕高齢者福祉、介護保険、府や市の取り組みへのご意見（自由記述）

問23 高齢者福祉、介護保険に関するご意見、府や市の取り組みに対するご意見などありましたら、自由にご記入ください。

自由意見	計 35 件
<p>ケアマネジャー業務の改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の業務が非常に多く、事務ワーク等の業務負担が大きい</li> <li>・各部署から送られてくるメールの重要度がわかりにくく、（重要）（届け出要）（任意）等の表示を統一してくれると助かる</li> <li>・ケアマネジャーの仕事が過重で辞めていく人が増え、次の人材が育たない</li> <li>・介護・支援認定者の家族同様の対応を求められる</li> <li>・主任介護支援専門員の更新に必要な法定外研修の充実、無償化</li> </ul>	7 件
<p>委託料や報酬の改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し介護報酬を上げてもらいたい</li> <li>・職員不足・給料面での問題等については処遇改善加算等ではなく介護報酬の改定増が必要不可欠</li> <li>・要介護者よりも手間がかかるのに、介護予防プラン料の委託料金が低い</li> <li>・委託プランは手間や時間がかかるが報酬は少ない</li> </ul>	4 件
<p>独居高齢者、閉じこもり高齢者の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独居や高齢者夫婦など介護保険制度だけでは在宅生活が賄えないにもかかわらず、自費サービスを利用する余裕のない方も多い</li> <li>・独居高齢者が施設への入所を検討するにも、要介護3の認定が出たころには在宅生活の限界を超えているため、介護事業者がボランティアでサポートしている実情がある</li> <li>・閉じこもり高齢者に対する支援、ケアマネや介護サービス以外の定期的な見守りや訪問を、行政や地域から差し伸べてほしい</li> </ul>	4 件
<p>移動手段の充実・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護タクシーが不足しているうえ、家族の協力が得られないケースが増えている</li> <li>・丘陵地・山間部に住む独居高齢者が外出しやすくするための公共サービスを充実させてほしい</li> <li>・QOL継続のため無料送迎バスや無料相乗りタクシーなど充実できるような取り組みをしてもらいたい</li> </ul>	3 件
<p>情報開示など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報開示等の書類の受け取りが遅い</li> <li>・意見書の開示請求の申請が届いてない場合、再度申請しなくてよい方法を検討してほしい</li> <li>・緊急を要する件で市役所からの理解が得られず困ったことがあった</li> </ul>	3 件

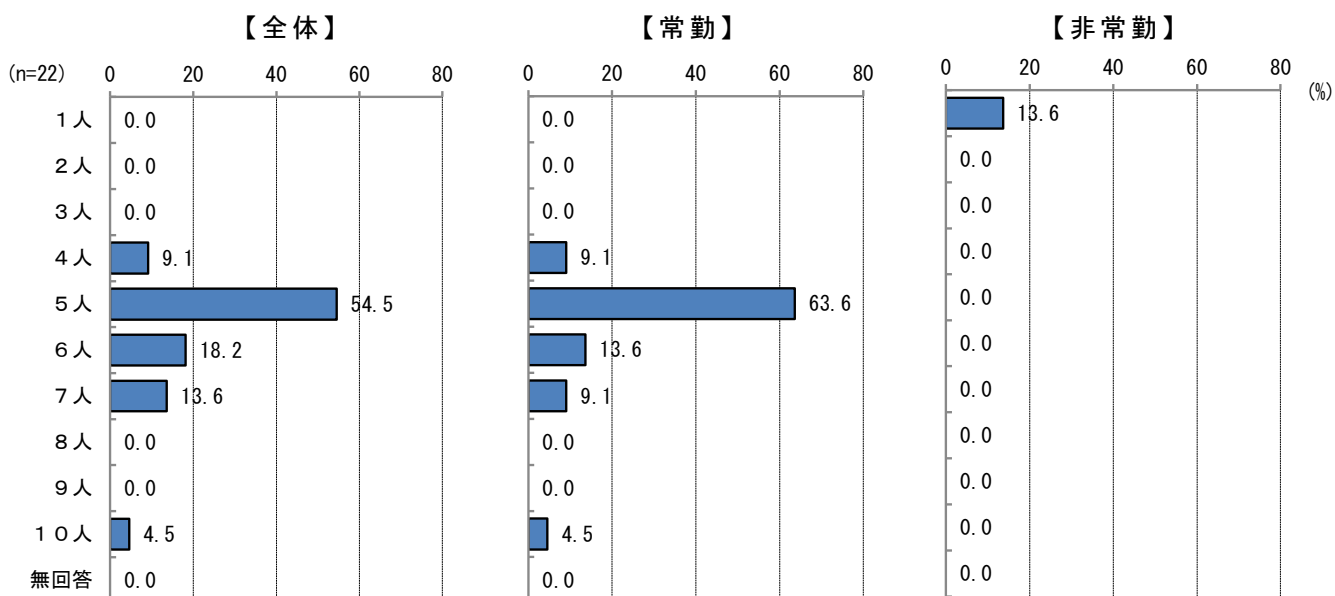
自由意見	計 35 件
介護認定、サービス利用について <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護認定結果が遅い、審査会の日にケアマネからの問い合わせで結果を確認できるようにしてほしい</li> <li>・ターミナルの方は意見書で確認すれば要介護 2 を出してほしい</li> <li>・ショートステイ利用時の杖や歩行器など介護保険で利用できるとありがたい</li> </ul>	3 件
高齢者施策について <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症カフェでやられている内容が 1 年で終了したりするので、長い目でみて継続して行ってほしい</li> <li>・介護の負担が介護者の人生に悪影響を及ぼさないよう、相談窓口の普及と啓蒙をお願いしたい</li> </ul>	2 件
その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が増える中、住みやすい地域づくりに貢献していきたい</li> <li>・地域で支えあうためにも民生委員や自治会などとの交流の場が必要</li> <li>・ヘルパーや介護スタッフの人材不足は急務の課題、介護の担い手不足は今後もっと大きな社会問題になる</li> <li>・医療保険優先ですべてを組み立てられている限り先は寂しい、保険者も介護保険特別会計の縮減を中心と考え、福祉とは離れていってしまうのが残念など</li> </ul>	5 件
特になし	3 件

## II-6 地域包括支援センターアンケート

### 1 地域包括支援センターの概要

#### [1] センターの職員構成

問1 貴センターの職員構成について、人数をご回答ください。(令和4年12月末日現在)



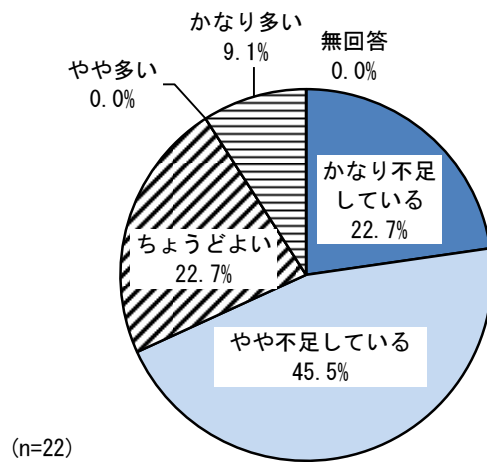
センターの職員数は、常勤職員は「5人」が63.6%、「6人」が13.6%となっています。非常勤職員は「1人」が13.6%となっています。全体では「5人」のセンターが半数以上を占めています。職種別の内訳は下表のとおりです。

(上段：件、下段：%)

	調査数	常勤					非常勤				
		1人	2人	3人	4人	無回答	1人	2人	3人	4人	無回答
保健師	22	9	4	0	0	9	0	0	0	0	22
	100	40.9	18.2	0	0	40.9	0	0	0	0	100.0
経験のある看護師	22	12	1	0	0	9	0	0	0	0	22
	100	54.5	4.5	0	0	40.9	0	0	0	0	100.0
社会福祉士	22	8	9	4	0	1	0	0	0	0	22
	100	36.4	40.9	18.2	0	4.5	0	0	0	0	100.0
3年以上の相談業務従事経験のある社会福祉主事	22	1	0	0	0	21	0	0	0	0	22
	100	4.5	0	0	0	95.5	0	0	0	0	100.0
主任介護支援専門員	22	16	2	4	0	0	1	0	0	0	21
	100	72.7	9.1	18.2	0	0	4.5	0	0	0	95.5
介護支援専門員	22	9	2	0	0	11	1	0	0	0	21
	100	40.9	9.1	0	0	50.0	4.5	0	0	0	95.5
その他(事務職等)	22	0	0	0	0	22	1	0	0	0	21
	100	0	0	0	0	100.0	4.5	0	0	0	95.5

〔2〕 職員の過不足状況

問2 貴センターにおける職員の過不足状況をご回答ください。(1つ選択)



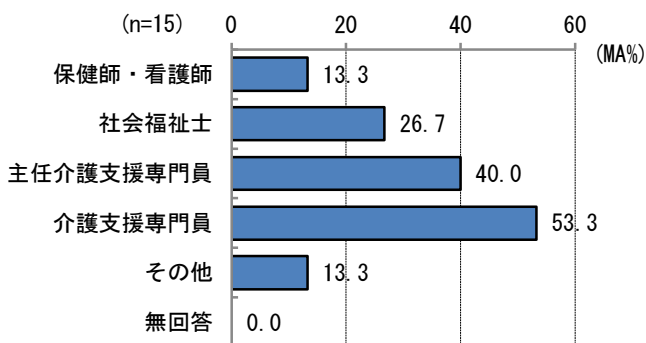
職員の過不足状況については、「かなり不足している」が22.7%、「やや不足している」が45.5%で、7割弱が『不足している』と回答しています。

【問2で「1. かなり不足している」または「2. やや不足している」を回答したセンターのみ】

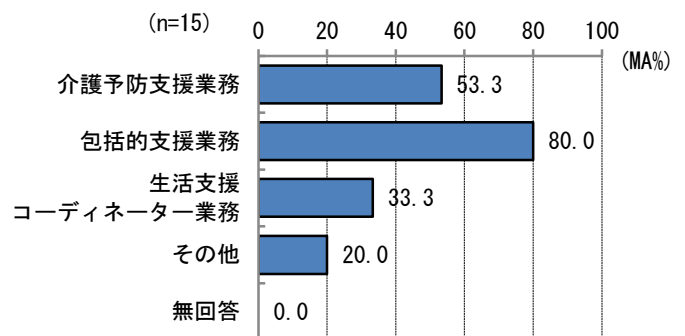
問2-1 特に不足している職種は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

問2-2 職員が不足している業務は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【特に不足している職種】



【職員が不足している業務】



【その他内訳】

- ・どの職種が足りないというより業務が多く、もう1人職員がいれば助かることが多い
- ・相談員補助 (各1件)

【その他内訳】

- ・地域住民との連携・活動参加
- ・個別支援記録整理、電話対応
- ・ケアプラン業務 (各1件)

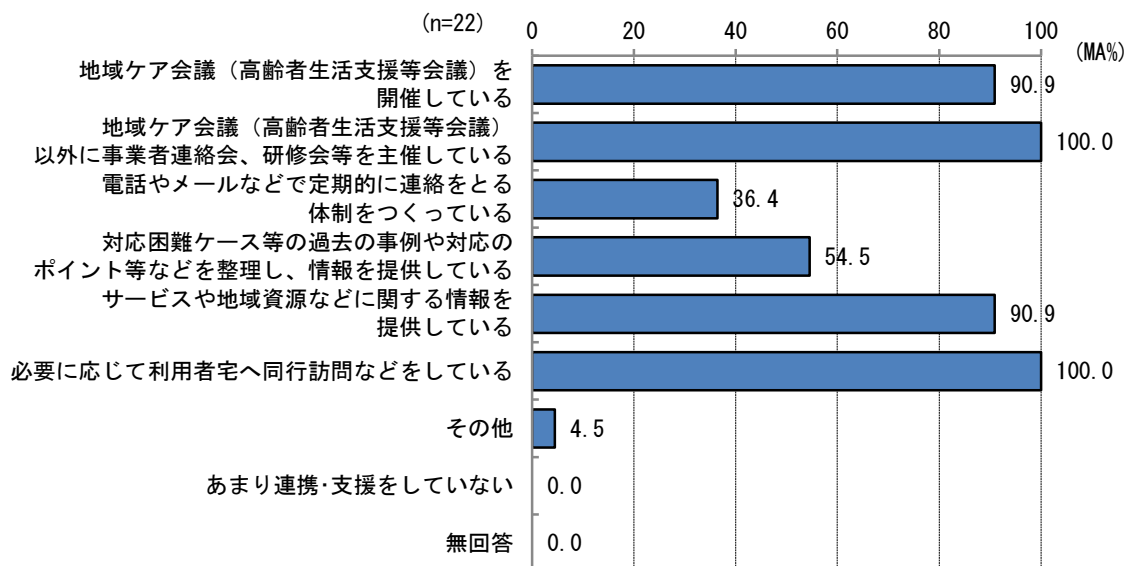
特に不足している職種は、「介護支援専門員」が53.3%と最も多く、次いで、「主任介護支援専門員」が40.0%となっています。

職員が不足している業務は、「包括的支援業務」が80.0%と最も多く、次いで、「介護予防支援業務」が53.3%となっています。

## 2 担当地域の特色や、介護・介護予防サービスについて

### 〔1〕居宅介護支援事業者等に対する連携・支援方法

問3 貴センターでは、地域の居宅介護支援事業者等に対し、どのような連携・支援をしていますか。(あてはまるものすべてに○)



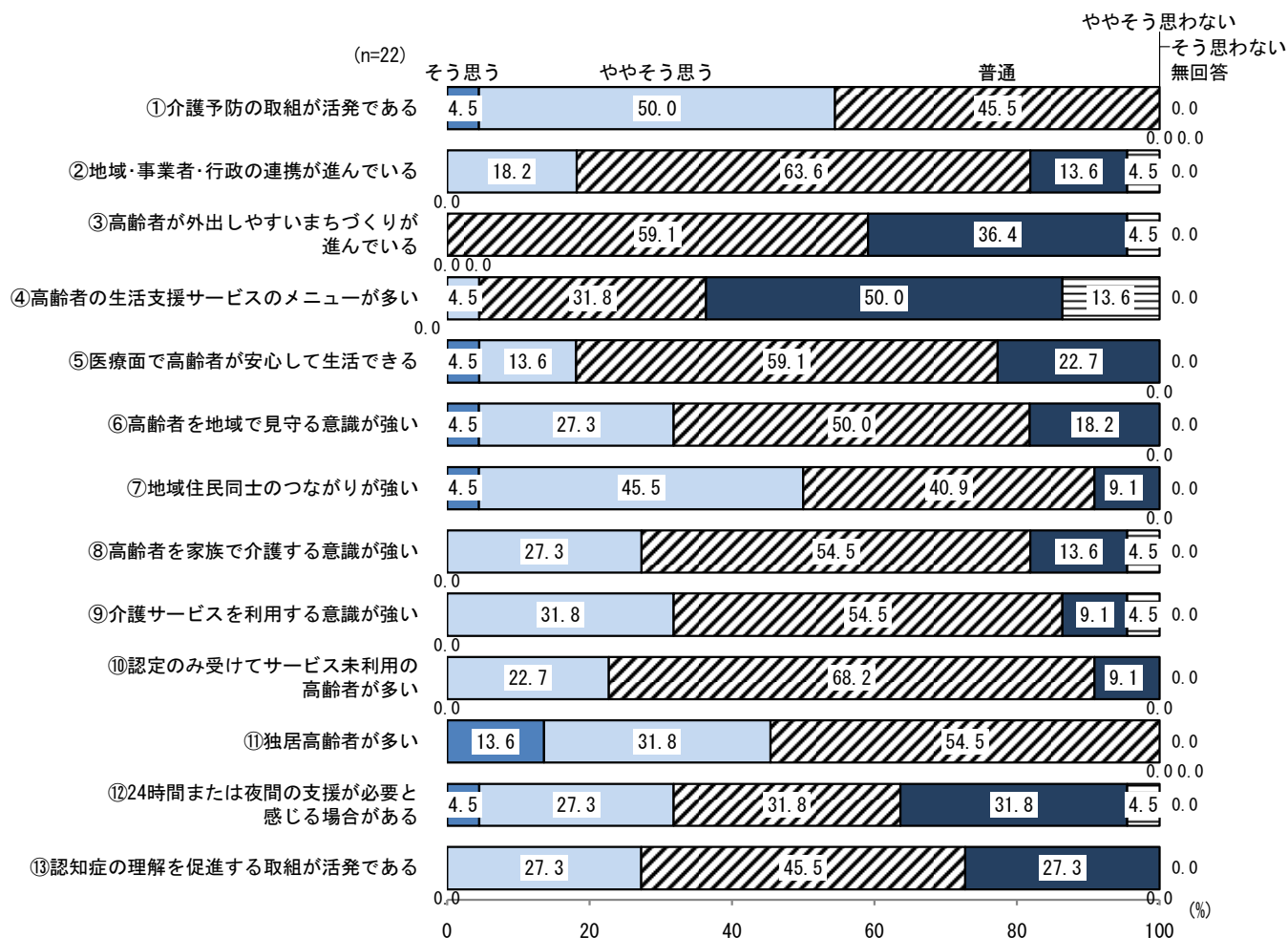
#### 【その他内訳】

・制度や助言など随時行っている（1件）

地域の居宅介護支援事業者等に対する連携・支援については、「地域ケア会議（高齢者生活支援等会議）以外に事業者連絡会、研修会等を主催している」、「必要に応じて利用者宅へ同行訪問などをしている」がそれぞれ 100.0%と最も多く、次いで、「地域ケア会議（高齢者生活支援等会議）を開催している」、「サービスや地域資源などに関する情報を提供している」がそれぞれ 90.9%となっています。一方、「電話やメールなどで定期的に連絡をとる体制をつくっている」は 36.4%と少なくなっています。

〔2〕 地域の特徴

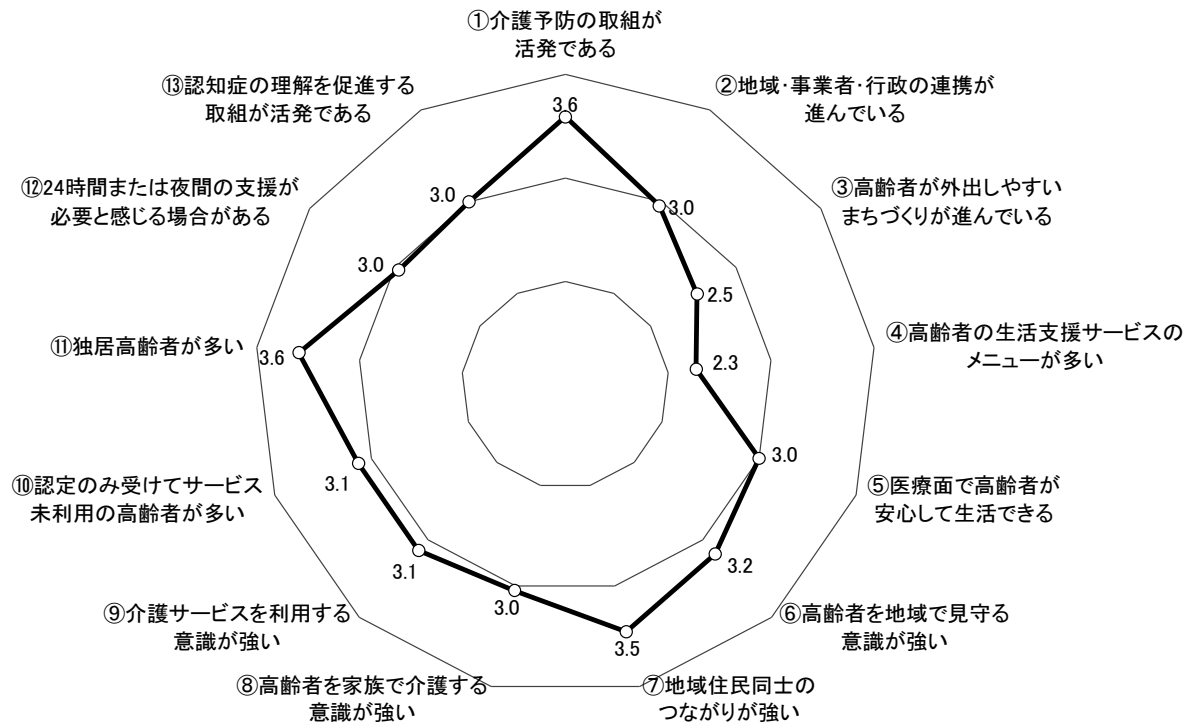
問4 高齢者の生活や介護・介護予防に関して、地域の特徴と感ずるものがありますか。①～⑬の各項目について、そう思う程度をご回答ください。  
(それぞれ1つ選択)



高齢者の生活や介護・介護予防に関して、地域の特徴と感ずるものは、「①介護予防の取組が活発である」で「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』が 54.5%と多くなっています。また、「そう思わない」と「ややそう思わない」を合わせた『そう思わない』は「④高齢者の生活支援サービスのメニューが多い」が 63.6%、「③高齢者が外出しやすいまちづくりが進んでいる」が 40.9%と多くなっています。

## II-6 地域包括支援センターアンケート

※「そう思う」を5点、「普通」を3点、「そう思わない」を1点として点数化



### 【その他、地域の特色と思うこと】

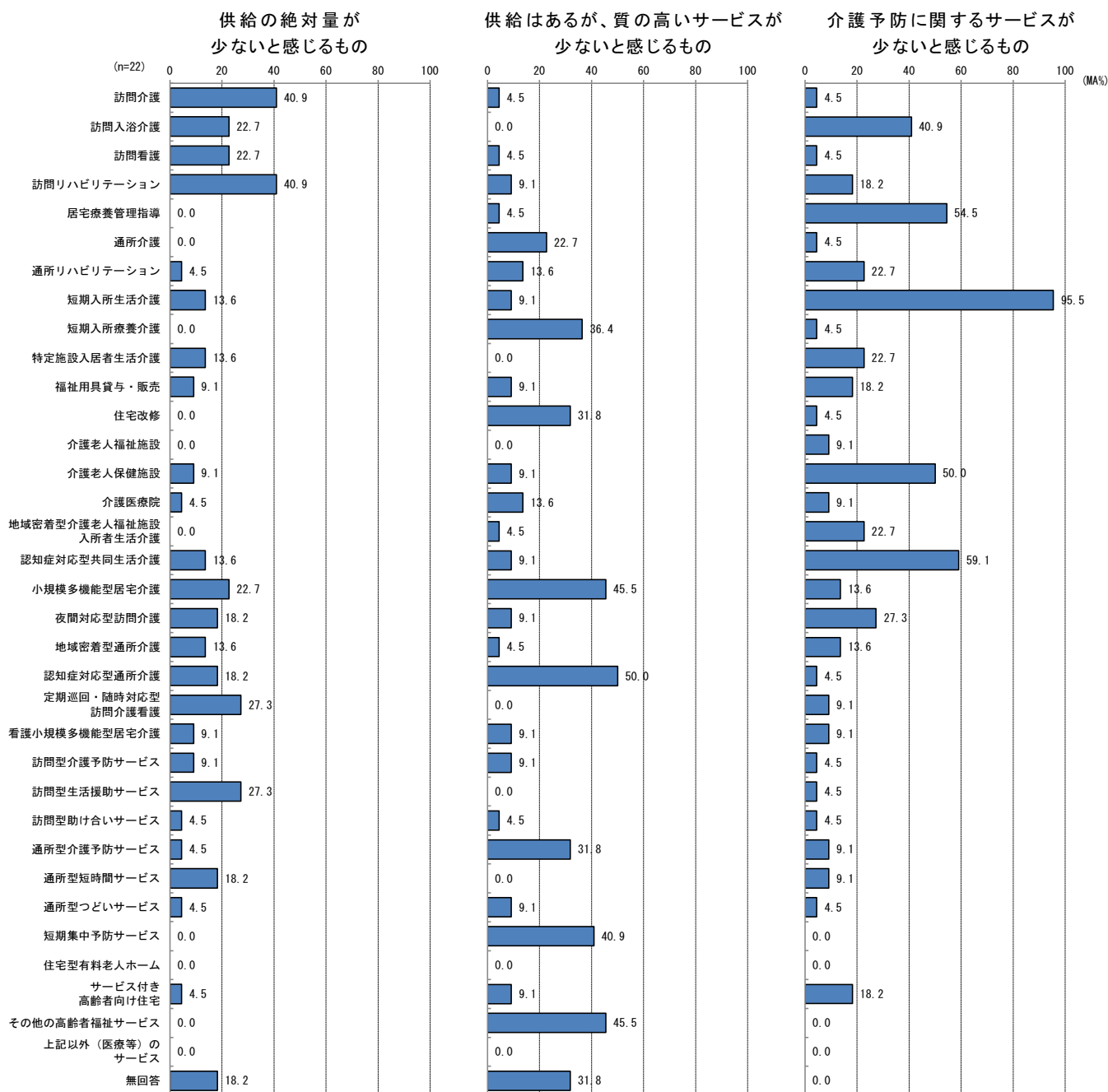
(回答 11 件) ※複数回答あり

- ・坂道が多く外出が困難、介護タクシーや送迎の相談が多い(2件)
- ・地域の老人会が解体される事態になった(1件)
- ・独居高齢者や身寄りがない高齢者への支援に関わることが多かった(1件)
- ・小学校・中学校に認知症キッズサポーター養成講座を取り組んでおり、高齢者理解の進んでいる地域であり、校区福祉委員の活動が活発でコロナ中でもお弁当の配布や脳トレの配布など繋がりを絶やさない取り組みが行われていた(1件)
- ・地域の大半は昔からの工業地帯であり、農村地帯のような地縁のしがらみが薄いと感じるが広範囲に一時に開発されたのではないので、住民の均一性は低い(1件)
- ・転居してきた住民(在住50年未満も含む)と先々代以前から地域に住む住民との温度差が見受けられ、一体となって地域課題に取り組むことが難しい現状があり、介護は家で行うものという意識が強く、経済的状況も相まって要介護状態になると他地域に比べ施設入所に早期に至るケースが多々見受けられた(1件)
- ・担当エリアが広く、エリア内に3小学校区あり、各小学校区で特色が異なる(1件)
- ・各自治会にサークル活動が多数あり、地域の結びつきが強い(1件)
- ・コロナ禍の影響も踏まえつつ各单位自治会によって、活動に大きく差が出ている(1件)
- ・旧170号線を挟んで西・東で違いがある(1件)



〔3〕地域において供給の不足を感じるサービス

問5 地域において、供給の不足を感じるサービスはありますか。  
 A・B・Cそれぞれについて、あてはまる番号を〔 〕内にご回答ください。  
 (あてはまるものすべてに○)



地域において、供給の絶対量が少ないと感じるサービスは、「訪問介護」、「訪問リハビリテーション」がそれぞれ40.9%と最も多くなっています。

供給はあるが、質の高いサービスが少ないと感じるものは、「認知症対応型通所介護」が50.0%と最も多く、次いで、「小規模多機能型居宅介護」、「その他の高齢者福祉サービス」がそれぞれ45.5%となっています。

介護予防に関するサービスが少ないと感じるものは、「短期入所生活介護」が95.5%と最も多く、次いで、「認知症対応型共同生活介護」が59.1%、「居宅療養管理指導」が54.5%となっています。

〔4〕介護予防・日常生活支援サービス事業のサービス等に関するご意見（自由記述）

問6 介護予防・生活支援サービス事業のサービス等に関する意見等があればご自由にご回答ください。

A. 訪問型介護予防サービス	計7件
曜日や時間の変更が多い事業所があり利用が制限される、人手不足	5件
CMが生活援助サービスで出来る内容でも介護予防サービスしかない事業所を利用する	1件
利用者や家族への対応力について、制度理解を得る事が難しいケースも有る	1件

B. 訪問型生活援助サービス	計7件
実施している事業者が少なく利用に結び付きにくい構造となっている	4件
利用者や家族への対応力について、制度理解を得る事が難しい	2件
人手不足により、希望する曜日や時間にサービスに入ってもらえる事が難しい、曜日や時間の変更が多い事業所がある	1件

C. 訪問型助け合いサービス	計10件
利用出来るサービスがない、利用者が増えないためスタッフ、事業所も増えず地域に浸透しない	7件
利用者や家族への対応力について、制度理解を得る事が難しいケースも有る	2件
最近メンバーの高齢化もあり、新規利用が難しい現状にある	1件

D. 通所型介護予防サービス	計6件
料金等、制度の理解を得る事が難しい	3件
口腔・栄養改善加算を算定しているA6デイ、事業所によって内容や程度に差異がある	1件
地域にこの施設が多数あり利用希望者も多いが、どこまで必要なサービスかと考えることがある	1件
地理的条件より、現行通り送迎は必須である	1件

E. 通所型短時間サービス	計9件
利用出来るサービスがない、事業所数が少ない	5件
制度の理解が難しい、サービスの違いが分からない	3件
地理的条件より、現行通り送迎は必須	1件

F. 通所型つどいサービス	計 10 件
利用出来るサービスや送迎がない、事業所が少ない	5 件
利用者や家族への対応力について、制度理解を得る事が難しいケースも有る	1 件
接骨院がやっているので利用者は分からず利用されており、ボランティアではなく整骨院の宣伝として利用しているように感じる	1 件
研修を受ける必要があり、地域の高齢者では書類等の実施が難しい現状がある	1 件
ケアマネジメント自体に必要性を感じない、事業対象者と保険証に印字されることに抵抗がある方もいる	1 件
担当者から介護認定申請で難しければ、チェックリストにより事業対象者に引っかけてほしいと対応依頼があったが、サロン協議会のやり方はどうかと思う	1 件

G. 短期集中予防サービス	計 10 件
生活圏域から近い距離で実施されない、送迎が無いので希望者がいない	7 件
必ず一人利用者を出さないと評価に響くので無理やり行ってもらっている、評価対象にしているのは疑問あり	1 件
対象者を絞り過ぎ	1 件
決められた場所に何度も通うことに対する負担感がある	1 件

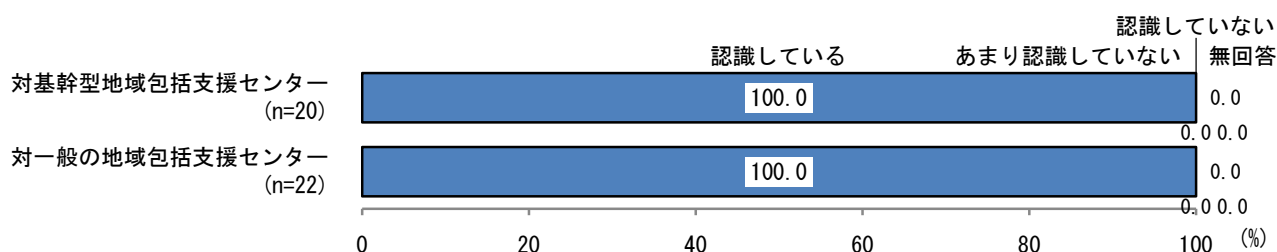
H. その他、全体に関すること	計 6 件
居宅介護支援事業者に何度説明をしても予防計画や予防サービスについて理解が低い、制度が複雑	2 件
ボランティアの担い手が少ない、送迎対応が難しい	2 件
必要性が有っても、まだ介護予防・自立支援の考えが乏しいと感じる場面が多い	1 件
自己評価表や市とのヒアリングで毎年同じ内容を報告している	1 件

### 3 地域の関係機関等との連携、地域包括ケアシステム構築について

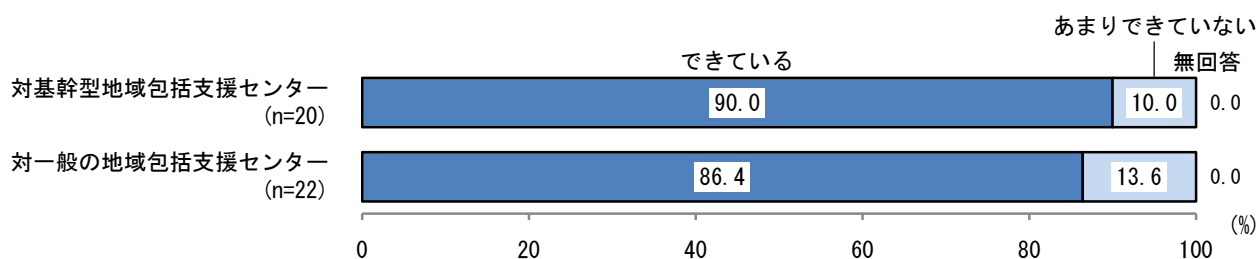
#### [1] ほかの地域包括支援センターとの連携

問7 貴センターでは、ほかの地域包括支援センターと連携していますか。

##### ① 情報共有や相互協力の必要性を認識していますか（1つ選択）



##### ② 情報共有や相互協力が円滑に出来ていますか（1つ選択）



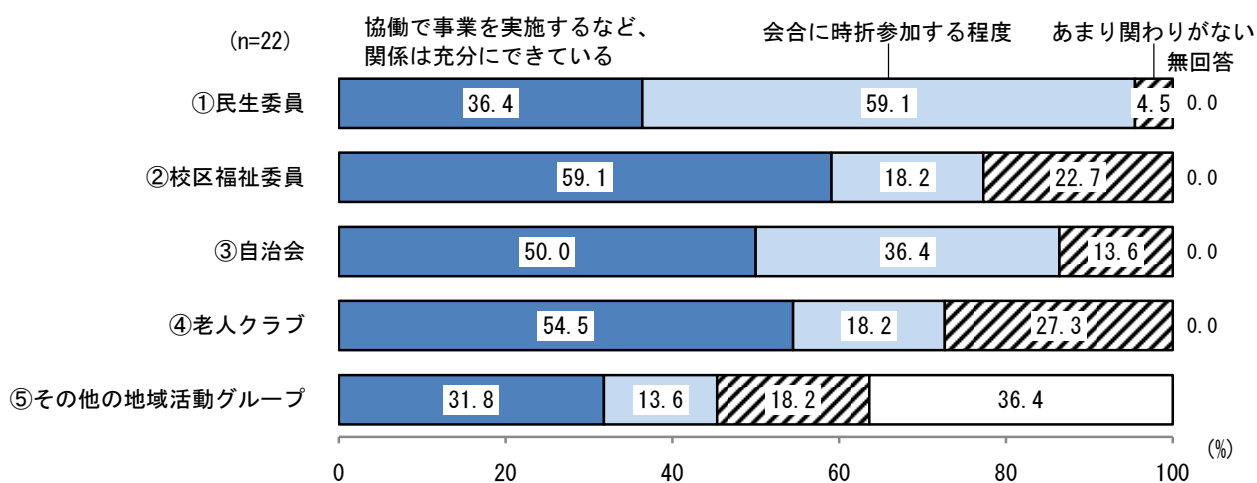
ほかの地域包括支援センターとの連携について、①情報共有や相互協力の必要性を認識しているかについては、基幹型地域包括支援センター、一般の地域包括支援センターそれぞれに対して100.0%が「認識している」と回答しています。

②情報共有や相互協力が円滑に出来ているかについては、基幹型地域包括支援センターに対しては90.0%、一般の地域包括支援センターに対しては86.4%が「出来ている」と回答しています。

※①、②の設問において、「対基幹型地域包括支援センター」との連携については、一般の地域包括支援センターにのみ回答を求めています。

〔2〕 地域における団体等とのつながり

問 8 貴センターでは下記の地域における団体等とのつながり、関係はつくれていますか。(①～⑤それぞれ、1つ選択)



地域における団体等とのつながり、関係はつくれているかについて、「協働で事業を実施するなど、関係は充分にできている」は、校区福祉委員が 59.1%と最も多く、次いで、老人クラブが 54.5%、自治会が 50.0%となっています。

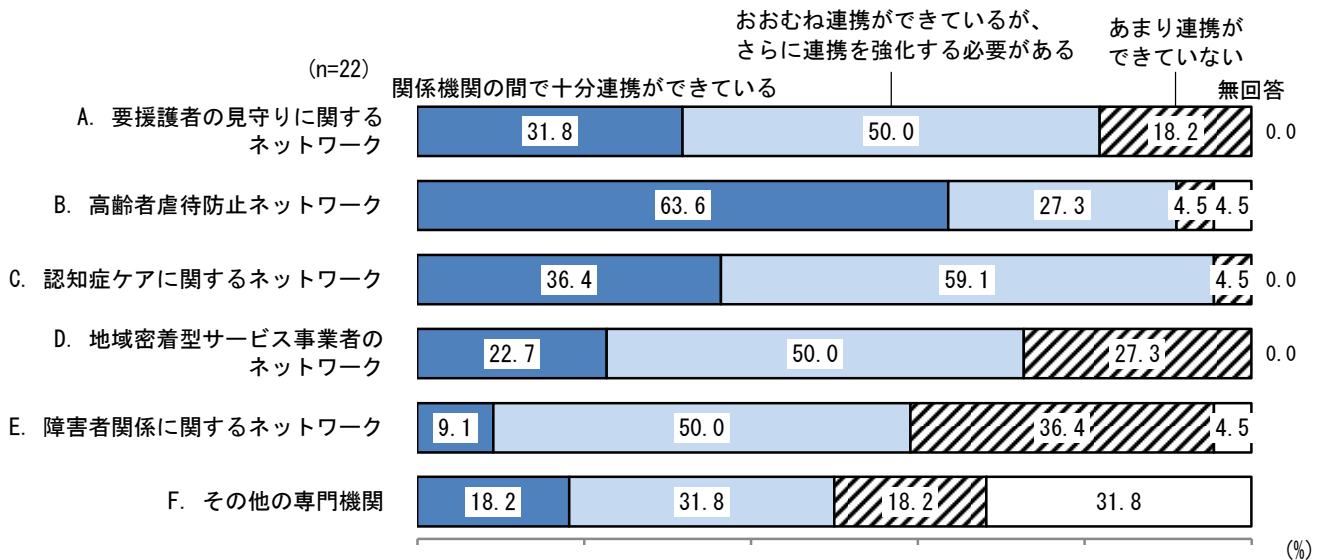
【⑤その他の地域活動グループ内訳】

(回答 13 件中) ※複数回答あり

- ・地域の自主的な介護予防体操、介護予防グループ (4 件)
- ・自主化したグループ (2 件)
- ・活動状況見学や担い手の相談に応じる、情報提供 (2 件)
- ・医療生協や NPO での関係づくり (1 件)
- ・婦人会 (1 件)
- ・英田地区認知症ネットワーク委員会 (1 件)
- ・小学校校区のうち 1 校区について関係はできており民生委員、校区福祉委員、老人クラブと連携している (1 件)
- ・その他 (永和文化祭)

〔3〕 ネットワークの状況について

問9 貴センター担当地域の、ネットワークの状況について、ご回答ください。また、いずれかの項目で「②おおむね連携ができているが、さらに連携を強化する必要がある」、「③あまり連携できていない」を回答したところは、続いて問9-1または問9-2についてもご回答ください。



担当地域のネットワークの状況について、「関係機関の間で十分連携ができている」は、高齢者虐待防止ネットワークで63.6%と最も多くなっています。「おおむね連携ができているが、さらに連携を強化する必要がある」は、認知症ケアに関するネットワークで59.1%と最も多く、障害者関係に関するネットワークでは、「あまり連携できていない」が36.4%と多くなっています。

【上記A～Fのいずれかで、「②おおむね連携ができているが、さらに連携を強化する必要がある」を回答したセンターのみ】

問9-1 連携強化が必要と思われる機関や社会資源、連携の内容をご回答ください。

連携強化が必要と思われる機関や社会資源、連携の内容	計 23 件
A. 要援護者の見守りに関するネットワーク ・見守りが必要であるが実態把握が出来ていない方がいると想定されるため、要援護者の実態把握を確実にを行うためにも自治会や老人会など地域の方との連携強化を図りたい	1 件
B. 高齢者虐待防止ネットワーク ・実際に虐待が起こってからではなく起こる前から介入を行うことで未然に防ぐことが出来るように地域住民の方への啓発活動を行う必要性があると感じる	1 件

<p>C. 認知症ケアに関するネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で顔の見える関係が希薄になっている。ケースが発生すれば関わることができるが、十分な連携とは言えないと考えられる</li> <li>・オレンジチームについて受診が円滑に進むよう受診先との調整などを担ってほしい</li> <li>・オレンジチームや医療機関などは更なる連携の必要がある</li> <li>・認知症ケアに関しても地域住民の方の認知症に対する認識が足りない部分も見受けられることから認知症に対する周知を図る必要がある</li> </ul>	4件
<p>D. 地域密着型サービス事業者のネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で顔の見える関係が希薄になっている。ケースが発生すれば関わることができるが、十分な連携とは言えないと考えられる</li> <li>・地域課題の共有や地域貢献について（コロナ禍で難しかった事業所もある）</li> <li>・運営推進会議にて利用者やその家族と言葉を交わす機会が今までからも少なく、利用者とその家族に会議参加するよう促すも、「盛況」と言える状況になったことはほとんどない</li> </ul>	3件
<p>E. 障害者関係に関するネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉サービスや、委託相談支援センターなどとの連携する機会があまりない</li> <li>・高齢障害者の65歳問題についての対応、高齢者の介護者（障害・その疑いがある者）で支援が必要と考えられるケース対応・助言</li> <li>・障害者関係との連携強化</li> <li>・基幹型地域包括支援センターや障害支援等からの意見やアドバイスが少ない</li> <li>・障害者関連、特に精神障害者関連に関われる機関との連化が必要</li> </ul>	5件
<p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政窓口全般との連携。窓口は基本的に丸投げで連絡すらくれない</li> <li>・生活保護課、在宅生活が難しくなったケースについて、入所先選定において調整や情報提供の部分を担ってほしい</li> </ul>	2件
<p>保健センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健センターとの連携強化</li> </ul>	1件
<p>弁護士や司法書士</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弁護士や司法書士との連携強化</li> </ul>	1件
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害被災を想定し、市の危機管理室や建築課安全課、そして地域住民と地域包括支援センターと居宅介護支援事業所との連携体制構築の必要性は高く、実際の災害被災が発生した場合、地域内、及び地域周辺の医療機関で、はたしてどれだけの対応供給量が確保されるのかも懸念される</li> <li>・特にどの機関ということではないが、コロナ禍以降の動きから改めてネットワークの強化が必要</li> <li>・まだまだ連携が取れていない事業所や機関があると考えられる</li> <li>・専門機関に住民の機関のほとんどで感じる</li> <li>・各事業共に今も連携を図れているが、事例に関して課題が複雑化していく中で、今よりもより情報共有を密にして多層的な支援を行う必要がある</li> </ul>	5件

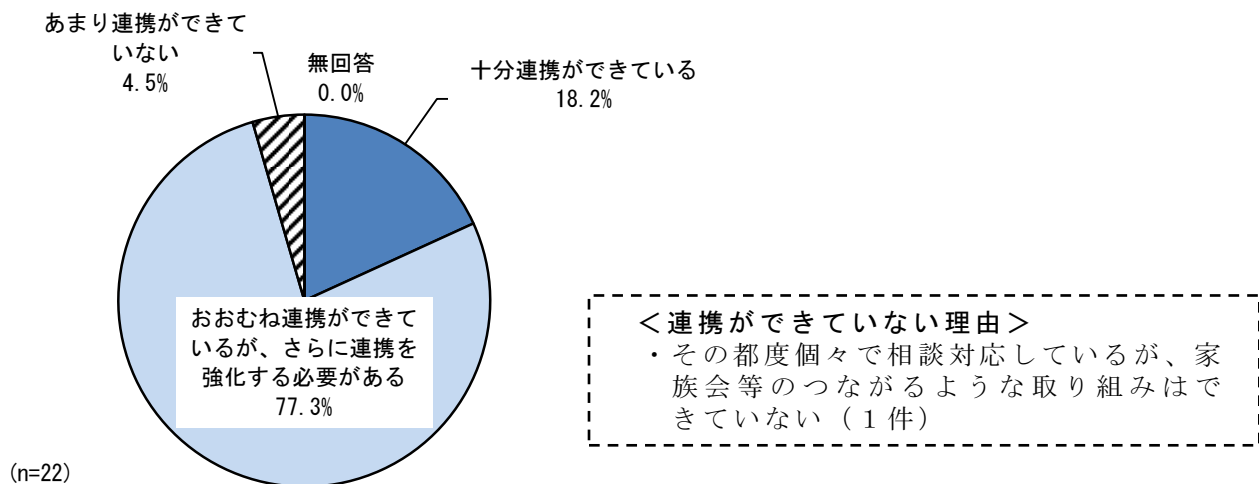
【上記A～Fのいずれかで、「③あまり連携ができていない」を回答したセンターのみ】  
 問9-2 連携できていない理由をご回答ください。

連携できていない理由	計 11 件
A. 要援護者の見守りに関するネットワーク ・要援護者の把握ができていない	1 件
D. 地域密着型サービス事業者のネットワーク ・地域等から相談などで或る程度の情報は保有していても中には家族の理解が得られず支援介入を阻んでいるケースも有り、個人情報の壁を感じる ・地域に機関や社会資源が少ない ・必要な連携とはなにかが判らないため ・担当校区に地域密着サービス事業者がないため、連携をとれない	4 件
E. 障害者関係に関するネットワーク ・障害者の関係は委託相談支援センターやCSWに相談して対応してもらう事が多く、十分連携できているとは言えない ・8050 問題等で関わる際に、役割や立場の違いから感じる事が多かったため ・障害者関係のケースが少なく、特定疾患で介護認定を受けることやその結果により障害サービスに繋ぐことについては、連絡連携を図っている ・障害者分野機関と高齢者分野機関の「連携の意義」を理解し合うことができていない	4 件
CSW、地域包括支援センター ・会議開催まで日にちを要する、他機関の関わりにより包括に帰結する結論が出てしまう	1 件
その他 ・地域密着型サービスに限らず、基本的には必要時に必要なサービス事業所と連携を取る形を取っている。障害者関係やその他の専門機関に関しても必要時に連携を取るにとどまっている	1 件



〔4〕 家族等の介護者とのつながり

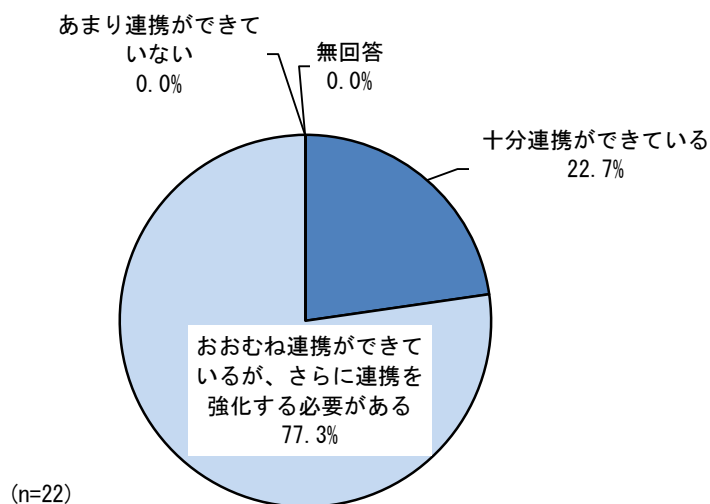
問10 貴センターでは家族等の介護者とのつながりはどうですか。(1つ選択)



家族等の介護者とのつながりについては、「おおむね連携ができていますが、さらに連携を強化する必要がある」が77.3%、「十分連携ができています」が18.2%、「あまり連携ができていない」が4.5%となっています。

〔5〕 担当地域内の医療機関との連携

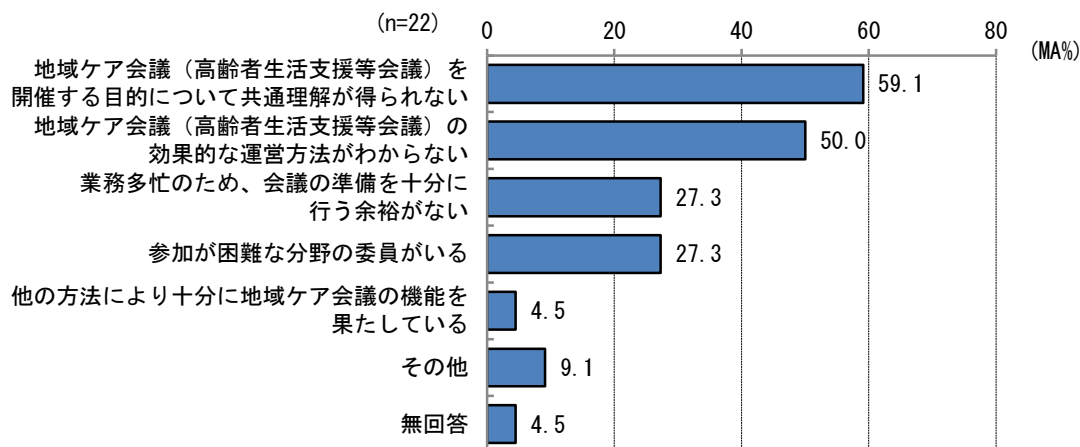
問11 貴センターでは、担当地域内の医療機関と連携をしていますか。(1つ選択)



担当地域内の医療機関との連携については、「おおむね連携ができていますが、さらに連携を強化する必要がある」が77.3%、「十分連携ができています」が22.7%となっています。

〔6〕地域ケア会議を開催する際の課題

問12 地域ケア会議（高齢者生活支援等会議）を開催する際の課題はありますか。  
（あてはまるものすべてに○）



＜参加が困難な分野＞

- ・ 縄手北校区自治連合会会長の参加が難しい（1件）
- ・ 医師や看護師、医療系委員（1件）
- ・ その時による（1件）
- ・ 連合自治会・校区福祉委員会・民生委員会・老人会（1件）
- ・ 介護保険事業所（通所介護事業所）（1件）
- ・ 自治会（1件）

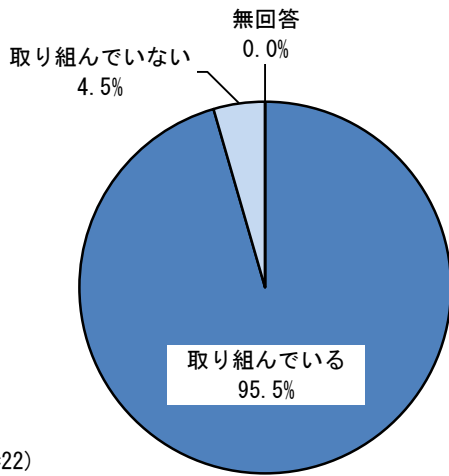
＜その他内訳＞

- ・ コロナ禍で開催場所に制限がある（1件）
- ・ 時間の調整が難しく、もう少し時間を取りたいが医師などの都合で時間延長が難しい（1件）

地域ケア会議（高齢者生活支援等会議）を開催する際の課題については、「地域ケア会議（高齢者生活支援等会議）を開催する目的について共通理解が得られない」が 59.1%と最も多く、次いで、「地域ケア会議（高齢者生活支援等会議）の効果的な運営方法がわからない」が 50.0%となっています。

〔7〕多職種連携について

問13 貴センターでは、多職種連携について取り組んでいますか。(1つ選択)



＜取り組み内容＞

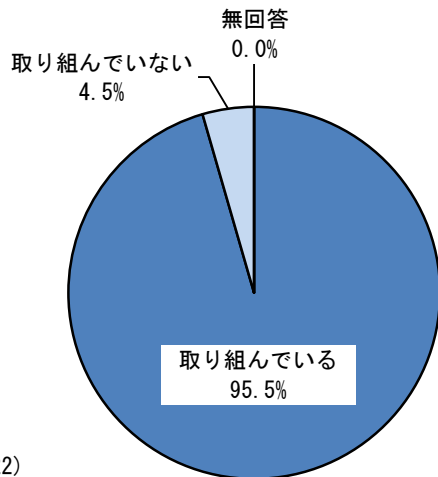
- ・多職種連携会議（8件）
- ・多職種連携研修会（4件）
- ・包括支援センター研修会（4件）
- ・情報交換や事例検討会（2件）
- ・話し合った内容を見える化にして回覧版や地域に配布（1件）
- ・専門職連携研修会（1件）
- ・ケアマネジャーと薬剤師の連携研修会（1件）

多職種連携については、「取り組んでいる」が95.5%となっています。

## 4 認知症、高齢者虐待・権利擁護等の対応ケースについて

### 〔1〕認知症高齢者支援の取り組みについて

問14 貴センターでは、認知症高齢者支援の取組を行っていますか。(1つ選択)



#### <取り組み内容>

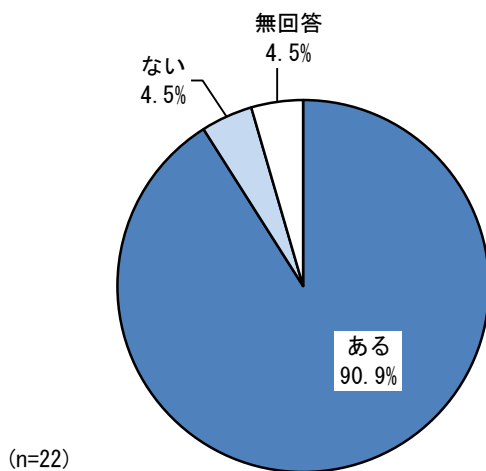
- ・認知症カフェ、認知症サポーター養成講座、家族の会、キャラバンメイト役員としての参画 (18件)
- ・本人支援 (入院支援、オレンジチームとの連携) (1件)
- ・必要に応じてその都度取組を行う (1件)
- ・英田地区認知症ケアネットワーク委員会の参加 (1件)

認知症高齢者支援の取り組みについては、「取り組んでいる」が95.5%となっています。

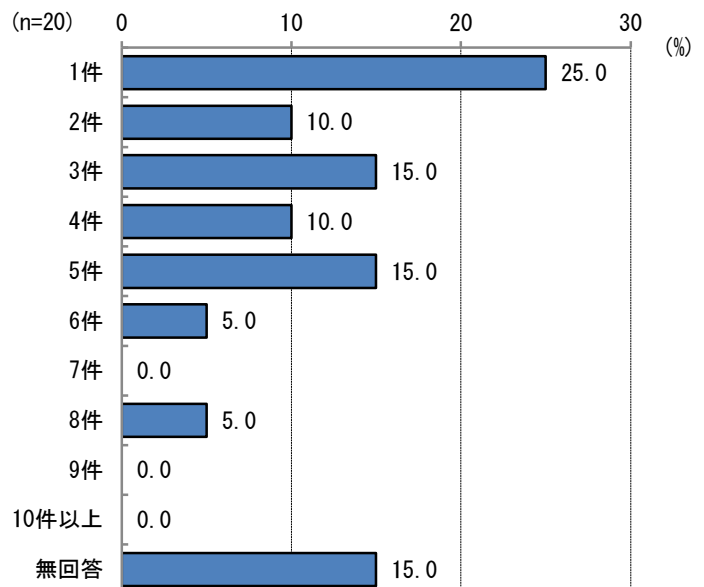
### 〔2〕認知症対応の困難ケースへの支援

問15 昨年度、貴センターでは認知症対応の困難ケースへの支援を行ったことがありますか。(1つ選択)

【支援の有無】



【支援した件数】



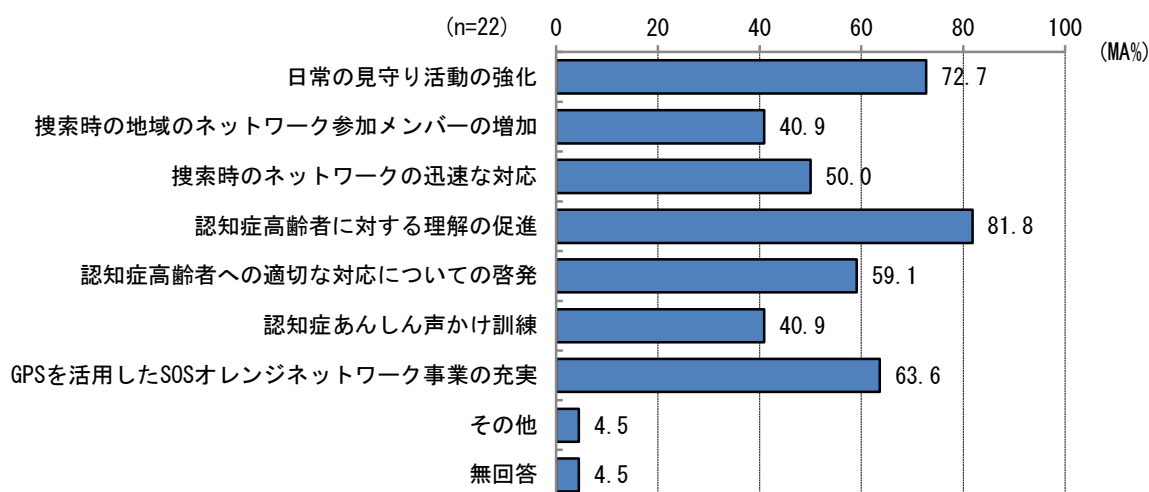
＜困難であった点＞

- ・身寄りがいない、自宅訪問拒否、介護や受診拒否（7件）
- ・金銭管理、騒音で近隣からの苦情対応、警察への対応（5件）
- ・家族の問題、虐待（4件）
- ・ゴミ屋敷（2件）
- ・キーパーソンの不在（1件）

認知症対応の困難ケースへの支援を行ったことがあるかについては、「ある」が90.9%となっており、支援した件数は「1件」が25.0%と最も多く、次いで、「3件」、「5件」がそれぞれ15.0%となっています。

### 〔3〕行方不明高齢者の早期発見に必要なこと

問16 行方不明高齢者の早期発見に向けて必要なこと、資源は何だと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

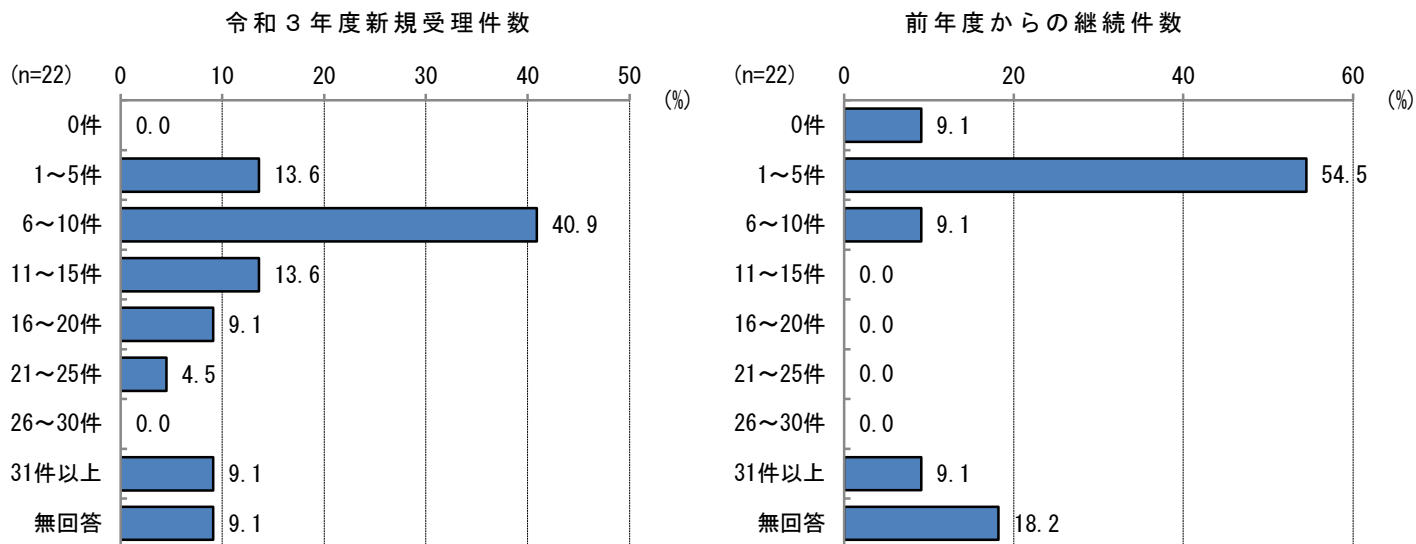


行方不明高齢者の早期発見に向けて必要なことについては、「認知症高齢者に対する理解の促進」が81.8%と最も多く、次いで、「日常の見守り活動の強化」が72.7%、「GPSを活用したSOSオレンジネットワーク事業の充実」が63.6%となっています。

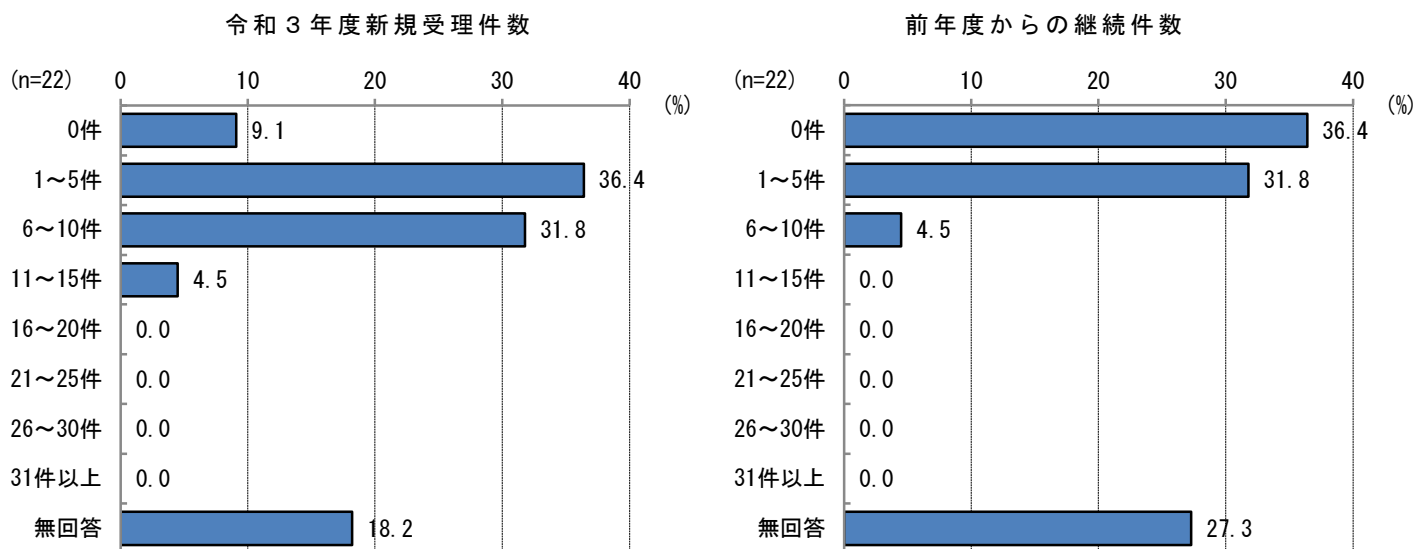
〔4〕高齢者虐待・権利擁護相談件数について

問17 貴センターにおける、令和3年度の高齢者虐待・権利擁護相談件数をご回答ください。（前年度からの継続分も含めます）

■ 高齢者虐待相談



■ 権利擁護相談

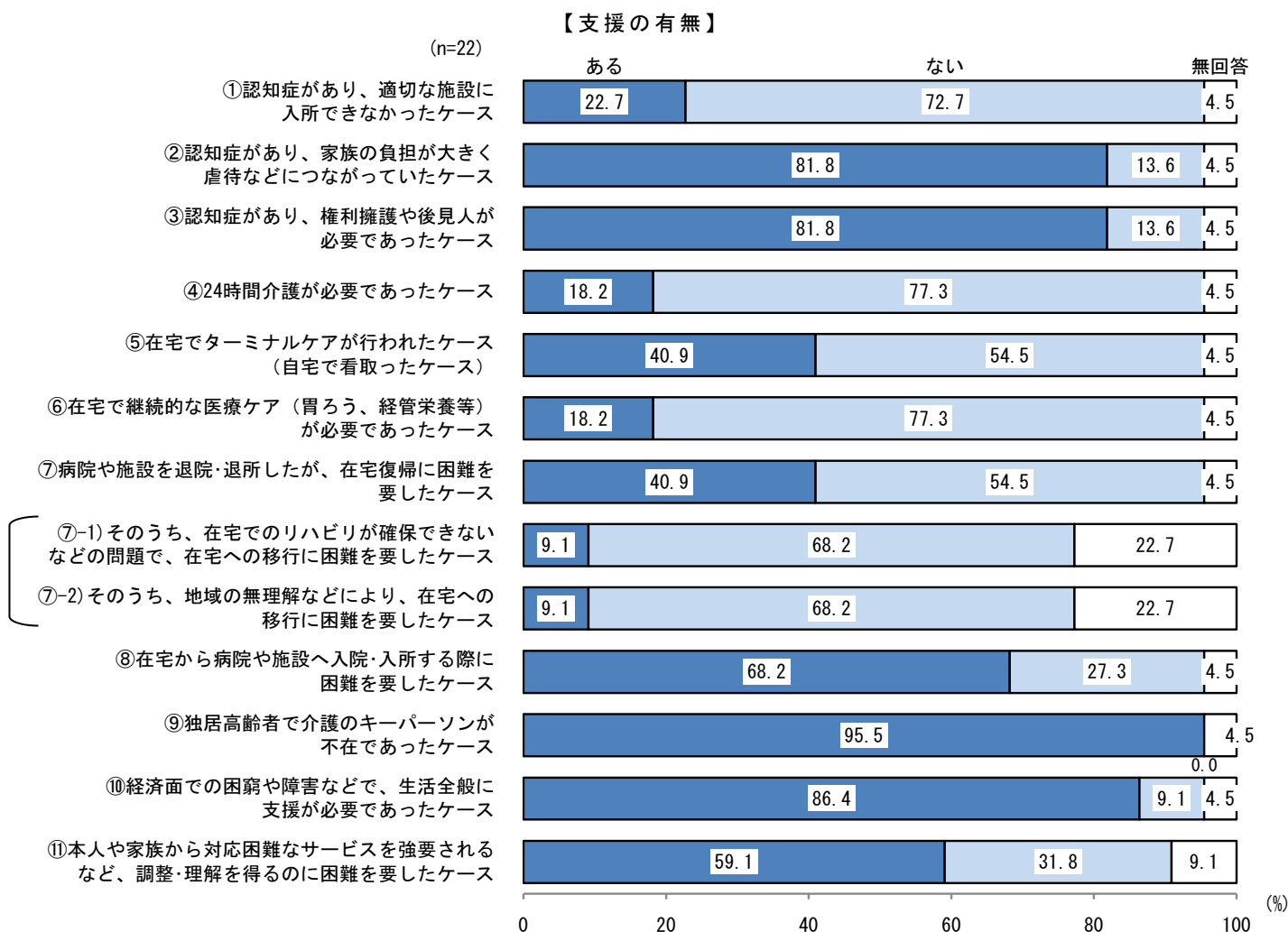


令和3年度の高齢者虐待相談については、新規受理件数は6～10件が最も多く、約7割が15件以下と回答しています。前年度からの継続件数は1～5件が最も多く、約6割が5件以下（0件含む）と回答しています。

権利擁護相談については、新規受理件数は1～5件が最も多く、約5割が5件以下と回答しています。前年度からの継続件数は4割近くが0件となっています。

〔5〕昨年度に支援、対応したケース

問18 貴センターでは、去年度から現在までに、次のようなケースへの支援を行ったことがありますか。それぞれのケースについてご回答ください。支援したことがある場合は、その件数と対応の可否についてご回答ください。



去年度から現在までに、支援を行ったことが「ある」ケースは、「⑨独居高齢者で介護のキーパーソンが不在であったケース」が 95.5%と最も多く、次いで、「⑩経済面での困窮や障害などで、生活全般に支援が必要であったケース」が 86.4%、「②認知症があり、家族の負担が大きく虐待などにつながっていたケース」、「③認知症があり、権利擁護や後見人が必要であったケース」がそれぞれ 81.8%となっています。

II-6 地域包括支援センターアンケート

【支援した件数】

(上段：件、下段：%)

	調査数	1件	2件	3件	4件	5件	6 ~ 9件	10 件以上	無回答
①認知症があり、適切な施設に入所できなかったケース	37 100	<b>21</b> 56.8	8 21.6	2 5.4	0 0	0 0	1 2.7	0 0	5 13.5
②認知症があり、家族の負担が大きく虐待などにつながっていたケース	35 100	<b>25</b> 71.4	7 20.0	1 2.9	0 0	1 2.9	0 0	0 0	1 2.9
③認知症があり、権利擁護や後見人が必要であったケース	71 100	<b>39</b> 54.9	19 26.8	10 14.1	0 0	2 2.8	1 1.4	0 0	0 0
④24時間介護が必要であったケース	48 100	<b>23</b> 47.9	9 18.8	5 10.4	0 0	6 12.5	2 4.2	3 6.3	0 0
⑤在宅でターミナルケアが行われたケース（自宅で看取ったケース）	110 100	<b>31</b> 28.2	27 24.5	17 15.5	10 9.1	6 5.5	8 7.2	10 9.0	1 0.9
⑥在宅で継続的な医療ケア（胃ろう、経管栄養等）が必要であったケース	67 100	<b>31</b> 46.3	16 23.9	10 14.9	1 1.5	3 4.5	1 1.5	4 6.0	1 1.5
⑦病院や施設を退院・退所したが、在宅復帰に困難を要したケース	51 100	<b>30</b> 58.8	11 21.6	4 7.8	0 0	4 7.8	1 2.0	1 2.0	0 0
⑦-1)そのうち、在宅でのリハビリが確保できないなどの問題で、在宅への移行に困難を要したケース	4 100	<b>3</b> 75.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 25.0
⑦-2)そのうち、地域の無理解などにより、在宅への移行に困難を要したケース	3 100	<b>3</b> 100.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
⑧在宅から病院や施設へ入院・入所する際に困難を要したケース	48 100	<b>25</b> 52.1	11 22.9	3 6.3	3 6.3	5 10.4	0 0	1 2.1	0 0
⑨独居高齢者で介護のキーパーソンが不在であったケース	91 100	<b>31</b> 34.1	20 22.0	12 13.2	8 8.8	10 11.0	7 7.7	3 3.3	0 0
⑩経済面での困窮や障害などで、生活全般に支援が必要であったケース	64 100	<b>33</b> 51.6	10 15.6	10 15.6	0 0	7 10.9	2 3.1	2 3.1	0 0
⑪対応困難なサービスを強要されるなど、調整・理解を得るのに困難を要したケース	51 100	<b>33</b> 64.7	8 15.7	2 3.9	3 5.9	2 3.9	2 4.0	1 2.0	0 0

支援した件数は、全てのケースで『1件』との回答が多くなっていますが、「⑤在宅でターミナルケアが行われたケース（自宅で看取ったケース）」では「10件以上」という回答もみられます。

また、支援したケースのうち、対応可能であったもの、対応不可であったものの件数の内訳は、次頁の表のとおりです。



Ⅱ-6 地域包括支援センターアンケート

【支援したことがある場合の対応状況 対応可能件数】

(上段：件、下段：%)

	調査数	1件	2件	3件	4件	5件	6 ~ 9件	10 件以上	無回答
①認知症があり、適切な施設に入所できなかったケース	5 100	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 40.0
②認知症があり、家族の負担が大きく虐待などにつながっていたケース	18 100	7 38.9	2 11.1	1 5.6	3 16.7	1 5.6	0 0	1 5.6	3 16.7
③認知症があり、権利擁護や後見人が必要であったケース	18 100	2 11.1	3 16.7	2 11.1	2 11.1	3 16.7	2 11.1	0 0	4 22.2
④24時間介護が必要であったケース	4 100	1 25.0	0 0	2 50.0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 25.0
⑤在宅でターミナルケアが行われたケース（自宅で看取ったケース）	9 100	1 11.1	2 22.2	2 22.2	0 0	0 0	1 11.1	0 0	3 33.3
⑥在宅で継続的な医療ケア（胃ろう、経管栄養等）が必要であったケース	4 100	1 25.0	2 50.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 25.0
⑦病院や施設を退院・退所したが、在宅復帰に困難を要したケース	9 100	5 55.6	1 11.1	0 0	1 11.1	0 0	0 0	0 0	2 22.2
⑦-1)そのうち、在宅でのリハビリが確保できないなどの問題で、在宅への移行に困難を要したケース	2 100	1 50.0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 50.0
⑦-2)そのうち、地域の無理解などにより、在宅への移行に困難を要したケース	2 100	0 0	0 0	0 0	1 50.0	0 0	0 0	0 0	1 50.0
⑧在宅から病院や施設へ入院・入所する際に困難を要したケース	15 100	3 20.0	2 13.3	1 6.7	1 6.7	1 6.7	1 6.7	3 20.0	3 20.0
⑨独居高齢者で介護のキーパーソンが不在であったケース	21 100	3 14.3	3 14.3	3 14.3	2 9.5	1 4.8	2 9.6	2 9.5	5 23.8
⑩経済面での困窮や障害などで、生活全般に支援が必要であったケース	19 100	3 15.8	3 15.8	5 26.3	1 5.3	2 10.5	0 0	2 10.5	3 15.8
⑪対応困難なサービスを強要されるなど、調整・理解を得るのに困難を要したケース	13 100	6 46.2	1 7.7	0 0	1 7.7	2 15.4	0 0	0 0	3 23.1

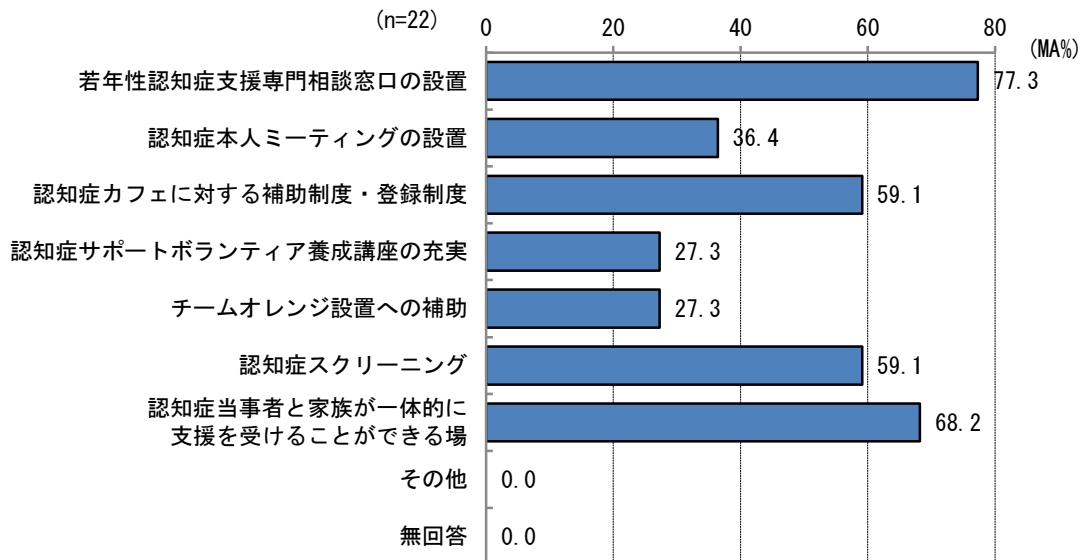
【支援したことがある場合の対応状況 対応不可件数】

(上段：件、下段：%)

	調査数	1件	2件	3件	4件	5件	6 ~ 9件	10 件以上	無回答
①認知症があり、適切な施設に入所できなかったケース	5 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	5 100.0
②認知症があり、家族の負担が大きく虐待などにつながっていたケース	18 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	18 100.0
③認知症があり、権利擁護や後見人が必要であったケース	18 100	2 11.1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	16 88.9
④24時間介護が必要であったケース	4 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 100.0
⑤在宅でターミナルケアが行われたケース（自宅で看取ったケース）	9 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	9 100.0
⑥在宅で継続的な医療ケア（胃ろう、経管栄養等）が必要であったケース	4 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 100.0
⑦病院や施設を退院・退所したが、在宅復帰に困難を要したケース	9 100	1 11.1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	8 88.9
⑦-1)そのうち、在宅でのリハビリが確保できないなどの問題で、在宅への移行に困難を要したケース	2 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 100.0
⑦-2)そのうち、地域の無理解などにより、在宅への移行に困難を要したケース	2 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 100.0
⑧在宅から病院や施設へ入院・入所する際に困難を要したケース	15 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	15 100.0
⑨独居高齢者で介護のキーパーソンが不在であったケース	21 100	0 0	1 4.8	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	20 95.2
⑩経済面での困窮や障害などで、生活全般に支援が必要であったケース	19 100	1 5.3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	18 94.7
⑪対応困難なサービスを強要されるなど、調整・理解を得るのに困難を要したケース	13 100	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	13 100.0

〔6〕 認知症施策として必要なもの

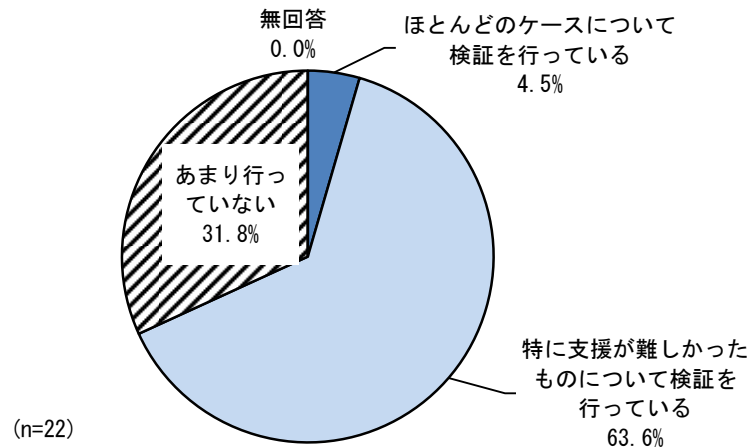
問19 認知症施策として必要だと思うものは何だと思われますか。  
 (あてはまるものすべてに○)



認知症施策として必要だと思うものについては、「若年性認知症支援専門相談窓口の設置」が 77.3%と最も多く、次いで、「認知症当事者と家族が一体的に支援を受けることができる場」が 68.2%、「認知症カフェに対する補助制度・登録制度」、「認知症スクリーニング」がそれぞれ 59.1%となっています。

## 〔7〕 ケース検証を行っているか

問20 貴センターでは、包括的・継続的支援における各ケースに対して、振り返りや評価などをするケース検証を行っていますか。（1つ選択）



ケース検証を行っているかについては、「ほとんどのケースについて検証を行っている」が 4.5%、「特に支援が難しかったものについて検証を行っている」が 63.6%、「あまり行っていない」が 31.8%となっています。

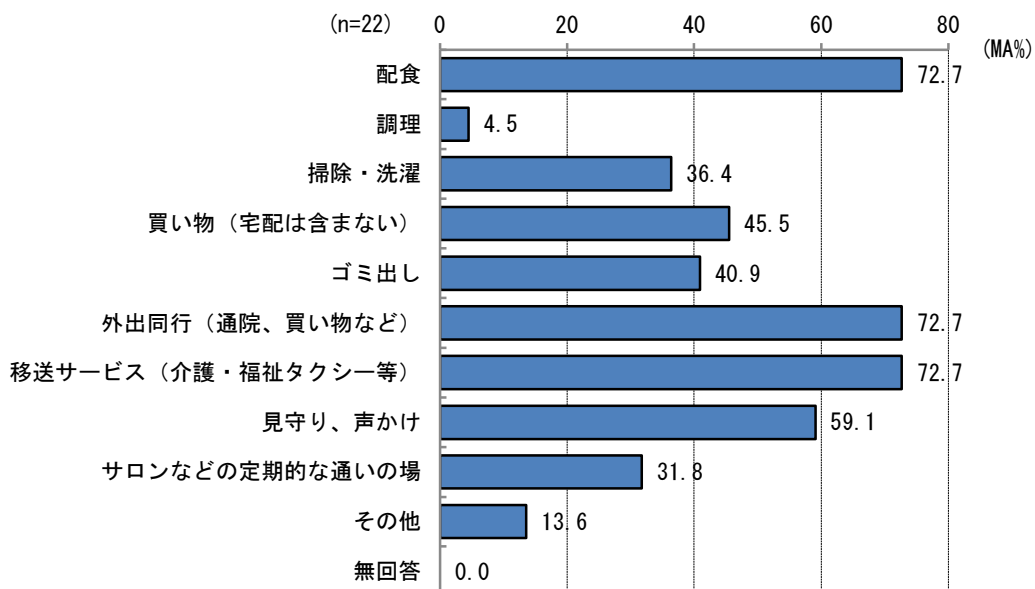
<検証の手法や他ケースへの活用方法>

- ・センター内で情報共有や意見交換（7件）
- ・包括内のミーティングの中で困難事例支援検討を定期的に行っている（3件）
- ・事例検討会（2件）

## 5 介護保険外サービス（インフォーマルサービス等）について

### 〔1〕 ニーズが高いと思われる介護保険外サービス

問21 「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ニーズが高いと思われるものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）



＜その他内訳＞

- ・ 散歩の付き添い (1件)
- ・ 軽度者の介護ベッド (1件)
- ・ 受診同行 (1件)

「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ニーズが高いと思われるものは、「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がそれぞれ 72.7%と最も多く、次いで、「見守り、声かけ」が 59.1%、「買い物（宅配は含まない）」が 45.5%となっています。

## 〔2〕 充実が必要だと思う介護保険外サービス（自由記述）

問22 今後、地域で充実が必要だと思う介護保険外サービス（インフォーマルサービス等）の提供体制についてのお考えをご自由に記載ください（誰が、どこでやるのか、など）。

充実が必要だと思う介護保険外サービス	計 18 件
移送サービス・送迎サービス・外出支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動車を運転できる元気な高齢者が、デイサービスなどの車の送迎時間外にデイの車を借りて買い物の外出同行などを行う</li> <li>・ タクシー会社に拒否されることが多く困っている</li> <li>・ 圏域は山麓部も含み、スーパーまでへの移動が難しい高齢者も多いため買物のニーズは高い</li> <li>・ 担当地域の特性（山間部、急坂が多い）で、高齢者の外出や通院時の移送支援が必要、タクシーは近距離では使いづらい</li> <li>・ 必要とされる介護保険外のサービスとして移送サービスや保険外の買い物代行などが今後重要になると思われる</li> </ul>	5 件
通院支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通院介助の際の院内の付き添い、薬受け、会計の支援を介護保険事業所以外で提供する</li> <li>・ 受診同行支援など家族が居られても働いている方にとっては必要である</li> <li>・ 近医への転院を提案するが、中には難病や障害を抱え、介護保険や障害福祉サービスでは対応できず、当人が無理をしたり、やむなくケアマネが行くケースもある</li> <li>・ 受診同行のサービスがつけば自立できるという方が多い</li> </ul>	4 件
集いの場、サロンなど <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人クラブ有志など自治会館でサロンを開催する</li> <li>・ 地域包括と地域住民で立ち上げ、住民主体で開催していく</li> </ul>	2 件
ワンコインサービスの拡充 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワンコインサービスで、日中不在の同居家族がおられる場合の掃除支援を希望されることが多い</li> </ul>	1 件
金銭管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活自立支援事業(金銭管理)が、認知症なら OK で、精神障害や発達障害の方は対象外に関して、成年後見にも該当せず生活破綻を繰り返すような方の相談は増加傾向に有ると感じている</li> </ul>	1 件
地域で見守り <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安否確認を兼ねて、見守りを行う</li> </ul>	1 件
移動販売 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スーパーから定期的に移動販売に来るなど地域の実情に合わせて他業種の方が関わって下さる機会があればヘルパーサービスを利用して買い物を依頼しなくてもよいなどのメリットがある</li> </ul>	1 件
その他のご意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当地域には介護予防のリハビリ特化型と称するデイサービス事業所が多数存在し、集客力も強いが、軽度者に公費でこうしたサービスを提供し続けることについて議論が必要ではないかと感じる</li> <li>・ 自治会や老人会、民生委員などの既存の地域団体の存続が危ぶまれる中、それらが前提の「共助」は今後ますます機能しなくなるのではないかと危惧する</li> <li>・ 自分自身が健康的な生活を送る為に何をすべきか、高齢者が自分で考えられる仕組みづくりとバックアップが必要</li> </ul>	3 件

## 6 自由意見

## 〔1〕高齢者福祉、介護保険に関するご意見（自由記述）

問23 高齢者福祉、介護保険に関するご意見、府や市の取り組みに対するご意見などありましたら、自由にご記載ください。

高齢者福祉、介護保険に関するご意見	計 15 件
ケアマネジャー、地域包括支援センターの業務量について <ul style="list-style-type: none"> <li>・家財処分業者の3社見積りまで地域包括が対応する羽目になる上、場合により地域包括が家財処分費や産廃処分に頭を悩ませるのは、我々の業務範疇外ではないかと思う</li> <li>・後見人が未決の場合、本人が死亡後の対応に関してケアマネや地域包括の負担が非常に大きくなる場合がある</li> <li>・人材不足で一人一人の介護職員の負担が大きく、離職につながるという悪循環</li> <li>・グレーゾーンの支援を何でも地域包括任せにしてもらっては困る</li> </ul>	4 件
行政職員の方にも、高齢者に対する対応、理解や認知症についての知識をもっと深めていただきたい	1 件
介護保険の認定結果が出るまでに時間が掛かる	1 件
福祉農園を利用したいと言われている方がいるので増やして欲しい	1 件
若年性認知症の方への支援の充実が必要	1 件
公民協働等新しい取り組みにチャレンジされていて、東大阪市は先を見て高齢者施策に取り組んでいると思う	1 件
住宅改修、福祉用具購入においての支給決定の迅速化をお願いしたい	1 件
介護申請に伴う主治医問診票について柔軟な活用をお願いしたい	1 件
市と地域包括の連携をしっかりとってほしい	1 件
今後も地域の声を聞きながら施策に反映していただきたい	1 件
アンケートに関して <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問項目が現状をうまく把握するものではないように思った</li> <li>・アンケートが多く、どれも類似するような内容のため、共有を図れば効率的なのではないかと感じる</li> </ul>	2 件